

年報

令和5年度



第42号



Gunma
Children's
Medical Center

群馬県立小児医療センター

◇ 基本理念

小児の専門病院として、
未来あるこどもたちの^{いのち}生命をまもり、
すこやかな成長発達を支援します。

◎ 基本方針

- 1 小児の専門病院として、高度で安全かつ先進的な周産期・小児医療を提供し、地域の中核病院の役割を果たします。
 - 2 子どもの権利の尊重とチーム医療により、安心して信頼できる医療を提供します。
 - 3 地域の関係機関と連携して、診療・研究及び研修を行い、周産期及び小児の医療・保健レベルの向上に努め、子どもの望ましい成長・発達を支えます。
 - 4 適正な情報公開と診療情報の共有により、健全で透明性の高い病院経営に努めます。
-

☆ 子ども憲章

- 1 子どもは、安心できる環境の中で、良質でおもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 子どもとその家族は、医療について年齢や理解度に応じた十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。
そして、不必要な医療処置や検査から守られ、家族が治療に参加できるように配慮されます。
- 3 子どもとその家族は、医療について自由に意見を述べ自ら医療を選択しあるいは拒否する権利があります。
- 4 子どもとその家族は担当医以外の医師の考え(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 子どもは年齢や症状に応じた養育を受ける権利があります。
- 6 子どもとその家族は、自己の診療録の開示を求める権利があります。
- 7 子どもとその家族は、いつでもプライバシーが守られ、個人情報の保護を受ける権利があります。
- 8 子どもの権利条約を守ります。

★ 職員倫理要綱

- 1 職員は、病める子どもたちの治療はもとより、子どもの成長発達を家族とともに支えるよう、医療を受ける者とその家族の人格を尊重し奉仕しなければならない。
- 2 職員は、医療を受ける者に優しい心で接し、医療の内容をよく説明し、理解と信頼を得るよう努めなければならない。
- 3 職員は、医療を受ける者の知る権利と自己決定の権利を尊重し擁護しなければならない。
- 4 職員は、守秘義務を遵守し、個人情報の保護に努めなければならない。
- 5 職員は、国籍、人種、民族、宗教、信条、性別及び年齢にかかわらず、すべてに平等に、優しい心で接しなければならない。
- 6 職員は、常に自らも研鑽に努め、安心して信頼される最善の医療が提供できるように心がけなければならない。
- 7 職員は、互いに尊敬し協力して医療に尽くさなければならない。
- 8 職員は、医療の公共性を重んじ、医療を通じて社会の発展に尽くさなければならない。
- 9 職員は、国が定める医療に関する倫理指針を遵守しなければならない。
- 10 職員は、群馬県職員としての自覚を持ち、お互いに協力して病院の健全な運営に努めなければならない。

～令和5年度の出来事から～



群馬県医療的ケア児等支援センター「やっほ」開所式



群馬交響楽団による Xmas コンサート



売店リニューアルオープン



スターライト社製ディズニーデザインの病衣寄贈



業務継続計画（BCP）に基づく初の訓練



- 県内唯一の こども専門病院
- 小児・周産期医療の最後の砦

県立小児医療センター

群大病院隣接地への移転再整備を決定！

群馬大学医学部附属病院

- 県内唯一の 特定機能病院
- 県内唯一の 医師養成機関



群大病院隣接地への移転による効果

医療提供体制の強化・充実

- 医師の効率的配置
(小児・周産期医療)
- 成人診療科との連携強化
(母体救命、移行期医療等)

医師養成機関との連携強化

- 医師の確保・育成
(新生児科・産科・小児科)
- 全国から医師が集まる
人材育成の拠点整備



小児・周産期医療の充実・強化へ

移転再整備 知事記者会見スライド (令和6年2月8日)

巻頭言

院長 浜島 昭人

令和5年度の群馬県立小児医療センターの年報をお届けします。

令和2年から大きな感染の波を繰り返した新型コロナウイルス感染症ですが、令和5年5月には5類感染症の扱いとなりました。しかし、疾患自体が変わったわけではなく、院内での面会制限など、感染対策の運用は感染状況を考慮しつつ対応する必要がありましたが、入院中の子供たちが例年楽しみにしていた七夕飾りなどの行事は再開することができました。クリスマスには、群馬交響楽団にクリスマスアンサンブル院内コンサートを開催していただき、入院中の子供たちだけでなく大人も楽しみました。診療においては、外来患者数は前年度よりも減少しましたが、入院患者数は増加しました。発熱外来は継続して行いましたが、インフルエンザの流行などにより前年度よりも受診者は大幅に増加しました。

6月には群馬県医療的ケア児等支援センター「やっほ」が病院敷地内に開所となりました。医療的ケア児等や保護者の方々の相談窓口だけでなく、自由に気軽に利用できる交流室も設けられ、当院に通院中の患者さんやご家族も利用されています。

令和6年1月1日には、能登半島地震が発生しました。被災された皆様にお見舞いを申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、1日も早い復興を祈念いたします。羽田空港では、支援物資を積んだ海上保安庁の航空機と民間航空機が衝突事故を起こし、海上保安庁の職員5名が亡くなるという惨事も起こりました。医療における安全対策の手本である航空業界においてこのような事態が起こったことで、基本的な確認が重要であることを再認識しました。民間航空機の乗客が乗務員の誘導により短時間で機外に退避することができ、乗客・乗務員計379名全員が無事であったことは、日頃の安全対策・訓練の賜物と考えます。

令和5年3月末で、平成30年から5年にわたり病院長を務められた外松学先生が定年退職されました。病院長として当院における新型コロナウイルス感染症の対応や、長年の懸案であった当院の建替再整備の実現にご尽力いただきました。在任中に病院の建替再整備を行って機能を強化する方針が県から示され、令和6年2月には群馬大学医学部附属病院との隣接整備が決定されました。アメリカでは、大谷翔平選手がロサンゼルス・ドジャーズに移籍して、これまで以上に活躍しています。当院も移転後の新病院においてより良い小児医療・周産期医療を行えるように準備を進めてまいります。

令和6年6月

目 次

業務編

1. 第一病棟	3
(1) 総合診療科	7
(2) 腎臓内科	7
(3) 神経内科	7
(4) 子どものこころ診療科	8
(5) アレルギー・リウマチ科	8
(6) 感染症科	8
(7) 遺伝科	10
2. 第二病棟	11
(1) 小児外科	11
(2) 形成外科	13
(3) 整形外科	14
3. 第三病棟	18
(1) 循環器科	18
(2) 心臓血管外科	19
(3) 血液腫瘍科	19
4. 小児集中治療部	20
5. 新生児未熟児病棟	23
6. 産科病棟	29
7. 麻酔科	31
8. 放射線科	32
9. 歯科・障害児歯科	33
10. 放射線課	34
11. 検体検査課・生理検査課	36
12. リハビリテーション課	38
13. 栄養調理課	40
14. 臨床工学課	41
15. 薬剤部	43
16. 看護部	45
(1) 第一病棟	50
(2) 第二病棟	51
(3) 第三病棟	52
(4) NICU 病棟	53
(5) GCU 病棟	55
(6) 産科病棟	56
(7) 小児集中治療部	57
(8) 手術室	59
(9) 外 来	60
(10) サービス向上委員会	61
17. 母子保健室	73

18. 地域医療連携室	75
19. 医療安全管理室	77
20. 感染対策室	81

研究研修編

1. 学会報告	87
◆小児内科	
<神経内科><循環器科><新生児科><アレルギー・リウマチ科><感染症科>	
<血液腫瘍科><遺伝科>	
◆小児外科	
<一般外科><形成外科><整形外科>	
◆産科	
◆歯科	
◆検体検査課・生理検査課	
◆放射線課	
◆リハビリテーション課	
◆栄養調理課	
◆臨床工学課	
◆薬剤部	
◆看護部	
2. 誌上発表	93
◆小児内科	
<神経内科><循環器科><新生児科><感染症科><血液腫瘍科>	
◆小児外科	
<一般外科>	
◆歯科	
◆検体検査課・生理検査課	
3. 単行本・その他	94
◆小児内科	
<新生児科>	
◆産科	
◆看護部	
4. 班会議等報告書	95
5. 講演	95
◆小児内科	
<感染症科><循環器科>	
◆小児外科	
<一般外科>	
◆産科	
◆歯科	
◆放射線課	
◆臨床工学課	
6. 講習会・研修会	96

◆小児内科	
＜循環器科＞＜感染症科＞	
◆放射線課	
◆リハビリテーション課	
◆臨床工学課	
◆薬剤部	
◆看護部	
7. 学会長・座長・その他	98
◆小児内科	
＜神経内科＞＜循環器科＞＜新生児科＞	
◆小児外科	
＜一般外科＞＜形成外科＞	
◆産科	
◆検体検査課・生理検査課	
◆リハビリテーション課	
◆臨床工学課	
◆看護部	
8. 学生講義	99
◆小児内科	
＜神経内科＞＜新生児科＞＜アレルギー・リウマチ科＞＜感染症科＞	
◆産科	
◆歯科	
◆リハビリテーション課	
◆臨床工学課	
◆看護部	
9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス	101
10. 講話会	102
11. クルズス	102
12. CPC	103
13. その他	103
(1) 研究会・セミナー等	
14. 公的資金による研究	104
1 院内研究費による研究	
2 院外研究費による研究	
15. 受賞歴	106

統計編

1. 管理業務	
(1) 会計	110
①経営分析	
②収益的收入及び支出	
③月別医業収益内訳	
2. 診療業務	

(1) 総括表	116
(2) 月別・科別外来患者受診の状況	118
◆ 1日平均外来患者の状況	
(3) 月別入退院患者数	121
◆ 1日平均入院患者の状況	
(4) 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数	123
◆ 地域別新規登録患者数	
◆ 地域別入院患者の状況	
◆ 地域別利用状況	
(5) 年齢階層別状況（新規登録患者数）	128
◆ 年齢階層別状況	
(6) 救急医療	129
① 救急医療の状況	
② NICU 車市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況	
(7) 予防接種実施状況	131
① 月別実施状況	
② 市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況	
③ 推 移	
(8) 疾病分類別入院患者数	132
① 第一病棟	
② 第二病棟	
形成外科	
整形外科	
③ 第三病棟	
④ 新生児未熟児病棟	
(9) 麻 酔	137
① 月別麻酔件数	
② 年齢階層別状況	
(10) 放射線	138
① 依頼科別件数	
② 月別件数	
③ 検査種別件数	
ア CT	
イ MRI	
ウ RI	
エ X-TV	
オ US	
カ 心臓カテーテル	
キ 一般撮影	
ク ポータブル撮影	
ケ 画像データコピー	
(11) 臨床検査	142
① 検査の状況	
② 血液製剤取り扱い状況	
③ 分割取り扱い状況	

④幹細胞保存	
(12) 薬 剤	144
①調剤等の状況	
ア 処方箋の枚数等	
イ 調剤件数内訳	
②注射剤の状況	
ア 注射箋等の枚数等	
イ 抗がん薬調製数	
③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況	
④薬剤情報件数等	
⑤製剤等の状況（種類別、製剤件数及び量）	
⑥薬効別薬品購入額	
(13) リハビリテーション	149
①診療点数	
②延べ治療件数	
③延べ単位数	
④年齢別新規患者数	
⑤リハビリテーション算定区分別実績	
(14) 栄 養	152
①一般食の種類と食数	
②離乳食の種類と食数	
③特別食の種類と食数	
④調乳の種類及び人数・本数	
⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数	
(15) 臨床工学課	155
①臨床業務症例数	
ア 体重別体外循環症例数	
イ 疾患別内視鏡手術症例数	
②月別日常点検件数	
③月別人工呼吸器使用中点検件数	
④月別人工呼吸器回路交換件数	
⑤月別定期点検件数	
⑥月別院内修理件数	
(16) 母子保健室	160
①精密健康診査	
ア 保健福祉事務所・保健所別受診状況	
イ 科別・年齢別受診状況	
ウ 科別受診状況及びその結果	
②新生児・未熟児病棟および他病棟入院患児の退院連絡	
③関係機関との連携状況	
④関係機関との連携会議	
⑤心理検査	
<心理検査>	
ア 心理検査	
イ アの年齢別被検査者数	

ウ 依頼科	
<精神科コンサルト>	
⑥群馬県先天性代謝異常等検査事業	
⑦親の会への支援	
(17) 地域医療連携室	164
①医療相談件数	
ア 相談内容及び件数 (地域医療連携室)	
イ 公費負担医療費申請等事務取扱件数	
ウ 身体障害者手帳等事務取扱件数	
②子ども虐待防止対策事業	
ア 院内 CAPS 開催状況	
イ 要支援事例検討会状況	
ウ 職員向け虐待対応研修	
③支援会議実施状況	
④患者サポート会議実施状況	
⑤関係機関訪問	

総括編

1. 沿革	171
◆開院後の歩み	172
2. 施設	
(1) 敷地・建物の面積	187
(2) 病棟構成並びに建物配置図	187
(3) 施設・設備の設置状況	188
(4) 付属設備 主なる付属設備一覧	195
(5) 重要物品 主なる医療機器一覧	198
3. 組織	
(1) 機構	202
(2) 人事	203
①役職員名簿	
②職種別・部門別職員配置状況	
4. 運営	
(1) 診療制度	206
(2) 院内会議の状況	211
令和5年度のあゆみ	212
職員名簿、職員異動状況	213
編集後記	216

業 務 編

1. 第一病棟

令和5年度の第一病棟は神経内科6名(年度途中で変更あり)、アレルギー・リウマチ科、感染症科3名の医師で主な診療を行った。入院患者は1,068名であり昨年度の1,143名より若干減少した(入院患者詳細は別表1-4参照)。

多種多様な疾患・患者を受け入れ、県内唯一のこども病院として求められる医療水準を維持する事は決して容易なことではなく、医師・看護師・他スタッフの献身的努力はもちろん、患者や患者家族の理解や協力に支えられています。県内外あるいは院内からの要求に応えられないこともあると思いますが、他医療機関とも連携しながら、自分たちの役割を果たし続ける所存です。今後ともご理解・ご支援よろしく申し上げます。

(椎原 隆)

表 1 第一病棟主診断別入院患者

疾患名	人	疾患名	人
食物アレルギー	169	川崎病	10
肺炎	89	筋ジストロフィー	9
胃腸炎	62	腎盂腎炎	9
気管支炎	53	脱水症	8
てんかん	51	脳症	8
麻痺	50	アナフィラキシー	7
呼吸不全	50	リンパ節炎	7
う蝕	40	先天性多発性関節拘縮症	7
COVID-19	37	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	7
RSウイルス	34	トリソミー	6
糖原病2型	26	脊髄性筋萎縮症	6
気管支喘息	26	急性中耳炎	5
低ガンマグロブリン血症	20	睡眠時無呼吸	5
インフルエンザ	19	埋伏歯	4
痙攣	19	敗血症	3
尿路感染症	15	哺乳不全	2
ミオパチー	15	その他	178
ミトコンドリア病	12	合 計	1,068

第 2 第一病棟入院患者年齢構成

新生児	19 人	1.8%
1か月～1歳	116 人	10.9%
1歳	123 人	11.5%
2歳	92 人	8.6%
3歳	96 人	9.0%
4歳	82 人	7.7%
5歳	71 人	6.6%
6歳	59 人	5.5%
7歳	55 人	5.1%
8歳	43 人	4.0%
9歳	32 人	3.0%
10歳	54 人	5.1%
11歳	40 人	3.7%
12歳	33 人	3.1%
13歳	16 人	1.5%
14歳	26 人	2.4%
15歳	15 人	1.4%
16歳	21 人	2.0%
17歳	23 人	2.2%
18歳	18 人	1.7%
19歳	11 人	1.0%
20歳以上	23 人	2.2%
合計	1,068 人	100.0%

第3 第一病棟科別入院患者数

アレルギー・リウマチ科	482 人	45.1%
神経内科	429 人	40.2%
循環器科	57 人	5.3%
歯科	50 人	4.7%
外科(小児外科)	13 人	1.2%
血液腫瘍科	5 人	0.5%
一般内科(小児科)	21 人	2.0%
感染症科	10 人	0.9%
新生児科	1 人	0.1%
合 計	1,068 人	100.0%

第4 第一病棟入院死亡症例及び剖検

	年齢	性別	死亡日		病 名	剖検
1	20歳1ヶ月29日	男	2023/12/16	死亡	反復性尿路感染症、脳症後遺症、副腎クリーゼ、癱性四肢麻痺、中枢性尿崩症、副腎皮質機能低下症、甲状腺機能低下症、細菌性肺炎、急性腎不全、気管切開術後	(-)

(1) 総合診療科

令和5年度は総合診療科立ち上げから3年目を迎えた。総合診療科ではチーム医療を重視した医療を行っており、診断や治療方針はカンファレンスで決定されている。

総合診療科外来は神経内科(椎原、渡辺、道和、森田、清水有、鈴木)、血液・腫瘍科(鍋木、石北、飯島)、遺伝科(山口)、アレルギー・リウマチ科(野村、清水真)、感染症科(清水彰)そして後期研修(上島)、非常勤(西山)の医師から構成される。常に2人が診療に当たり、判断に迷う場合や患者様の待ち時間が長くなってきている状況では有機的にコミュニケーションを取りながら診療に当たっている。日勤帯であればいつでも急患を受け付けており、1次および2次医療機関からのご紹介を受け付けている。カンファレンスを週2回行っており、複数の診療科の医師が初診患者様の鑑別と診療について意見を出し合い診療を進めている。

リハビリテーション前、心理カウンセリング前の診察、院内の対象患者様にシナジス投与も行っている。総合診療科を受診し、入院する場合は多くが第一病棟への入院となるので、入院患者数、およびその疾患については第一病棟の業務編をご参照いただきたい。なお入院診療も含め紹介の依頼があった場合には原則的に全てお引き受けする方針であるが、常勤医師がいない等の理由で診療が困難な疾患については他の医療機関に受け入れていただいている。さらには他の医療機関から医師を派遣していただき、より多様な疾患や病態に対応できるようにしている。入院が必要と予測される場合や基礎疾患等から特別な対応を要する場合などは地域医療連携室および外来診療部門があらかじめご相談を受け円滑な受け入れを心がけている。

(野村 滋)

(2) 腎臓内科

腎臓内科は令和5年度も常勤医が不在のままであり、外来診療のみ継続した。腎臓外来は、(火)の1,3,5週を丸山が、(火)の2,4週と(木)の1,3,5週を群馬大学小児科の池内助教が担当した。前年度と同様に、初診患者の受け入れは池内助教の担当日のみとさせていただいたが、令和5年度の延べ受診患者数は450名であり、前年度(507名)より大幅に減少する結果となった。常勤専門医不在のため、急性・慢性ともに腎臓疾患の入院管理はできなかった。常勤医の復活が待たれるところである。

(丸山健一)

(3) 神経内科

令和5年度神経内科外来担当は椎原隆、渡辺美緒、森田孝次、道和百合、清水有紀、鈴木江里子、高須倫彦(年度途中で異動)の6名で、外来患者数は新患87(昨年度84)名、再来2,597(昨年度3,081)名でした。

県内で高い専門性を持って神経疾患に対応できる医療機関は限られており、少子化とは言っても、当院当科に対する重症・稀少あるいは慢性疾患などの要請はむしろ増えて来ています。しかしながら当センターは医療機関としては規模が小さく、医療スタッフ全体の数は多くないため、特に夜間や休日の対応は十分でない事もあります。紹介や転院のタイミングの調整をお願いすることもありますが、自分たちが機能不全に陥ること無く、より長く県内外の医療に貢献することが重要な課題と認識しています。皆様のご理解とご協力に感謝します。

(椎原 隆)

(4) 子どものこころ診療科

令和5年度からあらたに子どものこころ診療科を立ち上げました。これは、近年増加している子どものこころの問題に対応するためです。小児科医1名(森田孝次:小児科専門医、子どものこころ専門医)で、外来のみ診療を行なっています。毎週火曜日の午前・午後、木曜日午前中の週3コマ外来診療を行い、今年度は外来患者数は初診50名、再診798名でした。またそのほか院内の各診療科から、入院患者に関するコンサルテーションを随時受けていました。

子どものこころ診療科は病棟がなく、精神科医もおりません。そのため行動化の強いお子さんや統合失調症、摂食障害の児など、入院が必要な児の診療はお受けすることができませんが、発達障害の診療や支援が必要な家族に対し、近隣の保健センターや学校、こども園などと連携して対応を行なっています。

令和5年度は臨床心理士が退職し、医師のみでの診療であったため心理検査や心理療法などが十分な支援の提供ができませんでしたが、令和6年度からは心理職が配置され、心理検査や心理療法なども徐々に対応してゆきたいと考えています。

(森田孝次)

(5) アレルギー・リウマチ科

アレルギー・リウマチ科ではアレルギー性疾患、リウマチ疾患、慢性炎症性疾患、不明熱、呼吸器疾患の診療を行っている。

最近では好酸球性消化管疾患、消化管アレルギーおよびその関連疾患の診療が当科の特色の1つとなっている。また近年はリウマチ疾患、自己免疫、自己炎症性疾患の診療にも力を入れており、多種多様な免疫異常による疾患に対して専門性の高い診療が可能となった。

また多くの初期研修医を受け入れた。院外活動では日本小児アレルギー学会による食物アレルギーおよび小児気管支喘息の診療ガイドライン作成に取り組み、感染症やアレルギーに関する講演を積極的に行った。当科で経験した症例、好酸球性消化管疾患、消化管アレルギー、細胞分離法、フローサイトメトリーを用いた新しい検査についての研究を行っている。

当科の外来診療は月曜から金曜まで毎日、午後に行っている。経口食物負荷試験は入院での施行が多い。当科では他科が担当している様々な基礎疾患のある方の診療、つまり境界分野の診療にあたることが多い。また患者様とご家族の家庭や集団での生活に対する支援にも力を入れている。総合診療科としての役割と専門医療を診療の両輪として取り組んだ。

(野村 滋)

(6) 感染症科

感染症科は、一般的な感染症の外来診療・入院診療を行うとともに、院内各科や院外からの感染症に関するコンサルトを受け付けている。現在は、常勤医師1名で、感染対策室長を兼務している。外来診療は、毎週火曜日と木曜日に行っている。近年の患者数の増加により、2023年度より木曜日の外来を追加した。気道感染症・皮膚軟部組織感染症などの一般的な感染症に加え、骨髄炎、BCG感染症、周期熱症候群などの患者の診療も行っている。また、ワクチン接種も進めており、基礎疾患などで標準的な接種年齢を過ぎたケースや、臓器移植後のワクチン接種を行っている。入院では、気道感染症やCOVID-19の入院が多いが、菌血症、髄膜炎、細菌性腸炎などの重篤な感染症、菊池病などの疾患も受け入れた。

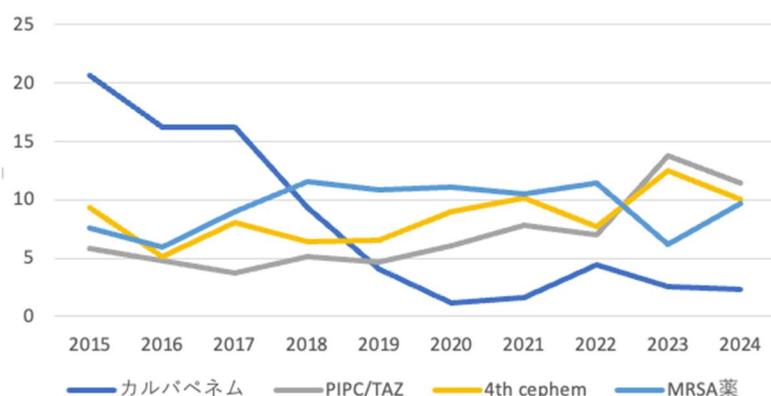
2023年度は、200例のコンサルト症例を診察した。内訳は表のとおりである。循環器科からのご相談が多く、重度の先天性心疾患を有する児や、PICUに入院中の重症例の感染症に関するご相談を多く頂いている。また、神経内科からは、誤嚥性肺炎を反復する例、ワクチンスケジュール作成依頼、尿路感染症に関するご相談が多い。外科からは、中心静脈カテーテル感染や腹腔内膿瘍・胆管炎などの症例についてのご相談が多い。

表 2023年度の診療科毎のコンサルト症例数

診療科	症例数
循環器科	62
神経内科	52
外科	26
血液腫瘍科	17
新生児科	11
心臓外科	10
整形外科	5
形成外科	3
産科	3
歯科	2
外部医療機関	9

当科では、抗菌薬適正使用を推進している。図は、1,000 patient-daysあたりの広域抗菌薬の使用量 (DOT) である。当院では、これまでカルバペネム系抗菌薬の使用量が非常に多かったが、各診療科のご協力を得て、大幅に削減することができている。2019年度以降は、DOTが5未満で推移しており、全国の小児専門医療施設の中でもカルバペネムの使用量が非常に少ない病院である。2023年度は、カルバペネム系抗菌薬のDOT 2.55と昨年度よりも減少した。一方、ピペラシリン・タゾバクタム (PIPC/TAZ) と4世代セフェム(4th Cephem)の使用量が大幅に増加している点が課題である。抗菌薬適正使用の推進が引き続き必要である。

広域抗菌薬使用量の推移



群馬大学医学部の学生実習、初期研修医の研修を多く受け入れており、感染症診療と抗菌薬使用の基本的な知識を身に付けられるよう研修プログラムを実施している。

院外の活動としては、国際学会を含む小児感染症に関連する学会でポスター発表・口演・パネルディスカッションを行った。研究内容に関しては、英文・和文誌で発表を行っている。感染症に関する講演も定期的に行った。研究活動としては、侵襲性肺炎球菌感染症、侵襲性 GBS 感染症の全国サーベイランス、化膿性関節炎・骨髄炎に関する多施設共同研究、AI による Gram 染色判定、新生児術後感染症など、全国の医療機関と協力し、研究を行っている。単施設でも後方的研究が主ではあるが、年間 1-2 テーマの研究を進めている。

当院は、小児感染症専門研修施設であるが、フェローシップの応募者が今年もない状況である。全国的に感染症科の人気は低迷しており、院内・院外を含め感染症科の魅力をアピールしてゆきたい。

(清水彰彦)

(7) 遺伝科

遺伝科は令和 5 年度に 17 年目を迎え、前年度に引き続き、常勤医 1 名(山口 有)、非常勤認定遺伝カウンセラー 1 名での 2 人体制となりました。

診療内容は先天性疾患・遺伝性疾患についての診断や情報提供、遺伝相談(遺伝カウンセリング)、健康管理のための他科紹介などで、外来診療に加えて入院患者のコンサルテーションを行いました。専門外来は金曜午前・午後、月曜午前とともに他科受診に合わせて他の曜日にも受診できるよう調整を行っています。

外来患者数は、新規患者が 89 人、再診 1,430 人でした。診断のための遺伝学的検査を行えるよう、保険診療内での検査以外にも、他施設との共同研究による研究的遺伝子解析の実施体制を整えました。研究的遺伝子解析については、未診断疾患イニシアチブ(IRUD)に高度協力病院として参加し、県内の未診断稀少疾患の患者さんの診断に寄与できるよう努めています。

平成 21 年度より続いている 13 トリソミー・18 トリソミーの家族会「スマイル」および、Down 症候群に対する集団診療「あさがおの会」についても 3 年ぶりに対面で開催することができました。

(山口 有)

2. 第二病棟

第二病棟は外科系病棟であり、外科、形成外科、整形外科が計 27 床にて運用している。また同じ棟内にある DAY 病棟は外科、形成外科、歯科が 2 床にて運用している。

令和 5 年度の入院患者数は 828 人であった。前年度の 708 人より増加した。

第二病棟在院日数は 7.9 日であり、前年度の 6.3 日より延長した。

第二病棟延べ患者数は 5972 人であり、前年度の 5824 人より増加した。

第二病棟一日平均患者数は 16.3 人であり、前年度の 16.0 人より増加した。

第二病棟病床利用率は 60.4%であり、前年度の 59.1%より減少した。

DAY 病棟病床利用率は 47.1%であり、前年度の 48.8%より減少した。

(西 明)

(1) 小児外科

診療体制では、岡崎先生が大学の医局人事で異動となり、かわりに獨協大学から山口岳史先生が加わって、西、渡辺、山口、横川、篠原の 5 人体制で診療しました。山口先生は以前当科で働いてくれていたので、まったく違和感なくすぐになじんでくれて大いに助かりました。

手術数 373 例 (昨年度 338 例)、新生児手術例は 25 例 (昨年度 18 例)、腹腔鏡手術 133 件 (去年度 117 件)でした。一昨年 Covid-19 の影響で症例数がかなり減少して、そこから回復傾向がみられた 1 年でした。

今年導入したものとしては、ディスポ気管支鏡と、在宅洗腸に用いるペリスティーンと、止血や焼灼に用いるアルゴンレーザーになります。ディスポ気管支鏡は持ち運びやセッティングが非常に簡単でとても良いものです。ペリスティーンは導入するぞーと言ったあとのほとんどの仕事を病棟の高橋君にお任せしてしまいましたが、高橋君の頑張りで非常にスムーズに導入できました。ペリスティーンは排便障害の子に導入すると QOL を上げるのに有効なことが多くて、本人やご家族から大好評でした。高橋君、本当にありがとう。アルゴンビームは止血に非常に有効なだけでなく、発射するときの手ごたえがとても気持ちよいです。目をギラギラさせてアルゴン発射の機会を狙っているので、「アル中」と言われています。

気管腕頭動脈瘻の子や広範囲腸管壊死の子ではとても大変な思いもしたのですが、PICU や第二病棟のスタッフ、ご家族対応をして頂いた PICU 師長さんに本当にお世話になりました。

個人的には、末っ子と同じタイミングでインフルエンザにかかった時が楽しかったです。二人で隔離されて、一緒にご飯食べて、おしゃべりして、マンガ読んで、DVD みて、寝るという隔離生活を過ごせました。その間に病院では緊急手術などもあったようなのですが、外科のみんなにこなしてもらいました。外科のみんなや家族に大変な思いをさせてしまいましたが、すみません、とても楽しかったです。きっと今年もインフルエンザにかかるので、どうせかかるならできたらまた子供と同じタイミングでかかりたいなと思っています。

今年もいろいろありましたが皆さんのおかげで無事に乗り切ることができました。外科外来のみなさん、第二病棟のみなさん、手術室のみなさん、PICU のみなさん (特に橋木先生!!)、

NICU のみなさん、コメディカルのみなさん、いつもありがとうございます。そしていつも甘えてばかりでごめんなさい。本当に助かっています。この場を借りてお礼申し上げます。

(西 明)

令和 5 年度 手術症例 (重複含む)	手術件数	内視鏡手術
食道閉鎖症手術	1	
腸閉鎖・狭窄症手術	3	
横隔膜ヘルニア手術	2	1
先天性腹壁異常手術	1	
新生児消化管穿孔	3	
新生児腸回転異常症手術	1	
新生児低位鎖肛	4	
新生児その他	10	4
新生児合計	25	5
ヒルシュスプルング病根治手術	3	2
直腸肛門奇形手術 (中間位・高位)	1	1
悪性腫瘍手術	2	
胆道閉鎖症手術	2	
腸回転異常	1	
縦郭・後腹膜の良性腫瘍	1	
腎摘出術	1	
VUR 手術	1	
腎盂尿管形成術	1	
噴門形成術	11	10
大腸全摘術	2	
鼠径ヘルニア (精巣水腫含む) 手術	129	88
脾摘	1	
停留精巣手術	33	1
イレウス手術	5	
幽門狭窄手術	5	
低位鎖肛	4	
虫垂切除	19	18
その他	128	8
合計	373	133

(2) 形成外科

令和5年3月末で、2年間勤務していただいた専門医の齋藤 景先生が移動となり、専門医は浜島と佐々木淑恵医師の2人となった。4月から群馬大学形成外科からの派遣である山田有実医師がレジデントとして加わり、令和5年度は専門医2人、レジデント1名の3人体制で診療を行った。

<外来診療>

外来診療は月曜日・木曜日の午後に行い、新患患者は月曜日・木曜日の午前中の予約診察として行った。また、月曜日の午前中に外来で血管腫に対するレーザー治療を行った。

令和5年度の新患患者数は466人、再診患者数は3,824人、総数4,290人であった。外来患者数は前年よりも減少した(前年比94.1%)(令和4年度の新患患者数は515人、再診患者数は4,046人で、総数4,561人)。

<手術>

手術は、水曜日・金曜日に入院全身麻酔手術及び日帰り全身麻酔手術を行った。また金曜日午後には、手術枠の空きが有る場合に外来局所麻酔手術を行った。

令和5年度の形成外科の手術件数は1,369件で、全身麻酔155件(入院144件、日帰り全身麻酔下手術11件)、局所麻酔1,214件であった。前年度と比較すると入院手術は増加、日帰り全身麻酔下手術は減少したが、局所麻酔手術は増加した(令和4年度の形成外科の手術件数は1,305件で、全身麻酔166件(入院134件、日帰り全身麻酔下手術32件)、局所麻酔1,138件)。

手術症例を手術内容区分に従って分類し、その術式とともに以下に示す。

(1) 新鮮熱傷	0件
(2) 顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷	1件
(3) 唇裂・口蓋裂	26件
口唇鼻形成術	8件
口唇鼻修正術	1件
口蓋形成術	6件(耳鼻科で鼓膜切開もしくは鼓膜チューブ留置術を同時施行2例)
顎裂部骨移植術	10件
鼻形成術	1件
(4) 手、足の先天異常、外傷	17件
多指症手術	7件
合指症手術	3件
合趾症手術	2件
多合趾症手術	3件
多趾症	1件
絞扼輪形成術	1件
(5) その他の先天異常	65件
副耳切除術	9件
耳瘻孔切除術	5件
睫毛内反症手術	7件
舌小帯形成術	5件

漏斗胸手術 (Nuss 法)	6 件
漏斗胸手術 (Nuss 法術後バー抜去)	8 件
小耳症手術 (肋軟骨移植)	1 件
小耳症エキスパンダー挿入術	2 件
耳介形成術	1 件
臍ヘルニア形成術	19 件
副乳切除術	1 件
Human tail 切除術	1 件
(6) 母斑、血管腫、良性腫瘍	50 件
母斑切除術	23 件
良性腫瘍切除術	24 件
血管腫切除術	1 件
静脈奇形硬化療法	2 件
(7) 悪性腫瘍およびそれに関連する再建	0 件
(8) 癍痕、癍痕拘縮、ケロイド	3 件
指癍痕拘縮形成術	3 件
(9) 褥創、難治性潰瘍	1 件
慢性膿皮症切除術	1 例
(10) 美容外科	0 件
(11) その他	1,209 件
レーザー治療	1,209 件

疾患別では、例年とほぼ同様の手術数であった。

乳児血管腫に対するレーザー治療は、昨年よりも 80 件程増加した。月曜日午前中に 20～30 人に対してレーザー治療を行っており、待合がかなり混雑する状況は変わらない。乳児血管腫に対するプロプラノロール内服治療は血液腫瘍科に依頼しているが、適応症例数の増加により、県内の入院可能な小児科施設にも治療依頼を行った。今年度、色素レーザー装置の V-Beam が V-Beam II に更新となったため、今後はレーザー治療におけるより良好な効果が期待される。

今年度は、例年よりも熱発、上気道炎などによる予約手術のキャンセルが多かった。手術枠の有効活用として、患者さんから予定手術キャンセル枠への申し込みを行ってもらうシステムを試行中である。

(浜島昭人)

(3) 整形外科

1. スタッフ

部長：浅井伸治

資格：日本整形外科学会専門医、義肢装具等適合判定医、身体障害者福祉法第 15 条指定医

参加学会：日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科研究会幹事、日本小児股関節研究会

非常勤医師：富沢仙一

資格：日本整形外科学会専門医、日本スポーツ協会スポーツドクター、運動器リハビリテーション認定医

参加学会：日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科研究会、日本リハビリテーション学会、日本足の外科学会、日本創外固定学会、日本二分脊椎研究会、脳性麻痺の外科研究会、日本関節鏡学会、関東整形災害外科学会

2. 総括

令和2年4月1日から富沢仙一先生は非常勤医師として月曜から木曜まで外来診療、手術に参加され診療体制を維持しております。

群馬大学整形外科から品川知司先生、川上詩織先生が手術に参加されています。

当科の特色は、脳性麻痺や二分脊椎に対する包括的治療の試みと、さらに、変形治癒骨折や低身長に対し骨延長術、創外固定術、小児股関節の手術治療である。

整形外科外来は、21 診察室、22 診察室は診察を主体の部屋とし、23 診察室は処置室とし、ギプス処置、装具作製等を行っています。

骨長補正術は、以前は短肢側の骨延長術のみであったが、8-プレートによる成長抑制術が差の小さい場合には有用であり、片側肥大症例(或いは片側低形成症例)に行われている。

小児股関節疾患について、自己血貯血、股関節造影の後、2 期的に骨切りを行う治療対象は3 例(寛骨臼移動術3 人)であった。

本年の特徴として新型コロナウイルスによる手術延期、再診患者数の減少があった。

	月	火	水	木	金
午前	再来	手術	再来	小手術、BTX	再来
午後	新患	手術	新患	書類ほか	リハビリ

整形外科研修医の後期研修医の研修受け入れはなかった。

群馬大学医学部学5年生4名が各2週間ずつ当科で学生実習を受けられました。

3. 外来

総受診者数 2,590 人、新患 285 人、再来 2,305 人であった。総受診者数は 169 人減少し、新患は 28 人減少し、再来者は 288 人の減少であった。当科における新患数は入院、外来で他科からの予定外の紹介や過去の通院患者の新規受診なども含まれており、診察日の実際の総受診者の記録が電子カルテに反映されないために、実際の受診者数との乖離がある。

外来日には、主に、午前中を再来に、午後を新患にあてた。予定ギプス等の処置は再来終了時刻を目安にギプス処置枠を置いて、行なった。小児整形外科的ギプスは患者数 6 人に対し約 64 回行った。現在、外来を能率的に進めるために、前日までの予約患者リストにてレントゲン検査者や装具作成者をピックアップし滞りのない流れを作っている。それでも外来の待ち時間が長くなりつつある。

4. 病棟入院患者数

延べ入院患者数は 50 人であった。

創外固定装着症例は 3 人、リハビリ目的の他院からの入院が 1 人ありました。

予定外の入院が 6 人あり内訳は骨折による手術治療が 2 人、大腿骨骨折の保存的治療 2 人(うち 1 人は垂直牽引)、環軸椎回旋位固定 2 人(Glison 牽引)であった。

下肢の手術が多いため、免荷や骨延長に長期間を要し在院日数は長くなる傾向がある。比較的年長児、学童期にある患者が治療対象となることが多く、赤城特別支援学校が併設されていたことは有用であった。

5. 手術件数

手術は 59 件、うち麻酔下の検査(股関節造影)を 5 人、自己血貯血を 5 人に行なった(別表 1 参照)。

特殊な手術では Blount 病に対し TAYLOR SPATIAL FRAME を用いた脛骨変形矯を施行、巨趾症に対し骨関節、腱の形成を要する巨指症手術があった。

予定外の手術として、骨折などによる臨時手術が 3 件(うち 1 件は緊急手術)ありました。

なお、手術に関する施設基準について、区分 2 に分類される手術:「靭帯断裂形成手術等」については、手術なし、区分 3 に分類される手術:「内反足手術等」については、2 例の手術を実施した。脚長補正術に関しては、骨延長術(Ilizarov Frame 使用)2 例、骨端軟骨発育抑制術 5 例(8 プレート使用)行った。

脳性麻痺児に対するボトックス®施注を 11 人に対し 17 回行った。

(浅井伸治)

別表 1【手術件数】59件

手 術	件数
骨折観血の手術：	
骨折観血の手術 (大腿)	1
骨折観血の手術 (脛骨)	1
骨折観血の手術 (足関節)	1
骨内挿入物除去術：	
骨盤内異物除去術	2
骨内挿入物除去術 (大腿)	11
骨内挿入物除去術 (下腿)	13
骨内挿入物除去術 (足)	3
骨延長術 [大腿骨]	1
骨延長術 [脛骨および腓骨]	1
骨端軟骨発育抑制術 [大腿骨]	5
骨端軟骨発育抑制術 [脛骨]	3
観血の関節授動 (膝)	1
観血の関節授動 (足)	4

手 術	件数
内反足手術	2
巨趾症手術	1
骨切り：	
寛骨臼移動術	3
大腿骨外反骨切り術	1
変形矯正手術	1
骨腫瘍切除	1
骨生検	2
筋生検	1
手術合計：	59
検査	
関節造影 (股関節)	5
自己血貯血 (全身麻酔下)	5

3. 第三病棟

第三病棟（血液腫瘍・循環器）の延べ入院患者数は7,537人、1日平均入院患者数は20.6人、年間病床利用率は68.6%であり、COVID19の流行に伴う病棟一時閉鎖の影響により減少した昨年の入院数と比較し増加を認めた。

第三病棟は循環器疾患と血液腫瘍疾患という重症疾患を扱う病棟であり、小児がんの化学療法を行う一方で、重症心疾患の術前・術後管理や心不全管理を行うなど、疾患概念が全く違う高度の専門知識と看護力を必要とする患者の看護を同時に行う必要があり看護師の負担は大きくなっている。また、PICUの後方病床として医療的ケアが多い重症患者をPICUから受け入れなければならない状況もあり、毎日ベッドコントロール会議を行いPICUから循環器・心臓血管外科患者の退室や受け入れがスムーズに行われるようにしている。今後も引き続き医療安全を考慮しながら、患者、患者家族を中心に考えられる業務環境を整えていきたい。

(池田健太郎)

(1) 循環器科

令和5年度は昨年に引き続き下山伸哉、池田健太郎、中島公子、浅見雄司、新井修平、稲田雅弘の6名体制で診療を行いました。また、群馬大学の後期研修医を3週間ずつ受け入れ、小児循環器診療についての研修を行っていただきました。

年間総入院患者数は386名、外来延べ患者数は4,915例でした。断層心エコーは6,415件でした。心臓カテーテル検査は142件に施行しており、Catheter interventionは、バルーン拡張術35件、血管内コイル塞栓5件、経皮的ASD閉鎖術8件、Amplatzer PDA閉鎖栓5件、カテーテルアブレーション12件、BAS3件の計68件でした。循環器科関連の死亡は6件でした(表1)。

循環器科では重症患者を多く扱っており、毎日循環器科・心臓外科でチームカンファレンスを行い治療方針の検討を行っています。またPICUが円滑に運営できるようベッドコントロール会議を毎日行い緊急患者に対応できるよう努めています。

令和6年度も引き続き群馬県内唯一の小児循環器科として質の高い医療を提供できるよう努めていきたいと考えています。

(池田健太郎)

表1 循環器科関連の死亡患者

No	年齢	性別	死亡日	診 断	解 剖	Ai
1	4m	M	2023.6.7	先天性副腎過形成、心肺停止蘇生後	なし	あり
2	2y	F	2023.11.22	VLBW、cAVSD、21trisomy	なし	あり
3	3y	M	2023.11.29	インフルエンザ脳症	なし	なし
4	8m	F	2023.12.17	無脾症、単心室、PA、MAPCA、TAPVC	あり	あり
5	7m	F	2023.12.25	cAVSD. 21trisomy	なし	あり
6	16y	M	2024.1.20	ミトコンドリア心筋症	なし	なし

(2) 心臓血管外科

令和5年度は、メンバー交代はなく岡村 達、松永慶廉、畑岡 努医師の3名が心臓血管外科チームとして診療にあたりました。年間を通して良好な手術成績を残すことができました。重症な心疾患を多く扱っているにも関わらず手術死亡症例なしという良好な成績(人工心肺症例: 65例、非人工心肺症例: 26例、その他: 0例の合計91例)を残すことができたのも、ひとえに小児循環器科を含めた循環器チーム、その他の診療科、診療部門との連携、協力があったからこそと感謝しております。今年も、成人先天性疾患に対する手術も始まり、より幅広い年齢層に対して診療を開始することになりました。引き続き成績を維持し、症例数増加を目指し努力していききたいと思います。

(岡村 達)

(3) 血液腫瘍科

令和5年度の血液腫瘍科総入院数(再入院を含む)は222人(延日数2,752日)と、COVID流行時にはやや減少傾向であったが増加に転じCOVID流行前の診療実績に戻ってきている。

新規診断患者数も23例であり、これも例年と変わらなかった。疾患の内訳は、白血病・リンパ腫が半数以上を占め、非腫瘍性血液疾患、固形腫瘍、脈管系奇形、その他と続いており、これも例年同様である。

数年前から、入院中および退院後の小児がん患児やその家族を支援する目的に、当院に関わりのあったご家族を中心に様々な支援活動をしていただく試みを開始している。当院も含め日本全国の小児がん診療施設が参加する日本小児がん診療グループ(JCCG)の運営、事業に積極的に参加し小児がん診療連携病院としての機能も果たしている。また昨年度から血友病診療地域中核病院にも認定されており非腫瘍性疾患の診療も今後さらに充実・発展させていく予定である。

(河崎裕英)

4. 小児集中治療部

令和5年(2023年)度は前年度同様、心臓血管外科および循環器科を中心にオープンICU形態で運営した。専従医師として下山と心臓外科医師、および循環器科医師(新井、浅見、中島)が4ヶ月交代の専任体制で各科入室者の担当医との協力のもと業務を行った。また、PICU非常勤医師として10月から週3日橋木が勤務にあたった。

令和5(2023)年度にPICUで治療・管理を行った患者数はのべ274名(前年243名)で年々増加傾向を示している(表1)。その中で満床のためPICUへの受入れ制限を行った日数は、令和3年度は85日、令和4年度は3日、令和5年度は34日であった。

8床の運用で1日平均入院患者数は5.7名(前年4.9名)、平均入室日数は6.2日(前年6.0日)で、入室期間はほぼ同様の傾向を示した(表2)。全入室患者のうち約6割は手術後等の予定入室で、その他は緊急入室で一般病棟入院中の患者状態悪化で入室になったケース38件(前年20件)、外来からの直接入院9件(前年6件)、当院産科での重症先天性心疾患児の出生後の入院(胎児診断後)15件(前年11件)であった。また、他院からの重症者の転院は49件(前年53件)であった(表3)。

令和元年(2019年)度から新型コロナウイルス感染症による感染が拡大したが、令和3年度まではPICU入室者適応者は認めなかった。令和5年度はPICUへの新型コロナウイルス感染症患者数は8人(前年13人)と増加傾向はなく、また新型コロナウイルス感染症への対応も慣れたため、従来からの懸念事項であった2つの陰圧個室で新型コロナウイルス感染症患者と他のウイルス感染症患者を同時に問題なく対応できた。

一方、新生児・乳児への緊急開胸ECMO装着などPICU内での手術を含めた緊急処置は年間42件(令和2年度)から7件(3年度)、さらに4年度は3件で5年度は3件となった。これらの背景として、非緊急時や状態の安定している患者の処置を可能な限り手術室で対応する方針を継続していること、手術手技の改善や術後管理等により術後の開胸状態の患者数や期間が減少していることが要因と考える。同様に特殊治療も、ECMO0件(前年0件)、CHDF0件(前年1件)、血漿交換1件(前年1件)と令和2年度までと比較すると著明な減少が持続しており、各種特殊治療のレベル維持に課題がさらに重要となってきた。このため、シミュレーションの見直し等を開始した。また他の特殊治療として、NO吸入治療8件(前年9件)、N2吸入治療2件(前年7件)、その他、脳低温療法3件、腹膜透析0件、PMX0件であった。

科別在室日数では循環器科・心臓血管外科患者が64%(前年71%)(図1)、診療科別入院患者数も図2のごとく循環器科・心臓血管外科が45%(前年47%)、外科が24%(前年31%)を占め、従来と同様に術後患者の管理が中心であった。また、PICU入室者を年齢構成別にみると、新生児(1ヶ月未満)と1歳未満の乳児(1ヶ月~1歳未満)が33%と多くをしめた(図3)。また、PICUにおける死亡患者は4名(前年10名)(約1.4%)であった(副腎クリーゼ、溺水、インフルエンザ脳症、気管切開後気管腕頭動脈瘻)。

PICU内の体制の整備としては、PICU開設時時から使用していた重症部門システムおよび生体情報モニターは20年以上経過しており更新を行った。これにより大幅な機能改善と省力化が実現され新たな業務拡張が可能となっており、特に安全機能面の充実も含め対応していく予定である。

切れ目ない全入院患者への効果的なりハビリを目指し、早期離床リハビリテーション介入を開始し2年目となった。初年度は体制整備に注力したが令和5年度からは初年度の見直しを受け、内容

の改善について検討を開始したところである。

循環器領域において今後の成人先天性心疾患患者受け入れの試みが開始され、成人患者の対応についても検討を始めたところである。

(下山伸哉)

表 1 入室者数

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
入室者数	232	243	274

表 2 平均在室日数

診療科	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
全診療科	7.5	6.0	6.2
循環器科・心臓外科	9.7	8.2	8.0
アレルギー・リウマチ科／感染症科	9.3	7.0	5.5
神経内科	4.7	2.4	5.7
血液腫瘍科	9.4	9.0	5.0
整形外科	0.0	2.0	1.0
外科	2.3	3.4	4.0
形成外科	1.0	0.9	1.7
その他内科系診療科	0	0	0

表 3 他院からの転院患者疾患名

疾 患	症 例 数
脳炎・脳症	5 (4)
痙攣重積・意識障害等	12 (15)
先天性心疾患	5 (5)
心筋疾患等	0 (1)
後天性心疾患	3 (3)
呼吸器感染等	16 (11)
急性腹症等	3 (3)
尿路感染症	0 (0)
不慮の事故／外傷	3 (5)
その他	2 (6)
合計	49 (53)

図1 診療科別在室日数

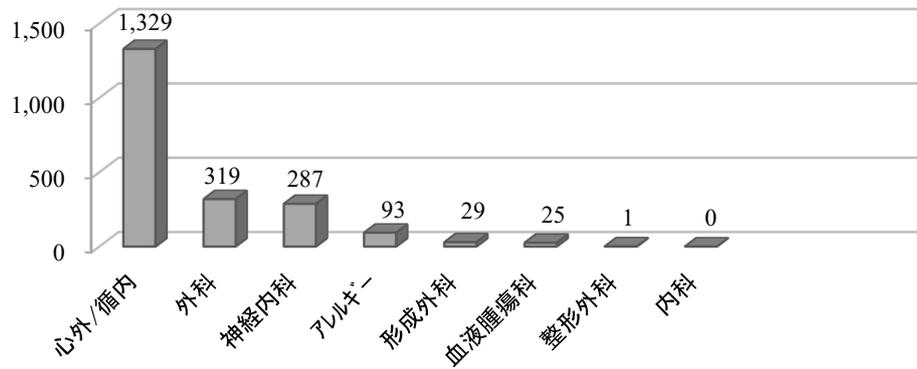


図2 診療科別入院患者割合

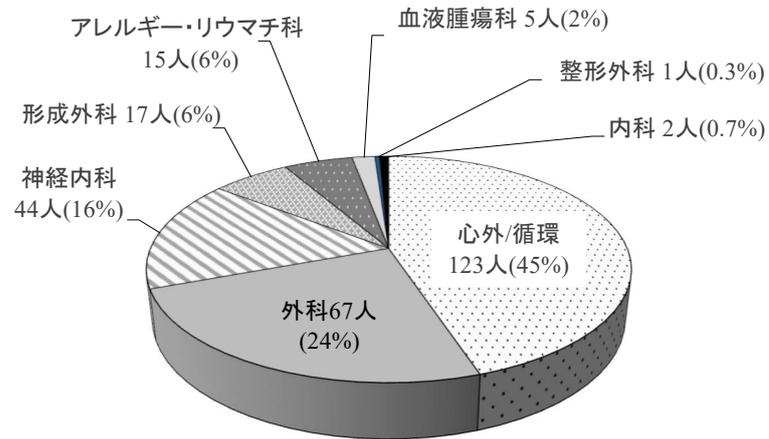
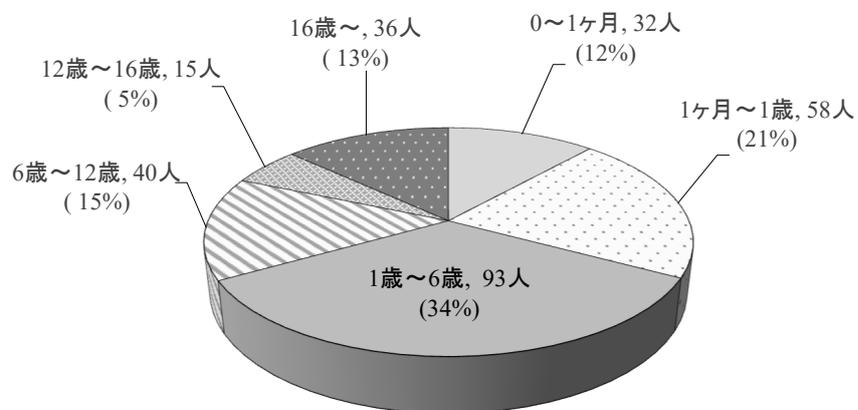


図3 PICU 入院患者年齢分布



5. 新生児未熟児病棟

2022 年度半ばから欠員が生じ、医師 5 名体制で診療してきたが、2023 年度は小児科の後期研修を終了し新生児専門医を目指す小柳医師が新たに常勤医として勤務することとなった。さらに群大の医局から小児科後期研修医 3 年目の 3 名がそれぞれ 4 か月ずつ勤務してくれることとなり、4 月から 7 名体制で診療することができた。特に後期研修医 3 年目の医師については、当科で経験した症例を全国規模の学会に演題提出してもらったこともできた。

年間入院患者数については、2021 年度が 245 名、2022 年度が 212 名で 2023 年度は 202 名と、ここ数年で大幅に減少してきている。全国的に出生数が急激に減少してきており、群馬県も例外でないことが報じられていることから、出生数の減少が入院患者数の減少の一因となっている可能性がある。しかし、病床稼働率については著しい低下には至っていない。これには、重症の先天異常などで長期入院を余儀なくされている患儿が常に一定数いることが関係していると思われる。また、在胎 28 週未満の超早産児の入院数は 2022 年度が 25 名から 2023 年度は 20 名に減少していたが、早産児の中でも外科疾患を合併している患儿が増えており、入院が長期化しがちなことも関連していることが考えられる。

研修面では、COVID-19 が 5 類感染症となり、COVID-19 流行前と同じように対面で研修会を開催することができるようになった。新生児蘇生法講習会については、A コース 2 回、B コース 2 回、S コース 5 回、救急救命士向け P コース 2 回を開催するとともに、恒例となった消防学校での P コースも開催することができた。また、3 月にはオープンカンファレンスを開催し、その中で県内の早期新生児死亡症例についての検討も行うことができた。今後も県内の周産期医療のレベルが向上するように努めていきたい。

(丸山憲一)

◆出生体重の分布

	院内出生	院外出生	総 数
500g 未満	4	1	5
500 ～ 999g	13	3	16
1000 ～ 1499g	16	2	18
1500 ～ 1999g	19	3	22
2000 ～ 2499g	23	12	35
2500g 以上	48	58	106
計	123	79	202

◆在胎期間の分布

	院内出生	院外出生	総 数
22 週	1	0	1
23 週	5	2	7
24 週	1	0	1
25 週	0	0	0
26 週	5	1	6
27 週	4	1	5
28 週	4	0	4
29 週	4	0	4
30 週	4	1	4
31 週	1	1	2
32 週	4	0	4
33 週	3	2	3
34 週	6	3	9
35 週	4	3	7
36 週	5	6	11
37 週	18	9	27
38 週	21	15	36
39 週	18	14	32
40 週	9	15	24
41 週	6	5	11
不明	0	1	1
計	123	79	202

◆疾患の分布

呼吸窮迫症候群	24	新生児持続性肺高血圧症	5
胎便吸引症候群	7	慢性肺疾患	11
新生児一過性多呼吸	21	声帯麻痺・両側声門開大不全・声帯外転障害	1
肺浮腫・出血性肺浮腫	1	横隔膜挙上症・横隔神経麻痺	1
肺出血	1	先天性横隔膜ヘルニア	1
気胸・気縦隔	10	CPAM・CPAM の疑い	1
無呼吸発作・反復性無呼吸	20	先天性後鼻孔閉鎖・後鼻腔閉鎖	1
肺低形成・肺低形成の疑い	2	先天性肺嚢胞性疾患・先天性肺嚢胞	2
先天性胸水・腹水	3	胸腔内充実性病変	1

◆疾患の分布

先天性喘鳴	1	副腎嚢胞	1
新生児仮死	22	下垂体低形成	1
新生児重症仮死	33	副腎腫瘍	1
新生児けいれん・けいれんの疑い・新生児発作	4	甲状腺腫大	4
脳瘤・頭瘤	2	高ガラクトース血症	1
頭蓋内出血・頭蓋内出血の疑い・頭蓋内出血・血栓	10	甲状舌管嚢胞	1
出血後水頭症	1	持続吸引チューブ迷入	1
低酸素性虚血性脳症	1	敗血症・菌血症・敗血症性ショック	5
反回神経麻痺	1	先天性サイトメガロウイルス感染症	1
全前脳胞症	1	細菌感染症の疑い	1
頭蓋骨骨折・頭蓋骨陥没骨折・頭蓋骨骨折の疑い	2	後天性サイトメガロウイルス感染症	1
脳梁欠損・脳梁低形成・脳梁欠損の疑い・脳梁低形成の疑い	1	頸部リンパ節炎	1
墜落産児	3	尿路感染症	1
透明中隔欠損	1	真菌感染症・真菌感染症の疑い	1
脳室拡大・側脳室拡大	1	食物アレルギー	1
良性家族性新生児けいれん・良性新生児けいれんの疑い	1	母体 COVID-19 陽性	2
低体温・新生児低体温症	1	ウイルス性髄膜炎	1
Dandy-Walker variant・Dandy-Walker variant の疑い	1	インフルエンザ	1
その他の水頭症	1	新生児特発性嘔吐症	2
Septo-optic dysplasia・Septo-optic dysplasia の疑い	1	腸回転異常症・中腸軸捻転・腸回転異常症の疑い・不全型腸回転異常症	3
視神経低形成	1	腸穿孔	3
頭血腫	1	胃食道逆流症・胃食道逆流症の疑い	12
脈絡叢嚢胞	1	先天性十二指腸閉鎖	2
先天性ミオパチー	1	胎便関連性腸閉鎖症・胎便関連性腸閉鎖症の疑い	2
巨頭	1	先天性食道閉鎖	2
中枢性視神経形成異常の疑い	1	鎖肛・鎖肛の疑い	7
先天性高乳酸血症の疑い・高乳酸血症	1	急性胃粘膜病変	1
新生児高ビリルビン血症	91	小腸閉鎖	3
新生児重症黄疸	2	ミルクアレルギー・ミルクアレルギーの疑い・好酸球性胃腸炎・乳幼児消化管アレルギー	8
未熟児くる病	29	門脈体循環シャント	5
新生児低血糖症	10	鼠径ヘルニア	7
先天性副腎低形成・副腎低形成	1	ヒルシュスプルング病・ヒルシュスプルング病の疑い・ヒルシュスプルング病類縁疾患の疑い	4
新生児一過性高 TSH 血症・一過性高 TSH 血症	1	哺乳不良・哺乳障害	1
ミトコンドリア病・ミトコンドリア病の疑い	1	胃軸捻転	4
代謝性アシドーシス	1	臍帯ヘルニア	1

◆疾患の分布

肝血管腫・肝血管腫の疑い	1	大動脈縮窄症・大動脈縮窄の疑い	1
回腸穿孔性腹膜炎・穿孔性腹膜炎	1	症候性動脈管開存症・動脈管開存症	19
臍ヘルニア	8	上室性不整脈・上室性期外収縮・上室性頻脈	3
胆汁うっ滞・一過性胆汁うっ滞・胆汁うっ滞の疑い	1	心室性期外収縮	1
亜鉛欠乏症	24	左上大静脈遺残	3
胃破裂	1	右側大動脈弓	1
腹腔内出血	1	重複大動脈弓	1
腹膜炎・汎発性腹膜炎	3	大動脈2尖弁・大動脈2尖弁の疑い	2
上部消化管出血	1	卵円孔早期閉鎖の疑い・卵円孔閉鎖	1
壊死性腸炎・壊死性腸炎の疑い	4	末梢性肺動脈狭窄	1
肝内石灰化	1	単一臍帯動脈	1
食道裂孔ヘルニア	1	post-ligation syndrome	1
静脈管開存・静脈管開存症	1	循環血液量減少性ショック	1
麻痺性イレウス	1	高血圧	1
腸管不全関連肝障害	1	VATER 連合・VATER 連合の疑い	2
脾損傷	1	胎児水腫	1
右側腹部ヘルニア・左腹壁ヘルニア	1	Williams 症候群・Williams 症候群の疑い	1
肛門狭窄	2	Treacher-Collins 症候群	1
小胃症	2	ピエールロバンシークエンス	1
閉塞性黄疸	1	絞扼輪症候群	1
先天性胆嚢欠損	1	口唇裂・口蓋裂	9
異所脾	1	小顎症	2
盲腸穿孔	1	魔歯	1
臍静脈瘤	1	下顎後退・低形成	1
新生児メレナ	1	21 トリソミー・21 トリソミーの疑い	5
VSD	9	18 トリソミー	3
DORV	3	13 トリソミー	1
肺動脈狭窄	1	18p モノソミー	1
ASD	2	13q モノソミー+付加染色体	1
ECD・房室中隔欠損症	2	難聴・難聴の疑い	6
MS	1	副耳	1
PA	2	未熟児網膜症	7
MAPCA・MAPCA の疑い	1	白内障・先天性白内障	1
大動脈弁狭窄	1	外耳道閉鎖・外耳道閉鎖+小耳症	1
動脈管早期収縮・動脈管早期収縮の疑い	1	眼底出血・硝子体出血	2
TAPVR・TAPVR の疑い	1	小耳症・小耳介	2

◆疾患の分布

Blake's pouch cyst の疑い	1	腎低形成・腎無形成	2
耳瘻孔	1	低 K 血症	1
耳小骨無形成	1	腎形成異常・異形成	1
眼瞼内反	1	卵巢囊腫・卵巢嚢胞	4
折れ耳	1	腎石灰化・腎石灰沈着	1
鼻涙管拡張	1	重複腎盂尿管・重複腎盂の疑い	1
未熟児貧血	32	二分陰囊	1
貧血・重症貧血・鉄欠乏性貧血・乳児貧血	4	不完全重複腎盂	1
血管腫・莓状血管腫・乳児血管腫・血管腫の疑い	4	尿管異所性開口の疑い	1
多血症	1	代償性腎肥大	1
DIC	2	腎肥大	1
TAM・TAM の疑い・silent TAM	1	多指症	2
胎児母体間輸血症候群	1	先天性内反足	4
先天性貧血	1	脊椎奇形	1
帽状腱膜下出血	1	過剰肋骨	4
双胎間輸血症候群受血児	2	脊柱管内嚢胞	1
双胎間輸血症候群供血児	2	軟骨無形成	1
ABO 不適合	2	屈指症・屈指	1
TAPS	2	点状軟骨異形成症の疑い・点状軟骨異形成症	1
左肩甲部動静脈奇形の疑い	1	踝足	1
水腎症・水腎症の疑い	6	脛骨骨折・腓骨骨折	1
高 K 血症	2	単純性血管腫	2
急性腎不全・腎不全・急性腎障害	1	異所性蒙古斑	1
低 Ca 血症	1	skin tag	1
尿道下裂	4	色素性母斑	1
馬蹄腎・癒合腎	1	多臓器不全	1
停留精巣・停留精巣の疑い	1	双胎	24

◆新生児未熟児病棟死亡症例及び剖検

	年齢	性別	死亡日	病名	剖検	Ai
1	1歳	男	2023.4.11	超低出生体重児 (在胎26週1日、出生体重491g)、呼吸窮迫症候群、新生児重症仮死、慢性肺疾患、肺高血圧症、新生児高ビリルビン血症、未熟児貧血、早産児骨減少症	なし	あり
2	0歳	女	2023.7.8	Robertson 転座型 13 トリソミー、肺低形成、横隔膜挙上症、口蓋裂、多指症	なし	あり
3	0歳	女	2023.7.24	早産児 (在胎35週2日、出生体重3,530g)、新生児重症仮死、胎児水腫、21トリソミー、心室中隔欠損症、動脈管開存症、新生児遷延性肺高血圧症、新生児高ビリルビン血症、下大静脈血栓症、敗血症 (<i>Enterococcus faecalis</i>)、感染性心内膜炎、敗血症 (<i>Stenotrophomonas maltophilia</i>)	なし	なし
4	0歳	女	2023.8.12	新生児重症仮死、高乳酸血症、DIC、ミトコンドリア病の疑い、敗血症	なし	あり
5	0歳	男	2023.8.23	総肺静脈還流異常症、Septo-optic dysplasiaの疑い、新生児重症仮死	なし	なし
6	0歳	女	2023.10.10	極低出生体重児 (在胎33週4日、出生体重1,426g)、新生児重症仮死、胎児薬剤性腎障害肺低形成、air leak、新生児遷延性肺高血圧症、墜落産、両大血管右室起始症、右側大動脈弓	なし	あり
7	0歳	女	2023.10.24	低出生体重児 (在胎22週3日、出生体重437g)、新生児重症仮死、呼吸窮迫症候群、air leak	なし	あり
8	2歳	男	2023.11.9	Osler病 (脳動静脈奇形)、脳室内出血、出血後水頭症、低酸素性虚血性脳症、脳室炎の疑い、脳性麻痺、壊死性腸炎、消化管アレルギー、敗血症性ショック (<i>Serratia marcescens</i>)、カテーテル関連感染症、腹膜炎、複雑性尿路感染症、神経因性膀胱、左上腕熱傷、高乳酸血症、高脂血症、貧血、新生児高ビリルビン血症	なし	あり
9	0歳	女	2023.11.29	極低出生体重児 (在胎37週1日、出生体重1,390g)、新生児重症仮死、両大血管右室起始症、肺動脈閉鎖、心室中隔欠損症	なし	あり
10	0歳	男	2024.2.22	早産児 (在胎34週0日、出生体重3,570g)、新生児重症仮死、胎児水腫、21トリソミー、急性腎不全、細菌性腹膜炎、緊張性気胸	なし	なし

6. 産科病棟

令和5年度は常勤医4名と群馬大学産科婦人科から宿日直要員としての派遣医2名の体制であった。

臨床成績概要を表1に示す。分娩件数219件(前年度228名)は4.0%の微減となったが、群馬県全体の分娩数の減少率7.0%を上回るものではなかった。新規外来患者数521名(前年度500名)と入院患者数363名(前年度338名)は増加したが、母体搬送については、依頼総数55件(前年度78件)、受入数35件(前年度43件)と大幅に減少してしまった。受入率63.6%(前年度55.1%)こそ上昇したが、依頼数からみれば決して高いものとはいえないだろう。受入不可の20件中、NICU満床によるものが9件と例年通り最多であった。当院からの母体搬出数16件は前年度17件とほぼ同数であったが、母体合併症によるものが9件(56.3%)と最多で、NICU満床によるもの5件(31.3%)を上回った。高年妊娠や生殖補助医療による妊娠による母体ハイリスク症例や無痛分娩ニーズの増加も見込まれる中で、総合周産期母子医療センターとしての機能強化なしでは、これらの数値が増加または回復することは難しい。

令和4年9月から当科で開始したNIPT(非侵襲性出生前遺伝学的検査)については、令和5年度中の実施件数は34件で、新規外来患者数増加の一因になっている。

(京谷琢治)

表 1 産科臨床成績概要 (令和 5 年度)

新規外来患者数	521 名		母体搬送依頼連絡数	55 件
入院患者数	363 名		母体搬送受入数	35 件
			受入不可数	20 件
分娩件数合計	219 件		受入率	63.6 %
単胎分娩	204 件			
双胎分娩	15 件		母体搬送搬出数	16 件
品胎分娩	0 件		新生児科満床	5 件
多胎分娩率	6.8 %		その他	0 件
			逆搬送	2 件
帝王切開数	75 件	34.2%	母体合併症	9 件
単胎	68 件	33.3%	産科満床	0 件
双胎	7 件	46.7%		
予定	31 件	41.3%	児入院先	
緊急	44 件	58.7%	新生児科	85 名
			循環器科	12 名
出生体重別出生数				
< 1000g	23 名	9.7%		
1000-1499g	17 名	7.2%		
1500-1999g	20 名	8.4%		
2000-2499g	33 名	13.9%		
2500-3999g	144 名	60.8%		
4000g ≤	0 名	0.0%		
合計	237 名			
死産児数	8 名			

7. 麻 醉 科

令和5年5月8日 COVID-19 が5類感染症と位置付けられることとなり、数年来手術室運営に大きな影響を及ぼしてきたコロナ禍が一つの節目を迎えることとなった。しかし、これまでの知見を積み重ねてみれば、決してコロナ禍を完全に脱したとは考えられない。麻酔科としては、手術・麻酔が安全に行われるよう、より感染対策と術前評価に留意して日々の診療に臨んでいる。

令和5年度はコロナ禍の反動と捉えかねないような、一部の感染症の増加を認めた。こうした中で、麻酔管理としては気管支鏡の重要性が増している。今年度は気管支記録システムを更新購入していただいた。前年度には消化器内視鏡用の記録システムを更新していただいていたため、従来は全身麻酔下の内視鏡検査を行っている時間は気管支鏡が使用できないという不都合が非常に問題だったが、この問題が解消した。具体的には、分離肺換気を必要とする漏斗胸手術中にも並列して内視鏡検査や気管支鏡を行うことができるようになった。また、記録システム使用に当たり、一部の内視鏡・気管支鏡は互換性があり、内視鏡検査自体を並列で行うことも可能となった。

当院のような小児専門病院においては、主に先天的な要因から気道確保困難な小児症例に全身麻酔を行うことが少なからずある。この場合、気管支鏡の用意は不可欠であり、これまでは上記のごとく制約が多かった。気管支鏡検査の汎用性が高まったことから、今後はこれまで以上に安全な麻酔管理を行うことができると考えられる。

麻酔科の人事については、今年度はレジデント枠が限定的になり、曜日限定の研修を病院として受け入れていただき、新しい形での研修を実施することができた。常勤医は前年度と同様に4人であったが、円滑に手術室運営を行うことが出来た。群馬大学麻酔科医会への入会者数が変動することにより、研修の形態も年々変化していく可能性もあるが、可能な限り研修受け入れを継続していきたい。

今年度の麻酔科管理手術件数は759件であり、昨年度より17件以上増加した。次年度は、さらに麻酔科管理症例数が増加すると考えられる。COVID-19が5類感染症と位置付けられた中で、対策を十分に行った上で、各科と協力しながら手術件数を増加させていきたい。今後も安全な医療が提供できるよう周術期管理と手術室運営に努めていきたい。

(松本直樹)

8. 放射線科

4月より医師1名、診療放射線技師12名(昨年の11名+1名の過員配置)で例年通りの業務を行う。11月より非定期で獨協医科大学病院より桑島成子先生が招聘医師として勤務。

画像検査所見を記載した総人数は、前医で行われた紹介患者を含め、X線検査; 15,328名(昨年度15,187名)、超音波検査; 1,732名(1,437名)、MRI; 765名(734名)、CT; 436名(434名)、RI; 56名(60名)、Ai; 24名(19名)であった。

その他、セカンドオピニオンも含む院外症例の画像コンサルテーションにも随時対応した。

(畠山信逸)

9. 歯科・障害児歯科

「群馬県における障害児歯科の最後の砦」として、コロナ禍でも必要な医療の提供を継続してきたが、アフターコロナとなった今年度はコロナ禍でも通常でもない1年となった。

新規患者数は573名（前年度比105.5%）と増加傾向は継続し、院外紹介率も71.5%と過去最高となった。新規患者は例年春の学校検診後か秋の就学时検診後に増加する傾向があったが、今年度は通年で増加を認めた。主な要因として、各地で歯科検診が再開され、コロナ禍で歯科受診を控えていた齲蝕患者がスクリーニングされたと考えられた。

総受診者数は4,273名（前年度比98.0%）で、増加する新規患者と院内入院患者の周術期管理に対応するため、コロナ禍と同様に三次歯科医療の安定的な提供を柱として業務を行った結果、概ね例年通りとなった。全身麻酔下歯科治療は368症例（前年度比2.8%増）実施したが、新規患者の増加により治療までの待機期間が約2ヵ月となった。さらに、コロナ禍で下火となっていた季節性・流行性の感染症が通年で発生し、治療が延期となるケースが多数発生したこともあり、緊急性の高い症例への対応や待機患者の差し替えなど、日程調整が例年に比べ難しかった。その他、乳児期の哺乳や摂食嚥下に関する診察依頼も増加し、専門外来の「もぐもぐ外来」は前年以上の受診患者数となり、少しずつコロナ禍前の状態に戻りつつあることが感じられた。

新規受診患者は例年同様で6歳未満が約77%と多く、依頼内容も知的能力障害や発達障害児、低年齢児の多数齲蝕（うしょく＝虫歯）、過剰埋伏歯、舌小帯異常、粘液嚢胞等と大きな変化はなかった。

病院歯科として、今年度も各病棟への歯科衛生士による病棟ラウンドを継続し、病棟往診件数は前年度の88件から159件と大幅に増加した。引き続き感染対策に配慮しながら、周術期口腔機能管理のみならず全入院患者を対象とした関りを今後も継続したいと考えている。

コロナ禍でも通常でもない今年度は、新規患者の増加と全身麻酔下歯科治療の待機期間延長、季節性・流行性の感染症による全身麻酔日程調整というコロナ禍の副作用への対応に苦慮する1年であった。対策として、日帰り入院病室使用日を年度末より治療日週3日から週4日に増やし、日程調整に関してはドクタークラークに業務を移管することで、スタッフの仕事量は増やさず迅速な対応が可能となった。早期にこのような体制を整備できたことに関して、院長はじめ医事課担当者や、外科系医師、病棟関係者のご厚意とご尽力に感謝するとともに、引き続き「群馬県における障害児歯科の最後の砦」として質の高い医療を安定的に提供できるよう努力していきたい。

（木下 樹）

10. 放射線課

【人 事】

令和5年度、過員配置としてがんセンターから高木主幹が転入となる。正規職員の人員要求要望を続けた成果が表れたと考える。一方でがんセンターは定数に満たない配置となってしまったため素直に喜べない所ではあるが小児医療センター放射線課としてはありがたい配置となった。また、5月より児玉技師が会計年度任用職員として配属となる。更に大河原技師が5月より産休に入り、その代替職員として約6年間会計年度任用職員で勤務していた山田技師が採用となる。

【業務・設備】

正規職員の1名増員により、正規職員7名・レジデント2名、会計年度職員3名と受付事務担当職員1名の体制で業務を遂行した。検査の総件数のみで見ると、ここ数年やや減少傾向にはあるが検査後の画像処理・解析をはじめ、業務量自体は確実に増加している。検査内容は日々高度化・複雑化しており、それに対応し安定した業務を継続していくためにもレジデントの定数化による正規職員数の増員が必須である。

今年度は新たに更新された機器が多く、デジタルX線透視診断装置、診断用X線高電圧装置、MRIのT1マッピングアプリケーション、RISと呼ばれる放射線科情報システムの導入が行われた。特にX線透視室に新たな診断用X線高電圧装置が入ったことにより、一般撮影室が混雑している際の第2撮影室として使用でき、患者様の待ち時間が大幅に短縮できた。

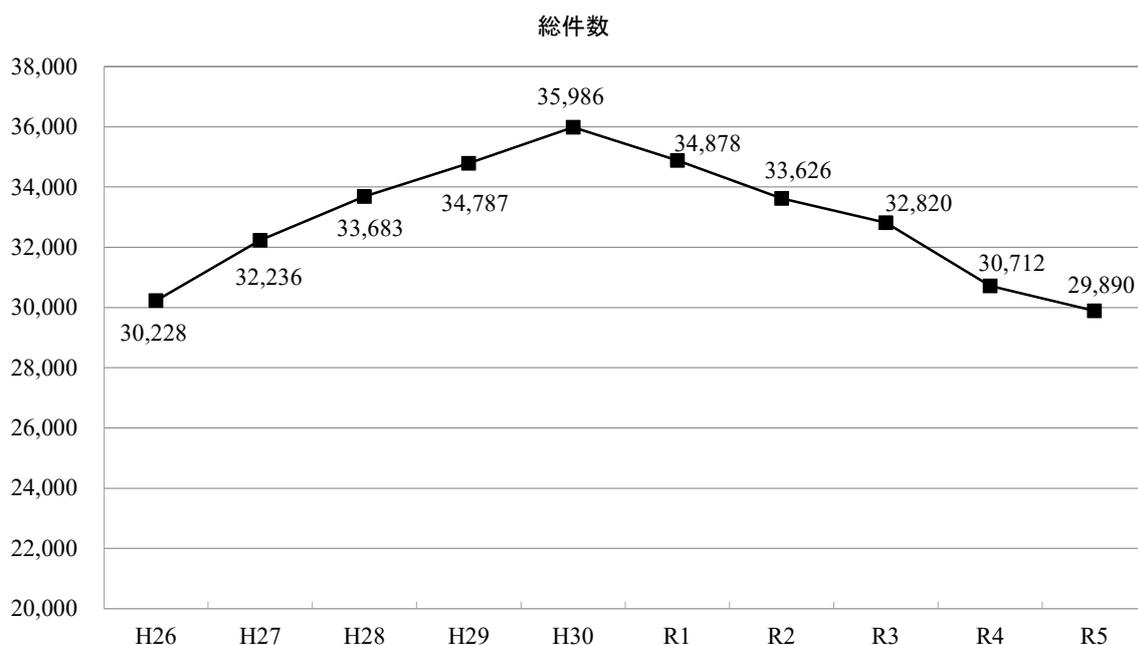
認定資格に関しては、8名の職員が告示研修（放射線技師の業務範囲の拡大に対する研修）を終えた。更にAi認定診療放射線技師の認定資格を2名が取得した。今後も課としても個人としても技術向上のために様々な認定資格の取得を推進していきたい。

学生実習については学生を現場に迎え入れ、現場実習と講義を実施することができた。

来年度以降、10年を超え更新時期を迎える装置が控えており関係部署と協議しながら病院の建て替え再整備も考慮しつつ適正な更新計画を進めていきたい。まだまだ人員不足が解消されず業務多忙な中、大きな事故無く業務を行ってくれたスタッフに深く感謝したい。

【検 査】

各検査の前年度件数比は、CT検査103.2%、MRI検査105.2%、RI検査128.2%、X線透視検査113.3%、超音波検査99.0%、カテーテル検査108.7%、一般撮影検査97.3%、ポータブル撮影93.8%、画像コピー104.4%で全体として96.7%であった。令和元年の新型コロナウイルス発生以降患者数の減少に伴い減少傾向となっている。過去10年間の全件数の移行を以下に示す(令和5年度詳細は統計編)



【学会・研修等】

本年度の学会・研修会等の参加は以下のとおりである。

学 会 ・ 研 修 会 名	期 日	場 所
第 79 回日本放射線技術学会総会学術大会	4/13~4/16	横浜市
第 46 回日本小児放射線技術研究会	4/15	横浜市
日本オートプシー・イメージング技術研究会	5/26	web 開催
第 65 回群馬県核医学懇話会	6/14	web 開催
第 36 回臨床画像診断懇話会テクニカル分科会	6/26	web 開催
告示研修	10/22	宇都宮市
令和 5 年度成育医療研修会	11/16~17	世田谷区
2023 年度 X 線 CT 認定技師更新講習	11/23	web 開催
RI 画像処理勉強会	11/27	web 開催
2023 年度第 1 回オートプシー・イメージング症例報告会	1/20	web 開催
第 9 回胎児 MR 研究会学術集会	2/4	web 開催
日本医師会令和 5 年度死亡時画像診断 (Ai) 研修会	2/5	web 開催
第 13 回茨城 Ai 研究会	2/23	水戸市
2023 年度オートプシー・イメージング (Ai) ガイドラインに向けた意見交換会	3/3	web 開催

(佐々木 保)

11. 検体検査課・生理検査課

【人 事】

令和5年度は、正規職員10名（うち1名は産育休代替職員）、レジデント4名の合計14名でスタートし、年度を通して14名で24時間体制を維持した。

【業 務】

検体検査部門では、R5年度委託契約済保険適応外検査項目のオーダーリング化を実施しDX化を行った。生化学の標準液、試薬を変更し、経費削減を行った。また、輸血部門では日本輸血細胞治療学会の輸血機能評価認定制度（I&A制度）の受審をし、県内7施設目となる施設認定を取得した。細菌検査部門では、Filmarray血液培養パネル、Filmarray髄液・脳炎パネルの2種類が導入され、少量の検体量で、早期診断（約1時間）が可能となった。

病理部門では、CPCを1回開催し、2例を検討した。

【設 備】

生化学部門では、血液ガス分析装置ABL90FLEXPLUSが新規導入となった。細菌検査部門では、全自動血液培養装置（ベックマン・コールター）が更新された。

【委 員 会】

臨床検査委員会は2回開催した。内部精度管理報告を行い、検査に使用している機器が適正に管理されていることが承認された。また、外部精度管理調査に参加し、良好な結果であったことを報告した。生化学試薬、標準液の変更、2種類のFilmarrayの導入、R5年度委託契約済保険適応外検査項目のオーダーリング化が承認された。

輸血療法委員会は6回開催した。月別の血液製剤使用率や廃棄率を報告し、廃棄削減の協力を呼びかけた。安全な輸血療法およびその適正化を目的として、血液製剤を取り扱う部門を対象に輸血監査を実施した。また、日本輸血・細胞治療学会の輸血機能評価認定制度（I&A制度）受審に向け、輸血療法マニュアル第17版及び輸血関連同意書の改訂を行ったほか、宗教的輸血拒否患者に関する院内ガイドラインを作成した。

【検査件数】

総検査件数は、385,574件で、対前年度比102.6%であった。以下、対前年度比として%を()内に示す。増加した部門は、血液検査63,190件(111.5%)、免疫血清29,163件(105.3%)一般検査10,854件(105.2%)、細菌検査15,421件(105.0%)であった。一方、減少した部門は、病理検査1,834件(88.7%)、輸血検査2,680件(99.4%)であった。

【学会・研修会等】

参加状況を表1に示した。また、日本医学検査学会で5題、群馬県庁臨床検査技師会学術研修発表会で1題の口演発表を行った。

学会及び研修会参加状況は、以下のとおりである。

表1 学会・研修会などへの参加状況

研 修 ・ 学 会 等	日 時	開 催 地
第72回日本医学検査学会 in GUNMA	5月20日～21日	高崎
全国自治体病院協議会臨床検査部会研修会オンラインセミナーvol.2	7月31日～10月31日	Web
日本医療検査科学会 第55回大会	10月6日～8日	横浜
全国自治体病院協議会臨床検査部会研修会オンラインセミナーvol.3	11月20日～2月19日	Web
第40回小児臨床検査研究会	11月18日	埼玉
第38回輸血検査の基礎実技研修会	1月14日	前橋
北関東血友病性関節症勉強会	1月20日	東京
I'm SAFER	1月27日	前橋
県立病院技術部病院間研修	2月2日	前橋
第15回神戸甲状腺診断セミナー	2月3日	神戸
群馬県庁検査技師会学術発表会	2月17日	前橋
令和5度群馬県臨床検査精度管理調査報告会	2月26日	Web

(神山晴美、丸山裕子)

12. リハビリテーション課

【人 事】

令和5年度は、理学療法士5名(正規職員4名、再任用1名)、作業療法士1名(正規職員1名)、言語聴覚士3名(正規職員2名、レジデント研修生1名)の合計9名で業務を開始した。9月に正規職員の理学療法士1名が育児休業を取得、産休代替えを募集したが応募はなく非常勤スタッフを2名招聘することで対応した。理学療法、作業療法ともにレジデント研修生の応募はなく、作業療法についても非常勤スタッフを3名招聘することで対応、人員減のまま業務を継続した。

【業 務】

令和5年度より新たにはじめた業務はつぎのとおりである。

1. 幼児聴力検査

令和4年度より試験的に行っていた遊戯聴力検査ならびに標準純音聴力検査について、耳鼻咽喉科医師と協力して全科からの聴力検査依頼の受付を開始した。主に、言葉の遅れや発音不明瞭で聴力の確認が必要と思われる症例や健診等で聴力検査ができずに再検査となった症例に対して聴力検査を実施している。

2. 摂食嚥下ラウンド

令和5年7月より、歯科医師と言語聴覚士による摂食嚥下ラウンドを開始した(毎週火曜日16時～)。多職種による専門的立場から意見交換を行うことで、日々のケアやリハビリテーションにつなげている。このラウンドを機に、歯科医師からの摂食機能療法のリハビリテーションオーダーを受けるようになった。

3. 在宅療養支援委員会ラウンドへの参加

令和5年11月より在宅療養支援委員会ラウンド(第1・第3火曜日14時～)に参加して長期入院患者のリハビリテーションに関する情報提供を行っている。

なお、令和4年度に開始したデュシェンヌ型筋ジストロフィー治療薬臨床試験への協力(運動機能評価)は、目標治験症例数に達したことにより終了となった。

【業 績】

令和5年度の新規患者数は、入院453名、外来358名、合計832名(前年度769名)であり、リハビリテーション実施による診療報酬等の収益は、年間で約3,673万円(前年度3,601万円)であった。人員減にもかかわらず収益が増加した背景には、新型コロナウイルスが5類になったことによる入院、通院制限の解除などが考えられた。疾患別リハビリテーション料などの詳細は統計編に示した。幼児聴力検査の本格稼働や歯科との連携強化により、言語聴覚療法の件数の増加が目立つ。

【臨床実習受け入れ】

院内感染予防対策の基準に従い、つぎのとおり臨床実習の受け入れを行った。

- ①群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻 (4年生1名、総合臨床実習 I 期)
令和5年8月14日～10月7日
- ②群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻 (3年生3名、基本的臨床技能実習 II)
令和5年12月12・15・18日
- ③群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻 (3年生2名、臨床実習第 I 期)
令和6年2月5日～2月15日
- ④群馬パース大学リハビリテーション学部理学療法学科 (2年生2名、見学実習)
令和6年2月13日～2月16日
- ⑤群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科 (2年生2名、見学実習)
令和6年2月14日～2月16日
- ⑥群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻 (3年生1名、臨床実習第 II 期)
令和6年2月19日～3月7日
- ⑦群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻 (2年1名、見学実習)
令和6年2月26日～3月8日

【学会・研修会等】

本年度の学会および研修等の参加状況は、以下のとおりである。

件名	日程	開催地
群馬県理学療法士協会臨床実習指導者講習会	6/24～6/25	高崎
第65回日本小児神経学会学術集会	6/25～6/27	岡山
第55回日本小児呼吸器学会	10/7～10/8	豊岡
特別支援学校機能強化事業研修会	10/26	伊勢崎
第67回日本新生児育成医学会・学術集会	11/2～11/4	横浜
第57回日本作業療法学会	11/10～11/12	那覇 (Web)
第22回群馬県呼吸リハビリテーション研修会	11/11	前橋
2023年度がんのリハビリテーション研修第4期	2/24	Web

(熊丸めぐみ)

13. 栄養調理課

【人 事】

令和4年度末に、定年を迎えた調理師3名全員と産育休代替の管理栄養士1名が退職し、令和5年度は、正規職員3名(管理栄養士3名)の配置となった。人事異動では、管理栄養士1名が転出し管理栄養士1名が転入、新たな育休代替職員(管理栄養士)1名が4月から配置され、正規職員3名(管理栄養士3名うち育休代替職員1名)と委託会社職員15名で業務を始動した。

【業 務】

1. 調理師3名全員の退職に伴い、給食業務は一部委託から全面委託となった。
2. 食数は、一般食延べ36,456食(前年度比104.3%)、離乳食延べ4,853食(同123.5%)、特別食延べ775食(同55.9%)であった。調乳数は、ミルクの人数延べ12,297人(同116.7%)、本数85,236本(同114.8%)、濃厚流動食・成分栄養剤等の人数延べ12,305人(同153.4%)、本数42,401本(同129.6%)であった。前年度と比較すると増加した。
3. 栄養指導は、全体で305件(前年度340件)、そのうち入院栄養指導が284件(同308件)、外来栄養指導が21件(同32件)であった。
4. 栄養委員会は、令和5年6月、9月、12月、令和6年3月の4回開催し、持ち込み可能食品、付加食品制限、食物アレルギー患者に提供する加工食品の「注意喚起表示(コンタミネーション)」の取り扱い、食事基準の改訂等について協議した。
5. 食物アレルギー患者への対応として、1日入院の食物負荷試験(3日/週、3名/日)の負荷食材の提供と食生活全般や加工食品の表示の見方などの指導を行った。
6. 患者、患者家族及び妊娠中・子育て中の方々等に向け、病院食の紹介を通じて当院のイメージの向上を図るため、9月からインスタグラム(名称:おむすび@群馬県立小児医療センター“管理栄養士”)を開設した。
7. 「非常時における代替給食に関する覚書」締結業者との初めての合同訓練を11月に実施し、食事内容を確認すると共に、給食供給関する一連の流れ(発注・調理・配送・受取等)の検証を行った。
8. あさがおの会において、離乳食の講話を行った。

【学会・研修会等】

今年度は、群馬栄養改善学会で1題の口演発表を行った。

学会及び研修会の参加状況は、以下のとおりである。

件 名	期 日	場 所
第27回日本病態栄養学会学術集会	1/26～1/28	京 都 市
第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会	2/15～2/16	横 浜 市
第24回食物アレルギー研究会	2/18	横 浜 市
第21回日本小児栄養研究会	3/9	奈 良 市
第43回食事療法学会	3/1～3/11	Web開催

(島田純子)

14. 臨床工学課

【人 事】

今年度は、正規職員 4 名で業務を行った。

【設 備】

医療機器購入は、シリンジポンプ (TE-381) 2 台、輸液ポンプ (TE-281A) 10 台、開放型保育器 (インファウォーマ アイ 蘇生装置無・体重モニター付) 2 台、光線治療器 (bililux) 1 台を更新し、人工呼吸器 (サーボ N) 1 台を追加購入した。また、JMS 経腸栄養ポンプ (EN-SP50) 20 台を新規購入した。

【業 務】

今年度の体外循環症例は 63 症例で、昨年度比 115% (昨年度 55 症例) となった。最低体重は 2.8kg の大動脈縮窄症手術 (CoA repair)、最高体重は 75.9kg の心室中隔欠損閉鎖術 (VSD closure) で、平均 15.3 ± 15.8 kg であった。無輸血手術は 11 症例 (17.5%)、手術室抜管は 7 症例 (11.1%) であった。術式別の症例数は、VSD closure 25 症例 (39.7%) が最も多く、次に ASD closure 14 症例 (22.2%)、両方向性グレン手術 (BDG) 5 症例 (7.9%) であった。また、緊急人工心肺下心臓外科手術は 1 件で、総肺静脈灌流異常症根治術 (TAPVC repair) であった。

心臓カテーテル検査は 141 症例で、その内バルーン拡張術 36 症例 (25.5%)、心房中隔欠損カテーテル治療 10 症例 (7.1%)、動脈管開存症カテーテル治療 5 症例 (3.5%)、経皮的心房中隔裂開術 2 症例 (1.4%)、心筋焼灼術 12 症例 (8.5%)、心臓電気生理学的検査 12 症例 (8.5%)、コイル塞栓術 7 症例 (5.0%)、酸素負荷試験 12 症例 (8.5%) であった。また、緊急心臓カテーテル検査はなかった。

内視鏡手術は 138 症例で、緊急手術となった 16 症例 (11.6%) の内 12 症例が腹腔鏡下虫垂切除術であった。

血液浄化療法の症例は、1 症例目は、生後 2 日目に急性汎発性腹膜炎による敗血症のため、DHP (エンドトキシン吸着) を施行した症例、2、3 症例目は、生後 3 日目に急性腎不全により乏尿となった患児に CHDF を施行し、生後 4 日目に、敗血症性ショックとなったため DHP (エンドトキシン吸着) を施行した症例、4 症例目は、川崎病に対して PE (血漿交換) を 5 日間施行した症例の 4 症例であった。

一酸化窒素吸入療法は 16 症例で、心臓周術期が 8 症例、新生児領域が 8 症例であった。

その他、低酸素吸入療法が 2 症例、植込み型ペースメーカおよび ICD フォローアップが 71 症例と脳低温療法が 2 症例であった。

今年度も昨年度と同様に、補助循環 (ECMO) 業務と骨髄濃縮業務は無かった。

また、夜間休日に使用した内視鏡ファイバースコープの洗浄を新規業務として開始した。今年度は 5 回洗浄業務を実施した。

ME 機器管理業務では、人工呼吸器、保育器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、麻酔器、人工心肺装置、血液浄化装置、補助循環装置、体外式ペースメーカ、除細動器、分娩監視装置、ベッドサイドモニターやセントラルモニターなど計 694 台の定期点検を行った。除細動器については、年 1 回

のメーカー定期点検の他、3ヶ月毎にスタッフによる除細動器安全点検や消耗品チェック等を行っている。また、AEDに関しては、設置部署で日常点検を行い、定期的な点検チェックシートの提出にて管理を行っている。PICU・NICU・手術室設置の血液ガス分析装置においては、スタッフによる日常メンテナンスの他、1ヶ月毎に定期点検を実施している。

人工呼吸器の使用 midpoint 検は、毎日機器の設定や動作確認、呼吸器回路の不具合等のチェックを行い、安全性の確保に努めている。今年度は5,752台の使用 midpoint 検を行った。また、定期的(1~2ヶ月毎)に人工呼吸器の回路交換も行い、交換件数は、92件であった。

ME機器の使用前に行う日常点検としては、人工呼吸器や麻酔器、シリンジポンプ、輸液ポンプをはじめ、除細動器や保育器、人工心肺装置、補助循環装置、血液浄化装置、低圧持続吸引器など累積7,909台を行った。麻酔器始業点検は、日毎に担当者1名が業務開始前までに全手術室(5台)の点検を行い、安全性の確保に努めている。今年度の始業点検では、酸素校正の日時ブランク表示、モジュールエラー発生、バッテリー駆動時の電源シャットダウンなどのトラブルを発見し、麻酔器使用中のトラブルを未然に防ぐことができた。また、心臓カテーテル検査室設置の麻酔器においては、全身麻酔症例毎に始業点検を行っている。

その他、教育業務として看護部、各病棟に対するME機器説明会やトラブル対応等の勉強会をはじめ、在宅へ移行する患者様や御家族の方への機器説明や臨床工学技士養成校への外部講師も行った。

【学会・研修等】

今年度の学会及び研修会の参加状況は、下記の通りである。

件名	期日	場所
日本小児循環器学会 第7回外科系教育セミナー	7/15	Web開催
第33回日本臨床工学会	7/21~7/23	広島県
第68回日本透析医学会学術集会	6/16~6/18	兵庫県
第21回群馬県臨床工学技士会学術大会	6/25	Web開催
第39回日本人工臓器学会教育セミナー	8/1~9/30	オンデマンド視聴
第48回日本体外循環技術医学会大会	10/19~10/21	宮城県
第61回日本人工臓器学会大会	11/9~11/11	東京都
第7回群馬県臨床工学技士会 呼吸器セミナー	2/11	Web開催

(関 明彦)

15. 薬 剤 部

【人 事】

令和5年度は正規職員が8名、会計年度職員2名、調剤助手3名と昨年度に比べ会計年度職員1名増員で業務を行った。

【業 務】

チーム医療の推進に関しては、薬剤師がICTラウンド・コアチームのメンバーとして参加し、感染防止対策加算1の取得に貢献した。また、ASTのメンバーとして抗菌薬適正使用支援加算の取得にも貢献した。TDMについては、医師から依頼を受けて各種検査値に基づき、最適な投与計画を提案し、抗菌薬の適正使用に貢献した。また、特定抗菌薬使用届の提出を徹底し、耐性菌の発生予防に寄与した。PICUで平日行われているカンファレンスに薬剤師1名が参加し、抗菌薬を含めた医師の処方設計を支援した。

<新型コロナウイルス感染症関連業務>

令和5年5月25日より渋川地区小児へのコロナウイルスワクチン接種(ファイザー製: コミナティ筋注5-11歳用)が当院外来・入院患者に開始され、当院での接種分6V(60接種分)の希釈を実施し、3月末で終了した。また、8月22日より6ヶ月～4歳用のコロナウイルスワクチン接種(ファイザー製: コミナティ筋注6ヶ月-4歳用)が開始され、当院での接種分9V(90接種分)の希釈を実施し、3月末で終了した。

6月13日より職員に対する6回目のコロナウイルスワクチン接種(モデルナ製: スパイクバックス筋注2価BA4-5)が開始され、58V(約290接種分)の管理・払出を行い、7月旬に終了した。

12月5日より職員に対する7回目のコロナウイルスワクチン接種(モデルナ製: スパイクバックス筋注1価オミクロン株XBB.1.5)が開始され、49V(約245接種分)の管理・払い出しを行い、12月末で終了した。

以上のICT・AST関連業務を行い院内感染対策に寄与した。

<薬剤管理指導業務・退院時服薬指導業務>

薬剤管理指導業務は、産科病棟、新生児病棟、第1病棟、第2病棟、第3病棟の患者に対し年間1,080件(昨年度より511件増加)の薬剤管理指導業務を行った。また、退院時薬剤情報管理指導料の算定を144件(昨年度より35件増加)を行った。

当院の採用薬を常時在庫している保険薬局は少ないため、外来時に支障なく院外処方に対応できるよう院外処方の説明を行い、初回時には在庫の有無を電話確認するなど円滑に外来に移行できるよう対応した。

在宅療法支援担当看護師長と連携し、無菌調製製剤を必要とする外来患者と無菌調剤を応需できる保険薬局の間を調整し、院外処方せん応需と在宅患者訪問薬剤管理指導を実施できた。

<調剤業務>

入院処方箋枚数はほぼ横ばいで、院外処方箋の発行率は 92.0%だった。

なお、医師業務負担軽減の一環として、院外処方箋に関する調剤薬局からの疑義照会受付の窓口としての薬剤部の対応は、910 件であった。対応の結果処方変更となった場合、医師の業務負担軽減のため電子カルテへの薬剤部での代行入力は 434 件であった。院内処方箋、注射箋に関する医師への問い合わせは 1,352 件であった。また、医師に代わり薬剤師が 1,239 件 (院内処方箋、注射箋) の代行修正を行った。入院時の持参薬の鑑別報告は 113 件 264 剤数となった。

<無菌調製業務>

抗悪性腫瘍薬の調製及び TPN の無菌調製を実施した。

抗悪性腫瘍薬の注射剤は調製者の被曝が問題となることから、平日だけではなく休祭日も薬剤師が安全キャビネットでの調製を行った。特に揮発性の高い薬剤は、調製者保護のため抗がん剤曝露閉鎖システムによって調製している。

退院後も在宅で TPN を継続して使用している患児については、TPN を無菌調製できる調剤薬局との連携、退院時には調剤薬局での対応可能日までの輸液の調製・交付を行うなど、個々のケースに応じてきめ細かい対応を行った。

<製剤業務>

医師の要望により市販されていない小規格の坐剤、麻薬を含む MK 注腸液、医薬品以外の物を原料とするカラヤ軟膏、安息香酸 Na 注射液の注射剤等の調製を行った。

<DI 業務>

「薬剤部インフォメーション」として、医薬品の適正使用に関する情報や薬事委員会で採用となった医薬品に関する情報提供を行った。厚生労働省からの「医薬品・医療機器等安全性情報」は情報が迅速に伝わるようメールによる直接配信を行った。また、各部署からの照会に随時応じ、情報提供件数は 228 件であった。

<医薬品の適正管理>

在庫管理システムを使用し経営課と協力、入在庫管理を行った。また、各病棟に定数配置されている医薬品については、定数を見直し院内在庫の適正化に努め、期限切れ薬品等、病棟配置薬の定期点検を実施した。

【薬事委員会】

令和 5 年 5 月 11 日、9 月 7 日、12 月 7 日、令和 6 年 3 月 7 日、計 4 回開催した。新規採用医薬品 72 品目 (うち院外専用 36 品目)、購入中止医薬品 30 品目 (うち製造中止品 18 品目) について承認された。特定の患児のみに使用し、それ以外は在庫を置かない一時採用品は 68 件だった。また、事務局提案による後発医薬品への切り替えは 8 品目であった。

(佐藤真理子)

16. 看護部

【看護要員】

- ・定数 211名 現員数 221名
(正規 207名、再任用 6名、会計年任用職員 15名)
*令和5年4月1日現在
- ・採用 26名 新規採用者 17名、転入 2名、会計年度任用職員 7名
- ・退職 20名 正規 10名、会計年度任用職員 10名

【組織】

今年度は、キャリアアップ・チャレンジ制度において、看護管理コース1名は3か月間自部署研修をし、その後2病院に出向し研修を行った。看護技術コース1名は心臓血管センターに異動した。令和5年度看護部は、看護部長1名、新副看護部長1名、各部署看護師長8名(うち新任看護師長2名)、教育担当師長1名(総務担当師長兼任)、在宅療養支援担当師長1名、GRM1名、感染管理認定看護師(看護師長)1名を配置し、連携を取りながら充実を図った。

令和5年度は、小児専門病院であり、総合周産期医療センターとして、安全で質の高い看護を提供するために、安全の強化・人材育成・病院経営への参画を課題として取り組んだ。

【看護活動】

看護部の理念

あたたかな心で患者と家族を支えます

【令和5年度の目標】

1. 質の高い看護の提供
 - 1) 安全な医療を提供する
 - (1) 確認行動の実践力を向上させ、確認不足エラーを減らす
 - (2) TeamSTEPPS®を実践する
 - (3) 繰り返されるヒヤリハットを減らす
 - (4) フィジカルアセスメント強化と BLS を 50 人更新する
 - 2) 看護の質の向上に取り組む
2. 人材育成・人材確保
 - 1) ラダー別教育を充実させる
 - (1) 教育計画冊子 Web 版を作成し、看護職員が自己のレベルアップに活用できるようにする
 - (2) 看護実践評価がレベルアップする
 - (3) ラダーレベル別推奨 e-ラーニング研修の受講率 30%にする
 - 2) PNSを活かし、新人看護師や異動者の支援を看護職員全員で取り組む
 - 3) 承認行動を実施し、働き安い職場環境を全員で取り組み、職場満足度の得点上がる

3. 経営の健全化

1) 病床を効率的に活用する

(1) 後方病床の活用する

(2) 在宅療養支援の充実として、レスパイト件数の受け入れ増加する

2) 看護師の負担軽減につなげる業務改善に取り組む

4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供

5. 有事の事態への対応

1) COVID-19 5 類変更に伴い、病院としての体制変更に対応する

2) BCP の策定に協力し、実働できるよう準備する

【評 価】

1. 質の高い看護の提供

医療安全として、内服や点滴の確認監査の定着から、内服や点滴のヒヤリハットを削減することができた。TeamSTEPS®においては、医師と看護職や看護職間での連携は重要であり、各部署で取り組みが進められていた。繰り返すヒヤリハットについては、各部署の特徴があるため、各部署のリスク委員会を中心として分析をしてもらい、栄養チューブの事故抜去・持参薬の取り扱い・電子カルテの入力間違い等が削減できた。以前の医療事故から、フィジカルアセスメントを強化するため、49 名が BLS 更新に取り組めた。倫理カンファレンスは、教育でも取り組み、加えて部署全体で取り組めるようになってきている。対象の多くが小児であるため、倫理的課題にも今後も取り組む必要がある。

2. 人材育成・人材確保

教育については、ラダーレベルと e-ラーニングをリンクすることで、年度当初の看護師長面接で、今年度に取り組む課題を見出し取り組むことができ、e-ラーニング研修の受講は 80%であった。また、教育計画冊子を Web 版にして、電子カルテからもいつでも閲覧できるようにした。実践評価については、副看護師長会で WG を立ち上げ、評価について共通認識できるように検討を行った、しかし、評価のばらつきが散見されているため、来年度も引き続き、WG で検討し更なる改善を期待したい。教育については、部署全員で新人看護師や異動者の支援に取り組む風土ができてきている。職場満足度調査において、10 項目/24 項目が評価を上げることができていた。新たな資格者においては、感染管理認定看護師教育課程 1 名・認定看護管理者サードレベル 1 名受講、がん専門看護師 1 名受講することができた。

人材確保については、看護学生の実習においてコロナ禍前と同様実習とし、5 月～翌年 3 月まで看護学生の受け入れ (1,500 人程度) をした。また、病院説明会やインターシップ (8 月、3 月) に実施し、75 名の方が参加をしていただけた。今後も周産期医療と小児医療の魅力に繋げていけるように努力をしていきたい。看護助手の負担軽減のため、看護学生をアルバイトとして雇用したことで、負担軽減に繋がられた。

3. 経営の健全化

病床利用率は昨年度より上げることができ、看護部と部署師長と連携し、後方病床を活用することができた。またレスパイト件数の受け入れを昨年度の 1.5 倍にすることができた。入退院支援加算 3 算定件数においては、転院等があり、昨年度よりわずかであるが減少した。診療報酬の新たな

加算については、医事課と協力し、看護職員夜間配置加算（12対1配置加算2）10月からを取得できた。（試算 約120万円/月、1,450万円/年）NHAにおいても、委員会で議論し、全体で2,000万円以上の削減が出来ている。

4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供

患者や家族に対しては、病棟内オリエンテーション、転倒転落等については昨年度から引きつづき実施しており、新たなところではPICU入院時オリエンテーションや産褥体操等について作成して、患者サービス向上に繋げた。

5. 有事の事態への対応

COVID-19 5類移行に伴い、感染対策チームと検討しながら軽減し、クラスターを起こさなかった。これはこれまでも小児を対象としているため、感染症に対しての意識が高く、手洗い等が充分に行われていた結果とも言える。今後の新興感染症対策についても、感染症チームと協働し対応をしていく。BCPについては、小児周産期医療従事者向け災害医療研修受講、在宅のBCPにも参加した。院内でも地震訓練を行ったが、実働できる状況ではないため課題が残る。

【次年度の課題】

第六次改革プランに合わせて目標決定する

1. 質の高い看護の提供
2. 人材育成・人材確保
3. 経営の健全化
4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供
5. 有事の事態への対応

(清水奈保)

令和5年度院外研修(学術集会・研修会・セミナー・救護など)

主催	研修・学会名	日程	場所	氏名	人数
長期	小児在宅ケアコーディネーター研究会	7/29・30、9/23、11/25	京都橘大学	遠藤 恵理紗 吉田 知紗	2
	認定看護管理者サードレベル	8月28日～10月28日	埼玉県看護協会	福田 円	1
	認定看護管理者セカンドレベル	6月2日～11月24日	群馬県看護協会	齊藤 織恵	1
	認定看護管理者ファーストレベル	9月6日～1月18日	群馬県看護協会	高橋 洋子 黒岩 徹 青木 秀佳	3
	感染管理認定看護師	4月8日～3月22日	高崎健康福祉大学看護実践開発センター	諏佐 和也	1
自治体病院	【2023看護部】臨地実習オンラインセミナー	7月27日～10月31日	オンライン	小林志のぶ	1
日本看護協会	臓器移植における基礎知識と看護実践	6月20～23日	オンライン研修	柴田夕貴子 川浦 秀明 狩野 由紀	3
	2023年度小児在宅移行支援指導者育成研修	9月7日・8日	日本看護協会 (Zoom)	後藤 真紀 本多みさ子	2
	小児在宅移行支援指導者フォローアップ研修	10月30日	日本看護協会 (Zoom)	浅野 香 梅山由佳子	2
	‘23重症度、医療・必要度 評価者及び院内指導者研修会	6月1日～8月31日	オンライン研修	黒岩 智香 本多みさ子 齊藤 春恵 大谷ゆう子 小谷 陽子	5
看護業務研究会	第1回病院看護業務研修会「目標管理」～どうしたらいいの？目標管理～	6月21日	群馬県看護協会センター	北爪 幸子 浅野 香	2
	第3回病院看護業務研究会「看護職のメンタルヘルスケア」	2月21日	ぐんま男女共同参画センター	福田 円織 黒田 佐織	2
学会・学術集会・研修会等	J-CIMELS 公認講習会ベーシックコース	6月24日	群馬大学	天田美枝子 坪井 杏奈	2
	J-CIMELS 公認講習会ベーシックコース	2月11日	群馬大学	荒木 七生	1
	日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セミナー	6月14日～16日	町田市文化交流センターホール	八木 菜	1
	臓器・組織提供ハンズオンセミナー	7月1日	川崎市コンベンションホール	石北 淳美	1
	第61回全国自治体病院学会	8月31日・9月1日	札幌コンベンションセンター	清水 奈保	1
	小児周産期医療従事者向け災害医療研修会	10月7日	杏林大学 井の頭キャンパス	小池 智美 黒岩 智香 飯田 尚絵	3
	循環器疾患の子どもの鎮静のティップスを学ぼう	10月7日	AP西新宿	小谷 陽子 植木 悦子	2
	第23回日本クリニカルパス学会学術集会	11月10日、11日	THE MARK GRAND HOTEL さいたま新都心	星山 友絵 平本 寛子 須藤 亘美 渡邊 敦	4
	群馬ストーマリハビリテーション講習会	10月29日	講習会はオンライン受講 実習は前橋赤十字病院	上原 杉梨 小淵加奈絵 大谷ゆう子	3
	在宅医療提供機関におけるBCP策定支援研修病院・有床診療所コース	9月30日、11月25日、1月13日	Zoom開催 帝人株式会社	浅野 香 石間美樹恵	2
	第2回ELNEC-JPPC研修	2月17日、18日	三重大学大学院医学系研究科看護学専攻小児看護学分野(オンライン)	久松 飛鳥 石 関梨華	2
	クリニカルパス指導者養成コース	2月24日、2月25日	L stay & grow南砂町 日本クリニカルパス学会	須藤 亘	1
	群馬県臓器移植院内コーディネーター研修会	3月7日	群馬県健康づくり財団	柴田夕貴子	1
	第35回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研修会	3月9日	群馬県看護協会	高橋 裕也 金子 友香 大谷ゆう子	3

群馬県看護協会	「論理的思考」に基づいた課題レポートの書き方	5月7日	群馬県看護協会研修センター		3
	周産期における意思決定支援と産科超音波	7月29日	群馬県看護協会研修センター		3
	看護の倫理（基礎編）～優しい看護倫理/臨床における倫理とは何かを考える～	8月17日	群馬県看護協会研修センター		1
	看護研究データの分析～データ分析してみよう～	8月17日	群馬県看護協会研修センター		1
	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	9月25日	群馬県看護協会研修センター		1
	周産期における災害時対応について	9月30日	群馬県看護協会研修センター		1
	災害支援ナースフォローアップ研修	12月5日	群馬県看護協会研修センター		1
	心的安全性の高い職場づくり	12月9日	群馬県看護協会研修センター		1
	群馬県災害支援ナース + 感染	1月29日～30日	群馬県看護協会研修センター		1
	医療安全研修「事例分析手法を学ぶ」	2月7日	群馬県看護協会研修センター		1
	事故の構造と人間の行動モデルに基づく分析手法：ImSAFER	2月7日	群馬県看護協会研修センター		1
員県 合市 同町 研村 修職	セルフメンタルマネジメント	9月1日～10月31日	群馬県自治研修センター (オンライン)	小林 育代	1
	ティーチング&コーチング	12月19日	群馬県自治研修センター	久松 飛鳥	1

(1) 第一病棟

令和5年度は、看護師24名（うち時短勤務者2名）、保育士2名、看護助手2名、クレーン1名で始動した。5月には、新採用看護師4名を迎えた。COVID-19が5類となるための準備に始まり、感染病棟の運用や新体制の整備、新採用看護師の育成に病棟一丸となって取り組んだ。

神経内科、アレルギー・リウマチ科、感染症科、子どものこころ診療科ともに、子どもたちや家族の支援について、看護師だけでなく医師、CE、理学療法士・言語療法士・作業療法士、歯科医師・歯科衛生士、保育士、ソーシャルワーカーや在宅支援看護師、地域の保健師や訪問看護師と協力して取り組んだ。COVID-19が5類となり病床運用が変更になったため前年度より病床利用率を向上することができた。

【令和5年度第一病棟看護目標】

1. 質の高い看護の提供

1) TeamSTEPPS®を活用し繰り返すヒヤリハットを減らす

(1) 確認不足エラーを前年度より20%削減

(2) ドレーンチューブ類に関するエラーを20%削減

2) フィジカルアセスメントを強化し看護の質を向上する

(1) 看護実践評価の「アセスメント」項目クリア20%増加

2. 人材育成・人材確保

1) PNSを活用し新人看護師とともに各ラダーレベルのスタッフが成長しあう

(1) 新人看護師全員が達成すべき目標を達成する

(2) スタッフ全員が其々のラダーレベルの課題をクリアする

3. 経営の健全化

1) 病床を効率的に活用し、病床利用率を70%以上にする

2) 看護師の負担軽減・職員満足度につながる課題に取り組む(3件以上)

4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供

1) 顧客満足度調査の課題解決のためDXに関連した取り組みを実践する(1件以上)

5. 有事の事態への対応

1) COVID-19 5類変更に伴い、病院としての体制変更に対応した業務・環境改善を実践する

【結果・評価】

目標1について

1) 確認不足によるエラーを削減するために、カンファレンスやインシデントKYT、指差し唱和などに取り組んだが、目標値を達成することはできなかった。ドレーンチューブ類に関するエラーでは、個別性のある看護計画の立案と実践により、確実に皮膚損傷を減少でき目標を達成できた。

2) グループ活動においてフィジカルアセスメントの強化に取り組んだが上期はばらつきがみられた。下期は病棟全体でカンファレンスを活用し、教育委員の協力を得て目標値を達成することができた。

目標2について

フレッシュパートナーや病棟指導者だけでなく、グループや病棟全体で新人看護師4名を支援し目標を達成することが出来た。また、各自がラダーでの課題に取り組み、特に2年目スタッフの計画は順調に進捗し、ケース発表を通じてその成長を病棟内で分かち合うことが出来た。

目標3について

- 1) 積極的な入昇することが院受け入れや他病棟との連携を図り、病床利用率の向上に努め昨年より上できたが、目標値には届かなかった。
- 2) 看護師の負担軽減・職員満足に繋がる取り組みとして、年度途中からの医師事務補助者や病棟クラークの業務協力、看護補助者との共同、業務改善等で達成することが出来た。

目標4について

接遇改善のための取り組みの実施や、入院案内のデジタル化は完成の最終段階で次年度に引き継ぐこととなった。

目標5について

必要な文書改訂や運用の変更などを実施し、安全な療養環境を提供することが出来た。また、COVID-19 陽性患者の急変事案を通して外来との情報共有や病棟内での体制整備を実施した。

(石坂泰子)

(2) 第二病棟

令和5年度は、看護師22名(うち会計年度職員1名)、看護助手3名、保育士2名、クラーク1名で始動した。5月には新入職者2名が配属となり、5月に会計年度職員1名退職、6・7月のみ新規会計年度職員1名配属、9月に育休復帰者1名が配属となり、以降は看護師24名体制であった。

【令和5年度第二病棟看護目標】

1. 質の高い看護の提供
 - 1) 看護計画を充実させ、部署全体で統一した看護を提供する
 - 2) TeamSTEPPS®のチェックバックを活用し、コミュニケーション問題によるエラーを昨年度より20%削減する
 - 3) グループごとに倫理的問題に気付き、検討できるようにする
 - (1) グループごとに倫理カンファレンスを3回/年以上実施し、病棟全体で共有する
2. 人材育成・人材確保
 - 1) ラダーレベル別推奨e-ラーニング研修を1人3つ以上視聴する
 - 2) 部署内でPNSマインド研修を実施し、新人看護師や異動者への支援を看護職全員で取り組む
3. 経営の健全化
 - 1) 他診療科の患者でも受け入れられるように指導を進め、病床を効率的に活用できるよう院内ベッドコントロールに協力する
 - 2) 新規クリニカルパスを作成し、看護師の負担軽減につなげる
4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供
 - 1) 入院案内や部署特有の転倒転落注意喚起についての動画作成に取り組む
5. 有事の事態への対応

1) BCP の策定内容をスタッフに周知し、有事に備えた部署内の体制を整備する

【結果・評価】

目標 1 について

- 1) カンファレンスの時間が捻出できない日もあったが、スタッフ一人ひとりが看護計画の実践と評価を意識して行動できるようになり、計画の充実による統一した看護の提供に繋げることができた。
- 2) 以前よりもチェックバックを活用できるようになってきてはいるが、コミュニケーション問題によるエラーの 20%削減には至らなかった。
- 3) グループごとに倫理カンファレンスを 3 回/年実施し、カンファレンスや病棟会を使って内容の共有を図ることができた。

目標 2 について

- 1) e-ラーニングの視聴数を全体に提示して促すことで、目標は達成した。
- 2) 病棟会内で PNS マインド研修を実施することで日頃の自分の行動を振り返り、PNS の強化を図った。部署全体で新人支援を行うことができた。

目標 3 について

- 1) 他診療科の患者でも受け入れることができるようになってきている。次年度以降も継続していく。
- 2) いくつかクリニカルパス WG へ申請中である。承認次第運用していく。

目標 4 について

整形外科患者の転倒防止策として患者家族を巻き込んだ KYT を実施し、転倒のヒヤリハット件数を 1 件に留めることができたが、DX を活用した取組には至らなかった。しかし、漏斗胸の手術後の注意点について動画作成を行ったため、今後活用していく。

目標 5 について

地震発生用の新規アクションカードを作成し、院内の訓練で活用して評価することができた。今後も体制の整備を進めていく。

(小林志のぶ)

(3) 第三病棟

令和 5 年度は、看護師 27 名 (会計年度職員 1 名)、保育士 3 名、看護助手 3 名、クラーク 1 名で始動した。7 月に看護師 2 名が育休・特休から復帰し、看護師 29 名体制となった。

【令和 5 年度第三病棟看護目標】

1. 質の高い看護の提供

- 1) 多職種連携、PNS 体制を充実し、安全な看護を提供する
- 2) 倫理的課題に気づき、行動できるスタッフを育成する

2. 人材育成・人材確保

- 1) ラダーシステム・PNS を活用し、お互いに支援しあい、成長する
- 2) 課題達成に向け、ラダーレベルにあった研修の受講計画をし、計画した研修は全て受講する

- 3) 病棟全体で支援し、新入職者・異動者が目標達成する
3. 経営の健全化
 - 1) 他病棟と連携し、病床を効率的に活用する
 - 2) レスパイト件数が昨年度より増加する
 - 3) 家族指導をデジタル化し、統一した指導と職員の負担軽減につなげる
4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供
 - 1) 家族指導・オリエンテーションのデジタル化を進める
 - 2) 動画を利用した勉強会資料を作成する
5. 有事の事態への対応
 - 1) COVID-19 に対する体制変更を理解し、実践する
 - 2) BCP 策定に対する第3病棟の役割を明確にし、準備する

【結果・評価】

目標1について

リーダークラスのスタッフを中心とし、カンファレンスや振り返り時にスタッフ同士が意見交換しやすい職場環境を整え、コミュニケーションエラーによるヒヤリハットは減少した。

目標2に関して

PNS を活用し、指導体制を強化し、クリニカルラダーも全員が目標を達成できた。

目標3について

他部署と連携し、夜間休日の入院受け入れも円滑に行えた。

目標4に関して

病棟案内・転倒転落防止に関する動画を活用し、そのスタッフも同様の説明を提供でき、患者・家族の理解度も確認することで転倒転落防止につながった。今後も継続していきたい。

目標5について

防災対策を自部署で考え、定期的な防災訓練に積極的に参加することができた。自部署で防災シミュレーションの実施が次年度の課題である。

(鈴木清恵)

(4) NICU 病棟

令和5年度は、看護師32名(うち会計年度職員1名)で始動した。5月育児休暇明け1人、6月に育児休暇に入り、9月に看護補助者2人NICU配属となり、3月産休1人3月末の時点で31名体制であった。

【令和5年度NICU病棟目標】

1. 質の高い看護を提供する
 - 1) TeamSTEPPS®を活用し、コミュニケーション力を上げる
チェックバックを活かした相互伝達方法
 - 2) 繰り返されるヒヤリハットを減らす
挿管チューブ・気管カニューレ・NGチューブ・PICC・ミルク関連のインシデントの原因を採

り、改善策の実施 (昨年度より 10%減らす)

2. 人材育成・人材確保

1) NICU ラダーを活用し、看護レベルが向上できる

- (1) 異動看護師の NICU ラダーレベルI 100%達成
- (2) NICU ラダーIII 以上が全スタッフの 7 割を占める (現時点：64%)
- (3) ラダー別推奨 e-ラーニング受講率 100%

①各グループ 1 つ以上視聴しグループ会でミニ勉強会を開催する

2) PNS の基本に立ち返り NICU で活かす

- (1) PNS の基本・マインドを強化する
- (2) PNS グループ内でクリニカルラダーを活用し、各自の課題を向上する
- (3) 看護実践評価がレベルアップする

3. 経営の健全化に参画する

1) 入退院支援加算 3 取得のための知識を全スタッフが知る

- (1) 研修会参加後に伝達講習
- 2) 入退院支援加算 3 の算定漏れを 0 にする
 - (1) 地域連携室との協働
- 3) 看護記録を見直し、業務改善につなげる
 - (1) 記録の時間外を 5%削減
 - (2) 休憩時間の確保

4. COVID-19 の院内感染を起こさない

- 1) COVID-19 の 5 類変更に伴い、マニュアルを修正する
- 2) 正しい手指衛生のタイミングを周知し遵守率を上げる

【結果・評価】

目標 1 について

- 1) チェックバックなど共通言語としての理解は深まり相互伝達は浸透しつつあるが、基本的手技の怠り・コミュニケーション不足、アセスメント・観察不足によりヒヤリハットは全体数としては減らすことはできなかった。

目標 2 について

- 1) 異動看護師の NICU ラダーレベルI 達成率は、経験できない処置等もあり 93.4%であった。PNS でのペアの活動を再構築し、NICU 看護の伝承・教育支援をした。看護実践評価を活用し個々のレベルアップが図れた。

目標 3 について

- 1) 入退院支援加算 3 取得漏れがないようにするため伝達講習をし、病棟全体で知識を習得することができた。課題はあるものの算定漏れはゼロを達成することはできた。
- 2) 業務改善として記録の時間外・休憩時間の確保に対して対策を行った結果、ペアで担える記録の実施を検討。その結果、時間外削減には至らなかったもののペアで業務終業を目指す意識向上につながった。

目標 4 について

1) リンクナース、病棟内係を中心に COVID-19 の 5 類変更に伴い、マニュアルを修正した。

「正しい手指衛生のタイミング」遵守率は、3 回の調査を実施し、徐々に遵守率は向上したものの 78% に留まった。項目別に見ると 89% まで到達できたものもあるが、新規 MRSA 陽性患者もあり、引き続き 5 つのタイミングを徹底しながら手指衛生の目的を伝え続けていく必要がある。MRSA の陽性増加率は前年度新規 MRSA 検出率 5.04% から今年度 5.01% であった。

(星山友絵)

(5) GCU 病棟

令和 5 年度は、看護師 22 名でスタートした。5 月に新人 3 名の配属と育児休暇明け 3 名が復帰した。11 月に新人 1 名が退職、育児休暇明け 1 名が復帰した。3 月に 1 名が産前休暇に入り、3 月末は 27 名であった。

【令和 5 年度 GCU 病棟目標】

1. 質の高い看護の提供

1) フィジカルアセスメント力向上に取り組む

(1) スタッフ全員が立ち合い分娩を経験する

(2) NCPR・BLS の受講が前年度より増加する

(3) 幅広い看護実践力を得るための教育計画を再構築し取り組む

2) 繰り返されるヒヤリハットを減らす

(1) 情報・記録に関するヒヤリハットを 50% 削減する (昨年度 8 件)

(2) 患者環境を見直す

(3) 清潔、騒音、物品管理の整備を行う

2. 人材育成・人材確保

1) 互いを認めながら、個々の役割に応じた学びを深める

2) e-ラーニングの受講率が 100% となり、受講回数が前年度より増加する

3) 新人看護職員離職を 0 にする

4) 各自ラダーの課題を PNS パートナー、グループで取り組み、前年度より向上させる

3. 経営の健全化

1) 業務改善を行う

(1) 看護記録を見直し、負担軽減を図る

(2) ケア児・長期入院・ハイリスク児へ、多職種で早期からかかわれる体制の構築

(3) カンファレンスの活性化・活用に取り組む

4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供

1) 退院・育児指導の DX 化を継続し、実践で活用する

5. 有事の事態への対応

1) COVID-19 5 類変更に伴い、GCU としての体制変更に対応する

2) BCP の策定に協力し、実働できるように準備する

【結果・評価】

目標 1 について

分娩立ち会いは対象者の 90%が実施できた。NCPR・BLS も前年度を上回って対象者全員が受講。GCU ラダーの運用を行い経験項目の明確化と、NICU 車搭乗や夜間外来応援ができるように環境を整えることが出来た。情報記録のヒヤリハットは 9 件であり目標を達成できなかった。新規感染患者はいなかった。

目標 2 について

e ラーニング受講率は 100%であり受講回数も前年度を上回った。学びを業務に反映させるところまではいかなかった。新人 1 名が退職し目標を達成できなかった。クリニカルラダーは 11 名がレベルを上げられた。

目標 3 について

サマリーの内容が継続看護に活用できるように、アンケートを取りながら修正を行っている。看護記録の学習会を行い、掲示板の運用方法の統一や時間外勤務の削減に取り組み、成果を出せた。スタッフの人数増加があったため正しく評価はできていない。業務の再構成を行い、カンファレンスを行える時間の確保に努め、平日は毎日開催できた。

目標 4 について

育児指導についての動画を 3 本作成した。入退院の流れについても作成し業務改善にもつなげることができた。

目標 5 について

監査をもとに各自の清潔行動を見直し実践につなげ、新規感染者を出さなかった。

(黒田佐織)

(6) 産科病棟

令和 5 年度は、看護師 6 名(再任用 1 名) 助産師 15 名(会計年度 1 名) 看護助手 1 名体制で始動。4 月より看護師 1 名産休となり、22 名体制であった。

【令和 5 年度 産科病棟看護目標】

1. 質の高い看護の提供
 - 1) 確認行動不足によるヒヤリハット発生件数を昨年度比の 50%に減らす
 - 2) 他職種と「SBAR」「チェックバック」を活用し、コミュニケーションエラーを減らす
2. 人材育成・人材確保
 - 1) ラダーレベル別推奨 e ラーニング研修の受講する
(ラダーレベル毎に 3 タイトル上を視聴)
 - 2) 急変に対応できる
 - 3) 「ニーズをとらえる力」「協働する力」「意思決定を支える力」の実践強化を行い、評価点数が上がる
3. 経営の健全化
 - 1) 産後ケアを受け入れる環境を整備する
 - 2) 煩雑な看護業務を洗い出し、病棟内スタッフでタスクシェアする
4. デジタル技術を活用した患者サービスを提供する

5. COVID-19 の院内感染を起こさない

1) COVID-19 5 類変更に伴い、手順を見直し・修正する

【結果・評価】

目標 1 について

ヒヤリハット件数に占める確認行動不足は 75% (昨年度 65%) のため目標達成できなかったが、KYT カンファレンスが習慣的になり対策を考えることで同じインシデントの発生は減少した。コミュニケーションエラー18% (昨年度 17%) だった。今後は医師と看護師間のコミュニケーションの場を設けコミュニケーションエラーを減らせるようにしていきたい。

目標 2 について

全員がラダーレベルにあった 3 タイトル以上の受講をした。出血と新生児の急変時対応の勉強やシミュレーションを行い、デブリーフィングを行うことができた。

目標 3 について

産後ケアの利用者が昨年の 25% 増加した。空床ベッドが利用され増収にも繋がった。9 割以上の利用者が満足しており、利用者の満足の行くケアが提供できた。

目標 4 について

分娩・母乳・産褥体操の動画を作成し、統一した指導を行うことができた。

目標 5 について

対応の変化などに合わせ手順を修正し患者を受け入れた。面会禁止の解除、分娩立ち合いの再開、外来受診時の夫の付添いの再開等、患者のニーズに対応し変更した。

(福島富美子)

(7) 小児集中治療部

令和 5 年度は、看護師 25 名、看護助手 2 名体制で始動。5 月に新入職者 3 名が配属となり、9 月に看護助手 1 名、11 月に看護師 1 名が退職。3 月に看護助手 1 名が入職し、最終、看護師 27 名、看護助手 2 名体制であった。

【令和 5 年度 PICU 病棟目標】

1. 質の高い看護を提供する

1) 安全な医療を提供する

- (1) 正しい確認行動を実践し、確認不足による 3a 以上のエラーを減らす
- (2) 「チェックバック」を活用し、チームメンバー間で情報伝達を確実にを行う
- (3) KYT カンファレンスにより「起きている」または「起こりうる」変化を察知する観察力を高める
- (4) シミュレーション学習によりフィジカルアセスメント能力を向上させる

2) 看護の質の向上に取り組む

- (1) 子どもと家族にとっての最善は何かを考え、倫理的課題に気づきカンファレンスを行い、倫理的感受性と倫理的行動力を高める

2. 人材育成・人材確保

- 1) 看護実践評価「ケアする力」「意思決定を支える力」の課題に対し、個々の力が向上する
 - 2) ラダーレベル別推奨 e-ラーニング研修を 1 人が 3 つ以上受講する
 - 3) PNS を活かし、全員が新人看護師や異動者と向き合い、知識・技術をその時その場で伝承する
 - 4) 働きやすい職場環境づくりに全員で取り組む
 - (1) お互いを思いやり、承認行動を実践する
 - (2) 対等な立場で互いに学びを高め合い、気づきを言葉にして発信できる
3. 経営の健全化
- 1) 病床を効率的に活用する
 - (1) PICU 加算算定患者数 1,041 人/ 年を達成する
 - (2) 対象者全員の早期離床・リハビリテーション加算を取得する
4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供
- 1) 入室案内の動画を作成する
5. 有事の事態への対応
- 1) COVID-19 5 類変更に伴い、手順を見直し修正する

【結果・評価】

目標 1 について

- 1) 確認行動の質向上に努め、レベル 3a 以上のインシデントは 4 件 (昨年度 4 件) あり、減らすことはできなかった。他職種、他部門との情報伝達エラーが 3 件あり、指示の意味や目的を互いに理解することを意識した情報の共有ができるようになった。KYT カンファレンスを行い (毎週 1 回実施率 90%)、予防措置の力を養うことにつながった。他職種とのシミュレーションは定期的に行うことができなかった。
- 2) 倫理的課題についてのカンファレンスを 3 回行い、それに基づいた質の高い医療を他職種で提供することができた。

目標 2 について

- 1) 看護実践「ケアする力」の「できている」評価は 80% (昨年度 70%)、「意思決定を支える力」の「できている」評価 60% (昨年度 60%) であった。
- 2) 全員がラダーレベルにあった e-ラーニング研修を 3 つ以上受講した。PNS の運用を見直し、経験や知識の共有ができるようになり、教育の向上につながった。

目標 3 について

PICU 加算総数は 1,328 件となり、加算目標値 1,041 件に対し達成率は 127.6%であった。また、対象者全員の早期離床・リハビリテーション加算を取得することができた。

目標 4 について

入室案内について動画を作成している。子どもと家族にとってわかりやすく繰り返し確認できるツールとして活用し、患者サービスにつなげる。

目標 5 について

COVID-19 の 5 類変更に伴い、手順を見直し修正した結果、水平感染を起こすことなく管理することができた。

(柴田夕貴子)

(8) 手術室

令和5年度は、看護師12名・看護助手1名で始動した。看護師は4月に1名産休に入り11名、看護助手は5月から10月までの期間1名採用になり2名の体制であった。

【令和5年度手術室目標】

1. 質の高い看護の提供
 - 1) 看護診断を用いて、患児・家族の個別性のある看護を提供する
 - 2) TeamSTEPPS®を実践して多職種連携を行い、正しい確認行動ができるようになる
 - 3) 手術室マニュアルの整備と周知を行う
2. 人材育成・人材確保
 - 1) PNS マインドの醸成に取り組み、補完できるシステムを構築する
 - 2) e-ラーニング・OPE ナーシングを活用して、看護実践力が上がる
 - 3) 自身の課題を明らかにするため、手術看護ラダーを活用する
3. 経営の健全化
 - 1) 医療機器、手術器具、棚卸による適正管理および有効活用をする
 - 2) 看護師の負担軽減に繋がる業務改善を行う
4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供
 - 1) 機器管理のシステム導入を検討する
 - 2) 術前訪問 DVD 運用手順を整備して活用する
5. 有事の事態への対応
 - 1) 5類移行後の COVID-19 陽性患者のマニュアルの整備と改訂をする
 - 2) 手術室スタッフ対応のシミュレーションを実施する

【結果・評価】

目標1 について

手術ペアで術前訪問結果の情報共有と術後振り返りで評価カンファレンスを行った。記録監査の結果で記載不備について ORSYS マニュアルを修正した。手術室パスの運用を開始して記録の簡素化ができた。TeamSTEPPS®におけるチェックバックを指示確認の場面で活用し、デブリーフィング実施で振り返り時に何でも言える雰囲気作りに努めて発言が増える結果になった。手術室基準手順については術中体位・出張手術の項目修正を行った。

目標2 について

ホワイトボードで残務を可視化してリチャップルし、最終確認者を明確にして補完ができた。e-ラーニング・OPE ナーシングを活用して月1回テーマを決めて視聴し、スタッフ個々の気付きや意見を手術室会議で共有した。日本手術看護学会のクリニカルラダーを基に一覧表の見直しを行い、スタッフの課題達成状況について三者評価で確認した。

目標3 について

準備時間短縮・紛失防止目的で単品器械の管理を変更、全科共有の単品・衛生材料表の作成を見直した。診療科担当が医師に確認しながら使用物品を管理し、準備上の支障となっている材料や物品を抽出して定位置を決定した。看護助手への業務委託として、清掃時の手台・アームプロテクタ

一の定位置配置・Cルーム清掃後の室内作成を依頼して業務整理ができた。

目標4について

術前訪問動画についてタブレットを導入した。対象年齢を拡げて活用できるよう、質向上の視点で検討が課題である。

目標5について

5類移行後のCOVID-19陽性患者のマニュアルを改訂した。カテ室は循環器科医師、放射線課と再検討中である。産科分娩棟での緊急帝王切開術手順の再確認を行った。カテ室での急変対応、産科グレードGradeA対応、脳死下臓器提供手順の読み合わせを行った。

(村上容子)

(9) 外 来

令和5年度は、看護師17名(常勤5名、再任用2名、会計年度10名)、看護助手1名でスタートした。11月末で会計年度看護師が1名退職し、3月末時点では、看護師16名、看護助手1名であった。

【令和5年度外来目標】

1. 質の高い看護の提供

1) 安全な医療を提供する

(1) 正しい確認行動の徹底により、採血に関するヒヤリハットを減らす

(2) TeamSTEPPS®(チェックバック)を活用しコミュニケーションエラーを30%減らす

2) 看護の質の向上に取り組む

(1) 認定看護師を活用し、外来での看護ケアのアドバイスをタイムリーに行う

(2) カンファレンスの定期実施(在宅療養支援・倫理)

2. 人材確保・人材育成

1) ラダー別教育を充実させる

(1) 看護実践評価の「ニーズをとらえる力」「ケアする力」が向上する

(2) e-ラーニングを活用し、人材育成につなげる

2) PNSを活かし、異動者や外来スタッフの支援を行う

3) 働きやすい職場環境作りに全員で取り組む

承認行動の実践、アサーティブコミュニケーション実践への取り組み

3. 経営の健全化

1) 看護師の負担軽減につながる業務改善に2つ以上取り組む

2) 在宅療養指導管理料を確実に算定する

3) 在宅療養指導料の算定を開始する(看護の見える化)

4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供

Web問診事業の取り組みの協力をする

5. 有事の事態への対応

1) COVID-19 5類変更に伴った感染対策を実施し、院内感染を防止する

【結果・評価】

目標 1 について

採血に関係するヒヤリハットは、昨年とほぼ同数であった。コミュニケーションエラーについては、30%減となり目標達成できた。WOC 認定看護師を活用し、皮膚ケアやストーマケア等、適時対応出来た。退院前の支援会議に参加した患者情報は振り返りで共有した。倫理カンファレンスは、定期実施はできなかったが下期に数例実施できた。

目標 2 について

ラダー別教育の看護実践については、昨年と比較し大きな変化はなかった。e-ラーニングは、外来教育としても活用でき、個人の視聴数も増えた。スタッフの「いいところ探し」を実施し、働きやすい職場環境作りの一助になったと思われるが、結果としては変わりなかった。

目標 3 について

在宅療養指導管理料の算定漏れは、月に 2~3 件程度になり減少した。

目標 4 について

今年度は、Web 問診事業の取り組みはなかった。

目標 5 について

感染対策行動を徹底し、外来での院内感染の発生はなく防止できた。

(宮川祐子)

(10) サービス向上委員会

委員長: 相川良彦 (事務局長) 副委員長: 高尾 淳 (総務課長)

委員: 土屋薫平 (医事課) 清水真理子 (Dr) 篠原正樹 (Dr) 原田真葵 (検体検査課)
下田寛貴 (放射線課) 船井南那 (リハビリ) 佐藤萌々子 (栄養) 南雲美奈代 (薬剤)
楠 幸代 (歯科衛生士) 綾部朱莉 (地域連携室) 福田 円 (看護副部長)
石坂泰子 (第一病棟師長) 藤井勇氣 (第一病棟) 木口亜美 (第二病棟)
石井理恵 (第三病棟) 井上真帆 (NICU) 倉持有紀子・齋藤理沙 (GCU)
高倉和枝 (産科病棟) 今井文弥 (PICU) 近藤 充 (手室室) 宮川祐子 (外来師長)

開催日: 定例奇数月 第 3 火曜日 16:30~

【目的】

1. マスタープラン策定に向けて色々な声を収集する。
2. 建替前の現在の病院でも出来ることは対応する。

(患者・家族の権利を尊重し、思いやりのある医療サービスを提供する。)

【活動報告】

昨年度まで副看護部長を委員長として執り行っていたが、マスタープランの策定があることや看護部の負担軽減も考慮し、事務局長を委員長とし、庶務も事務局で行うこととした。

1) 患者経験価値調査 (PX)

NHA (日本ホスピタルアライアンス) で行っている患者経験価値調査 (PX) を行った。この調

査は医療の質指標 (Quality Indicator: QI) の一つで、患者満足度調査 (Patient Satisfaction=PS) が主観的な「満足」を評価するのにに対し具体的で客観的な「経験」を尋ねるのが特徴で、医療の質改善に向けて具体的な課題が抽出しやすいとされている。PXを向上させることで患者の健康アウトカムの向上や医療資源利用の効率性向上、医療過誤の減少などに影響することが証明されている調査である。今年度はQRコードを利用したWEBアンケートを併用した。入院患者・家族を対象に有効回答数84名、外来患者・家族74名の回答を得た。昨年と比較し、看護職員、医師とのコミュニケーション等、各カテゴリの評価は向上したが、総合評価では低い数値となり、他院と比較したスコアでは平均を3.2下回る評価であった。医師とのコミュニケーション、薬剤に関するコミュニケーションは優先課題となった。外来調査は待ち時間における設問では72%が1時間未満となり、昨年度の85%を下回った。90%以上が待ち時間の目安を伝えられていなかった。医師の対応は各種説明において、80%以上の人が「はい」という回答だった。薬に関する説明に対する回答は「ある程度受けた」を含めても40%以下だったが、新たな薬が処方された割合が平均42%に対して当院は25%であることも要因の1つと思われる。

2) ご意見箱

合計24件。改善済9件。取り組み継続10件。対応困難3件で、案件は施設設備に関する事、スタッフの対応に関する事等が多く、該当部署に伝達し、改善又は取組継続となった。

3) 患者サービスへの取り組み

売店の移設・拡充に関して実際の企画には参加できなかったが、委員会の中で進捗状況を委員で情報共有し患者家族の意見を繋げた。

群馬交響楽団のご厚意によるクリスマスミニコンサートの開催に尽力した。

4) ボランティア

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、ボランティア活動は読み聞かせ、家族宿泊棟清掃、クリニックラウンが活動を再開した。意見交換会は実施できなかった。

(高尾 淳)

令和 5 年度患者満足度調査

I 目 的

NHA 患者アンケート調査を行い患者が医療サービスを受ける中での経験を「患者経験価値 (Patient Experience=PX) 調査」で、患者が病院で経験する一連のプロセスに着目し、患者サービスのプロセス改善により患者満足度の改善を目指す。また入院患者アンケート調査で NHA 加盟病院との比較により当院の現状を知る。

II 調査期間

病棟: 令和 5 年 10～11 月

外来: 令和 5 年 10～11 月

III 調査対象

調査期間内に当センターに入院または外来受診した患者と家族

病棟: 第一病棟・第二病棟・第三病棟・産科病棟・PICU・NICU・GCU

外来: 総合内科・循環器科・神経内科・アレルギー科・新生児科・腎臓内科・呼吸器科・形成外科・
外科・心臓血管外科・整形外科・血液腫瘍科・耳鼻科・脳神経外科・麻酔科・内分泌代謝科・
産科

IV 調査結果

NHA 規定の調査用紙にて以下の内容に関して調査分析を行った。

1) 調査内容

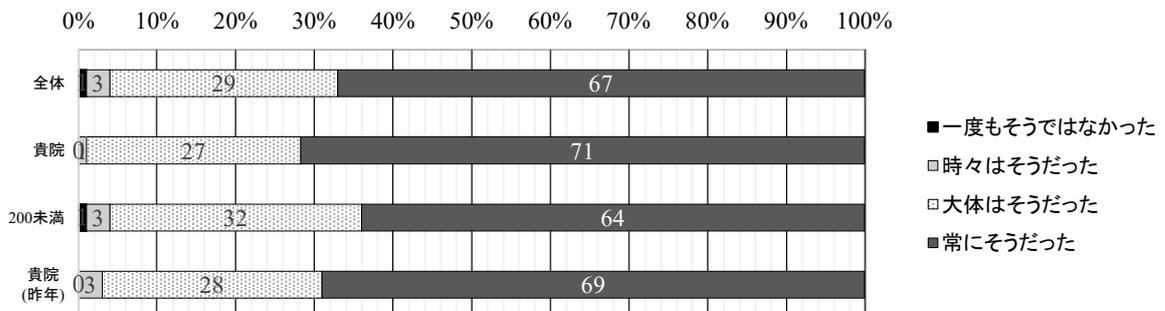
看護師とのコミュニケーション、医師とのコミュニケーション、病院職員の対応、病院の環境
薬剤に関するコミュニケーション、退院時の情報提供、外来時の対応

2) 入院患者 84 名から回収 (有効回答名)

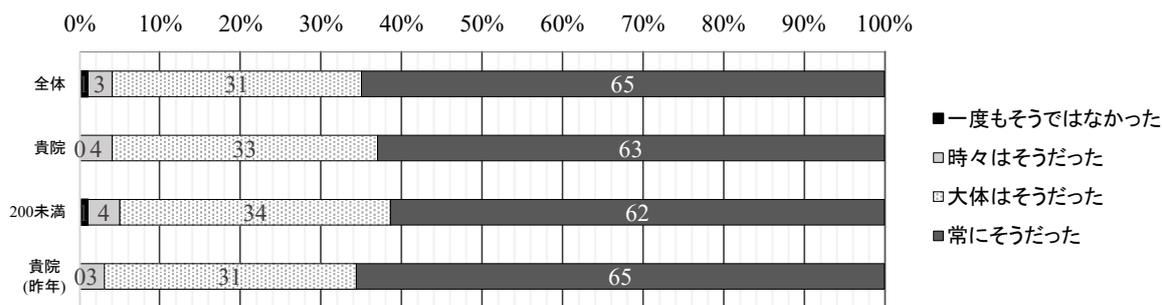
①この入院中看護師は礼儀と誠意をもって接しましたか。



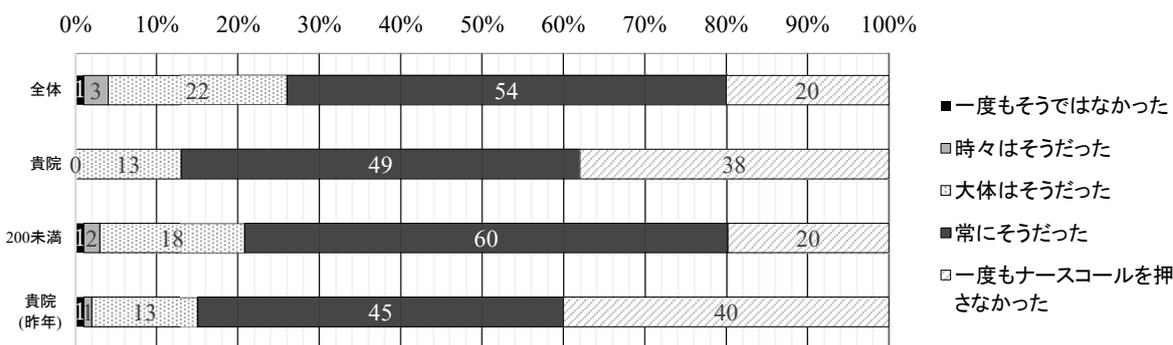
②この入院中、看護師は、あなたの話を注意深く聴きましたか。



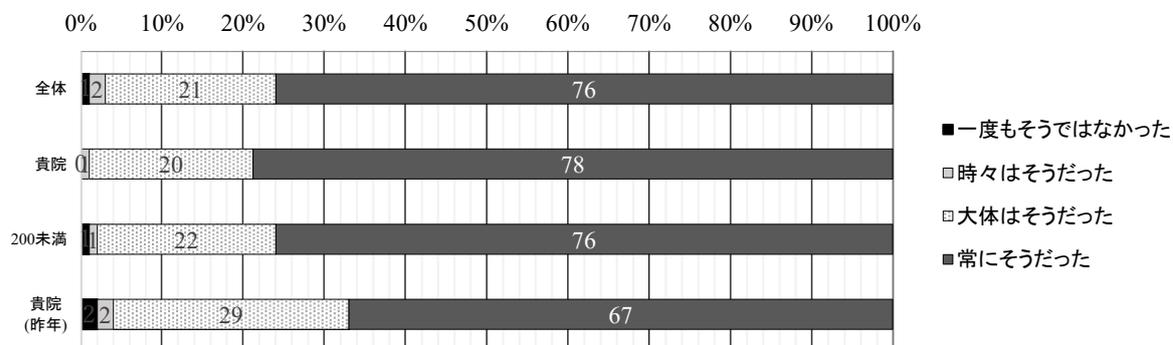
③この入院中、看護師は、あなたにわかりやすく説明をしましたか。



④この入院中、ナースコールを押した後、すぐに援助が受けられましたか。



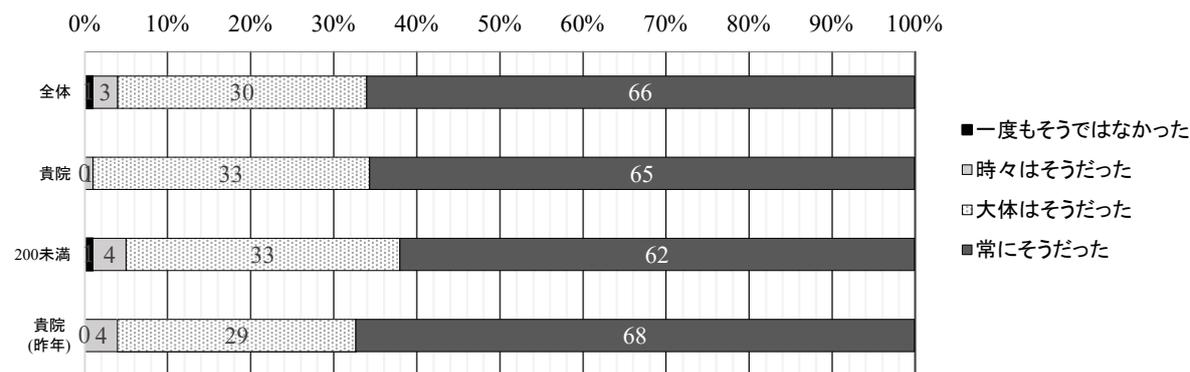
⑤この入院中、医師は、礼儀と敬意をもってあなたに接しましたか。



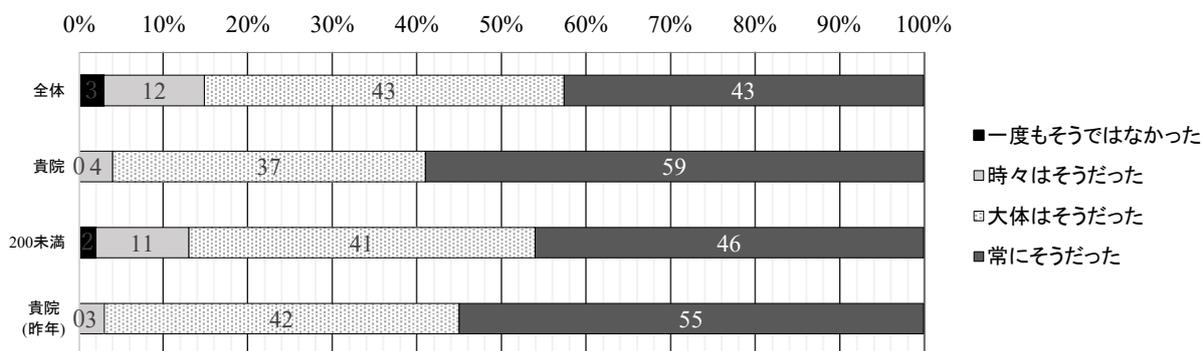
⑥この入院中、医師は、あなたにわかりやすく説明をしましたか。



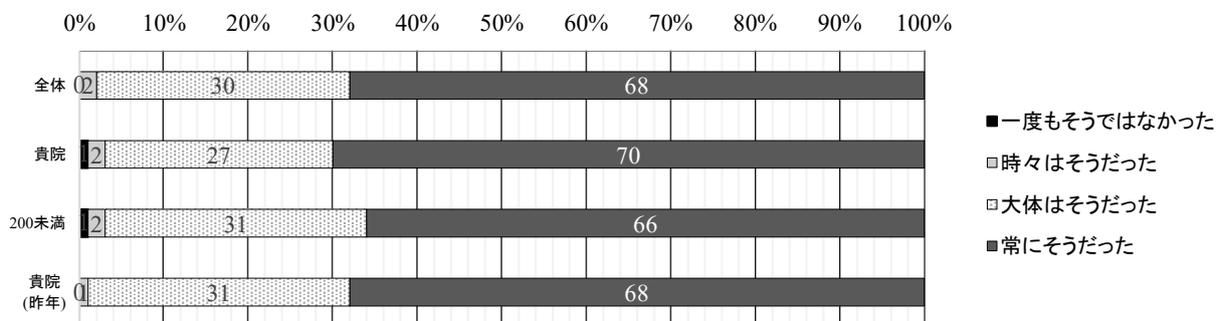
⑦この入院中、あなたの病室とトイレは、清潔に保たれていましたか。



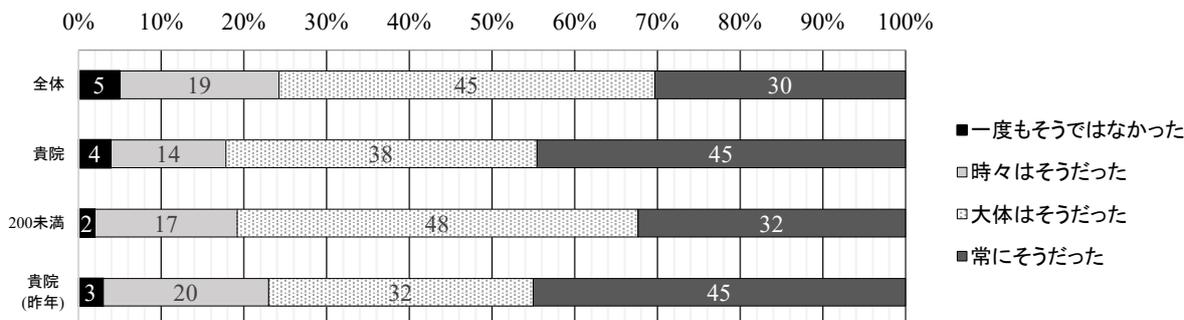
⑧この入院中、あなたの病室の周囲は、夜間静かでしたか。



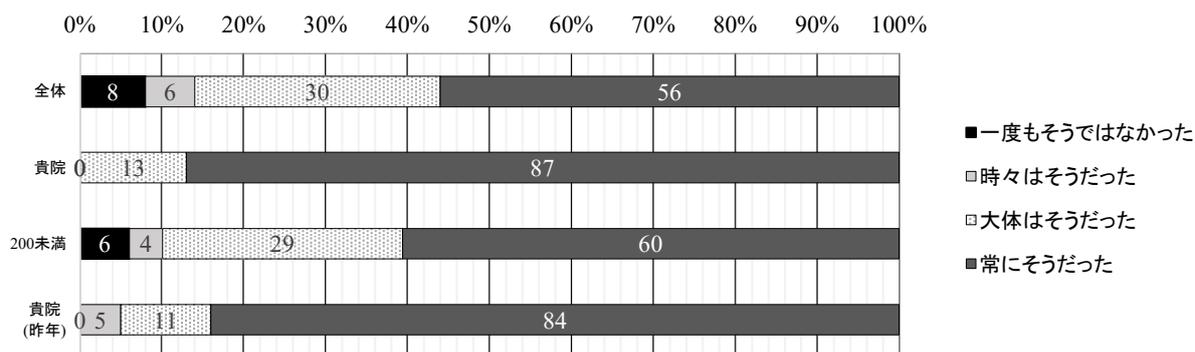
⑨この入院中、安全に医療サービスが行われていると感じましたか。



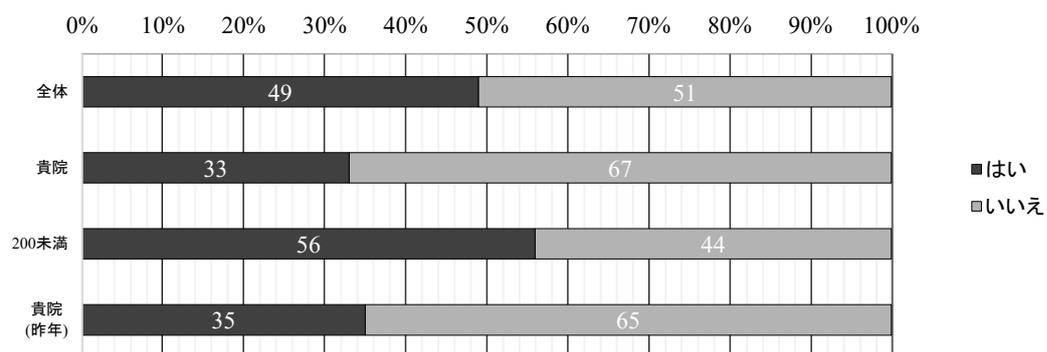
⑩この入院中、食事内容として満足のいくものでしたか。



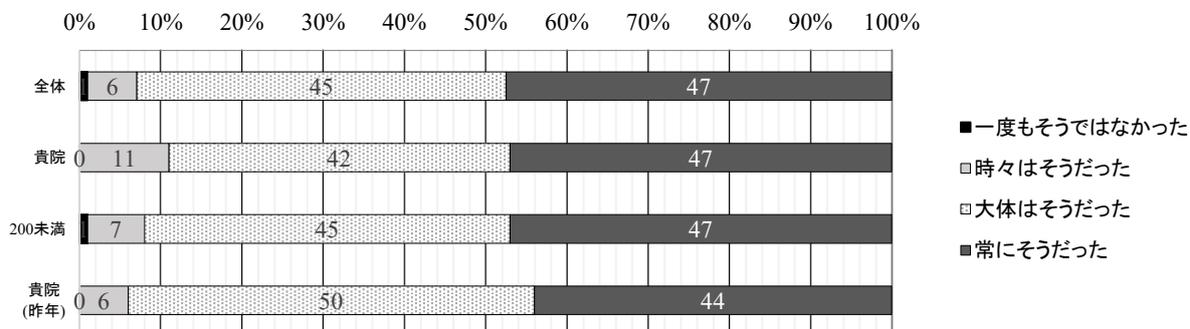
⑪ トイレや尿器・便器を使用する際に、すぐに介助を受けられましたか。



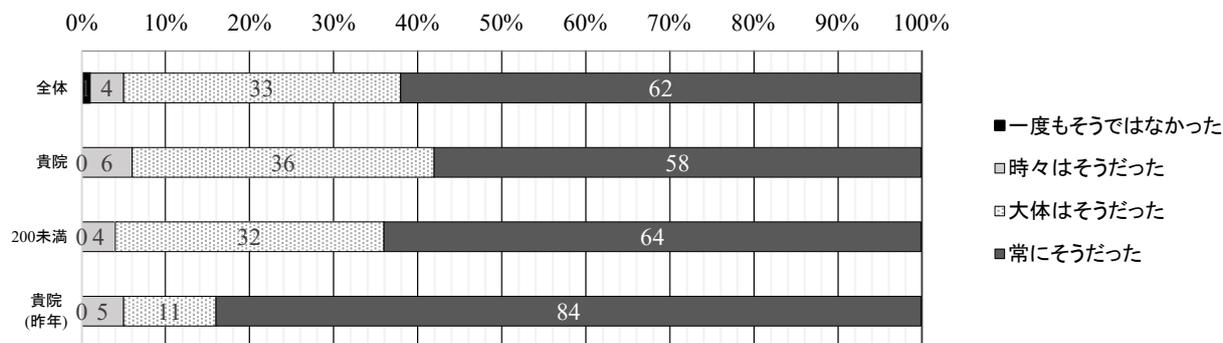
⑫ この入院中、痛み止めの薬を必要としましたか。



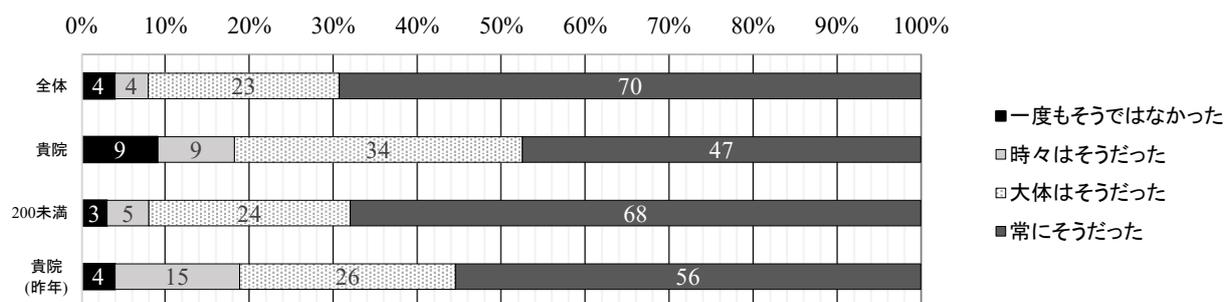
⑬ 入院中、あなたの痛みは良くコントロールされましたか。



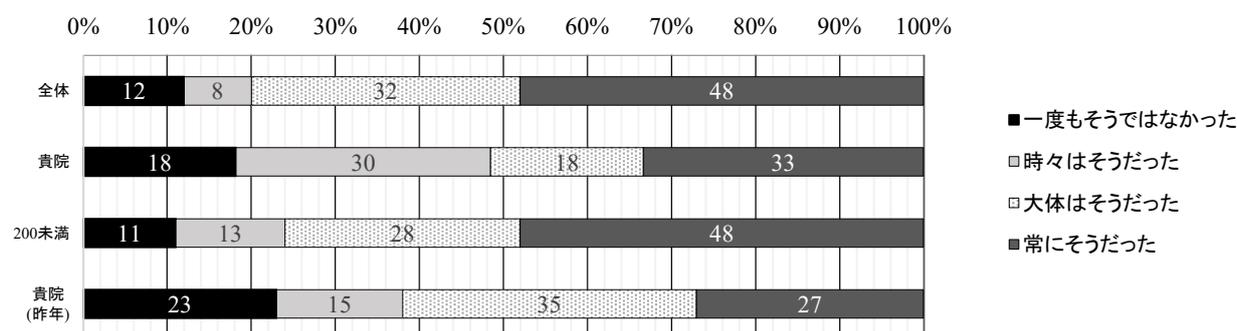
⑭ 入院中、病院のスタッフはあなたの痛みを減らすため、できるすべてのことをしてくれましたか。



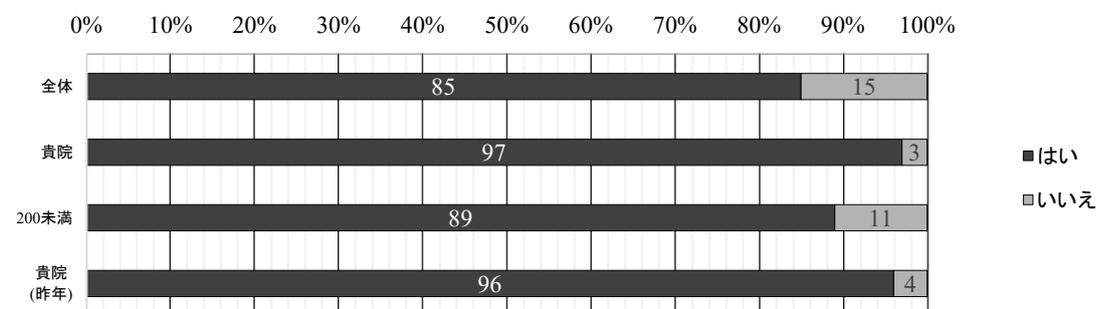
⑮新しい薬を渡される前に、病院スタッフは、それが何のための薬であることを説明しましたか。



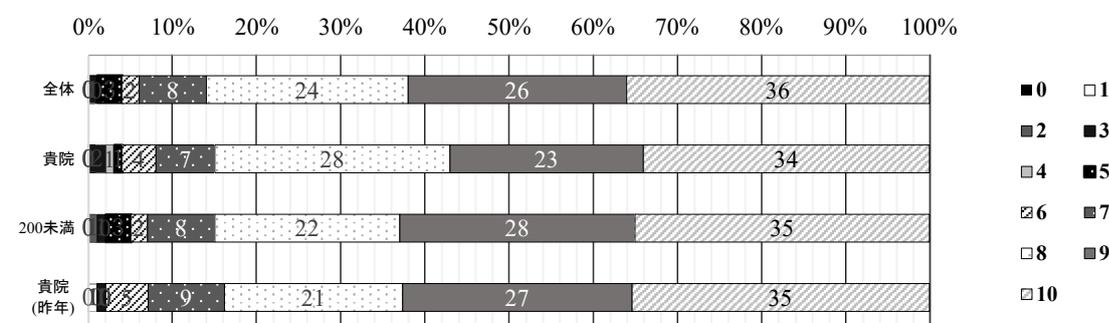
⑯新しい薬を渡される前に、病院スタッフは、生じる副作用についてわかりやすく説明しましたか。



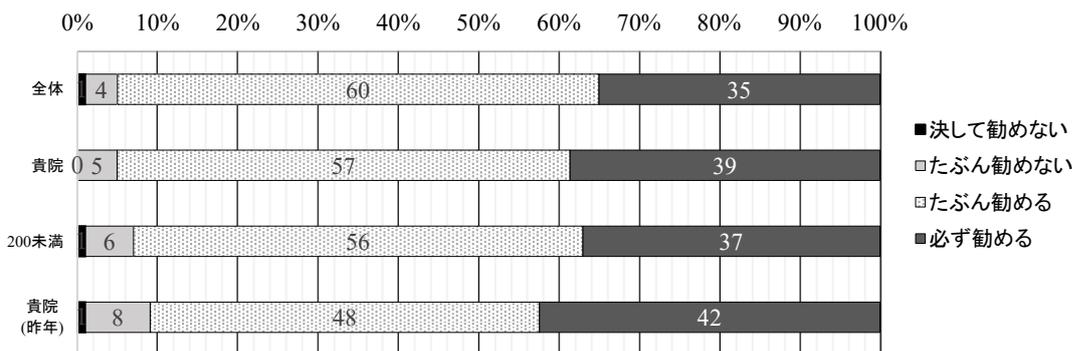
⑰この入院中、医師や看護師、または他の病院スタッフは、退院後のあなたに必要な援助について話をしましたか。



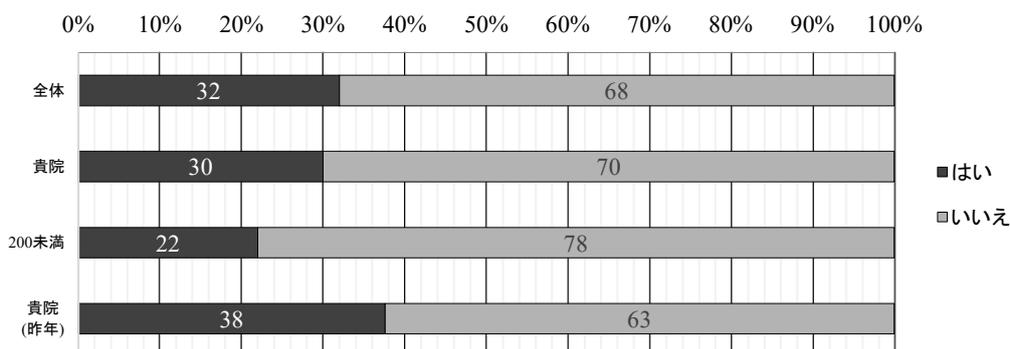
⑱入院中のこの病院を0から10点で評価してください(最も悪い場合を0点、最も良い場合を10点)



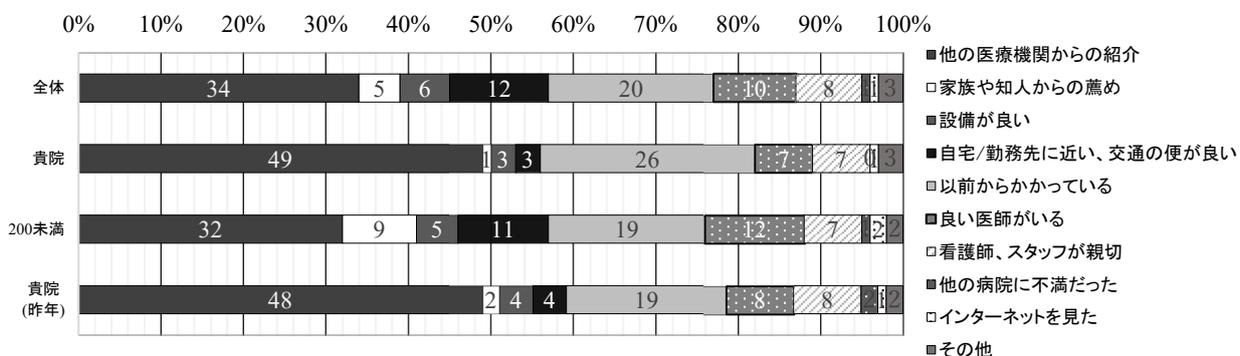
⑱あなたは、この病院を友人や家族に勧めますか



⑳あなたはこの病院に緊急（救急）患者として入院されましたか。

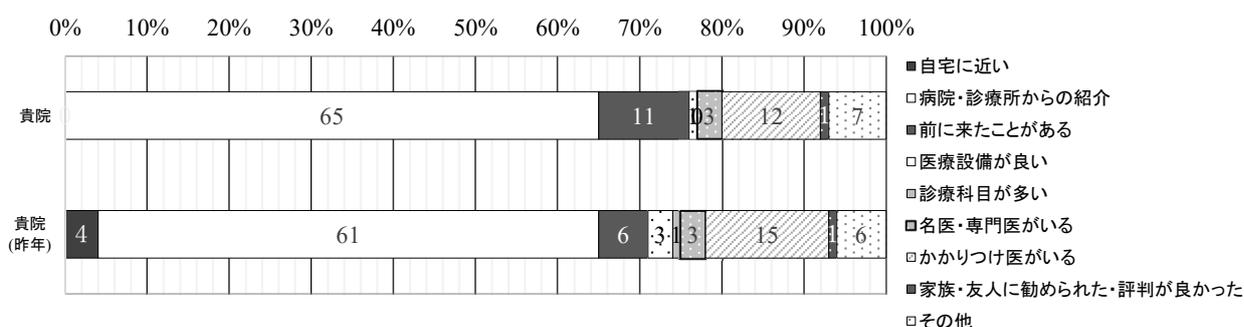


㉑この病院を選択した理由をお選びください（複数選択可）

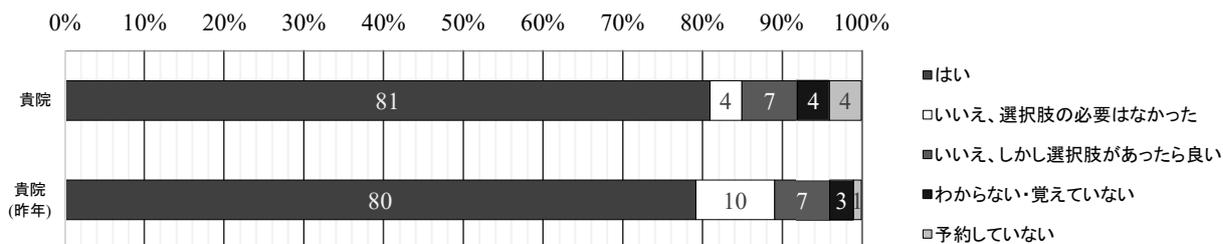


3) 外来より 74 名回収

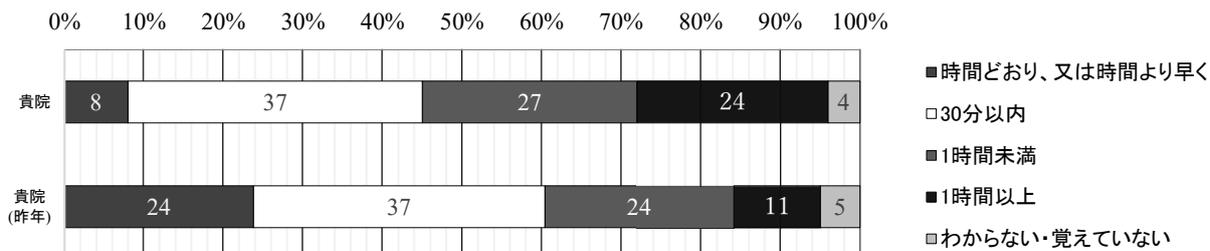
①あなたが当院を選んだ一番大きな理由は何ですか？



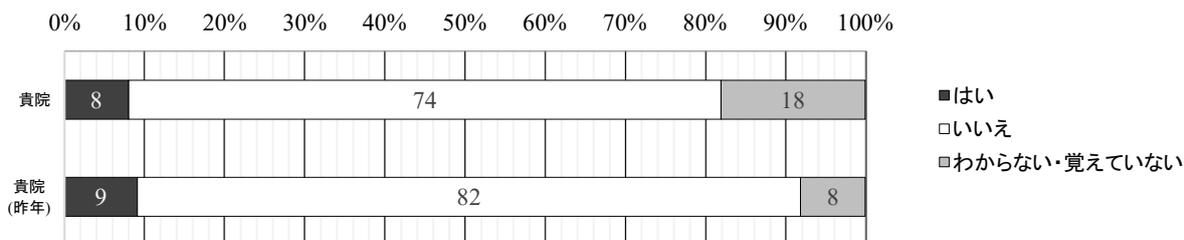
②診察予約時間の選択肢はありましたか？



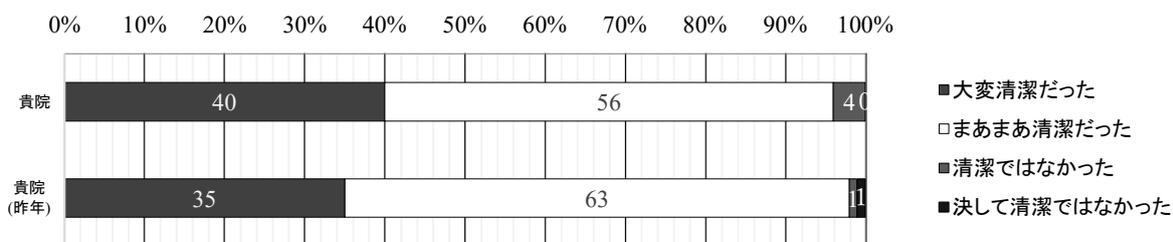
③診察予約時間後、診察が始まるまでどのくらい時間がかかりましたか？



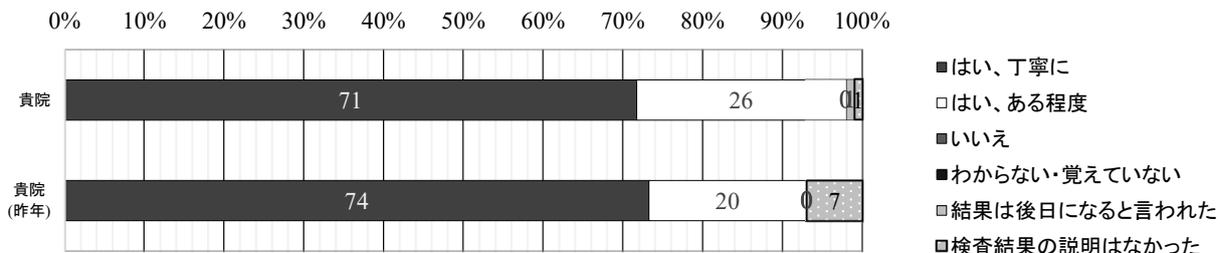
④待ち時間の目安を伝えられましたか？



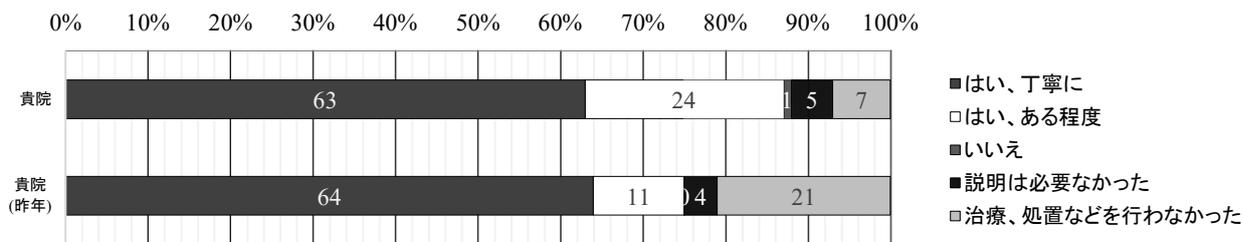
⑤外来のトイレはどの程度清潔でしたか？



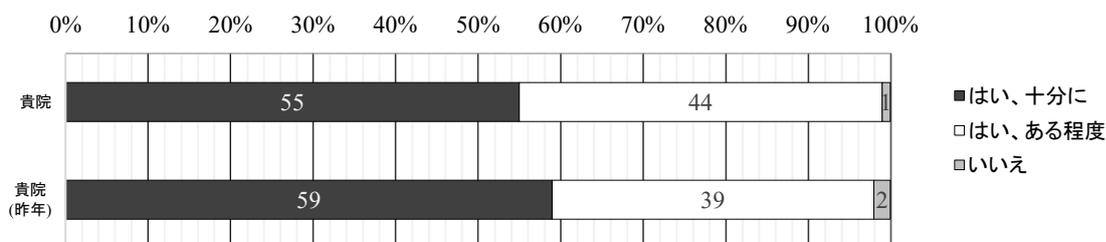
⑥医師は、検査結果をあなたにわかりやすく説明しましたか？



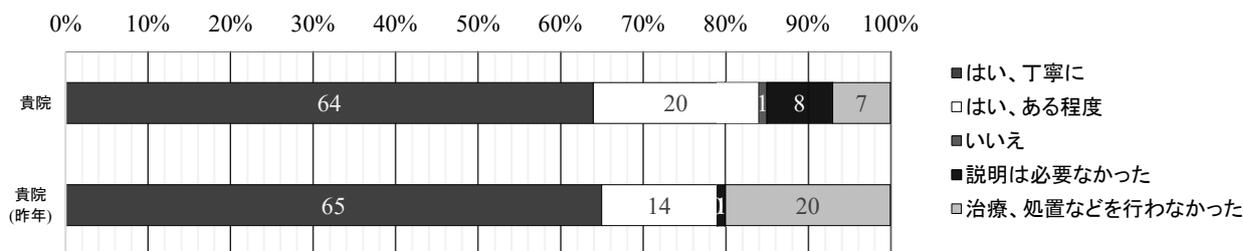
⑦治療前に医師は、治療内容の説明をしましたか？



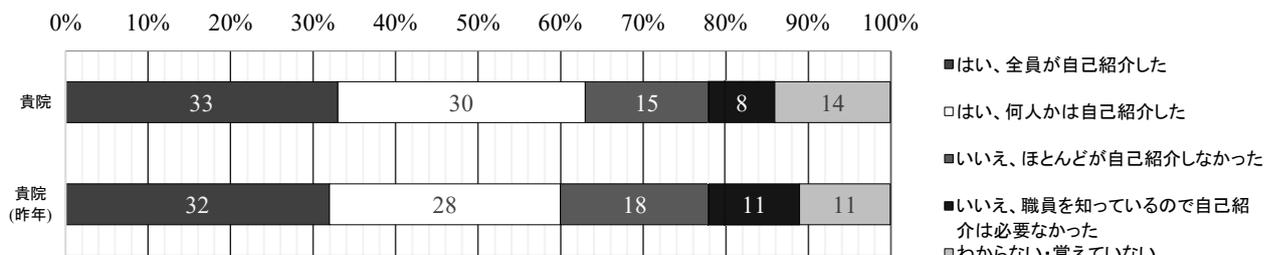
⑧あなたは、話したかったことを医師に十分に伝えられましたか？



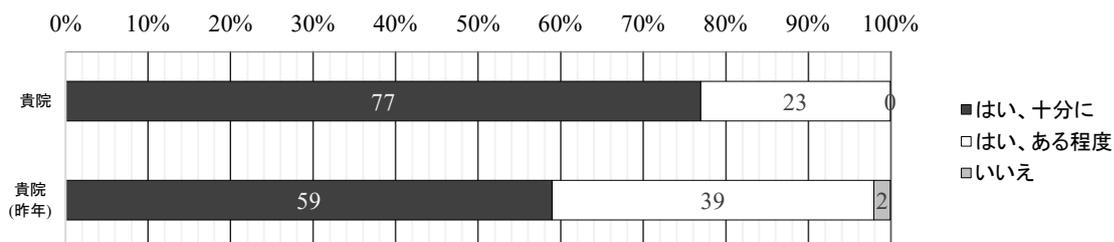
⑨医師はあなたが理解できる方法で、治療や処置の理由を説明しましたか？



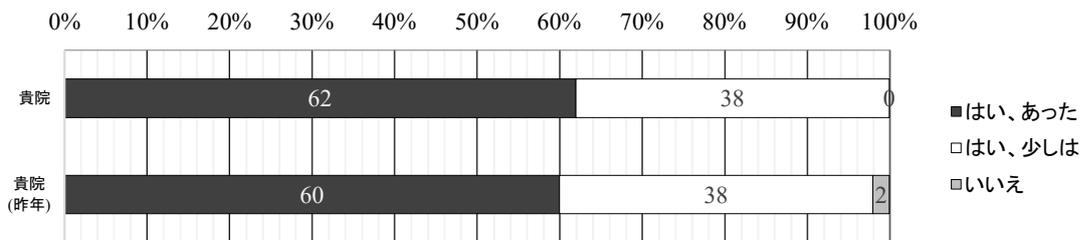
⑩診療に関わる職員は自己紹介しましたか？



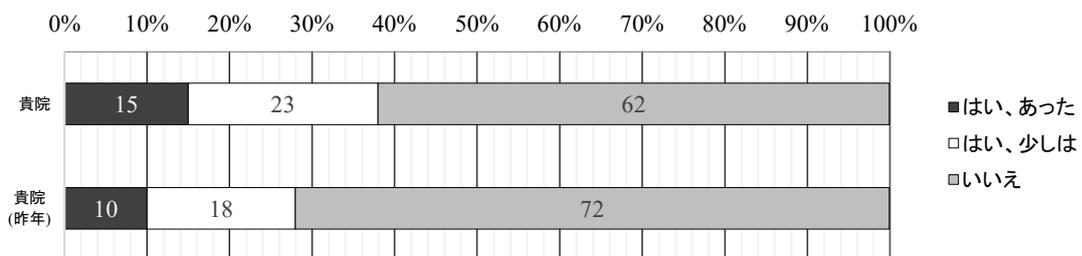
⑪職員はあなたに誠実に対応しましたか？



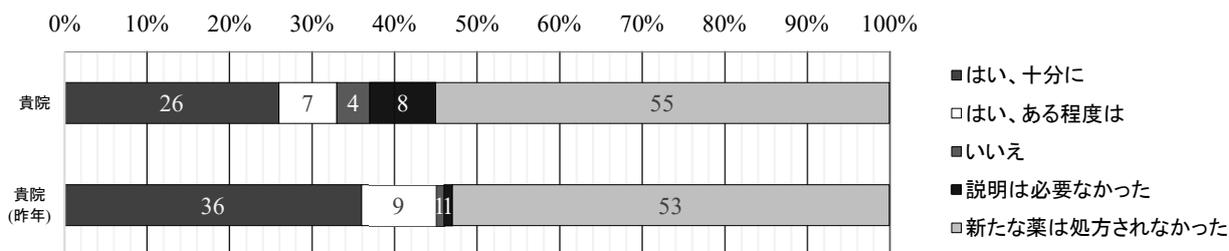
⑫あなたの意思が治療方針に十分反映されたと感じましたか？



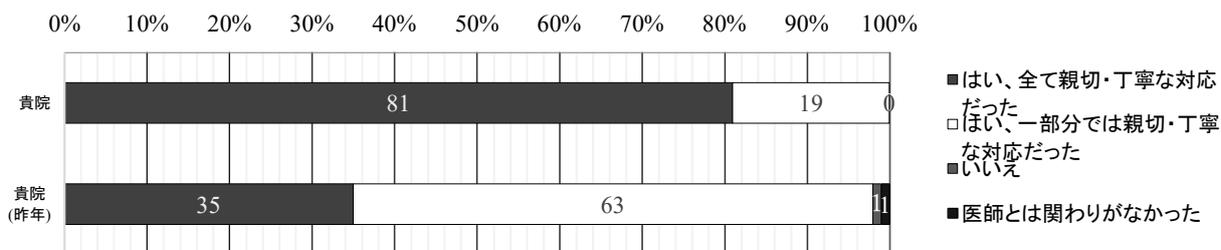
⑬あなたは、伝えられる情報が職員によって異なっているという経験がありましたか？



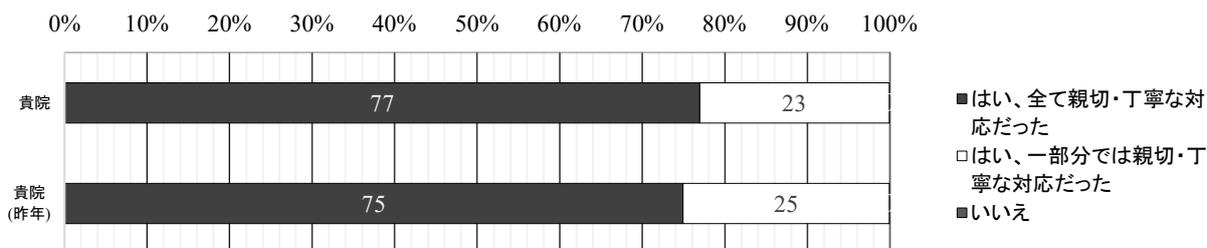
⑭医師や職員は新たな処方薬を服用する方法を説明しましたか？



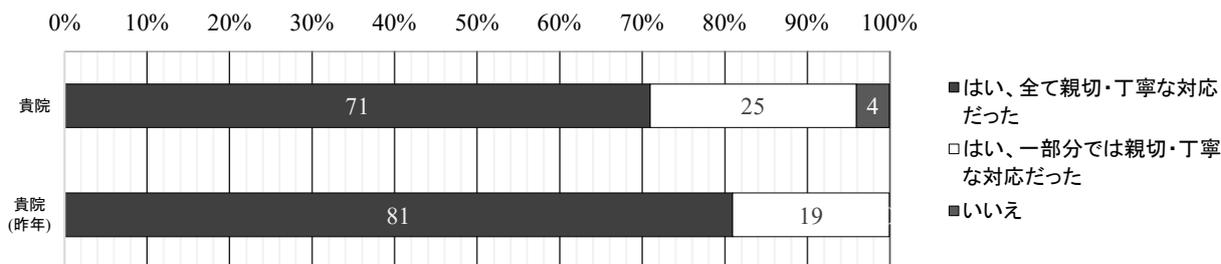
⑮医師の対応は親切・丁寧な対応でしたか？



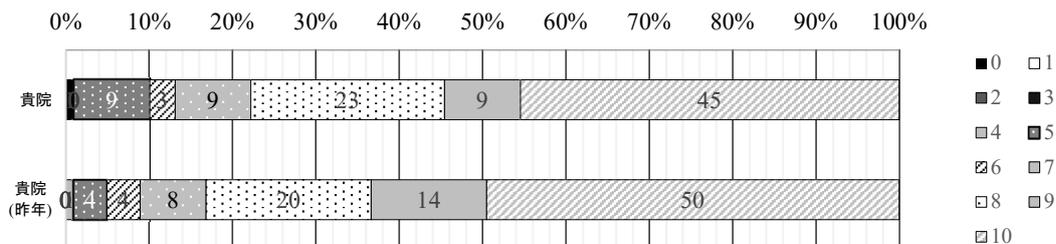
⑯看護師の対応は親切・丁寧な対応でしたか？



⑰医師・看護師以外の職員の対応は親切・丁寧な対応でしたか？



⑱当院の外来経験はあなたにとって価値のあるものでしたか？



4) 結果

NHA 調査分析から入院患者について以下の報告があった

- ・全体で 83 施設中 56 位、昨年度 B レベルから C レベルに下がり、スコアも 56.63 で平均スコア 59.85 を若干下回った。
- ・薬剤に関するスコアの低下は、新薬の処方の割合が少ないことも要因の 1 つと考えられる
- ・環境について同室者の影響が考えられる

外来調査は昨年度とほぼ同様の結果だった。待ち時間における設間では 72%が 1 時間未満となり、昨年度の 85%を下回った。

V まとめ

今年度は QR コードを利用した WEB アンケートを併用した。昨年と比較し、看護職員、医師とのコミュニケーション等、各カテゴリの評価は向上したが、総合評価では低い数値となり、他院と比較したスコアでは平均を 3.2 下回る評価であった。昨年度同様、薬剤に関するコミュニケーションが課題となったことは、改善の繋がっていなかったと考える。選ばれる病院になるための更なる改善に努めていきたい。

(サービス向上委員会)

17. 母子保健室

(1) はじめに

当室は、昭和 57 年のセンター開院時から『高度医療を背景として、保健所や市町村の母子保健に対する専門的保健指導を担う部門』として設置され、現在、子どもたちの健やかな成長と発達を支援することを理念とし、入通院児をもつ家族支援に対応するため、多様な相談を受けつつ関係機関との連絡調整機能を担っている。

令和 5 年度の母子保健室の室員は、室長 (院長が兼務)、保健師 2 名 (駐在 1 名・駐在会計年度職員 1 名) の 3 名体制で、地域医療連携室の MSW や在宅療養支援師長と連携しながら相談業務に従事している。

近年、社会情勢の変化や家族背景が変化している中、虐待予防も見据えて院内外関係者の多くの協力をいただきながら関係機関との連絡調整や支援会議を開催するなど、緊急性と継続支援の必要性が高い案件がますます多くなっている。このため、院内各部門及び地域の保健・福祉・教育関係者等と適時に協議しながら連携を深め家族支援を行っている。

(2) 令和 5 年度実績

①精密健康診査

市町村の乳幼児健康診査の結果、精密検査該当で受診した児について、必要に応じて市町村保健師と連携を図り、受診結果の把握及びその後の支援を行っている。

令和 5 年度の受診者は 78 人で、この内、異常なし 17 人 (21.8%)、要観察 48 人 (61.5%)、要治療 11 人 (14.1%)、他医療機関紹介 2 人 (2.6%) で外来や市町村でフォローアップしている。

②新生児・未熟児病棟入院児の退院連絡

退院後の養育状況の把握と育児支援を目的として、市町村保健師に家庭訪問を依頼している。継続支援には地域との連携が不可欠であり、令和 5 年度の訪問依頼件数は 121 件であった。訪問依頼への返信数は 102 件。

情報提供書として退院後 2 週間以内に市町村に連絡することを目標に各病棟や医事課スタッフと連携して早期に連絡できるよう努力している。

③育児相談及び関係機関との連携状況

育児に関わる一般的な相談をはじめ、療育や受診に関わる相談と支援に伴う関係機関との調整を行っている。内訳をみると、家族からの相談が 427 件、市町村との連携が 402 件、院内関係部署との連絡調整が 238 件であった。支援や事業に伴う関係機関との連絡総数は 1,187 件で、連絡方法別にみると、電話が 876 件、面接が 311 件であった。

④関係機関連携会議

環境等の調整が必要な家庭の支援のため、地域機関 (市町村、児童相談所、学校、保育所等) との間で連携会議を開催しており、令和 5 年度は 18 回開催した。

⑤子ども虐待防止対策事業 (母子保健室・地域連携室)

地域医療連携室と協働で事務局を担っている。院内虐待防止委員会のもと緊急対応や虐待防止に向けての研修会などを開催した。

⑥ 臨床心理士による発達検査

当院は総合周産期母子医療センターの機能をもつことから、極低出生体重児全員の成長発達確認（1歳6か月・3歳・6歳時点の発達検査等）及びその他主治医が必要とした児の心理検査を行い、必要に応じて地域との連携を行っている。

令和5年度における心理検査は、対象112名で延べ160検査、新生児科からの依頼が85%、続いて子どものこころ診療科からの依頼が9%、神経内科からの依頼が6%であった。

⑦ 産後ケア事業

令和元年度から産後ケア事業を受け入れ産科病棟で開始された。実施主体は市町村であるため、利用する場合の市町村等への連絡調整を行った。

⑧ 研修会等

看護大学学生への実習中の講義等を適時行っている。

院内では看護部の新規採用職員研修、院外では群馬大学保健学科ではゲスト講師、医療的ケア児等コーディネーター養成研修、渋川看護学校での講師なども勤めた。

⑨ 先天性代謝異常等検査

本事業の事務局として、患者情報の管理（精密検査対象児及び継続治療児等のフォローアップ）を行っている。平成25年10月からタンデムマス法検査の導入がされ、現在、発見可能な疾患が20疾患となっている。R5年度の先天性代謝異常等検査検討会では、ロタワクチンが開始になって以降、全国的な動きとして拡大スクリーニング検査として2疾患（重症複合免疫不全症、脊髄性筋委縮症）を導入する自治体が増えている中、群馬県としても導入に向けての協議が行われた。

(3) まとめ

母子保健室はセンター開院時から病院と地域との橋渡し役として、多くの保護者から相談を受け、相談内容に応じて関係機関との連絡調整の役割を担ってきた。

特に、ここ数年は未受診妊婦、育児経験不足（養育力低下）、家庭環境不全、育児支援者の不在、経済的困窮等の要支援家庭の増加や、障害受容が困難な家族、虐待事例等、児童相談所等の関係機関との調整や家族支援に時間を要するハイリスク事例がますます増加している。

産後ケア事業においては、産科病棟等と協力し、当院で出産した産婦さん方の必要なフォローのため市町村等の連絡調整に努めている。

今後も疾患を抱えながら成長していく子どもたちと見守るご家族が安全かつ安心して日常生活が過ごせるよう、ひとり一人の相談に真摯に向き合い、主治医と相談しながら母子保健室ならではの多職種チームとして得意分野を最大限発揮した相談体制に努め、関係セクションとの協働を継続し、地域の関係機関との連携を強化していきたい。

(吉野日茄乃)

18. 地域医療連携室

【組 織】

地域医療連携室は2階のリハビリテーション室隣に新設後6年目を迎えた。地域医療連携室(相談窓口)にはメディカルソーシャルワーカー(MSW)2名、在宅療養支援担当の看護師長1名、入院支援加算3の専任看護師1名が常時、勤務している。在宅療養・退院に向けた支援、福祉制度の案内、心配事やお困り事の相談などを受けている。患者様をご紹介いただく窓口(予約・受付窓口)は受付の地域医療連携担当が受けて地域医療連携室長および当該科医師と相談して対応している。毎週、金曜日午前には定例の患者サポートカンファレンスを行っている。医療連携のより一層の充実に向けて取り組みをすすめている。

(野村 滋)

【活 動】

(1) 医療相談件数

①相談内容及び件数(地域医療連携室)について

相談件数として最も多かったのは[転院・退院・入所]であり、総計1,549件であった。第一病棟・新生児病棟・外来からの相談が多く、新生児病棟からの退院や一般病棟への転棟、成人移行期支援、福祉施設への入所の調整などが含まれている。次いで多かった相談が[福祉サービス]であり、総計1,271件となった。外来からの相談が約74%を占めており、身体障害者手帳や特別児童扶養手当、障害児福祉手当、児童発達支援事業所・放課後等デイサービス、相談支援事業所の案内等の相談があった。[その他]も総計1,167件と件数が多く、虐待対応等、患児に関して院内外の他職種・他機関とのやりとりが含まれていた。

また[退院後フォロー][訪問看護][医療給付費制度]の相談件数も多かった。[退院後フォロー]は総計897件。地域医療連携室には入院支援加算3の専任看護師が在籍しており、新生児科から退院した患児が初回外来に来た際、面談を実施している。その後も継続して面談をおこなっているため、令和5年度の[退院フォロー]のうち面談が約86%を占めた。[訪問看護]では利用者の多い第一病棟・第三病棟、さらに訪問看護と連携して在宅療養支援をおこなっている外来からの相談が多かった。[医療給付制度]では外来・第三病棟・新生児病棟からの相談が多く、外来・第三病棟では小児慢性特定疾病医療給付の案内や自立支援医療(育成医療)の案内、新生児病棟では未熟児養育医療制度の案内が主であった。

(2) 子ども虐待防止対策事業

①院内CAPS開催状況

院内で虐待が疑われる事例が生じた場合、虐待対応チームのコアメンバーを緊急招集し、緊急CAPSを開催する。令和5年度は計11回おこなわれた。ここでは事例の概要を共有し、児童相談所への通告・相談について検討した。

また、一つの事例に対して複数回会議を開催することもあった。そのような事例では、院内の虐待対応チームだけでなく、児童相談所や市町村の保健師、警察等との連携も図り、その後の対応について協議した。

②要支援事例検討会状況

奇数月の第二水曜日 17時から開催。令和5年度に事例として扱った延べ人数は37名であり、月齢・年齢としては[高校生・その他]が10名、分類としては〈養育環境〉が19件と最多であった。これらの理由として、特定妊婦への継続した支援をおこなったことが挙げられる。未婚や経済的困窮、親族からの支援体制の不足等、様々な課題を抱える妊婦・家族に対し、他職種・他機関と連携しながら支援をおこなった。また、産後は児の名前で要支援事例となるため、[1～6か月]の児の延べ人数も必然的に多くなった。[3歳～学齢前児童]も〈養育環境〉が気になるとして複数の事例が挙がり、継続的に支援をしたため、延べ人数が8名と他の年代よりも多くなった。

当検討会では、それぞれの事例に対して、今後の対応を複数のスタッフで検討している。また、地域医療連携室では、検討会後や要支援事例として終結した後も、継続してケース支援できるよう心掛けている。

③職員向け虐待対応研修

虐待対応チームでは、養育支援体制を確保するための職員研修を年2回実施している。

第1回は神経内科・子どものこころ診療科の森田孝次医師による研修動画を配信。内容としては当院の虐待対応チームの活動紹介であり、321名が受講し、参加率は71.5%となった。

第2回は昭和大学大学院保健医療学研究科准教授／院内学級「さいかち学級」担当の副島賢和先生をお呼びし、『傷つきからの回復に必要なかわり「自尊感情を育む」～院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと～』をテーマに研修会を開催。会場参加者と後日動画視聴者、合わせて374名が受講し、参加率は84.4%となった。

(3) 支援会議実施状況

地域医療連携室主催の支援会議は計45回。会議の内容としては〈在宅支援〉が最も多く24件であった。その中でも[3歳～学齢前児童]が7名、[1～2歳]が5名と、他の年代よりも多く会議がおこなわれた。〈その他〉も13件と多く、具体的な内容としては保育園・児童発達支援事業所入所や成人期移行のための会議、一時保護中の患児についての関係者会議などがおこなわれた。出席者を見ると、家族56名・市町村29名・児童相談所11名・学校関係7名・訪問看護52名・相談支援専門員31名・児童発達支援事業所／放課後等デイサービス20名・保育園13名・その他29名。その他には医療的ケア児等支援センターの職員や在宅医等が含まれている。

(4) 患者サポート会議実施状況

患者サポート会議とは、患者サポート体制充実加算（医療従事者と患者との会話を促進するため、患者又は家族等に対する支援体制を評価した加算）の算定のための会議である。地域医療連携室では原則、毎週金曜日9:30～開催しており、令和5年度は年間37回の開催で、対象患児の延べ人数は277名となった。

(綾部朱莉)

19. 医療安全管理室

1. 令和5年度医療安全管理体制

医療安全管理室長 副院長兼 河崎裕英

専任安全管理推進者 (ゼネラルリスクマネージャー: GRM) 看護師長 大平典子

非常勤職員 1名

委員会等	開催日	構成員	令和5年開催実績
医療安全管理委員会 <医療安全管理体制の方針決定機関> 委員長：河崎副院長 副委員長：大平 GRM	原則毎月 第2火曜日	29名	定例12回
死亡症例検討委員会 委員長：河崎副院長 副委員長：野村医療局長	原則月1回 開催日随時決定	23名	10回開催
リスクマネジメント委員会 <医療安全対策の実行機関> 委員長：大平 GRM 副委員長：福島看護師長	原則毎月 第3水曜日	28名	定例12回
看護部リスクマネジメント委員会 <看護部内の医療安全対策検討> 委員長：大平 GRM 副委員長：福島看護師長	原則毎月 第3水曜日	11名	定例12回
患者相談窓口	責任者：河崎副院長		相談件数11件

2. 令和5年度医療安全講演会・研修開催状況

対象	開催日	参加人数	参加率	テーマ・内容	講師
全職員 対象	R5.6.22	451	98.3%	応召義務 SNS・インターネットとの 関わり方の注意点	水沼直樹 病院局法律相談弁護士
	R5.9.21～10.20	420	94.8%	患者確認と指差呼称	e-ラーニング
	R5.5.8/18/19	142	43.0%	統一救急カート勉強会	下山伸哉 部長 木島久仁子 主幹 田村芳子 主任 富樫哲雄 主任
医療局 看護部	R6.3.19～3.29			臨床工学課インシデントレポートま とめ	臨床工学課 高橋祐樹 主任
	R6.3.19～3.29			MRI 安全研修	放射線課 大川夏輝 放射線技師
医師 看護師 技術部 (栄養リ ハ以外) 薬剤部	R6.3.15			医療ガスに係る安全管理のための職 員研修	医療ガス安全管理委員会
看護部	R5.6.12			KYT 危険予知訓練 研修、今年度の目標	
	R6.2.16～2.22			KYT 危険予知訓練・取り組み報告 (ポスター掲示)	
コメディ カル	R6.2.28			BLS 研修	

3. 医療事故及びヒヤリ・ハット事例調査集計

1) 医療事故及びヒヤリ・ハット報告数

969 件。R4 年度比較 161 件増加 (19.9%増) 3b: 3 件 レベル 4 以上の発生なし。
年間件数は増加したが、全体の 83%はレベル 1 以下であった。

2) 項目別発生割合

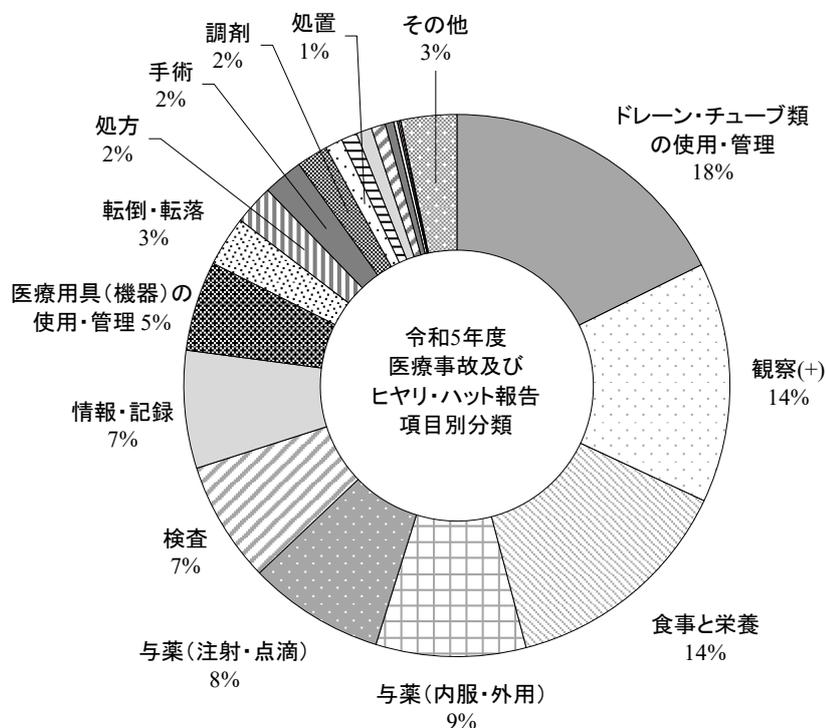
①ドレーン・チューブの使用管理 18% ②観察 14% ③食事と栄養 14%の順。

3) 事故発生日時

平日日勤 10 時～11 時台の発生ピークに変化はなく、夜勤での発生割合も変わりなかった。

4) 患者誤認

23 件発生 (8 件増加)。すべて 0～1 レベルであった。医師が関係したもの 3 件(13%)、看護部 15 件 (65%)。内容は、①記録・情報、②検査が多かった。



	レベル	0	1	2	3a	3b	4a	4b
	件数							
ドレーン・チューブ類の使用・管理	171	17	70	58	24	2	0	0
観察 (+)	139	32	74	31	1	1	0	0
食事と栄養	135	98	34	2	1	0	0	0
与薬 (内服・外用)	86	34	48	3	1	0	0	0
与薬 (注射・点滴)	78	22	48	8	0	0	0	0
検査	70	37	22	10	1	0	0	0
情報・記録	68	55	13	0	0	0	0	0
医療用具 (機器) の使用・管理	52	20	28	4	0	0	0	0
転倒・転落	29	0	28	1	0	0	0	0
処方	23	14	9	0	0	0	0	0
手術	23	8	12	3	0	0	0	0
調剤	18	16	2	0	0	0	0	0
処置	10	0	7	2	1	0	0	0
環境整備	9	4	4	0	1	0	0	0
説明	9	7	2	0	0	0	0	0
輸血	8	6	2	0	0	0	0	0
感染防止	5	0	5	0	0	0	0	0
事務	2	1	1	0	0	0	0	0
麻酔	1	0	1	0	0	0	0	0
リハビリテーション	1	1	0	0	0	0	0	0
分娩	0	0	0	0	0	0	0	0
排泄の介助	0	0	0	0	0	0	0	0
清拭・入浴介助等	0	0	0	0	0	0	0	0
移送	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科医療用具 (機器)・材料の使用・管理	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	32	14	16	1	1	0	0	0
合 計	969	386	426	123	31	3	0	0

4. 患者・家族相談件数

相談内容	件数
医師に関する事	2件
看護に関する事	6件
	計8件

5. 医療安全地域連携加算に係る相互評価

日 程	評価を実施した施設	評価を受けた施設
令和5年 11月30日	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター	加算Ⅰ 群馬県立がんセンター
令和5年 12月7日	加算Ⅰ 群馬県立がんセンター	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター
令和6年 2月8日	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター	加算Ⅱ 北関東循環器病院

6. リスクマネジメント委員会活動

委員長: 大平 典子

副委員長: 福島 富美子

委員: 松永部長 (心外)、山口岳史部長 (外科)、市之宮部長 (新生児)、石北医長 (血腫)、森田部長 (内科)、廣木部長 (麻酔)、上原医長 (産科)、新井部長 (循環器)、狩野主幹 (第一)、黒岩主幹 (第二)、横尾主幹 (第三)、松田主任 (NICU)、高橋副主幹 (GCU)、小池主幹 (産科)、小林主幹 (OPE)、藤井主幹 (PICU)、大谷主幹 (外来)、高木技師 (薬剤部)、奥村技師 (検査)、木村主任 (放射線)、中野主任 (栄養)、小野寺主任 (リハビリ)、高橋主任 (CE)、楠技師 (歯科)、高尾総務課長 (事務局)、オブザーバー河崎副院長

1) 活動内容

(1) 事故及びヒヤリ・ハット報告の周知、問題の共有、対策検討、知識の修得

(2) WG 活動

フィッシュ活動	THANKS カードの運用の検討・活用推進、便りの発行
TeamSTEPPS®	コミュニケーション向上の取り組み、アンケート、便り発行
災害対策	院内ラウンド、災害研修、備蓄品試食会、災害訓練、便り発行
5S 活動	院内ラウンドによる評価、5S 活動発表会

7. 今後の課題

- 1) ラウンドによる確認行動の質の維持向上
- 2) 各部署の取り組みの支援強化
- 3) TeamSTEPPS® のコミュニケーションツールの活用

(大平典子)

20. 感染対策室

1. 令和5年度感染対策体制

感染対策室長 清水彰彦 (ICD) (兼任)

感染対策医師 小泉亜矢 (ICD) (兼任)

専従感染対策担当看護師 (感染管理認定看護師: ICN) 北爪幸子 (R5.4~R6.1)
石川さやか (R6.2~R6.3)

感染対策担当検査技師 松村雅寛 (兼任)

感染対策担当薬剤師 高橋大輔 (兼任)

2. 委員会活動報告

委員会等	開催日	構成員
院内感染対策委員会 ＜感染対策体制の方針決定機関＞ 委員長: 清水彰彦 副委員長: 小泉亜矢	毎月第4水曜日	46名
ICT委員会 ＜感染対策の実働＞ 委員長: 清水彰彦 副委員長: 小泉亜矢	毎月第1火曜日	25名
リンクナース会 委員長: 北爪幸子 (R5.5~R6.1) 石川さやか (R6.2~R6.3)	毎月第3月曜日	10名

1) 院内感染対策委員会活動

委員会は毎月開催で年12回開催された。活動内容として、細菌ウイルス検出状況・抗菌薬使用状況報告・血流感染/SSIサーベイランス報告・AST活動・ICT活動の報告が実施された。

2) ICT委員会活動

委員会は第1週の火曜日で年11回開催された。活動内容として、院内の感染状況報告・細菌・ウイルス検出状況・抗菌薬使用状況の報告・ICTラウンド報告・研修内容の検討、清掃満足度調査、手指衛生強化月間活動、相互チェック対応・改善活動等を実施した。

3) リンクナース会活動

活動目標を「各部署における感染対策活動が実施できる」として活動を実施した。

手指衛生他者評価年2回実施、ICTラウンド結果・自部署の感染管理上の問題点・改善計画を立案し、改善を実践した。またCOVID-19対応では5類移行後、各部署でCOVID-19患者受け入れ体制や手順書を修正し、陽性者・濃厚接触者の受け入れができた。手指消毒薬使用量調査結果を部署ごとへ報告し、今年度は過去5年間で使用量が一番多い年度となった。

3. 感染対策室活動報告

1) 感染防止対策カンファレンス

開催日	主催	内容	備考
6月16日	群馬県感染症対策連絡協議会	令和5年度群馬県感染症対策連絡協議会総会・特別講演会	WEB開催・共催
8月25日	小児医療センター	令和5年度 渋川地区 感染対策カンファレンス	共催
9月8日	渋川医療センター	令和5年度 渋川地区 新興感染症等を想定した訓練	共催
11月10日	渋川医療センター	令和5年度 渋川地区 感染対策カンファレンス	共催
12月15日	小児医療センター	令和5年度 渋川地区 新興感染症等を想定した訓練	共催

2) 相互チェック

開催日	評価を実施した施設	評価を受けた施設
令和5年6月23日(金)	群馬中央病院	小児医療センター
令和5年6月30日(金)	小児医療センター	群馬県済生会前橋病院

3) ICT ラウンド

毎週木曜日に病棟(第一・第二・第三・産科・NICU・GCU・PICU)は毎週、技術部(検査課・リハ課・放射線課・CE課)・薬剤部・外来・手術室は月1回ラウンドを実施した。標準予防策実施状況・環境清掃状況・感染対策物品管理状況などを確認した。毎回報告書を作成し、ラウンドを実施した部門へ配布し改善を求めた。相互チェックで指摘された項目もラウンド項目に追加し、改善できた。

4) AST 活動

令和5年度のAST活動について、医師からコンサルトがあった症例・重症感染症・抗菌薬や投与量の変更が必要な患者等に随時介入した。広域抗菌薬・抗MRSA薬使用患者・菌血症患者等においては、週1回の特定抗菌薬ラウンドを併せて実施した。ラウンド対象患者は延べ145名、うち38名が菌血症と多くみられ、培養結果から適切な抗菌薬・投与量の選択に繋げることができた。

具体的には、延べ入院患者1,000人あたりの抗菌薬使用頻度(DOT)について、カルバペネム系抗菌薬DOT:平成29年の23.93から令和2年:1.58と低下した。令和3年:2.83、令和4年:6.70と再び上昇傾向にあったが、令和5年は2.47に再び改善した。平成30年には21%迄上昇した緑膿菌のカルバペネム耐性率は10%迄以下と改善がみられている。

DOTでもう1点特筆すべきは、バンコマイシンを始めとした抗MRSA薬DOTの低下である。平成29年から令和4年迄、16.24~21.14で推移をしていたが、令和5年は5.71と劇的に低下した。多くの原因が考えられるが、感染対策は勿論のこと、感染症focusを考慮した診療・培養の採取・早期の抗菌薬適正化等の積み重ねにより、この結果が出たと考えられる。

5) 研修開催状況

(1) 全職種対象

開催日	内 容	講 師	参加人数	備考
6月7日から 7月11日	手指衛生研修	ICT/ICT リンク委員	510名	参加率 98.6%
10月23,24,25日 (10/17～10/31 動画 視聴)	個人防護具着脱につい て	北爪看護師	501名	参加率 96.7%

(2) AST 研修

開催日	内 容	講 師	参加人数	備考
2023年10月23・ 24・25日 (10/23～11/22 動画視 聴)	AME アクションプラン 2023～2027	高橋薬剤師	501名	
2024年1月19日 (2/24～3/10 動画視 聴)	感染症と抗菌薬の基本	清水彰彦医師	204名	当日参加 54名

(3) 部門別研修

開催日	内 容	講 師	参加人数	備考
4月10日	感染症と感染対策	清水彰彦医師	28名	新入職・異動者
4月12日	小児の感染対策	北爪看護師	28名	新入職・異動者
7月31日	看護助手研修	北爪看護師	16名	看護助手
10月30日	ラダー別研修	北爪看護師	17名	新人・異動者

6) 新型コロナウイルス関連

- (1) 新型コロナウイルスマニュアル修正
- (2) 新型コロナウイルス患者入院受け入れ対応
- (3) 病院間調整センター・保健福祉事務所・保健予防課等との調整・報告
- (4) 発熱外来・陽性者外来対応
- (5) 新型コロナウイルスワクチン接種対応 (職員・小児)
- (6) 診療材料・個人防護具等の備蓄物品管理
- (7) 新型コロナウイルス定例会議開催 (毎週～隔週開催)
- (8) 職員濃厚接触者・陽性者対応
- (9) 感染症発生届提出対応

7) その他

- (1) 感染対策マニュアル改訂
- (2) アウトブレイク対応
- (3) 広報活動: ICT 日より 5 回発行
- (4) 病院局感染対策担当者会議出席
- (5) 外来患者インフルエンザワクチン接種調整

- (6) 職員抗体価検査結果管理・ワクチン接種対応
- (7) 外部施設への感染対策実施指導
- (8) 感染対策相談対応
- (9) 院外講師

開催日	主 催	内 容	担 当 者
6月20日	群馬県健康福祉部介護高齢課	令和5年度管理者等向け感染症対策研修	北爪看護師
7月3日	渋川保健福祉事務所	令和5年度第1回感染症対策研修会	北爪看護師
8月31日	高崎健康福祉大学	流行性ウイルス感染症 疾患の理解と予防、暴露後の対応	清水彰彦医師
9月5日	前橋市保健センター プリミークラブ	こどもの風邪とホームケア	清水彰彦医師
11月15日	県立赤城養護学校小児センター校	現在流行中の感染症 嘔吐物処理について	北爪看護師

(北爪幸子)

研究研修編

1. 学会報告

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 道和百合, 山口 有, 椎原 隆, 高須倫彦, 鈴木江里子, 森田孝次, 渡辺美緒. マイクロアレイ染色体検査で診断に至った非典型的な症状をもつ9トリソミーモザイク. 第65回日本小児神経学会学術集会, 岡山, 2023. 5. 25.

<循環器科>

- 1) 中島公子, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 池田健太郎, 下山伸哉. 群馬県の先天性心疾患患者における移行支援外来の現状と課題. 第126回日本小児科学会学術集会, 東京, 2023. 4. 14-16.
- 2) 中島公子, 関 満, 畠山信逸, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 下山伸哉, 岡 徳彦, 岡村 達, 池田健太郎. Fontan 循環関連肝臓病 (Fontan-associated liver disease:FALD) と Fontan 周術期因子との関連性. 第123回日本外科学会定期学術集会 (ワークショップ), 東京, 2023. 4. 28.
- 3) 中島公子, 関 満, 畠山信逸, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 池田健太郎, 下山伸哉, 畑岡 努, 松永慶廉, 岡村 達. Gd-EOB-DTPA を用いた造影 MRI による Fontan 術前後の肝病変の変化とその関連因子. 第59回日本小児循環器学会, 横浜. 2023. 7. 5-8.
- 4) 池田健太郎, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉, 中村紘規, 佐々木健人, 内藤滋人. リード抜去を前提としてTV-ICDを留置後成長に伴いリード抜去・再留置を行った1例. 第59回日本小児循環器学会総会・学術集会, 横浜, 2023. 7. 6.
- 5) 下山伸哉, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 池田健太郎. 先天性心疾患症例における胆道閉鎖合併の術後遠隔期の検討. 第59回日本小児循環器学会, 横浜, 2023. 7. 7.
- 6) 浅見雄司, 稲田雅弘, 新井修平, 中島公子, 池田健太郎, 下山伸哉, 豊田真寿, 松永慶廉, 岡村 達. ファロー四徴症／肺動脈弁欠損における胎児期の肺動脈径と気道症状の考察. 第59回小児循環器学会, 横浜, 2023. 7. 8.
- 7) 渡辺栄一郎, 西 明, 下山伸哉, 清水真理子. Helicobacter pylori 感染と好酸球性胃腸炎が原因と考えられる幼児の十二指腸潰瘍穿孔の一例. 第36回日本小児救急医学会, 幕張, 2023. 7. 23.
- 8) Nakajima K, Seki M, Hatakeyama S, Inada M, Arai S, Asami Y, Ikeda K, Shimoyama S. Perioperative low cardiac output and high central venous pressure resulting in liver abnormality following the Fontan procedure: Evaluation with Gd-EOB-DTPA-enhanced magnetic resonance imaging. 8th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery. USA, Washington DC, Aug 27- Sep 1, 2023.
- 9) 池田健太郎, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉. 術後三尖弁狭窄症に対するバルーン拡張術の経験, 第1回 UEDICC, 福岡, 2023. 9. 8.
- 10) 中島公子, 清水彰彦, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 池田健太郎, 清水真理子, 野村 滋, 下山伸哉. COVID-19 罹患中に心筋障害を合併した不全型川崎病の7歳男児. 第43回日本川崎病学会, 大阪, 2023. 9. 30-10. 1.
- 11) 浅見雄司, 池田健太郎, 佐藤充人, 加藤修明, 稲田雅弘, 新井修平, 中島公子, 下山伸哉. 心アミロイドーシスとの鑑別に難渋した拘束型心筋症の一例. 第32回日本小児心筋疾患学会・第42回日本小児循環動態研究会合同学術集会, 札幌, 2023. 10. 28.
- 12) 池田健太郎, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉. 治療に難渋しているPAVSD／MAPCAの1例. 第10回 informal JCIC 関東甲信越研究会, 東京, 2023. 11. 19.
- 13) 池田健太郎, 内藤滋人, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉. 右室を下降し中隔を上行する電位が記録できた右側副伝導路WPW症候群の1例. 第27回日本小児心電学会学

術集会, 広島, 2023. 12. 8.

- 14) 池田健太郎, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉. 経大腿静脈右室心内膜心筋生検における可変式ロングシースの有用性. 第 34 回 JCIC 学術集会, 名古屋, 2024. 1. 25.
- 15) 浅見雄司, 田中健佑, 稲田雅弘, 新井修平, 中島公子, 池田健太郎, 下山伸哉, 京谷琢治. 胎児心エコーで確定診断ができなかった肺静脈低形成を呈する総肺静脈還流異常症の一例. 第 30 回日本胎児心臓病学会, 東京, 2024. 2. 17.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 群馬県における近年の母乳育児率の推移に関する検討. 第 126 回日本小児科学会学術集会, 東京, 2023. 4. 16.
- 2) 丸山憲一. 群馬県の町村部における母乳育児率の検討. 第 59 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 名古屋, 2023. 7. 9.
- 3) 鍋木浩太, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 宮川陽一. 経過中に α -フェトプロテインの急激な上昇を認め診断に苦慮した肝腫瘍の一例. 第 59 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 名古屋, 2023. 7. 10.
- 4) 丸山憲一, 小泉亜矢, 吉野日茄乃, 中林千晶. 群馬県版リトルベビーハンドブック (LBH) の紹介. 第 222 回日本小児科学会群馬地方会講和会, 前橋, 2023. 7. 30.
- 5) 市之宮健二, 宮川陽一, 鍋木浩太, 小泉亜矢, 山口 有, 堀尚明, 丸山憲一. 肥厚性幽門狭窄症を合併した Smith-Lemli-Opitz 症候群の 1 例. 第 222 回日本小児科学会群馬地方会講和会, 前橋, 2023. 7. 30.
- 6) 鍋木浩太, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 宮川陽一, 小柳晴加. 当院における在胎 22 週~25 週児の管理. 第 17 回 NRNJ Database Quality Improvement Conference, 東京, 2023. 9. 16.
- 7) 丸山憲一. 群馬県の人口動態統計から推測する救急隊が対応を要する施設外出生数の推移. 第 29 回群馬県救急医療懇談会, 前橋, 2023. 9. 17.
- 8) 小柳晴加, 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一, 木村有希, 京谷琢治, 山口有, 浅井伸治. 胎児期より特徴的所見を指摘された点状軟骨異形成症 (CDP) の 2 例. 第 39 回群馬周産期研究会, 前橋, 2023. 9. 30.
- 9) 小泉亜矢, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一, 小柳晴加, 丸山憲一. 急性期離脱後の極低出生体重児における血糖値の変動と血清亜鉛値との関連性. 第 67 回日本新生児成育医学会学術集会, 横浜, 2023. 11. 3.
- 10) 木村有希, 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一, 小柳晴加. 胎児 MRI で認められた左異形成腎を契機に診断に至った VATER 症候群の 1 例. 第 67 回日本新生児成育医学会学術集会, 横浜, 2023. 11. 3.
- 11) 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一. 当科における計画外の施設外分娩で出生した極低出生体重児の検討. 第 67 回日本新生児成育医学会学術集会, 横浜, 2023. 11. 3.
- 12) 小柳晴加, 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一, 木村有希, 京谷琢治, 山口有, 浅井伸治. 胎児期より特徴的所見を指摘された点状軟骨異形成症 (CDP) の 2 例. 第 67 回日本新生児成育医学会学術集会, 横浜, 2023. 11. 3.
- 13) 土橋里美, 小柳晴加, 宮川陽一, 鍋木浩太, 市之宮健二, 小泉亜矢, 篠原正樹, 横川英之, 山口岳史, 渡辺栄一郎, 西 明, 丸山憲一. 腸瘻造設後肛門側腸管に壊死性腸炎を発症した長域型 Hirschsprung 病の 1 例. 第 223 回日本小児科学会群馬地方会講和会, 前橋, 2023. 12. 10.

- 14) 市之宮健二, 小柳晴加, 宮川陽一, 鍋木浩太, 小泉垂矢, 丸山憲一. 薬剤性胎児腎不全により肺低形成をきたした極低出生体重児例. 第 224 回日本小児科学会群馬地方会, 桐生, 2024. 3. 10.

<アレルギー・リウマチ科>

- 1) 西澤拓哉, 石毛崇, 熊谷秀規, 藤田雄治, 野村滋, 滝沢琢己. 群馬県・栃木県における小児期発症炎症性腸疾患の罹患率調査 2023. 第 126 回日本小児科学会学術集会, 東京, 2023. 4.
- 2) 清水真理子, 奥野由佳子, 清水彰彦, 西 明, 野村 滋, 山田佳之. 好酸球性消化管疾患・好酸球性肺炎 過去 4 年間に当院で活動性の消化器症状があり内視鏡検査を行った症例の検討. 第 72 回日本アレルギー学会学術集会, 東京, 2023. 10.
- 3) 清水真理子, 奥野由佳子, 清水彰彦, 野村 滋, 山田佳之. 完全母乳栄養で発症した重症 Food protein-induced enterocolitis syndrome の一例. 第 60 回日本小児アレルギー学会学術集会, 京都, 2023.11.
- 4) 清水彰彦, 奥野由佳子, 清水真理子, 野村 滋. 重症心身障害児 (者) における COVID-19 の臨床的特徴. 第 55 回日本小児感染症学会学術集会, 名古屋, 2023. 11.

<感染症科>

- 1) COVID-19 infection in pediatric patients with severe motor and intellectual disabilities: Experience at a tertiary children's hospital in Japan. 13th World congress of the world society for pediatric infectious diseases. 2023. 11.
- 2) 清水彰彦, 清水真理子, 野村 滋. 重症心身障害児 (者) における COVID-19 の臨床的特徴. 第 55 回日本小児感染症学会学術集会, 名古屋, 2023. 11.
- 3) 清水彰彦. パネルディスカッション 感染症科医は微生物検査室の門前の小僧になろう. 第 35 回日本臨床微生物学会総会, 横浜, 2024. 2.

<血液腫瘍科>

- 1) 石北悦子, 河合智子, 大和玄季, 柴 徳生, 大木健太郎, 高橋浩之, 鍋木多映子, 富澤大輔, 小川誠司, 林 泰秀. 小児前骨髄球性白血病に対する genome-wide DNA メチル化解析-The JCCG study, JPLSG AML-P05. 第 65 回日本小児血液・がん学会, 札幌, 2023. 9. 29.
- 2) 石北悦子, 河合智子, 大和玄季, 柴 徳生, 大木健太郎, 高橋浩之, 鍋木多映子, 湯坐有希, 上野浩生, 富澤大輔, 多賀 崇, 足立壯一, 小川誠司, 林 泰秀. 急性前骨髄球性白血病における 小児と成人症例の DNA メチル化と臨床像の比較-The JCCG study, JPLSG AML-P05. 第 85 回日本血液学会, 東京, 2023. 10.13-15.
- 3) Ishikita E, Kawai T, Yamato G, Shiba N, Ohki K, Hara Y, Kaburagi T, Takizawa T, Kawasaki H, Ueno H, Tomizawa D, Taga T, Adachi S, Yuza Y, Takahashi H, Ogawa S, Hayashi Y. Integrated analysis focusing on genome-wide DNA methylation in pediatric acute. promyelocytic leukemia : The JCCG Study, JPLSG AML - P05. 65th ASH Annual Meeting & Exposition. San Diego, 2023. 12. 9-12.

<遺伝科>

- 1) 道和百合, 山口 有, 椎原 隆, 高須倫彦, 鈴木江里子, 森田孝次, 渡辺美緒. マイクロアレイ染色体検査で診断に至った非典型的な症状をもつ 9 トリソミーモザイク. 第 65 回日本小児神経学会学術集会, 岡山, 2023.5.26.

- 2) 市之宮健二, 宮川陽一, 鍋木浩太, 小泉垂矢, 山口 有, 堀 尚明, 丸山憲一. 肥厚性幽門狭窄症を合併した Smith-Lemli-Opitz 症候群の 1 例. 第 222 回小児科学会群馬地方会, 群馬, 2023.7.30.
- 3) 大澤由光, 大津義昭, 池田健太郎, 山口 有, 滝澤 匠. 著明な成長障害をきたしたメチルグルタコン酸尿症II型の一例. 第 64 回日本先天代謝異常学会学術集会, 大阪, 2023.10.6.
- 4) 山口 有, 野村 茂. Pericarditis as a Complication of Sotos Syndrome. 日本人類遺伝学会第 68 回大会, 東京, 2023.10.12.
- 5) 河合泰寛, 馬場信平, 山本 薫, 本橋裕子, 齋藤貴志, 住友典子, 竹下絵里, 中川栄二, 岩崎真樹, 北住映二, 高田栄子, 中村由紀子, 山口 有, 小牧宏文. Isodicentric chromosome 15 syndrome によるてんかん 7 例の臨床像の検討. 第 56 回日本てんかん学会学術集会, 東京, 2023.10.21.
- 6) 道和百合, 山口 有, 椎原 隆, 市之宮健二, 鈴木江里子. マイクロアレイ染色体検査を機に診断に至った 9 トリソミーモザイクの 3 例. 第 46 回日本小児遺伝学会, 沖縄, 2023.12.8.
- 7) 山口 有, 草野知江子, 丸山 憲一. 中枢性尿崩症と上顎単一中切歯を合併した 12q15q21.1 微細欠失症候群の一例. 第 46 回日本小児遺伝学会, 沖縄, 2023.12.8.
- 8) 藤本あい, 山口 有. マイクロアレイ染色体検査にて判明した Dystrophinopathy の 2 例. 第 46 回日本小児遺伝学会, 沖縄, 2023.12.9.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) Watanabe Eiichiro, Kakihara Tomo, Nishi Akira, Fujishiro Jun, Shitara Yoshihiko, Takahashi Naoto, Yoshihara Masahito, Kawakami Eiryu, Konno Ryo, Kawashima Yusuke, Ohara Osamu. Exploratory research for neonatal GI diseases using meconium proteome analysis. 第 60 回日本小児外科学会学術集会, 大阪, 2023. 6. 1.
- 2) 横川英之, 篠原正樹, 岡崎英人, 則内友博, 渡辺栄一郎, 西 明. 後腹膜 Malignant ectomesenchymoma の 2 例. 第 60 回日本小児外科学会学術集会, 大阪, 2023. 6. 1.
- 3) 岡崎英人, 西 明, 渡辺栄一郎, 横川英之, 篠原正樹. 重症心身障害児に発症した膿胸に対してアルテプラーゼの胸腔内投与が有効であった 1 例. 第 60 回日本小児外科学会学術集会, 大阪, 2023. 6. 1.
- 4) 西 明, 渡辺栄一郎, 篠原正樹, 横川英之, 岡崎英人, 丸山憲一. シロリムスを含む集学的治療を要したカポジ型リンパ管腫症 1 例の中期経過. 第 60 回日本小児外科学会学術集会, 大阪, 2023. 6. 1.
- 5) 篠原正樹, 横川英之, 岡崎英人, 渡辺栄一郎, 高澤慎也, 西 明. SILPEC の臍創部に対する sutureless 表皮閉創法. 第 60 回日本小児外科学会学術集会, 大阪, 2023. 6. 1.
- 6) 渡辺栄一郎, 西 明, 山口岳史, 横川英之, 篠原正樹, 高澤慎也. 不均衡型の腸回転異常症が原因と考えられた十二指腸狭窄症術後遠隔期に発症した上部消化管通過障害の 1 例. 第 57 回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2023. 10. 7.
- 7) 篠原正樹, 横川英之, 山口岳史, 渡辺栄一郎, 高澤慎也, 西 明. 繰り返しの切除が必要であった幼児の肛門管内尖圭ゴンジローマの 1 例. 第 57 回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2023. 10. 7.
- 8) 渡辺栄一郎, 橋詰直樹, 柿原 知, 齋藤 傑, 藤雄木亨真, 石丸哲也, 小関元太, 狩野元宏, 山本裕輝, 藤野明浩, 米田光宏, 須田 互, 金森 豊. 長期生存 MMIHS 2 例の回腸ストーマ排泄に関する腸内細菌叢解析研究. 第 37 回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会, 東京, 2023.6.17.

- 9) 渡辺栄一郎, 西 明, 下山伸哉, 清水真理子. H. pylori感染と好酸球性胃腸炎が原因と考えられる幼児の十二指腸潰瘍穿孔の一例. 第36回日本小児救急医学会学術集会, 東京, 2023.7.22.
- 10) 渡辺栄一郎. 糞便中ホストタンパク質解析とその応用(奨励賞受賞講演). 日本プロテオーム学会 2023年大会, 新潟, 2023.7.25.
- 11) 横川英之, 篠原正樹, 山口岳史, 渡辺栄一郎, 西 明, 石北悦子, 鍋木多映子, 飯島真由子, 川崎裕英. COVID-19に急性虫垂炎を合併した refractory cytopenia of childhood の1例. 第39回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 福岡, 2023. 10. 28.

<形成外科>

- 1) 佐々木淑恵, 山田有実, 浜島昭人. 突発性側弯症を合併した漏斗胸に対し Nuss 法を先行して行った1例. 第22回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会, 福岡, 2023. 11. 25.

<整形外科>

- 1) 浅井伸治, 富沢仙一, 品川知司 川上詩織. 整形外科受診後に診断された急性リンパ性白血病の2例. 第34回関東小児整形外科学研究会, 東京, 2024.2.10.

◆産 科

- 1) 上原理紗, 諏訪裕人, 木暮さやか, 京谷琢治. 胎児期からに臍輪部の膨張を認め出生後に新生児白線ヘルニアと診断された1例. 第59回日本周産期新生児医学会学術集会, 名古屋, 2023. 7. 11.
- 2) 諏訪裕人, 上原理紗, 木暮さやか, 京谷琢治. 当院で行った死産児検査42例の検討. 第39回群馬周産期研究会, 前橋, 2023. 9. 30.
- 3) 上原理紗, 諏訪裕人, 木暮さやか, 京谷琢治. 胎児機能不全に陥った胎児巨大腹腔内臍静脈瘤の1例. 令和5年度第3回群馬産科婦人科学会/群馬県産婦人科医会集談会, 前橋, 2024. 2. 3.
- 4) 上原理紗, 諏訪裕人, 木暮さやか, 京谷琢治. 胎児絞扼輪の1例. オープンカンファレンス, 渋川, 2024. 3. 2.
- 5) 上原理紗, 諏訪裕人, 木暮さやか, 京谷琢治. 腹腔内巨大臍静脈瘤内に血栓を認めた新生児仮死の1例. オープンカンファレンス, 渋川, 2024. 3. 2.

◆歯 科

- 1) 瀬下愛子, 大隅麻貴子, 楠 幸代, 大嶋 瑛, 布施あゆみ, 木下 樹. 乳幼児期から介入をおこなった重症先天性好中球減少症児の1症例. 第51回日本障害者歯科学会, 札幌, 2023. 11. 11.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 田原貴子, 松井重憲, 神山晴美, 小川公代. 新生児検体における直接ビリルビン測定試薬の検討. 第72回医学検査学会 in GUNMA, 高崎, 2023. 5. 20-21.
- 2) 松井重憲, 神山晴美, 小川公代. JCA-ZS050のバックアップ機としてのNX600の測定値の評価. 第72回医学検査学会 in GUNMA, 高崎, 2023. 5. 20-21.
- 3) 新井菜津子, 田原貴子, 神山晴美, 小川公代. 血液製剤の安全管理のための血液搬送装置ATR705-RC05の導入について. 第72回医学検査学会 in GUNMA, 高崎, 2023. 5. 20-21.
- 4) 丸山裕子, 諸岡 望, 堀川菜里, 浅見杏子, 神山晴美, 小川公代. 川崎病罹患後経過観察中冠動脈瘤内に血栓を認めた1例. 第72回医学検査学会 in GUNMA, 高崎, 2023. 5. 20-21.
- 5) 浅見杏子, 堀川菜里, 諸岡 望, 丸山裕子, 神山晴美, 小川公代. 患者急変時を想定した救急カー

トシミュレーションの実際と改善にむけての取り組み. 第 72 回医学検査学会 in GUNMA, 高崎, 2023. 5. 20-21.

- 6) 奥村茉莉, 諸岡 望, 齋木美穂, 佐藤敦子, 浅見杏子, 鈴木里佳子, 丸山裕子, 小川公代. 当院における鎮静下での生理機能検査の現状と事例報告. 第 42 回群馬県庁臨床検査技師会学術研修発表会, 2024. 2. 17.

◆放射線課

- 1) 大川夏輝. 当センターにおける鎮静 MRI 検査の運用方法とその工夫. 第 46 回日本小児放射線技術研究会・シンポジウム, 2023. 4. 15.

◆リハビリテーション課

- 1) 六本木温子, 臼田由美子, 渡辺美緒. ヌシネルセン投与を行っている脊髄性筋萎縮症 1 型のスイッチ操作における数量的評価. 第 65 回日本小児神経学会学術集会, 岡山, 2023. 5. 26.
- 2) 臼田由美子, 櫻井ちひろ, 窪田莉那, 岩井 淳, 小林志のぶ, 道和百合, 椎原 隆. 先天性ミオパチー症 4 才女児の急性肺炎における呼吸リハビリテーションと看護の協働. 第 55 回日本小児呼吸器学会学術集会, 豊岡, 2023. 10. 7.

◆栄養調理課

- 1) 中野由希子, 島田純子, 佐藤萌々子, 竹本光希, 林 利幸, 丸山憲一. インスタグラムを用いた情報発信について. 第 41 回群馬栄養改善学会, 高崎, 2024. 2. 10.

◆臨床工学課

- 1) 高橋祐樹. 当院における医療機器適正使用の普及への取り組み, 第 21 回群馬県臨床工学技士会学術大会, Web, 2023. 6. 25.

◆薬 剤 部

- 1) 原田喜三恵. 当院 GCU 病棟における病棟薬剤管理指導の現状と今後. 第 50 回日本小児臨床薬理学会学術集会, 大阪, 2023. 10. 1.

◆看 護 部

- 1) 槇田梨佳. 第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会, パシフィコ横浜ノース, 横浜, 2023. 7. 6-7. 8.
- 2) 中島寿絵, 千明理恵, 小淵加奈絵. 令和 5 年度群馬小児保健会研究集会. 産後 2 週間健診時の EPDS 得点に影響を与える因子の解明-A 総合周産期母子医療センターの褥婦を対象に-. 群馬会館, 前橋, 2023. 8. 31.
- 3) 永沢育子. 小児専門病院に勤める看護職者の母乳育児支援への困難の解明. 第 64 回日本母性衛生学会学術集会, 大阪国際会議場, 大阪, 2023. 10. 13.
- 4) 小池智美. A 総合周産期母子医療センターが行う産後ケア事業の評価と課題. 第 64 回日本母性衛生学会学術集会, 大阪国際会議場, 大阪, 2023. 10. 13-14.
- 5) 高橋裕也, 金子友香, 大谷ゆう子. 群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会. 年齢から始めた経肛門的洗腸療法の有用性～先天性外科疾患を基礎疾患とする患者を対象に～. 群馬県看護協会, 前橋, 2024. 3. 9.

2. 誌上発表

◆小児内科

<神経内科>

- 1) Kasai M, Sakuma H, Abe Y, Kuki I, Maegaki Y, Murayama K, Murofushi Y, Nagase H, Nishiyama M, Okumura A, Sakai Y, Tada H, Mizuguchi M, Takanashi J, Akamine S, Chong PF, Ema T, Enomoto S, Fukatsu R, Hanaoka Y, Igarashi A, Ikeda T, Ishida K, Ishikawa N, Itamura S, Iwayama H, Kawata N, Kawano G, Kikuchi K, Kobayashi O, Kondo H, Korematsu S, Matsuoka T, Minamisawa Y, Mitani O, Mizuma K, Mori T, Morichi S, Moriyama Y, Motobayashi M, Motoi H, Muramatsu K, Nakamura K, Nakazawa T, Negishi Y, Nishizawa Y, Okada H, Okanari K, Oki K, Okumura Y, Omata T, Saeki S, Sano F, Sano K, Sato T, Shiihara T, Shimoda K, Suzuki M, Tanaka R, Tokorodani C, Uematsu M, Yamada H, Yamamoto N, Yamamoto T, Yokoyama H. Clinical characteristics of SARS-CoV-2-associated encephalopathy in children: Nationwide epidemiological study. *J Neurol Sci.* 457: 122867, 2024.
- 2) 森田孝次, 椎原 隆. 【日常診療で見落とされたくない神経疾患】説明しにくい症状・軽度の徴候のみのため見逃されやすい疾患 ミオクローヌス. *小児科* 64 巻 10 号 P976-981, 2023. 10.

<循環器科>

- 1) Kato T, Miura M, Kobayashi T, Kaneko T, Fukushima N, Suda K, Maeda J, Shimoyama S, Shiono J, Hirono K, Ikeda K, Sato S, Numano F, Mitani Y, Waki K, Ayusawa M, Fukazawa R, Fuse S. Analysis of Coronary Arterial Aneurysm Regression in Patients With Kawasaki Disease by Aneurysm Severity: Factors Associated With Regression. *J Am Heart Assoc.* 12 (3) : e 022417, 2023.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 鍋木浩太. 極低出生体重児における出生前および出生後 24 時間未満の臨床像と短期予後との関連に関する検討. *日本周産期・新生児医学会雑誌.* 59: 27-37, 2023.
- 2) 丸山憲一. 群馬県の人口動態統計から推測した救急隊関係者が対応を要する施設外出生数の推移. *群馬県救急医療懇談会誌.* 18: 95-97, 2024.

<感染症科>

- 1) 清水彰彦, 清水真理子, 野村 滋. BCG ワクチン接種後の皮膚腺病 (原著論文). *日本小児科学会雑誌* 128 巻 4 号 Page598-602. 2024.
- 2) Shimizu A, Kitazume S. Nosocomial transmission of SARS-CoV-2 from infected children to uninfected caregivers: A retrospective cohort study in a Japanese tertiary children's hospital. *J Infect Chemother.* 2023; 29 (3) : 281-283.

<血液腫瘍科>

- 1) Kaburagi T, Shiba N, Yamato G, Yoshida K, Tabuchi K, Ohki K, Ishikita E, Hara Y, Shiraishi Y, Kawasaki H, Tomizawa D, Horibe K, Miyano S, Taga T, Adachi S, Ogawa S, Hayashi Y. UBTF - Internal tandem duplication as a novel poor prognostic factor in pediatric acute myeloid leukemia. *Genes Chromosomes Cancer.* 2023 ; 62 (4) : 202-9
- 2) Hara Y, Shiba N, Yoshida K, Yamato G, Kaburagi T, Shiraishi Y, Ohki K, Shiozawa Y, Kawamura M, Kawasaki H, Sotomatsu M, Takizawa T, Matsuo H, Shimada A, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Ito E, Horibe K, Miyano S, Adachi S, Taki T, Ogawa S, Hayashi Y. TP53 and RB1 alterations characterize

poor prognostic subgroups in pediatric acute myeloid leukemia. *Genes Chromosomes Cancer*. 2023 ; 62 (7) : 412-22

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 則内友博, 西 明, 畠山信逸. 小児急性虫垂炎における画像診断モダリティの選択 ガイドライン策定前後での比較, *日本小児放射線学会雑誌*. 39: 35-40, 2023.
- 2) 渡辺栄一郎, 川島祐介, 李 優先. 細菌学・ウイルス学 トリプシン分解腸内細菌の発見, *医学のあゆみ*. 285: 1079-1081, 2023.
- 3) 小山亮太, 高澤慎也, 木暮さやか, 小泉亜矢, 京谷琢治, 丸山憲一, 西 明. 新生児卵巣嚢胞の予後予測因子としての胎児期嚢胞径の変化についての検討, *日本周産期・新生児医学会雑誌*. 59: 304-310, 2023.
- 4) 渡辺栄一郎, 川島祐介. 糞便中ホストタンパク質解析とその応用, (2023 年日本プロテオーム学会奨励賞受賞論文), *Proteome Letters*. 8: 53-62, 2023.
- 5) 渡辺栄一郎. トリプシン分解腸内細菌の発見. *日本免疫学会会報*. 32: 15, 2023.
- 6) 渡辺栄一郎, 川島祐介, 李 優先. トリプシン分解腸内細菌の発見, *医学のあゆみ*. 285: 1079-1081, 2023.
- 7) 渡辺栄一郎, 川島祐介, 柿原 知, 設楽佳彦, 斎藤 傑, 香川礼子, 紺野 亮, 石川将己, 高見尚平, 清水泰岳, 松本恭明, 福家辰樹, 高澤慎也, 西 明, 新井勝大, 野村伊知郎, 岡田 賢, 高橋尚人, 小原 收, 藤代 準. 便プロテオーム解析, *小児外科*. 55: 150-158, 2023.

◆歯 科

- 1) 秦 史子, 木下 樹, 大嶋 瑛, 前田 茂. 側貌エックス線写真で術前評価をした Oculodentodigital dysplasia 患児への全身麻酔経験. *日本歯科麻酔学会雑誌*. 51 巻 2 号: 42-44, 2023.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 小川公代, 新井菜津子, 田原貴子, 下田隼人, 深町直之, 高橋祐樹, 関 明彦, 神山晴美, 坂本 崇, 松本直樹, 河崎裕英. 外観検査では確認不能であった赤血球製剤の溶血. *日本輸血・細胞治療学会誌*. 69:615-616, 2023.

3. 単行本・その他

◆小児内科

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 「母子保健事業報告」にみる群馬県の母乳育児率の推移. *日本母乳哺育学会雑誌*. 17: 172-175, 2023.

◆産 科

- 1) 京谷琢治. 豊富な所見で診断の進め方がわかる 産婦人科画像診断アトラス 胎児頭蓋内構造異常. *臨床婦人科産科増刊号*, vol. 77, 2023, p.68-74.
- 2) 京谷琢治. 産科診療 Pros&Cons 母体・胎児をめぐる 6 つの論争 胎児診断のこれからは超音波か?ゲノムか?. *メディカ出版*, 2023, p.136-141.

◆看護部

- 1) 金子友香, 石坂泰子. 地方病院における異文化理解に向けた課題 群馬県立小児医療センターの取り組み. 小児看護 46 (9), p1092-1097, 2023.

4. 班会議等報告書

- 1) 実施なし

5. 講演

◆小児内科

<感染症科>

- 1) コロナ禍から見る次のパンデミックへの学びと課題. 日本小児総合医療施設協議会 小児感染症管理ネットワーク総会, 横浜, 2023. 7.
- 2) こどもの風邪とホームケア. プリミークラブ, 前橋, 2023. 9.
- 3) 時間軸で考える術後発熱. 日本小児感染症学会主催 小児感染症ハイレベルコース, 渋川, 2024. 1.

<循環器科>

- 1) 中島公子, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 池田健太郎, 下山伸哉, 小林富男, 畑岡 努, 松永慶廉, 岡村 達, 畠山信逸. 肝細胞特異性 MRI 造影剤 Gd-EOB-DTPA を用いたフォンタン 関連肝疾患 (FALD) の進展様式の検討. 第9回群馬成人先天性心疾患研究会, 前橋, 2023. 6. 9.
- 2) 池田健太郎. 小児循環器の基礎: 心血管構造, 第9回群馬小児循環器セミナー, 渋川, 2023. 7. 23.
- 3) 下山伸哉. 心筋炎の臨床経過—どう対応するか—. 第9回群馬小児循環器セミナー, 渋川, 2023. 7. 23.
- 4) 池田健太郎. 学校心臓検診2次検診のポイント, 令和5年度学校心臓検診講習会, 2023. 7. 26.
- 5) 浅見雄司. 胎児心エコー～ガイドラインの沿ったスクリーニングと見落としやすい疾患の見つけ方～. 群馬産婦人科周産期フォーラム, オンデマンド, 2024. 3. 15.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 渡辺栄一郎. 第2回ふくしま周産期・小児セミナー. 腸内細菌研究の新潮流プロテオーム解析を応用した腸内細菌叢の新発見と胎便中のヒトタンパク質解析研究, 福島医科大学病院, 2023.10.20.
- 2) 渡辺栄一郎. JSPCM日本患者由来がんモデル学会学術集会 特別講演. プロテオーム解析を応用した腸内細菌叢の新発見と便プロテオーム解析を用いた臨床への挑戦. 国立がん研究センター, 築地, 2023.10.26.
- 3) 渡辺栄一郎. 第45回日本臨床栄養協会総会. 便プロテオーム解析を用いた新たなプロバイオティクスの探索と腸内細菌叢の新発見. 大阪, 2023.11.11.
- 4) 渡辺栄一郎. マイクロバイオームとプロテオミクスの新潮流 2024 (ミヤリサン製薬) プロテオミクス技術を応用した腸内微生物叢の新発見～トリプシン分解腸内細菌の発見～. 東京, 2024.1.19.
- 5) 渡辺栄一郎. 東邦大学ダイバーシティ推進センター研究セミナー招へい制度利用オンラインセミナー. 研究というモトリアムから学んだこと～トリプシン分解腸内細菌の発見～. 東邦大学大森病院, 2024.3.22.

◆産科

- 1) 京谷琢治. 令和の出生前診断. 第 563 回群馬県医師会卒後研修会, 2023. 4. 21.
- 2) 京谷琢治. まずは浅く広く～胎児形態スクリーニングと代表的胎児疾患～. 福島産婦人科超音波フォーラム, 配信期間 2023. 10. 19-25.
- 3) 京谷琢治. まずは浅く広く～胎児形態スクリーニングと代表的胎児疾患～. 第 107 回北日本遠隔胎児セミナー, 2023. 12. 25.

◆歯科

- 1) 木下 樹. デンタルネグレクトの早期発見と予防. 令和 5 年度徳島県美波保健所 8020 運動推進特別事業 歯科口腔保健の推進に携わる人材に対する関係者研修会, Web, 2023. 10. 19.
- 2) 木下 樹. 発達障害児の歯科保健について. 発達障害児支援研修会, 前橋, 2023. 10. 26.
- 3) 木下 樹. 重症心身障害児の口腔管理. 令和 5 年日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師研修, 東京, 2023. 11. 25.
- 4) 木下 樹. 神経難病患者の口腔ケア. 令和 5 年度第 1 回前橋市神経難病療養相談会・交流会, 前橋, 2023. 12. 1.
- 5) 木下 樹. 発達障害児の口腔衛生管理. 恩賜財団母子愛育会地域母子保健研修会, 東京, 2024. 1. 26.
- 6) 木下 樹. 障害児の歯科的課題と支援のポイント. 渋川保健福祉事務所管内歯科保健調整会議, 渋川, 2024. 2. 21.

◆放射線課

- 1) 佐々木 保. 共同研究の成果と今後の展開に向けたシンポジウムシンポジスト. 日本オートプシー・イメージング技術研究会, web 講演, 2023. 5. 26.
- 2) 佐々木 保. Ai 分科会シンポジウム Ai ガイドライン改定に向けて小児専門病院からの発言. 第 39 回日本診療放射線技師学術大会シンポジスト, 熊本市, 2023. 9. 30-10. 1.
- 3) 佐々木 保. Ai における CT の検査技術. 日本診療放射線技師会 2023 年度 Ai 認定講習会, web 講演, 2023. 10. 2-2024. 1. 27. まで配信
- 4) 佐々木 保. 死亡時画像診断における CT と感染対策. 日本医師会令和 5 年度死亡時画像診断 (Ai) 研修会, web 講演, 2023. 11. 13-2024. 2. 5. まで配信
- 5) 佐々木 保. 小児胎児症例発表. 2023 年度第 2 回オートプシー・イメージング (Ai) 症例報告会, web 講演, 2024.2.17.

◆臨床工学課

- 1) 下田隼人. 医療機器を上手に使うコツを知ろう. 第 2 回在宅療養支援委員会勉強会, 小児医療センター会議室 (ハイブリット), 2024. 2. 2.
- 2) 深町直之. 教育講演: 小児及び成人先天性心疾患と体外循環法. 第 5 回埼玉体外循環技術交流会, 日本赤十字社さいたま赤十字病院, 2024. 2. 17.

6. 講習会・研修会

◆小児内科

<循環器科>

- 1) 中島公子, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 池田健太郎, 下山伸哉. 群馬県立小児医療センタ

<感染症科>

- 1) 新興感染症への対策. 新興感染症などを想定した渋川地区合同訓練, 渋川, 2023. 12.

◆放射線課

- 1) 高木 崇. 周産期におけるチーム医療. 県民健康科学大学 2023 年度保健医療チーム連携論 II (群馬県における周産期医療を支える保健医療チーム連携), 群馬県立小児医療センター, 2023. 7. 21.
- 2) 萩原祐輔, 清水宏史. PACS による画像情報配信による情報連携. 県民健康科学大学 2023 年度保健医療チーム連携論 II (チーム医療における医療情報連携の仕組み), 群馬県立小児医療センター, 2023. 7. 24.
- 3) 木村壮平. 医療連携実習-医療連携の実際-. 県民健康科学大学 2023 年度保健医療チーム連携論 II (チーム医療における医療情報連携の仕組み), 群馬県立小児医療センター, 2023. 7. 24.
- 4) 佐々木 保. 医療被ばくの基本的な考え方・放射線診療の防護の最適化・過剰被ばくその他の事例発生時の対応・放射線診療を受ける者への情報提供. 令和 5 年度診療用放射線の安全利用のための研修, 群馬県立小児医療センター, web 講演, 2024. 1. 15-2. 9.

◆リハビリテーション課

- 1) 高柳豊史. 腎機能障害に対する循環器理学療法. 認定理学療法士臨床認定カリキュラム, Web, 2023. 9. 11-30.
- 2) 臼田由美子. 呼吸理学療法ハンズオンセミナー. 日本小児呼吸器学会, 豊橋, 2023. 10. 7.
- 3) 六本木温子. 専門アドバイザー研修. 特別支援学校機能強化事業研修会, 伊勢崎, 2023. 10. 26.

◆臨床工学課

- 1) 高橋祐樹. ME 機器の取り扱い. 令和 5 年度看護部新規採用者オリエンテーション, 群馬, 2023. 4. 12.
- 2) 下田隼人. 令和 5 年度学校における医療的ケア児等支援看護師養成研修, 群馬大学医学部付属病院, 2024. 3. 1, 2024. 3. 15.

◆薬 剤 部

- 1) 高橋大輔. 群馬県薬学大会, 高崎, 2023. 5. 14.
- 2) 高橋大輔. AST (Antimicrobial Stewardship Team) 活動報告. 感染対策向上加算合同カンファレンス, 渋川, 2023. 8. 25.

◆看 護 部

- 1) 北爪幸子. 「感染防止対策の基本」. 実技指導者. グリーンドーム前橋, 前橋市, 2023. 6. 20.
- 2) 北爪幸子. 渋川保健福祉事務所「第 1 回感染症対策研修会」. 渋川中央公民館, 渋川市, 2023. 7. 3.
- 3) 清水奈保. 2024 年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル「組織管理論 I ・組織マネジメント概要」. 群馬県看護協会, 前橋, 2023. 10. 4.

- 4) 木島久仁子. 富樫哲雄. 群馬県委託一般就業助産師再教育講習会. ぐんま男女共同参画センター, 前橋, 2023. 10. 15.
- 5) 大谷ゆう子. 群馬ストーリーリハビリテーション講習会 2023. 前橋赤十字病院 (オンライン), 前橋, 2023. 10. 29.
- 6) 小林理恵. R5 年度妊娠・出産包括支援推進研修会. 群馬県看護協会, 前橋, 2024. 1. 24.
- 7) 藤井美香. 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業 (交流会) 「移行期支援ってなあに」. 安中・藤岡・富岡保健福祉事務所, 藤岡, 2024. 2. 29.

7. 学会長・座長・その他

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 椎原 隆. 第 65 回小児神経学会学術集会 (座長), 一般演題口演 18 「急性脳炎・脳症 (自己免疫性脳炎を除く) 1」, 岡山, 2023. 5. 26.
- 2) 椎原 隆. 第 80 回日本小児神経学会関東地方会 (座長), 一般演題 (セッション 3), 千葉, 2024. 3. 3.

<循環器科>

- 1) 池田健太郎. 第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会 (座長), 一般口演 16 (II-OR16) カテーテル治療 3, 横浜, 2023. 7. 7.
- 2) 池田健太郎. 第 1 回 UEDICC (universally educational conference of diagnostic and interventional cardiac cathetrization) (座長) セッション 6 「その他閉鎖」, 福岡, 2023. 9. 8.
- 3) 池田健太郎. 第 10 回 informal JCIC 関東甲信越研究会 (座長) 一般演題 4 スtent, 東京, 2023. 11. 19.
- 4) 池田健太郎. 第 34 回 JCIC 学術集会 (座長) 一般ポスター2 : PDA, プラグ, 愛知, 2024. 1. 25.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 第 59 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 一般演題 (ポスター) 「肝／胆／脾」, 名古屋, 2023. 7. 10.
- 2) 丸山憲一. 第 222 回日本小児科学会学群馬地方会講和会, 一般演題 Session5, 前橋, 2023. 7. 30.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 西 明. 第 60 回日本小児外科学会学術集会 (座長), 一般演題 4 消化管 2, 大阪, 2023. 6. 1.

<形成外科>

- 1) 浜島昭人. 座長「セッション III 悩ましき疼痛」, 第 22 回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会, 福岡, 2023. 11. 25.

◆産科

- 1) 京谷琢治. 第 30 回日本胎児心臓病学会学術集会 (座長), 一般演題 11 「レベル II 胎児診断の現状・効果・育成」, 東京, 2024. 2. 18.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 神山晴美. 第 72 回日本医学検査学会 (座長) 一般演題「チーム医療」, 高崎, 2023. 5. 20.
- 2) 小川公代. 第 72 回日本医学検査学会 (座長), 公開文化講演 1「光り輝く群馬の古墳時代」, 高崎, 2023. 5. 21.
- 3) 小川公代, 神山晴美. 第 78 回群馬臨床細胞学会 (学会長), 高崎, 2024. 1. 27.
- 4) 丸山裕子. 第 42 回群馬県庁臨床検査技師会 一般演題 (座長), 前橋, 2024. 2. 17.
- 5) 神山晴美. 第 42 回群馬県庁臨床検査技師会 学術講演会 (座長), 前橋, 2024. 2. 17.
- 6) 丸山裕子. 第 4 回群馬心エコー図研究会 (座長), Web, 2024. 3. 1.

◆リハビリテーション課

- 1) 臼田由美子. 第 55 回日本小児呼吸器学会学術集会 (座長), 「セッション: 呼吸リハビリテーション」, 豊橋, 2023. 10. 7.
- 2) 臼田由美子. 第 22 回群馬県呼吸リハビリテーション研修会 (座長), 前橋, 2023. 11. 11.

◆臨床工学課

- 1) 下田隼人. 第 17 回群馬県臨床工学技士会呼吸器セミナー (主催), Web, 2024. 2. 11.

◆看護部

- 1) 金子友香. 日本看護教育学学会第 32 回学術集会 (シンポジスト), 予測困難な時代における看護学教育の現状と課題. 群馬会館, 前橋, 2023. 8. 19.
- 2) 木島久仁子. 重症心身障害児者の障害と看護「救急対応」. 福祉プラザさくら川, 東京, 2023. 12. 16.
- 3) 木村 寛. 災害支援ナース. いしかわ総合スポーツセンター (避難所), 金沢市, 2024. 1. 15-1. 18.
- 4) 小林恭子. 災害支援ナース. いしかわ総合スポーツセンター (避難所), 金沢市, 2024. 1. 21-1. 24.

8. 学生講義

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 森田孝次. 群馬大学チームワークトレーニング実習, 2023. 6. 9.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 健康障害と回復過程各論 VII. 渋川看護専門学校, 渋川, 2023. 4. 12, 19, 26, 5. 10, 17, 24, 31, 6. 7, 14, 21.
- 2) 丸山憲一. 子どもの保健. 新島学園短期大学, 高崎, 2023. 4. 7, 21, 28, 5. 12, 19, 26, 6. 16, 23, 30, 7. 7, 14, 21, 28, 29, 8. 4.
- 3) 丸山憲一. 新生児学, 周産期ハイリスク論 II. 高崎健康福祉大学大学院, 高崎, 2023. 4. 19, 26, 5. 10, 17, 24, 31, 6. 7, 21, 28, 7. 5, 12, 19, 26, 8. 2, 11. 8, 15, 29, 12. 6.
- 4) 丸山憲一. 小児・新生児. 群馬県消防学校, 前橋, 2023. 12. 18.

<アレルギー・リウマチ科>

- 1) 野村 滋. 小児の救急. 群馬県消防学校, 前橋, 2024. 2.

<感染症科>

- 1) 清水彰彦. 流行性ウイルス感染症 疾患の理解と予防. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2023. 8.

◆産科

- 1) 諏訪裕人. 群馬大学チームワーク実習, 渋川, 2023. 6. 9.

◆歯科

- 1) 木下 樹. 老年看護学各論 I. 渋川看護専門学校看護学生講義, 渋川看護専門学校, 2023. 6. 8, 6. 22.
- 2) 木下 樹. 人体の構造と機能 IV. 渋川看護専門学校看護学生講義, 渋川看護専門学校, 2023. 6. 15, 6. 29.
- 3) 木下 樹. 健康障害と回復過程各論 II. 渋川看護専門学校看護学生講義・実習, 渋川看護専門学校, 2023. 9. 12, 9. 19.
- 4) 木下 樹. 障害児, 有病児の歯科保健. 東京工科大学看護学生実習講義, 東京工科大学蒲田キャンパス, 2023. 11. 24.

◆リハビリテーション課

- 1) 臼田由美子. 発達障害系理学療法. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2023. 5. 17, 6. 7, 6. 21.
- 2) 六本木温子. 発達過程作業療法治療学. 群馬医療福祉大学. 前橋, 2023. 6. 27, 7. 4.

◆臨床工学課

- 1) 深町直之, 下田隼人. 体外循環手術に伴う技術指導. 非常勤講師. 麻布大学 獣医学部, 神奈川, 2023. 4. 12, 2023. 4. 26, 2023. 6. 21, 2023. 7. 26, 2023. 8. 2, 2024. 1. 24, 2024. 3. 6.
- 2) 深町直之. 生体機能代行装置学 I 「人工心肺システムの構成」. 東京工科大学 医療保健学部 臨床工学科, 東京, 2023. 4. 10-6. 2. 毎週金曜日.
- 3) 深町直之. 生体機能代行装置学 II 「体外循環の実際と安全対策」. 東京工科大学 医療保健学部 臨床工学科, 東京, 2023. 6. 16-7. 28. 毎週金曜日.
- 4) 深町直之. 「循環代行技術学 II: PCPS, IABP」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2023. 8. 25.
- 5) 深町直之. 「生体機能代行装置実習 I」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2023. 9. 1, 2023. 9. 8.
- 6) 深町直之, 「生体機能代行装置実習 II」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2023. 9. 15, 2023. 9. 22.

◆看護部

- 1) 千明理恵. 母子と家族の心理社会学. パース大学, 渋川, 2023. 4. 24.
- 2) 福田 円. 小児看護の魅力. 渋川看護専門学校, 渋川, 2023. 5. 8.
- 3) 青木秀佳. 小児看護学方法 「病気・障害を持つ子どもと家族の看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2023. 5. 23.
- 4) 本間美樹恵. 小児看護学方法 「子どもにおける疾病の経過と看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2023. 5. 30.
- 5) 野田暁子. 小児看護学方法 「子どもの状況 (環境) に特徴づけられる看護」. 伊勢崎敬愛看護学

院, 伊勢崎, 2023. 5. 30.

- 6) 金子友香. 小児看護学方法子どものアセスメント「系統看護学講座 小児看護学概論小児臨床看護総論」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2023. 6. 6.
- 7) 横尾美知代. 小児看護学方法「症状を示す子どもの看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2023. 6. 13.
- 8) 小林理恵. 小児看護学方法「新生児の看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2023. 6. 20.
- 9) 狩野由紀. 小児看護学方法「障害のある子どもと家族の看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2023. 6. 27.
- 10) 後藤真紀. 小児看護学方法「検査・処置を受ける子どもの看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2023. 6. 27, 7. 4.
- 11) 鈴木清恵. 小児看護各論 I「急性期にあるこどもと家族」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2023. 7. 7.
- 12) 小林志のぶ. 小児看護学各論 I「先天的な問題を持つ子ども・障害のある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2023. 7. 4, 7. 11.
- 13) 小林理恵. 小児看護学方法「新生児の看護」, 「染色体異常・胎児環境により発症する先天異常と看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2023. 7. 11.
- 14) 村上容子. 小児看護学各論 I「さまざまな状況にあるこどもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2023. 7. 4, 7. 11.
- 15) 北爪幸子. 小児看護学各論「隔離や活動制限が必要なこどもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2023. 7. 14.
- 16) 浅野 香. 小児看護各論 I「さまざまな状況にあるこどもと家族の看護 (慢性期・医療的ケア)」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2023. 7. 14, 7. 21, 8. 25.
- 17) 和田千穂. ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援. 高崎市医師会看護専門学校, 高崎, 2023. 9. 5, 9. 6.
- 18) 齊藤織恵. 「ハイリスク 新生児のケア」. 高崎医師会看護専門学校, 高崎, 2023. 9. 11.
- 19) 石関梨華. 「終末期の子どもと家族の看護」, 「小児がんの子どもとその家族の看護」, 「苦痛や疼痛のある子どもの看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2023. 9. 6, 9. 13.
- 20) 黒田佐織. 小児看護学各論 II「検査や処置を受ける子どもと家族への看護」, 「検査や処置に必要な看護技術」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2023. 11. 6, 11. 13, 11. 20.
- 21) 小池智美. 母性・父性看護学各論 II「ハイリスク分娩と分娩期の異常・ハイリスク産褥と産褥期の異常と看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2023. 11. 7, 11. 14, 11. 21.
- 22) 福島富美子. 母性・父性看護学各論 II「周産期のハイリスク新生児 NICU」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2023. 11. 24, 12. 1.
- 23) 黒岩 徹. 小児看護学各論 II (小児看護技術: 検査処置・救急救命処置). 渋川看護専門学校, 渋川, 2023. 11. 24, 12. 1, 12. 8.
- 24) 木島久仁子. 富樫哲雄. 子どもの一次救命処置. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2024. 1. 10.
- 25) 神谷圭子. 病棟保育士の活動と役割. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2024. 1. 19.

9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス

月曜日	8:00~8:30	PICU カンファレンス
	12:00~	総合診療科カンファレンス
	16:45~	産科病棟カンファレンス
	17:00~17:30	PICU カンファレンス

	17:00～	内科系合同カンファレンス
	17:00～	新生児科カンファレンス
	17:00～	小児外科合同カンファレンス
	17:00～	第一病棟カンファレンス
	17:30～	血液腫瘍科カンファレンス
	18:00～	血液腫瘍科抄読会
	18:00～19:00	循環器カンファレンス
	18:00～	第一病棟・新生児科カンファレンス (適時)
火曜日	8:00～8:30	PICU カンファレンス
	13:30～	産科・新生児科合同カンファレンス 産科・新生児科合同カンファレンス終了後～ 産科・新生児科抄読会
	15:00～16:00	麻酔科抄読会
	16:30～17:00	心臓カテーテルカンファレンス
	17:00～17:30	PICU カンファレンス
水曜日	8:00～8:30	PICU カンファレンス
	16:00～16:30	出生前合同カンファレンス
	17:00～17:30	PICU カンファレンス
木曜日	8:00～8:30	PICU カンファレンス
	10:30～12:00	全科症例検討会・総回診
	12:00～	総合診療科カンファレンス
	13:00～15:00	外科病棟症例カンファレンス
	14:00～16:00	群大小児科教授回診 (第3木曜)
	16:30～	出生前診断カンファレンス (適時)
	16:45～	産科病棟カンファレンス
	17:00～17:30	PICU カンファレンス
金曜日	7:45～8:30	循環器科・心臓血管外科合同カンファレンス
	8:00～8:30	PICU カンファレンス
	9:00～9:30	抄読会
	12:30～	アレルギー・リウマチ科/感染症科勉強会
	16:00～17:0	心臓外科症例カンファレンス
	17:00～	産科・新生児科合同カンファレンス
	17:00～17:30	第三病棟会
	17:00～17:30	PICU カンファレンス

月一回 神経内科・遺伝科症例検討会

10. 小児医療センター講話会

1) 実施なし

11. クルズス (臨床講義)

1) 実施なし

12. CPC

1) 第 114 回 2024. 3. 6

No312 循環器科: 下山, 大木

1 カ月女 (臨床診断: 痙攣重責, 肺出血)

No313 産科: 木暮

20w 女 (臨床診断: 胎児脳瘤, 両軸後性多指症)

13. その他

(1) 研究会・セミナー等

◆小児内科

- 1) 令和 5 年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第 1 回), 2023. 9. 23.
- 2) 令和 5 年度群馬県新生児蘇生法研修会 A コース (第 2 回), 2023. 9. 23.
- 3) 第 22 回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法講習会 (NCPR) (B コース), 2023. 10. 3.
- 4) 第 5 回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法 (NCPR) スキルアップ講習会 (S コース), 2023. 10. 12.
- 5) 第 23 回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法講習会 (NCPR) (B コース), 2023. 11. 7.
- 6) 令和 5 年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第 2 回), 2023. 11. 25.
- 7) 令和 5 年度群馬県救急救命士向け新生児蘇生法研修会 (第 1 回), 2023. 11. 25.
- 8) 令和 5 年度群馬県消防学校救急科新生児蘇生法実習 (第 1 班), 2023. 12. 18.
- 9) 令和 5 年度群馬県消防学校救急科新生児蘇生法実習 (第 2 班), 2023. 12. 19.
- 10) 令和 5 年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第 3 回), 2024. 1. 20.
- 11) 令和 5 年度群馬県新生児蘇生法研修会 A コース (第 3 回), 2024. 1. 20.
- 12) 令和 5 年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第 4 回), 2024. 2. 10.
- 13) 令和 5 年度群馬県救急救命士向け新生児蘇生法研修会 (第 2 回), 2024. 2. 10.

◆産科・新生児科

- 1) 第 30 回群馬県立小児医療センター総合周産期母子医療センターオープンカンファレンス, 2024. 3. 10.

14. 公的資金による研究

1 院内研究費による研究

(1) 自主研究事業

■推奨テーマ

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
1	稀少遺伝性疾患の遺伝子診断支援	山 口 有
		椎 原 隆
		道 和 百 合
		森 田 孝 次
2	急性虫垂炎に対する腹腔鏡下虫垂切除時の腹腔内洗浄に関する研究	横 川 英 之
		渡 辺 栄 一 郎
		清 水 彰 彦
3	超希少難治性疾患・Chronic Idiopathic Intestinal Pseudo-Obstruction (CIIP) に関する腸内細菌叢解析研究	渡 辺 栄 一 郎

■一般テーマ

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
1	患者指導をデジタル化し、指導の充実、業務効率をあげる	小 林 恭 子
		石 関 綾
2	外来診療環境の充実	高 野 朝 乃
3	搾乳器の充実	狩 野 英 美
		田 中 絢 子
4	当科に入院した施設外出生児に関する検討	丸 山 憲 一
5	1 階ギャラリースペースを活用した院内環境の向上	林 利 幸
6	小児医療センター看護部の看護研究支援体制の充実	金 子 友 香
7	動画を用いた術前訪問	川 浦 秀 明
		茂 木 歩 美
		清 水 麻 友
		磯 部 博 樹
		齋 籐 春 恵
8	患者満足度向上のため、環境を整える	村 上 容 子
9	摂食嚥下外来における効率的な摂食指導法の検討	篠 原 由 実 子
		木 下 樹
10	障害者の口腔ケアを行う看護師教育に関する調査研究	石 田 圭 吾
		楠 幸 代
11	在宅用吸引器の最終的な操作確認による在宅移行後のトラブルの変化について	木 下 樹
		浅 野 香
12	心臓カテーテル検査における患者固定具の作成	瀬 下 明 日 香
		宮 川 裕 子
12	心臓カテーテル検査における患者固定具の作成	清 水 宏 史

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
13	ベッド上安静を余儀なくされた子どものあそびの検討	狩野美紀
14	凝固試薬の検討	田原貴子
15	「非常時における代替給食に関する覚書」締結業者との合同訓練	島田純子
		丸山憲一
		中野由希子
		佐藤萌々子
16	先天性耳瘻孔の至適手術時期の検討	佐々木淑恵
17	脳波検査の新人指導方法と、より良い環境づくりの検討	浅見杏子
18	腹部膨満を訴える胃瘻患者の生活の質改善	道 和 百 合
		渡邊 栄一郎
		吉野 日茄乃
19	小児における気管チューブ挿入長について声帯からの距離を指標とした検討	廣 木 茜
20	MRI検査における患者固定ベルトの作成	山田照枝
		大川夏輝
		茂木彰子
		清水宏史
		佐々木保
21	幼若血小板比率を用いた血小板輸血予測の検討	萩原涼太
		田原貴子
22	廃用症候群患者に対する日中姿勢の工夫および活動性改善に向けた検討	六本木温子
		高柳豊史
23	職場における職員自らの非常食備蓄の推進	中野由希子
		森田孝次
		高尾淳
		黒岩徹
24	腸管減圧が必要な Hirschsprung 病類縁疾患の胃瘻接続減圧装置・ファレルバルブバッグ使用に関する患児満足度研究	山口岳史
		西 明
		渡辺 栄一郎
		西 明
25	Buzzyミニを用いた注射針穿刺時の痛み緩和効果に関する研究	渡辺 栄一郎
		山口岳史
		原田真葵
26	生化学試薬の分注使用時における測定値への影響	松井重憲
		松井重憲
27	アーキテクト1000iにおける TSH 希釈測定値の評価	酒井智子
		酒井智子
28	尿自動分析装置 CLINITEK Advantus の尿比重結果使用に向けた試み	関口彩実
29	患者家族指導をデジタル化し、統一した指導を実施する	藤井蘭
		高橋洋子
30	経食道心エコーによる冠静脈洞血流量の評価	松本直樹

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
31	血液培養陽性検体における迅速法の検討	松村 雅寛
32	TAM (一過性骨髄増殖症) の発症・進展に関わる遺伝子の解明	河崎 裕英
33	移行期支援プログラムのデジタル化についての検討	中島 公子
		宮川 裕子
		佐川 有子
		横尾 美知代
		荒木 里香
		中島 徹
		藤井 美香
		青木 栄信
		木島 久仁子
	熊丸 めぐみ	
34	CEIA (医療機器管理システム) を活用した機器文書管理の構築	下田 隼人
35	在宅医療的ケア児におけるリハニーズと連携 ～当院管理の在宅人工呼吸器症例について～	臼田 由美子
		船井 南那
		浅野 香
		渡辺 美緒
36	PICU の環境評価および整備	下山 伸哉
		富樫 哲雄
		田村 芳子
		野村 ちひろ
37	治療中でも安心感や癒し、リラックスできる空間の検討 —スヌーズレン時間の提供を目指して—	矢島 美季

2 院外研究費による研究

- 1) 林 泰秀. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構, 革新的がん医療実用化研究事業. 「一過性骨髄異常増殖症 (TAM) に対する標準化学療法確立を目指した第2相臨床試験」の開発. 研究分担者: 林 泰秀, 研究代表者: 村松秀城.
- 2) 中島公子. (公財) 川野小児医学奨学財団, 2023 (令和5) 年度若手研究助成金, Gd-EOB-DTPAを用いた造影肝臓MRI検査によるフォンタン関連肝臓病の評価と肝硬変進展様式の病態解明. 研究代表者: 中島公子.
- 3) 渡辺栄一郎. (公財) 群馬健康医学振興会, 令和5年度研究助成金. 胎便プロテオーム解析を用いた新生児消化管疾患に関するトランスレーショナルリサーチ. 研究代表者: 渡辺栄一郎.
- 4) 渡辺栄一郎. 日本学術振興会科学研究費助成事業. 若手研究. 胎便プロテオーム解析を用いた新生児消化管疾患に対する新たな治療戦略創出への挑戦. 研究代表者: 渡辺栄一郎
- 5) 渡辺栄一郎. 日本学術振興会科学研究費助成事業. 挑戦的研究 (開拓). 腸内細菌トランスオミクス解析を用いた小児疾患のトランスレーショナルリサーチ. 研究分担者: 渡辺栄一郎, 須田瓦, 川島祐介, 成島聖子, 研究代表者: 藤代 準

15. 受賞歴

池田健太郎. 第1回 UEDICC (universally educational conference of diagnostic and interventional cardiac cathetrization) 会長賞 演題 「術後三尖弁狭窄症に対するバルーン拡張術の経験」

統計編

1 管理業務

(1) 会 計

①経営分析

区 分			単位	令和5年度	4年度			
病 床 利 用 率			%	68.6	63.3			
患 者 数	1 日 平 均 患 者 数	入 院	人	103.0	95.0			
		外 来	人	174.0	179.0			
	外 来 入 院 比 率		%	112.6	124.9			
	職 員 1 人 1 日 当 り 患 者 数	医 師	入 院	人	2.5	2.2		
			外 来	人	4.2	4.1		
		看 護 師	入 院	人	0.5	0.4		
外 来			人	0.8	0.8			
収 入	患 者 1 人 当 り 診 療 収 入	入 院 診 療 収 入		円	84,908	88,802		
		う ち	薬 品 収 入	円	3,344	4,475		
			検 査 収 入	円	839	1,275		
			放 射 線 収 入	円	127	141		
		外 来 診 療 収 入		円	17,257	18,635		
		う ち	薬 品 収 入	円	4,201	5,689		
			検 査 収 入	円	3,244	3,274		
			放 射 線 収 入	円	904	893		
		費 用	患 者 1 人 当 り 材 料 費	材 料 費		円	51,216	52,054
				う ち	薬 品 費	円	6,255	8,221
診 療 材 料 費	円				5,342	5,070		
診 療 収 入 に 対 する 割 合	投 薬 ・ 注 射 収 入		%	7.7	10.3			
	検 査 収 入		%	4.3	4.8			
	放 射 線 収 入		%	1.1	1.1			
対 医 業 収 益 比	医 療 材 料 費	薬 品 費		%	12.2	15.8		
		そ の 他 の 医 療 材 料 費		%	12.3	15.9		
		計		%	22.7	25.6		
	職 員 給 与 費		%	88.7	88.9			
検 査 の 状 況	患 者 100 人 当 り	検 査 件 数		件	482	484		
		放 射 線 件 数		件	37	40		
	検 査 技 師 1 人 当 り	検 査 件 数		件	32,177	31,456		
		検 査 収 入		千円	14,094	15,503		
	放 射 線 技 師 1 人 当 り	放 射 線 件 数		件	3,736	5,134		
		放 射 線 収 入		千円	5,390	7,257		

3年度	2年度	元年度	平成30年度	29年度	28年度
73.4	72.0	71.9	76.2	70.9	71.4
110.2	108.0	107.8	114.2	106.3	107.1
183.9	181.3	198.5	197.7	189.9	190.7
110.7	111.8	120.7	115.7	119.4	118.5
2.4	2.3	2.3	2.6	2.6	2.4
4.0	3.9	4.3	4.5	4.6	4.3
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
0.8	0.8	0.9	0.9	0.9	0.9
84,236	84,094	86,660	85,762	84,584	81,467
4,769	4,319	4,895	6,197	3,366	1,861
1,196	848	950	729	736	945
116	151	151	130	141	157
18,326	18,792	17,285	16,019	16,557	16,854
4,780	4,582	4,587	3,746	4,648	4,781
3,351	2,955	2,748	2,702	2,706	2,574
889	931	932	911	973	952
51,965	13,276	12,984	12,538	12,815	11,940
7,494	7,750	7,680	7,391	7,365	6,683
5,185	5,200	5,004	4,855	5,113	4,939
9.6	9.0	9.7	10.1	8.5	7.4
4.7	3.9	4.0	3.7	3.8	3.9
1.1	1.1	1.2	1.1	1.2	1.3
14.4	15.0	15.3	14.8	15.0	13.9
14.4	10.1	10.0	9.8	10.5	10.4
24.4	25.2	25.3	24.7	25.5	24.3
80.4	84.6	81.5	77.2	81.4	85.1
522	506	527	522	552	548
39	40	40	40	42	39
40,160	35,193	41,763	46,990	42,742	42,528
17,926	13,636	15,307	16,071	13,992	14,204
5,470	5,604	5,998	5,998	5,896	5,614
7,370	7,824	8,393	8,226	8,428	8,381

②収益的收入及び支出

科目	年度	令和5年度		4年度		3年度	
		決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
病院事業収益		6,391,182	100.0	6,712,871	100.0	6,669,940	100.0
医療収益		4,100,500	64.2	4,059,375	60.5	4,401,491	66.0
入院収益		3,198,145	50.0	3,079,389	45.9	3,386,956	50.8
外来収益		731,665	11.4	807,022	12.0	815,383	12.2
その他医療収益		170,690	2.7	172,964	2.6	199,152	3.0
医療外収益		2,290,638	35.8	2,653,496	39.5	2,268,449	34.0
受取利息配当金		21	0.0	24	0.0	23	0.0
補助金		296,700	4.6	461,858	6.9	192,073	2.9
負担金・交付金		1,625,387	25.4	1,687,068	25.1	1,605,499	24.1
長期前受金戻入		279,530	4.4	292,853	4.4	290,467	4.4
その他医療外収益		89,000	1.4	211,693	3.2	180,387	2.7
特別利益		44	0.0	0	0.0	0	0.0
病院事業費用		6,568,770	100.0	6,706,365	100.0	6,546,815	100.0
医療費用		6,462,082	98.4	6,544,947	97.6	6,434,519	98.3
給与費		3,635,541	55.3	3,610,442	53.8	3,538,301	54.0
材料費		953,322	14.5	1,061,989	15.8	1,099,585	16.8
経費		1,323,367	20.1	1,309,556	19.5	1,238,977	18.9
減価償却費		487,470	7.4	526,406	7.8	520,697	8.0
資産減耗費		21,255	0.3	4,953	0.1	11,588	0.2
研究研修費		41,127	0.6	31,600	0.5	25,371	0.4
医療外費用		106,688	1.6	116,701	1.7	112,296	1.7
支払利息及び企業債取扱諸費		6,675	0.1	5,928	0.1	6,023	0.1
母子保健指導費		174	0.0	242	0.0	360	0.0
雑損失		99,839	1.5	110,531	1.6	105,913	1.6
特別損失		0	0.0	44,717	0.7	0	0.0
収支差		▲ 177,588		6,506		123,125	

(単位：千円・%)

2 年 度		元 年 度		平成 30 年度		29 年 度		28 年 度	
決算額	構成比								
6,381,193	100.0	6,319,790	100.0	6,402,746	100.0	5,961,445	100.0	5,839,593	100.0
4,308,666	67.5	4,383,884	69.4	4,482,505	70.0	4,182,516	70.2	4,102,408	70.3
3,315,995	52.0	3,420,381	54.1	3,576,199	55.9	3,281,682	55.0	3,185,180	54.5
828,131	13.0	823,283	13.0	772,753	12.1	767,134	12.9	781,018	13.4
164,540	2.6	140,220	2.2	133,553	2.1	133,700	2.2	136,210	2.3
2,015,516	31.6	1,920,837	30.4	1,920,241	30.0	1,778,930	29.8	1,736,409	29.7
47	0.0	108	0.0	99	0.0	100	0.0	171	0.0
116,443	1.8	18,508	0.3	19,650	0.3	19,486	0.3	19,751	0.3
1,484,109	23.3	1,471,043	23.3	1,460,339	22.8	1,331,884	22.3	1,309,745	22.4
290,441	4.6	275,018	4.4	251,611	3.9	256,644	4.3	249,955	4.3
124,476	2.0	156,160	2.5	188,541	2.9	170,815	2.9	156,786	2.7
57,011	0.9	15,069	0.2	0	0.0	0	0.0	777	0.0
6,591,783	100.0	6,509,005	100.0	6,342,390	100.0	6,132,370	100.0	6,103,576	100.0
6,443,706	97.8	6,384,197	98.1	6,208,675	97.9	6,024,962	98.2	5,980,166	98.0
3,643,097	55.3	3,573,702	54.9	3,462,612	54.6	3,404,643	55.5	3,491,030	57.2
1,108,538	16.8	1,130,922	17.4	1,127,676	17.8	1,090,952	17.8	1,020,160	16.7
1,130,995	17.2	1,138,901	17.5	1,125,771	17.7	1,031,407	16.8	982,641	16.1
534,469	8.1	490,824	7.5	445,725	7.0	453,151	7.4	416,370	6.8
2,008	0.0	12,413	0.2	11,320	0.2	5,113	0.1	24,189	0.4
24,598	0.4	37,437	0.6	35,572	0.6	39,695	0.6	45,775	0.7
90,752	1.4	108,471	1.7	103,383	1.6	107,408	1.8	92,321	1.5
6,844	0.1	10,022	0.2	13,849	0.2	15,155	0.2	15,945	0.3
160	0.0	403	0.0	193	0.0	201	0.0	116	0.0
83,748	1.3	98,045	1.5	89,341	1.4	92,053	1.5	76,260	1.2
57,325	0.9	16,337	0.3	30,332	0.5	0	0.0	31,089	0.5
▲ 210,590		▲ 189,215		60,356		▲ 170,925		▲ 263,984	

③月別医業収益内訳

区分		月別						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入院収益	入院料	128,835,502	156,098,537	198,392,643	246,659,310	184,514,846	155,388,196	218,256,487
	給食料	3,334,536	3,716,324	4,552,605	5,368,181	4,218,683	3,735,283	4,323,278
	投薬	1,107,630	956,430	956,811	871,358	1,002,244	745,135	804,675
	注射	6,430,330	16,207,840	7,548,285	9,440,086	8,567,065	10,746,593	8,501,083
	処置及び手術	43,408,030	52,132,160	62,144,170	51,218,759	53,072,057	37,986,493	49,318,056
	検査	2,864,720	2,673,490	2,478,981	3,820,703	2,750,276	2,527,869	2,903,715
	X線	200,630	421,330	404,532	535,619	391,383	417,752	427,507
	その他	8,310,610	5,494,310	7,958,161	8,042,023	6,755,881	8,675,642	6,792,899
	計	194,491,988	237,700,421	284,436,188	325,956,039	261,272,435	220,222,963	291,327,700
外来収益	初診料	1,224,530	1,489,320	1,647,024	1,775,023	1,532,026	1,260,165	1,432,057
	再診料	3,408,620	3,643,340	4,077,381	3,879,490	4,492,573	3,649,043	3,706,608
	投薬	128,740	57,580	52,710	56,003	60,711	60,062	49,615
	注射	6,666,450	8,714,150	16,692,978	18,072,802	20,978,573	17,728,950	16,614,697
	処置及び手術	3,115,600	5,441,650	4,917,261	3,697,844	3,966,780	4,032,469	3,863,986
	検査	9,850,880	10,521,600	12,025,405	12,034,004	14,267,230	11,831,603	11,113,170
	X線	3,000,410	3,017,060	2,871,423	3,331,136	4,243,900	3,343,068	2,926,586
	その他	19,030,152	27,601,195	21,644,948	22,104,298	19,944,904	23,097,565	18,190,299
	計	46,425,382	60,485,895	63,929,130	64,950,600	69,486,697	65,002,925	57,897,018
その他	16,164,956	10,851,475	9,784,366	9,405,511	12,105,948	9,808,623	12,869,571	
合計	257,082,326	309,037,791	358,149,684	400,312,150	342,865,080	295,034,511	362,094,289	

(単位：円・%)

11月	12月	1月	2月	3月	令和5年度計	4年度計	対前年比
187,063,100	247,747,899	242,765,255	159,625,983	178,172,532	2,303,520,290	2,195,172,091	104.9
4,550,643	5,357,606	4,585,112	3,692,831	4,010,535	51,445,617	48,976,851	105.0
1,023,112	1,528,654	837,614	805,446	710,848	11,349,957	14,595,727	77.8
9,212,987	11,272,816	9,705,996	7,500,642	9,456,884	114,590,607	140,576,576	81.5
45,719,561	48,366,380	65,000,673	49,025,937	36,515,283	593,907,559	554,617,522	107.1
2,576,726	2,168,191	1,839,781	2,454,487	2,531,942	31,590,881	44,227,700	71.4
474,777	328,049	262,561	452,242	476,502	4,792,884	4,881,114	98.2
7,618,221	8,422,468	6,808,509	5,511,682	6,557,127	86,947,533	76,341,136	113.9
258,239,127	325,192,063	331,805,501	229,069,250	238,431,653	3,198,145,328	3,079,388,717	103.9
1,408,345	1,365,267	1,493,113	1,277,720	1,548,896	17,453,486	17,503,520	99.7
3,679,875	3,748,428	3,693,849	3,470,692	3,857,981	45,307,880	47,124,745	96.1
46,412	59,605	42,085	63,360	37,376	714,259	704,860	101.3
22,197,922	21,235,637	12,199,557	14,664,056	1,646,964	177,412,736	245,670,086	72.2
4,388,212	5,537,513	4,622,260	4,118,773	6,265,731	53,968,079	48,948,127	110.3
10,605,668	11,251,619	11,351,045	10,279,413	12,408,618	137,540,255	141,806,131	97.0
2,976,634	2,930,383	3,086,883	3,042,957	3,558,833	38,329,273	38,661,038	99.1
23,301,180	18,156,567	24,908,430	20,421,658	22,538,318	260,939,514	266,604,220	97.9
68,604,248	64,285,019	61,397,222	57,338,629	51,862,717	731,665,482	807,022,727	90.7
13,853,067	10,269,573	12,864,681	10,204,575	42,507,242	170,689,588	172,963,610	98.7
340,696,442	399,746,655	406,067,404	296,612,454	332,801,612	4,100,500,398	4,059,375,054	101.0

2 診療業務

(1) 総括表

区 分			令和5年度	4年度	3年度	
外 来	診療日数	A	243日	243日	242日	
	新患者数	B	3,144人	3,319人	3,286人	
	延患者数	C	42,397人	43,307人	44,493人	
	平均通院日数	D	C/B	13.5日	13.0日	13.5日
	日平均新患者数	E	B/A	12.9人	13.7人	13.6人
	日平均患者数	F	C/A	174.5人	178.2人	183.9人
入 院	診療日数	G	366日	365日	365日	
	病床数	H	150床	150床	150床	
	新入院患者数	I	3,130人	3,200人	3,214人	
	退院患者数	J	3,139人	3,193人	3,225人	
	延入院患者数	K	37,666人	34,677人	40,208人	
	病床利用率	L	$K/G/H*100$	68.6%	63.3%	73.4%
	病床回転率	M	$\{(I+J)*1/2\}/H/L$	30.5回	33.6回	29.2回
	平均在院日数	N	$K/\{(I+J)/2\}$	12.0日	10.8日	12.5日
	外来入院比率	O	$C/K*100$	112.6%	124.9%	110.7%
	入院率	P	$I/B*100$	99.6%	96.4%	97.8%
	日平均新入院数	Q	I/G	8.6人	8.8人	8.8人
日平均患者数	R	K/G	102.9人	95.0人	110.2人	

2 年度	元 年度	平成30年度	29 年度	28 年度	27 年度
243 日	240 日	244 日	244 日	243 日	243 日
2,909 人	3,301 人	3,284 人	3,007 人	3,141 人	3,333 人
44,068 人	47,630 人	48,239 人	46,334 人	46,340 人	47,114 人
15.1 日	14.4 日	14.7 日	15.4 日	14.8 日	14.1 日
12.0 人	13.8 人	13.5 人	12.3 人	12.9 人	13.7 人
181.3 人	198.5 人	197.7 人	189.9 人	190.7 人	193.9 人
365 日	366 日	365 日	365 日	365 日	366 日
150 床					
3,096 人	3,294 人	3,311 人	3,021 人	3,026 人	3,084 人
3,088 人	3,307 人	3,297 人	3,033 人	3,025 人	3,075 人
39,432 人	39,469 人	41,699 人	38,798 人	39,098 人	40,361 人
72.0 %	71.9 %	76.2 %	70.9 %	71.4 %	73.5 %
28.6 回	30.6 回	28.9 回	28.5 回	28.2 回	27.9 回
12.8 日	12.0 日	12.6 日	12.8 日	12.9 日	13.1 日
111.8 %	120.7 %	115.7 %	119.4 %	118.5 %	116.7 %
106.4 %	99.8 %	100.8 %	100.5 %	96.3 %	92.5 %
8.5 人	9.0 人	9.1 人	8.3 人	8.3 人	8.4 人
108.0 人	107.8 人	114.2 人	106.3 人	107.1 人	110.3 人

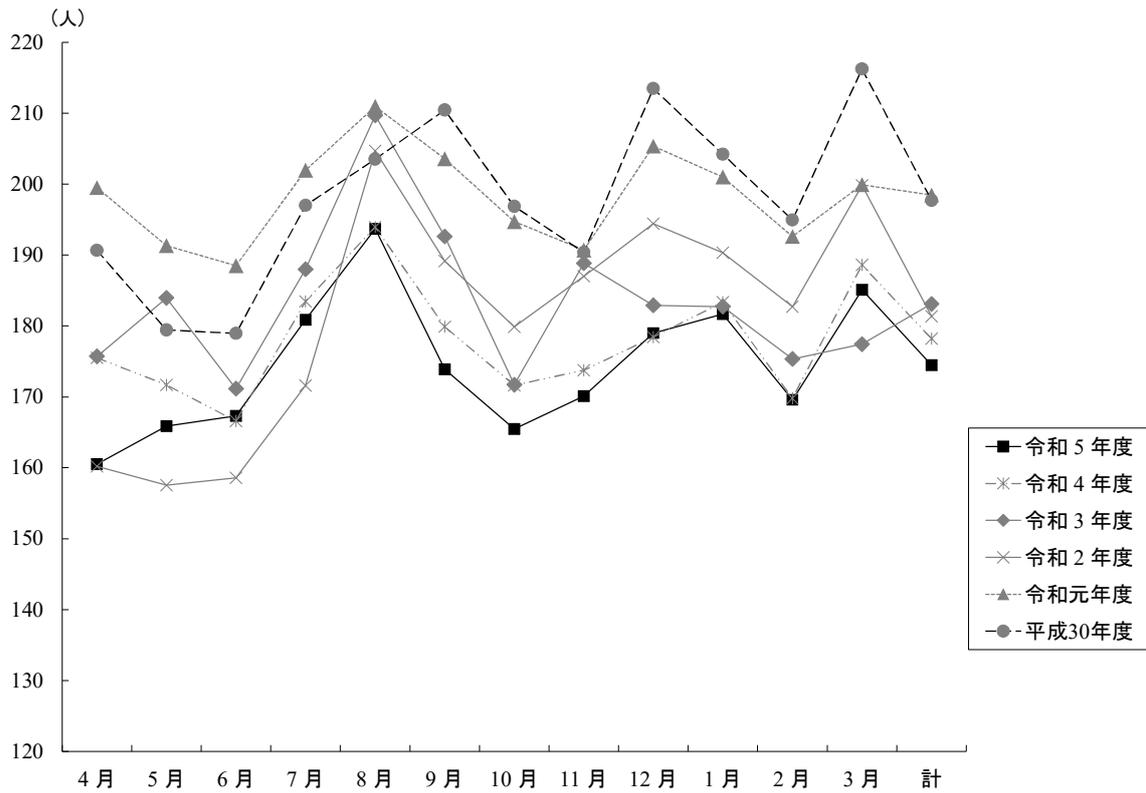
(2) 月別・科別外来患者受診の状況(人)

区分		月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
一般内科	初診		47	48	58	76	66	47	34
	再診		133	148	153	199	205	183	199
	延数		180	196	211	275	271	230	233
内分泌代謝科	初診		0	0	0	0	0	0	0
	再診		30	16	24	27	36	25	19
	延数		30	16	24	27	36	25	19
腎臓内科	初診		2	1	3	2	0	1	1
	再診		32	34	35	34	71	29	38
	延数		34	35	38	36	71	30	39
アレルギー・ リウマチ科/ 感染症科	初診		6	7	5	3	5	1	3
	再診		191	197	221	184	239	147	191
	延数		197	204	226	187	244	148	194
血液腫瘍科	初診		0	1	2	2	1	1	3
	再診		72	63	69	85	108	63	46
	延数		72	64	71	87	109	64	49
リハビリ	初診		0	0	0	0	0	0	0
	再診		340	327	380	362	400	364	390
	延数		340	327	380	362	400	364	390
小児精神科	初診		1	0	0	0	1	1	1
	再診		52	66	70	73	76	69	73
	延数		53	66	70	73	77	70	74
遺伝科	初診		6	0	1	2	3	6	2
	再診		59	66	100	95	93	95	77
	延数		65	66	101	97	96	101	79
眼科	初診		0	0	0	0	0	0	0
	再診		2	4	8	4	11	11	5
	延数		2	4	8	4	11	11	5
耳鼻咽喉科	初診		0	0	0	0	0	0	0
	再診		12	23	14	18	14	14	11
	延数		12	23	14	18	14	14	11
循環器科	初診		22	28	22	26	28	26	33
	再診		301	315	403	370	512	448	398
	延数		323	343	425	396	540	474	431
神経内科	初診		7	5	9	10	8	10	5
	再診		247	189	240	214	233	205	241
	延数		254	194	249	224	241	215	246
一般外科	初診		21	30	37	32	39	18	27
	再診		290	332	312	333	423	327	285
	延数		311	362	349	365	462	345	312
形成外科	初診		36	47	44	36	37	36	37
	再診		258	351	352	319	387	303	286
	延数		294	398	396	355	424	339	323
整形外科	初診		14	19	13	6	10	10	11
	再診		250	210	193	233	288	191	176
	延数		264	229	206	239	298	201	187
脳神経外科	初診		0	0	0	0	0	0	0
	再診		1	1	0	1	5	4	2
	延数		1	1	0	1	5	4	2
新生児科	初診		17	26	16	18	31	29	36
	再診		210	192	240	208	274	218	217
	延数		227	218	256	226	305	247	253
産科	初診		40	39	34	33	35	36	47
	再診		226	219	232	229	259	247	268
	延数		266	258	266	262	294	283	315
歯科	初診		26	22	31	33	34	27	33
	再診		259	291	360	350	329	286	280
	延数		285	313	391	383	363	313	313
合計	初診		245	273	275	279	298	249	273
	再診		2,965	3,044	3,406	3,338	3,963	3,229	3,202
	延数		3,210	3,317	3,681	3,617	4,261	3,478	3,475
診療実日数			20	20	22	20	22	20	21
日平均患者数			160.5	165.9	167.3	180.9	193.7	173.9	165.5

(単位：人・%)

11月	12月	1月	2月	3月	令和5年度計	4年度計	対前年比
43	54	50	40	46	609	813	74.9
165	182	135	148	182	2,032	2,311	87.9
208	236	185	188	228	2,641	3,124	84.5
0	0	0	0	0	0	0	-
26	25	33	23	29	313	347	90.2
26	25	33	23	29	313	347	90.2
0	0	0	1	0	11	19	57.9
33	32	28	33	40	439	488	90.0
33	32	28	34	40	450	507	88.8
1	4	2	2	5	44	49	89.8
182	240	210	206	230	2,438	2,272	107.3
183	244	212	208	235	2,482	2,321	106.9
2	4	2	1	2	21	17	123.5
52	74	56	65	85	838	869	96.4
54	78	58	66	87	859	886	97.0
0	0	0	0	0	0	0	-
385	392	381	361	384	4,466	4,576	97.6
385	392	381	361	384	4,466	4,576	97.6
0	0	0	2	1	7	0	-
62	62	83	68	70	824	368	223.9
62	62	83	70	71	831	368	225.8
2	1	3	1	2	29	22	131.8
102	77	79	63	113	1,019	908	112.2
104	78	82	64	115	1,048	930	112.7
0	0	0	0	0	0	0	-
4	3	3	5	7	67	67	100.0
4	3	3	5	7	67	67	100.0
0	0	0	1	0	1	0	-
16	11	19	12	17	181	246	73.6
16	11	19	13	17	182	246	74.0
21	17	21	16	12	272	295	92.2
373	425	353	345	400	4,643	4,558	101.9
394	442	374	361	412	4,915	4,853	101.3
9	5	6	6	7	87	84	103.6
192	208	219	200	209	2,597	3,081	84.3
201	213	225	206	216	2,684	3,165	84.8
23	30	33	28	36	354	332	106.6
294	325	320	266	373	3,880	3,677	105.5
317	355	353	294	409	4,234	4,009	105.6
37	46	34	39	37	466	515	90.5
310	314	301	311	332	3,824	4,046	94.5
347	360	335	350	369	4,290	4,561	94.1
10	4	16	12	7	132	166	79.5
176	145	203	187	206	2,458	2,593	94.8
186	149	219	199	213	2,590	2,759	93.9
0	0	0	0	0	0	1	-
0	2	1	0	3	20	15	133.3
0	2	1	0	3	20	16	125.0
31	22	26	21	18	291	261	111.5
221	216	217	196	215	2,624	2,908	90.2
252	238	243	217	233	2,915	3,169	92.0
42	48	51	34	51	490	450	108.9
272	263	255	258	256	2,984	2,947	101.3
314	311	306	292	307	3,474	3,397	102.3
29	24	20	24	27	330	295	111.9
287	325	292	247	300	3,606	3,711	97.2
316	349	312	271	327	3,936	4,006	98.3
250	259	264	228	251	3,144	3,319	94.7
3,152	3,321	3,188	2,994	3,451	39,253	39,988	98.2
3,402	3,580	3,452	3,222	3,702	42,397	43,307	97.9
20	20	19	19	20	243	243	100.0
170.1	179.0	181.7	169.6	185.1	174.5	178.2	97.9

◆1日平均外来患者の状況



(単位：人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和5年度	160.5	165.9	167.3	180.9	193.7	173.9	165.5	170.1	179.0	181.7	169.6	185.1	174.5
4年度	175.5	171.7	166.6	183.5	194.0	179.9	171.7	173.8	178.5	183.4	169.8	188.6	178.2
3年度	175.7	183.9	171.1	188.0	209.7	192.6	171.7	188.8	182.9	182.7	175.3	177.4	183.1
2年度	160.2	157.6	158.6	171.6	204.7	189.2	179.9	187.0	194.4	190.3	182.7	199.8	181.3
元年度	199.5	191.3	188.5	202.0	211.0	203.6	194.7	190.7	205.4	201.0	192.6	199.9	198.5
平成30年度	190.7	179.4	179.0	197.0	203.5	210.4	196.9	190.4	213.5	204.2	194.9	216.3	197.7

(3) 月別入退院患者数

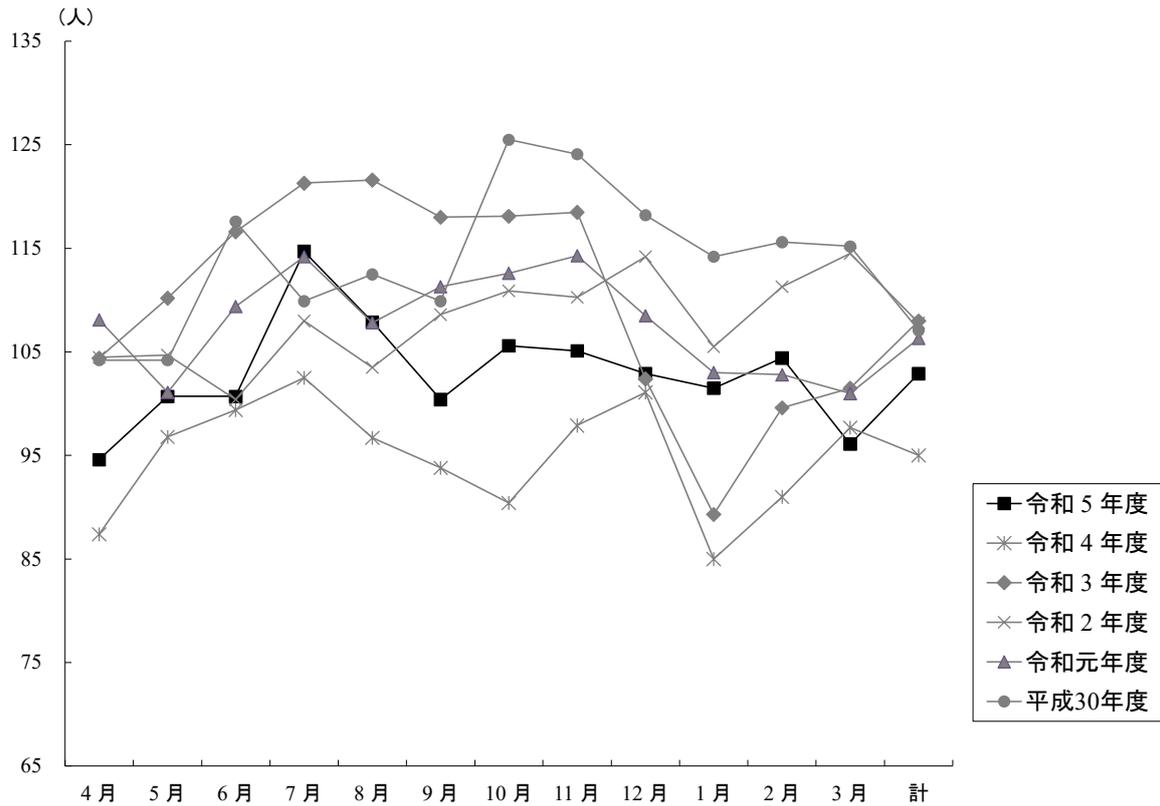
(単位：人・%)

病棟	月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和5 年度計	4年度 計	対前年 比
		第	入院	(6) 75	(11) 80	(11) 86	(19) 110	(12) 97	(3) 81	(5) 69	(3) 70	(4) 82	(10) 84	(10) 66	(9) 68	(103) 968
	退院		(1) 82	(1) 86	(5) 118	(5) 105	(1) 92	(3) 67	(3) 69	(3) 92	(2) 81	(6) 73	(1) 78	(31) 1,039	(20) 1,089	95.4
一	月末在院者数	14	18	18	24	23	14	18	19	10	21	18	18			
	延患者数	566	626	615	745	736	574	630	630	580	614	618	581	7,515	6,885	109.2
	1日平均	18.9	20.2	20.5	24.0	23.7	19.1	20.3	21.0	18.7	19.8	21.3	18.7	20.5	18.9	108.9
第	入院	(3) 77	(6) 88	(6) 78	(8) 104	(8) 101	(6) 74	(7) 78	(12) 68	(12) 77	(10) 98	(9) 76	(8) 84	(95) 1,003	(89) 1,028	97.6
	退院	(7) 77	(6) 86	(12) 74	(14) 92	(7) 104	(6) 83	(9) 63	(11) 69	(11) 94	(8) 87	(8) 83	(13) 78	(112) 990	(117) 993	99.7
二	月末在院者数	15	17	15	21	19	10	23	23	5	20	14	17			
	延患者数	514	523	503	645	592	467	541	605	533	494	449	451	6,317	6,180	102.2
	1日平均	17.1	16.9	16.8	20.8	19.1	15.6	17.5	20.2	17.2	15.9	15.5	14.5	17.3	16.9	101.9
第	入院	(8) 38	(13) 59	(12) 39	(12) 44	(11) 41	(7) 35	(16) 51	(13) 45	(11) 44	(13) 57	(12) 37	(9) 39	(137) 529	(123) 548	96.5
	退院	(7) 43	(13) 53	(11) 38	(8) 44	(8) 49	(8) 42	(10) 47	(12) 45	(8) 56	(13) 52	(10) 42	(5) 45	(113) 556	(115) 557	99.8
三	月末在院者数	13	19	21	25	20	12	22	23	16	19	16	15			
	延患者数	551	594	640	736	706	547	632	659	653	580	614	625	7,537	6,804	110.8
	1日平均	18.4	19.2	21.3	23.7	22.8	18.2	20.4	22.0	21.1	18.7	21.2	20.2	20.6	18.6	110.5
P I C U	入院	(11) 5	(15) 6	(18) 9	(19) 9	(12) 10	(12) 1	(19) 1	(26) 3	(18) 5	(18) 8	(22) 5	(13) 4	(203) 66	(174) 64	103.1
	退院	(13) 1	(23) 1	(22) 3	(28) 1	(23) 1	(9) 1	(24) 1	(28) 1	(21) 1	(25) 1	(27) 1	(20) 1	(263) 8	(223) 15	53.3
	月末在院者数	7	4	6	6	4	8	4	4	6	6	6	3			
	延患者数	124	198	148	194	182	172	206	150	155	194	205	166	2,094	1,812	115.6
	1日平均	4.1	6.4	4.9	6.3	5.9	5.7	6.6	5.0	5.0	6.3	7.1	5.4	5.7	5.0	115.2
新 生 児 ・ 未 熟 児	入院	11	16	15	17	21	20	26	24	13	18	14	10	205	(1) 214	95.8
	退院	(1) 12	(2) 13	(1) 11	(3) 19	(4) 19	(1) 17	(1) 26	(2) 20	(3) 13	(2) 13	(2) 11	(14) 14	(19) 188	(9) 205	91.7
	月末在院者数	27	28	31	26	28	27	26	30	27	30	31	26			
	延患者数	870	896	858	896	765	904	890	759	894	959	882	865	10,438	9,344	111.7
	1日平均	29.0	28.9	28.6	28.9	24.7	30.1	28.7	25.3	28.8	30.9	30.4	27.9	28.5	25.6	111.4
産 科	入院	25	31	22	24	36	30	36	39	33	30	28	25	359	(2) 338	106.2
	退院	28	28	23	25	31	33	41	30	35	36	25	23	358	(2) 334	107.2
	月末在院者数	7	10	9	8	13	10	5	14	13	6	9	9			
	延患者数	214	286	256	341	365	349	376	349	374	304	260	291	3,765	3,652	103.1
	1日平均	7.1	9.2	8.5	11.0	11.8	11.6	12.1	11.6	12.1	9.8	9.0	9.4	10.3	10.0	102.8
合 計	入院	(28) 231	(45) 280	(47) 249	(58) 308	(43) 306	(28) 241	(47) 261	(54) 249	(45) 254	(51) 295	(53) 226	(39) 230	(538) 3,130	(486) 3,200	97.8
	退院	(28) 243	(45) 267	(47) 245	(58) 298	(43) 309	(28) 267	(47) 244	(54) 234	(45) 290	(51) 270	(53) 234	(39) 238	(538) 3,139	(486) 3,193	98.3
	月末在院者数	83	96	100	110	107	81	98	113	77	102	94	88			
	延患者数	2,839	3,123	3,020	3,557	3,346	3,013	3,275	3,152	3,189	3,145	3,028	2,979	37,666	34,677	108.6
	1日平均	94.6	100.7	100.7	114.7	107.9	100.4	105.6	105.1	102.9	101.5	104.4	96.1	102.9	95.0	108.3
	病床利用率	63.1	67.2	67.1	76.5	72.0	67.0	70.4	70.0	68.6	67.6	69.6	64.1	68.6	63.3	108.3

(注)入院・退院欄の上段は転棟患者数

病床利用率は、運用病床数 150 床で算出

◆1日平均入院患者の状況



(単位：人)

月年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和5年度	94.6	100.7	100.7	114.7	107.9	100.4	105.6	105.1	102.9	101.5	104.4	96.1	102.9
4年度	87.4	96.8	99.4	102.5	96.7	93.8	90.4	97.9	101.1	85.0	91.0	97.7	95.0
3年度	104.4	110.2	116.6	121.3	121.6	118.0	118.1	118.5	102.4	89.3	99.6	101.5	108.0
2年度	104.5	104.7	100.4	108.0	103.5	108.6	110.9	110.3	114.2	105.5	111.3	114.5	107.8
元年度	108.1	101.1	109.4	114.2	107.8	111.3	112.6	114.3	108.5	103.0	102.8	101.0	106.3
平成30年度	104.2	104.2	117.6	109.9	112.5	109.9	125.5	124.1	118.2	114.2	115.6	115.2	107.1

(4) 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数

(単位：人・%)

月別 管内別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和5年度計	構成比	4年度計	対前年比
前橋市	48	62	64	56	69	48	51	42	48	45	48	56	637	20.3	776	82.1
高崎市	51	51	54	38	49	51	54	58	56	58	52	54	626	19.9	651	96.2
安中	3	9	2	2	2	4	3	8	7	4	6	4	54	1.7	55	98.2
渋川	30	40	45	66	43	42	37	35	48	47	34	39	506	16.1	504	100.4
藤岡	3	4	7	7	7	9	5	4	5	7	2	4	64	2.0	84	76.2
富岡	2	3	2	0	7	4	5	5	2	3	4	3	40	1.3	52	76.9
吾妻	11	6	8	8	17	8	14	9	6	11	7	6	111	3.5	114	97.4
利根沼田	19	18	14	16	19	17	15	21	18	11	15	21	204	6.5	179	114.0
伊勢崎	26	34	36	35	31	18	34	26	24	21	18	26	329	10.5	352	93.5
桐生	14	5	6	5	9	7	13	7	5	13	10	5	99	3.1	86	115.1
太田	7	11	10	19	13	14	15	14	14	11	10	10	148	4.7	137	108.0
館林	3	3	3	3	1	5	6	1	0	2	5	2	34	1.1	54	63.0
県外	28	27	24	24	31	22	21	20	26	31	17	21	292	9.3	275	106.2
令和5年度計	245	273	275	279	298	249	273	250	259	264	228	251	3,144	100	3,319	94.7
4年度計	240	274	280	296	349	298	257	291	297	238	241	258	—	—	3,319	—

(注)この表は、当センターに初診で登録された患者の集計である。したがって、即入院患者数が含まれたものである。

◆地域別新規登録患者数

区 分	令和5年度	4年度	対前年比
総 計	3,144	3,319	94.7
市 計	2,376	2,531	93.9
町 村 計	476	513	92.8
県 外 計	292	275	106.2
前橋市保健所	637	776	82.1
前 橋 市	637	776	82.1
高崎市保健所	626	651	96.2
高 崎 市	626	651	96.2
安中保健福祉事務所	54	55	98.2
安 中 市	54	55	98.2
渋川保健福祉事務所	506	504	100.4
渋 川 市	298	299	99.7
榛 東 村	59	55	107.3
吉 岡 町	149	150	99.3
藤岡保健福祉事務所	64	84	76.2
藤 岡 市	62	84	73.8
神 流 町			—
上 野 村	2		—

区 分	令和5年度	4年度	対前年比
富岡保健福祉事務所	40	52	76.9
富 岡 市	31	36	86.1
下 仁 田 町	4	1	400.0
南 牧 村			—
甘 楽 町	5	15	33.3
吾妻保健福祉事務所	111	114	97.4
中 之 条 町	39	38	102.6
東 吾 妻 町	21	21	100.0
長 野 原 町	8	12	66.7
嬭 恋 村	5	22	22.7
草 津 町	23	16	143.8
高 山 村	15	5	300.0
利根沼田保健福祉事務所	204	179	114.0
沼 田 市	117	96	121.9
片 品 村	10	10	100.0
川 場 村	8	7	114.3
みなかみ町	48	45	106.7
昭 和 村	21	21	100.0

(単位：人・%)

区 分	令和5年度	4年度	対前年比
伊勢崎保健福祉事務所	329	352	93.5
伊勢崎市	295	299	98.7
玉村町	34	53	64.2
桐生保健福祉事務所	99	86	115.1
桐生市	64	55	116.4
みどり市	35	31	112.9
太田保健福祉事務所	148	137	108.0
太田市	148	137	108.0
館林保健福祉事務所	34	54	63.0
館林市	9	12	75.0
板倉町		2	—
明和村	2		—
千代田町	2	4	50.0
大泉町	15	30	50.0
邑楽町	6	6	100.0

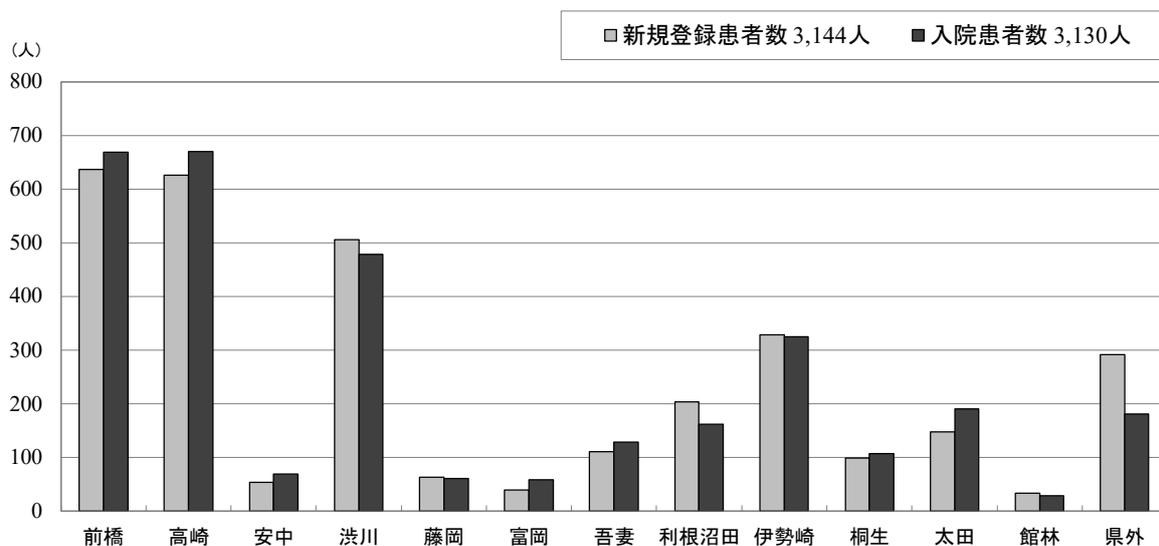
区 分	令和5年度	4年度	対前年比
県外計	292	275	106.2
北海道	1	2	50.0
青森県	1	1	100.0
宮城県		1	—
秋田県	2	2	100.0
山形県	1		—
福島県	1	1	100.0
茨城県	5	2	250.0
栃木県	25	24	104.2
埼玉県	138	150	92.0
千葉県	19	15	126.7
東京都	46	36	127.8
神奈川県	22	21	104.8
新潟県	6	4	150.0
石川県		1	—
山梨県	1		—
長野県	7	2	350.0
静岡県	3	4	75.0
愛知県	3	2	150.0
三重県	3	1	300.0
滋賀県		1	—
京都府		1	—
大阪府	1		—
兵庫県	3	2	150.0
和歌山県	2		—
鳥取県	1		—
福岡県	1	1	100.0
沖縄県		1	—
国内計	292	275	106
国 外			

◆地域入院患者の状況(再入院を含む)

区 分	令和5年度	4年度	対前年比
総 計	3,130	3,200	97.8
市 計	2,493	2,522	98.9
町 村 計	456	458	99.6
県 外 計	181	220	82.3
前橋市保健所	669	674	99.3
前 橋 市	669	674	99.3
高崎市保健所	670	663	101.1
高 崎 市	670	663	101.1
安中保健福祉事務所	70	70	100.0
安 中 市	70	70	100.0
渋川保健福祉事務所	478	485	98.6
渋 川 市	283	304	93.1
榛 東 村	54	53	101.9
吉 岡 町	141	128	110.2
藤岡保健福祉事務所	61	94	64.9
藤 岡 市	60	92	65.2
神 流 町			—
上 野 村	1	2	—

区 分	令和5年度	4年度	対前年比
富岡保健福祉事務所	58	55	105.5
富 岡 市	32	37	86.5
下 仁 田 町	8	5	160.0
南 牧 村			—
甘 楽 町	18	13	138.5
吾妻保健福祉事務所	129	132	97.7
中 之 条 町	42	32	131.3
東 吾 妻 町	35	34	102.9
長 野 原 町	16	20	80.0
嬭 恋 村	12	16	75.0
草 津 町	19	22	86.4
高 山 村	5	8	62.5
利根沼田保健福祉事務所	162	121	133.9
沼 田 市	104	78	133.3
片 品 村	5	3	166.7
川 場 村	7		—
み な か み 町	31	30	103.3
昭 和 村	15	10	150.0

◆地域別利用状況(市保健所・保健福祉事務所管内別の状況 令和5年度)



(単位：人・%)

区 分	令和5年度	4年度	対前年比
伊勢崎保健福祉事務所	325	338	96.2
伊勢崎市	296	300	98.7
玉村町	29	38	76.3
桐生保健福祉事務所	107	96	111.5
桐生市	64	65	98.5
みどり市	43	31	138.7
太田保健福祉事務所	191	197	97.0
太田市	191	197	97.0
館林保健福祉事務所	29	55	52.7
館林市	11	11	100.0
板倉町		2	—
明和村	2		—
千代田町			—
大泉町	11	35	31.4
邑楽町	5	7	71.4

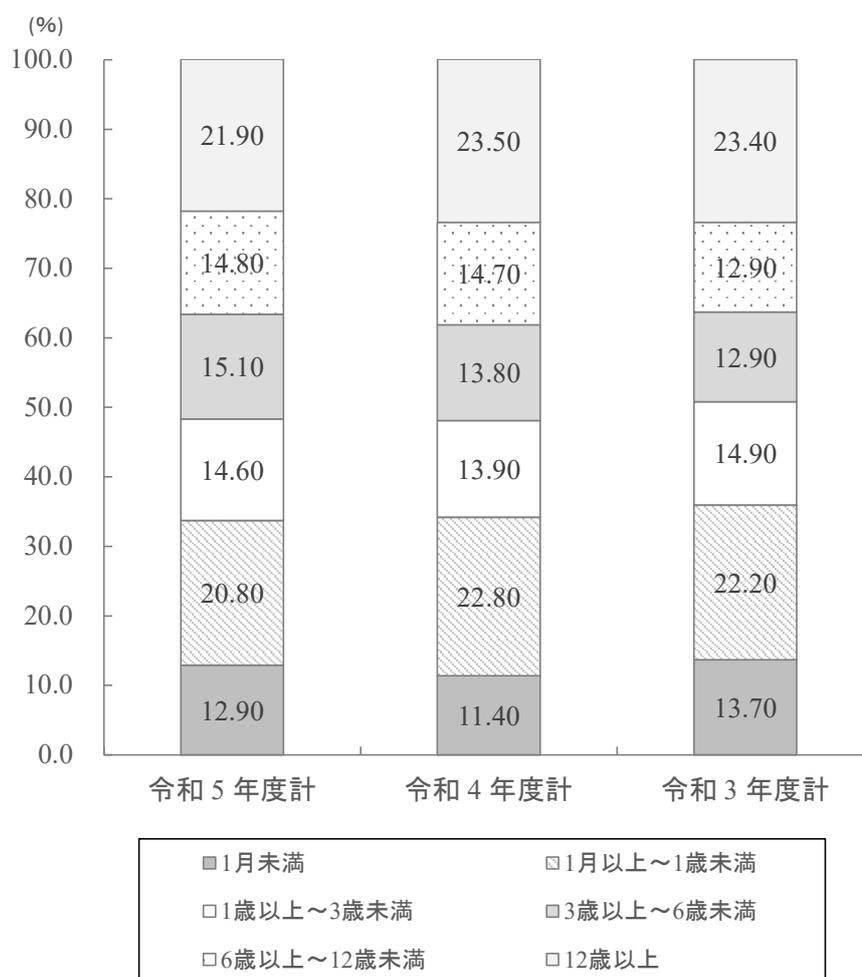
区 分	令和5年度	4年度	対前年比
県 外 計	181	220	82.3
北海道	1		—
青森県		1	—
宮城県		2	—
秋田県	1	4	25.0
山形県		1	—
茨城県	2		—
栃木県	19	21	90.5
埼玉県	112	140	80.0
千葉県	10	5	200.0
東京都	18	19	94.7
神奈川県	7	5	140.0
新潟県	2		—
石川県		1	—
長野県	4	2	200.0
静岡県		4	—
愛知県	1		—
三重県	2	12	16.7
京都府		2	—
兵庫県	2		—
沖縄県		1	—
国内計	181	220	82.3
国 外			

(5) 年齢階層別状況(新規登録患者)

(単位：人・%)

年齢	区分	男	女	令和5年度計	4年度計	対前年比
1月未満		207	198	405	378	107.1
1月以上～1歳未満		319	335	654	757	86.4
1歳以上～3歳未満		273	186	459	460	99.8
小計		799	719	1,518	1,595	95.2
3歳以上～6歳未満		271	203	474	458	103.5
6歳以上～12歳未満		268	197	465	487	95.5
12歳以上		109	578	687	779	88.2
令和5年度計		1,447	1,697	3,144		94.7
令和4年度計		1,466	1,853		3,319	
対前年比		98.7	91.6	94.7		

◆年齢階層別状況(新規登録患者) 令和3年度～令和5年度



(6) 救急医療

①救急医療の状況(診療状況より)

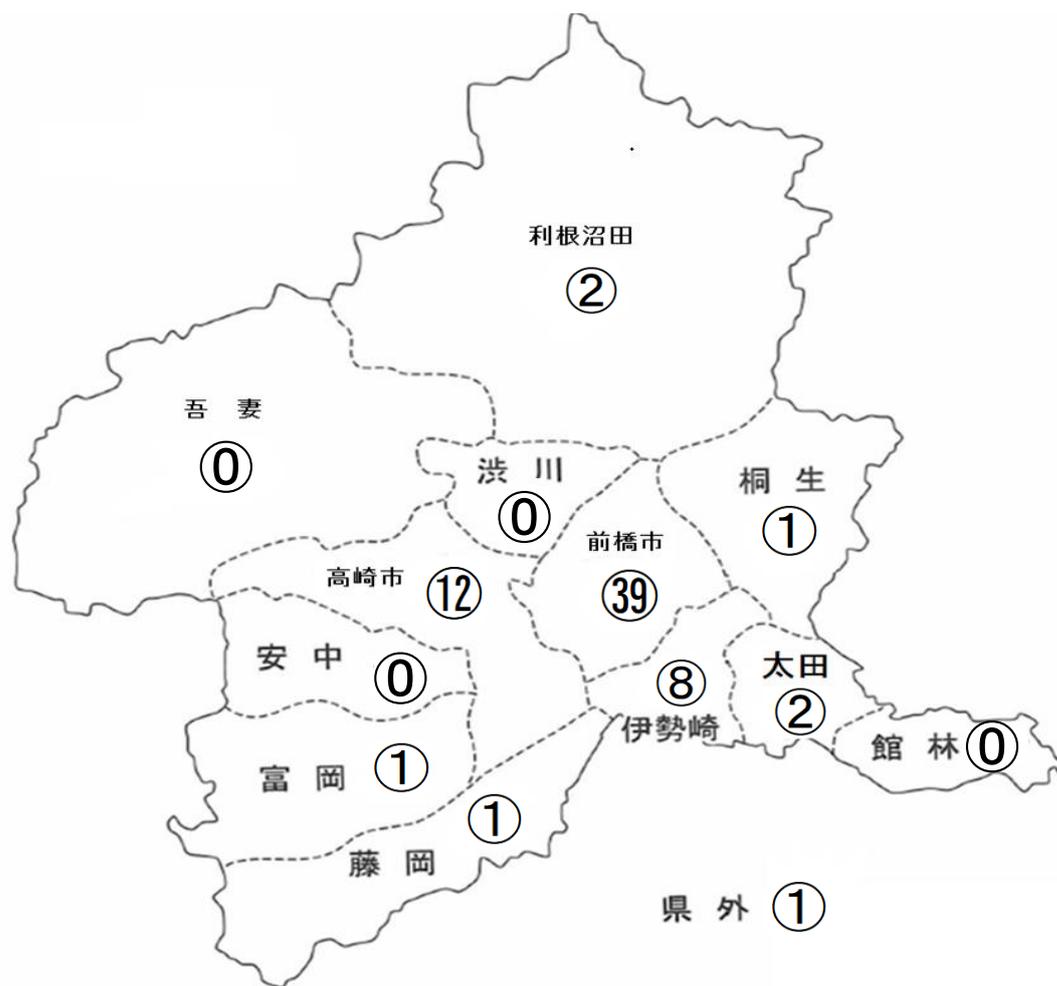
(単位：人・%)

区分		月別													令和 5年 度計	4年 度計	対前 年比
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
N I C U 車	時間外	1	1	5	2	5	3	4	4	4	0	1	1	31	31	100.0	
	時間内	4	2	1	4	1	1	2	3	0	5	3	2	28	28	100.0	
	休 日	1	2	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	8	7	114.3	
	計	6	5	7	7	7	4	6	7	5	6	4	3	67	66	101.5	
救 急 車 ・ そ の 他	時間外	58	82	83	111	112	72	69	85	81	73	68	84	978	828	118.1	
	時間内	16	8	11	16	20	13	11	13	10	12	9	14	153	123	124.4	
	休 日	43	43	24	56	33	32	44	43	53	49	49	47	516	471	109.6	
	計	117	133	118	183	165	117	124	141	144	134	126	145	1,647	1,422	115.8	
合 計		123	138	125	190	172	121	130	148	149	140	130	148	1,714	1,488	115.2	

(注)「時間内」とは、平日の8:30～17:15である。それ以外の時間を「時間外」に区分した。

土曜は「時間外」とした。

② NICU 車市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況（搬入元医療機関等）



出動区分		年度		4年度 出動件数	3年度 出動件数	2年度 出動件数	元年度 出動件数	平成 30年度 出動件数	29年度 出動件数	28年度 出動件数	27年度 出動件数	26年度 出動件数
		令和5年度 出動件数	対前年比									
救急患者		67	109.8%	61	81	55	95	99	95	90	99	55
内 訳	休日及び 時間外	30	90.9%	33	49	29	54	48	39	40	58	31
	時間内	37	132.1%	28	32	26	41	51	56	50	41	24
その他		23	115.0%	20	17	28	17	20	49	43	31	48
合計		90	111.1%	81	98	83	112	119	144	133	130	103

(注) 「その他」は、当センター入院中の患者を他の医療機関へ搬出したもの、及び他の医療機関の要請により当センター以外の他の医療機関へ搬送を行ったもの等である。

(7) 予防接種実施状況

①月別実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
B C G ポ リ オ				1			2				1	2	6
四種混合	2	5	6	4	3	3	5	4	4	5	4	5	50
三種混合													
二種混合					1								1
麻しん・風しん	3		2	2	1		3	3	1	1		1	17
麻 し ん													
風 し ん													
日本脳炎	3	4	2		3	1	2	3	3	1			22
ヒ ブ	2	3	6	4	3	3	3	5	2	7	4	5	47
肺炎球菌	2	2	5	4	4	3	3	5	3	5	4	5	45
子宮頸がん予防					1		2		1		1	1	6
水 痘	4		5	2	2		5	1	2	2		2	25
B型肝炎	2	2	5	5	4	2	3	4	3	2	3	1	36
ロタウイルス			1	2	2			1	1	1	2	1	11
計	18	16	32	24	24	12	28	26	20	24	19	23	266

②市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況

	前橋市	高崎市	安中	渋川	藤岡	富岡	吾妻	利根沼田	伊勢崎	桐生	太田	館林	県外	計
B C G ポ リ オ	1	2		1				1					1	6
四種混合	8	14		14		1	3	4			3		3	50
三種混合														
二種混合						1								1
麻しん・風しん	4	3	1	4		1		2			2			17
麻 し ん														
風 し ん														
日本脳炎	4	9	1	6	1						1			22
ヒ ブ	7	11		15		1	3	3		1	3		3	47
肺炎球菌	5	12		15		1	3	3		1	2		3	45
子宮頸がん予防				1						3	2			6
水 痘	7	5		4		2	1	3			2		1	25
B型肝炎	4	10		10		1	3	3			2		3	36
ロタウイルス	2	3		3			2				1			11
計	42	69	2	73	1	8	15	19		5	18		14	266

③推 移

年 度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
実施件数	233	231	154	157	95	82	56	50	109	213	241	246	206	266

(8) 疾病分類別入院患者数

① 第一病棟

第一病棟科別入院患者数

アレルギー・リウマチ科	482 人	45.1%
神経内科	429 人	40.2%
循環器科	57 人	5.3%
歯科	50 人	4.7%
外科(小児外科)	13 人	1.2%
血液腫瘍科	5 人	0.5%
一般内科(小児科)	21 人	2.0%
感染症科	10 人	0.9%
新生児科	1 人	0.1%
合 計	1,068 人	100.0%

②第二病棟

令和5年度 手術症例(重複含む)	手術件数	内視鏡手術
食道閉鎖症手術	1	
腸閉鎖・狭窄症手術	3	
横隔膜ヘルニア手術	2	1
先天性腹壁異常手術	1	
新生児消化管穿孔	3	
新生児腸回転異常症手術	1	
新生児低位鎖肛	4	
新生児その他	10	4
新生児合計	25	5
ヒルシュスプルング病根治手術	3	2
直腸肛門奇形手術(中間位・高位)	1	1
悪性腫瘍手術	2	
胆道閉鎖症手術	2	
腸回転異常	1	
縦郭・後腹膜の良性腫瘍	1	
腎摘出術	1	
VUR手術	1	
腎盂尿管形成術	1	
噴門形成術	11	10
大腸全摘術	2	
鼠径ヘルニア(精巣水腫含む)手術	129	88
脾摘	1	
停留精巣手術	33	1
イレウス手術	5	
幽門狭窄手術	5	
低位鎖肛	4	
虫垂切除	19	18
その他	128	8
合計	373	133

形成外科

(うちカッコ内は日帰り全身麻酔の入院患者数)

口唇顎裂	10	多指症・合指症	10
口唇口蓋裂	13	多趾症・合趾症	3
口蓋裂	3	多合趾症	3
		絞扼輪症候群	1
副耳	9 (2)		
小耳症	3	指瘻痕拘縮	3
絞扼耳	1		
耳瘻孔	4	母斑	23 (2)
睫毛内反症	7 (2)	皮膚腫瘍	20 (1)
舌小帯短縮症	4 (1)	血管腫・血管奇形	3
漏斗胸	14	慢性膿皮症	1
副乳	1		
臍ヘルニア	20 (4)		
Human tail	1		

整形外科

【手術件数】59件

手術	件数	骨切り：	5
骨折観血的手術：	3	寛骨臼移動術	3
骨折観血的手術(大腿)	1	大腿骨外反骨切り術	1
骨折観血的手術(脛骨)	1	変形矯正手術	1
骨折観血的手術(足関節)	1		
		骨腫瘍切除	1
骨内挿入物除去術：	29		
骨盤内異物除去術	2	骨生検	2
骨内挿入物除去術(大腿)	11	筋生検	1
骨内挿入物除去術(下腿)	13		
骨内挿入物除去術(足)	3	手術合計：	59
骨延長術 [大腿骨]	1	検査	
骨延長術 [脛骨および腓骨]	1	関節造影(股関節)	5
骨端軟骨発育抑制術 [大腿骨]	5	自己血貯血(全身麻酔下)	5
骨端軟骨発育抑制術 [脛骨]	3		
観血の関節授動(膝)	1		
観血の関節授動(足)	4		
内反足手術	2		
巨趾症手術	1		

③第三病棟

血液腫瘍科

「業務編 3.第三病棟 (3)血液腫瘍科」内、業務内容参照。

④新生児未熟児病棟

◆出生体重の分布

	院内出生	院外出生	総 数
500g 未満	4	1	5
500 ～ 999g	13	3	16
1000 ～ 1499g	16	2	18
1500 ～ 1999g	19	3	22
2000 ～ 2499g	23	12	35
2500g 以上	48	58	106
計	123	79	202

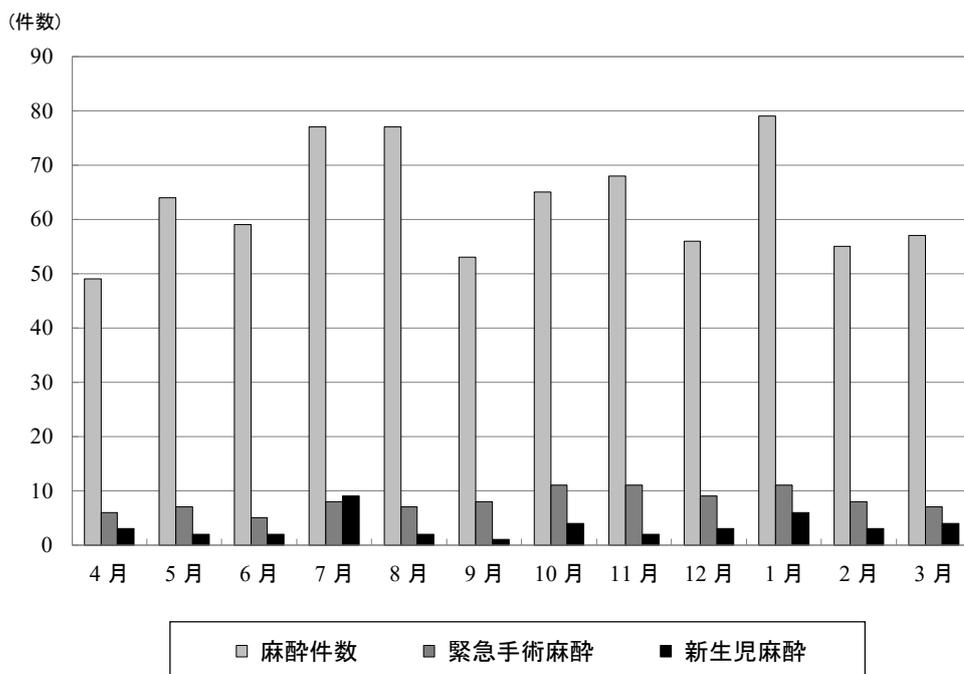
◆在胎期間の分布

	院内出生	院外出生	総 数
22 週	1	0	1
23 週	5	2	7
24 週	1	0	1
25 週	0	0	0
26 週	5	1	6
27 週	4	1	5
28 週	4	0	4
29 週	4	0	4
30 週	4	1	4
31 週	1	1	2
32 週	4	0	4
33 週	3	2	3
34 週	6	3	9
35 週	4	3	7
36 週	5	6	11
37 週	18	9	27
38 週	21	15	36
39 週	18	14	32
40 週	9	15	24
41 週	6	5	11
不明	0	1	1
計	123	79	202

(9) 麻 酔

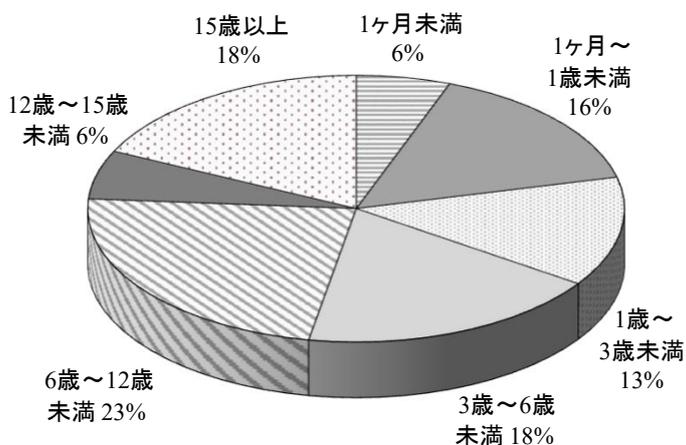
①2023 年度 月別麻酔件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
麻酔件数	49	64	59	77	77	53	65	68	56	79	55	57
緊急手術麻酔	6	7	5	8	7	8	11	11	9	11	8	7
新生児麻酔	3	2	2	9	2	1	4	2	3	6	3	4



②2023 年度 年齢階層別状況

1ヶ月未満	43
1ヶ月～1歳未満	118
1歳～3歳未満	101
3歳～6歳未満	139
6歳～12歳未満	177
12歳～15歳未満	45
15歳以上	136



(10) 放射線

①依頼科別件数

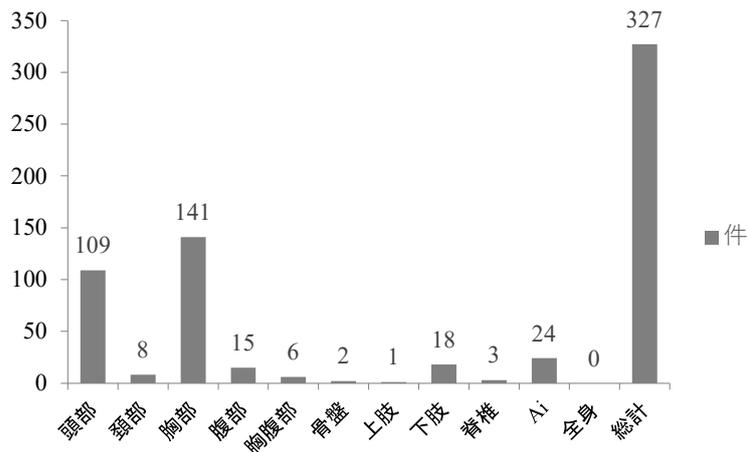
検査 依頼科	CT	MRI	RI	X線TV	エコー	カテーテル	一般撮影	ポータブル 撮影	フィルム コピー	総計 (件)
アレルギー・ リウマチ科	8	39	0	11	60	8	238	183	65	612
リハビリ科	0	0	0	0	0	0	72	0	0	72
遺 伝 科	0	13	0	0	6	0	26	0	30	75
総合診療科	10	30	3	3	91	0	505	103	50	795
外 科	28	157	82	288	994	0	881	795	268	3,493
感 染 症 科	0	0	0	0	3	0	3	2	0	8
形 成 外 科	57	50	65	0	118	0	837	65	55	1,247
血 液 腫 瘍 科	11	157	22	15	86	0	151	89	70	601
産 科	11	66	0	0	1	0	131	107	17	333
子どものこころ 診 療 科	0	5	0	0	1	0	1	0	0	7
歯 科	42	2	0	0	1	0	343	3	6	397
耳 鼻 科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
循 環 器 内 科	98	149	80	11	80	916	3,273	2,459	282	7,348
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	32	14	0	46
新 生 児 科	21	162	10	65	223	0	149	2,033	143	2,806
神 経 内 科	18	107	4	18	37	0	123	322	337	966
腎 臓 内 科	0	7	0	3	78	0	8	0	12	108
整 形 外 科	21	51	0	13	36	0	10,279	254	200	10,854
正常新生児科	0	14	0	0	25	0	32	3	0	74
内 分 泌 代 謝 科	0	2	0	0	1	0	25	0	2	30
脳 外 科	1	4	0	0	0	0	0	0	4	9
放 射 線 科	0	0	2	0	1	0	4	0	1	8
総 計	327	1,015	268	427	1,842	924	17,113	6,432	1,542	29,890

②月別件数

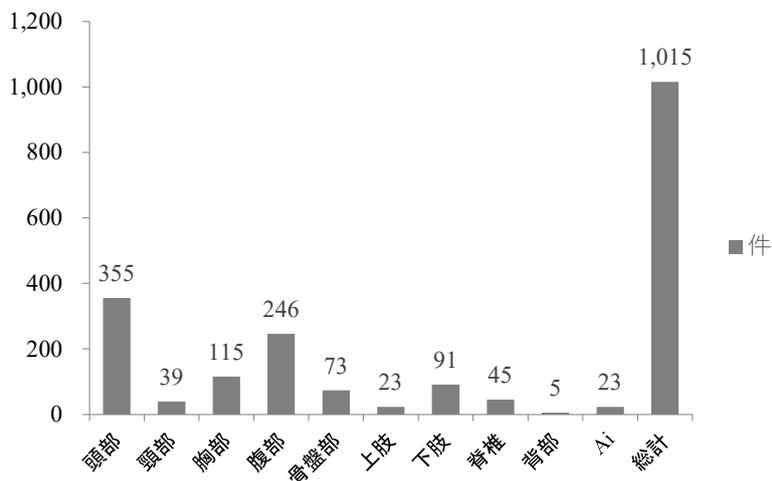
検査 検査月	CT	MRI	RI	X線TV	エコー	カテーテル	一般撮影	ポータブル 撮影	フィルム コピー	総計 (件)
4 月	20	75	0	41	135	72	1,494	407	137	2,381
5 月	19	82	6	39	133	67	1,428	585	183	2,542
6 月	22	67	17	26	195	72	1,419	517	144	2,479
7 月	20	86	41	48	157	70	1,544	564	91	2,621
8 月	29	95	35	37	189	93	1,805	538	127	2,948
9 月	23	93	5	20	146	69	1,430	467	98	2,351
10 月	30	83	4	32	134	85	1,378	635	141	2,522
11 月	33	89	33	32	135	68	1,313	531	120	2,354
12 月	31	110	33	32	163	75	1,203	503	88	2,238
1 月	33	84	23	41	159	49	1,418	622	135	2,564
2 月	31	70	33	39	123	103	1,257	589	131	2,376
3 月	36	81	38	40	173	101	1,424	474	147	2,514
総計	327	1,015	268	427	1,842	924	17,113	6,432	1,542	29,890

③検査種別件数

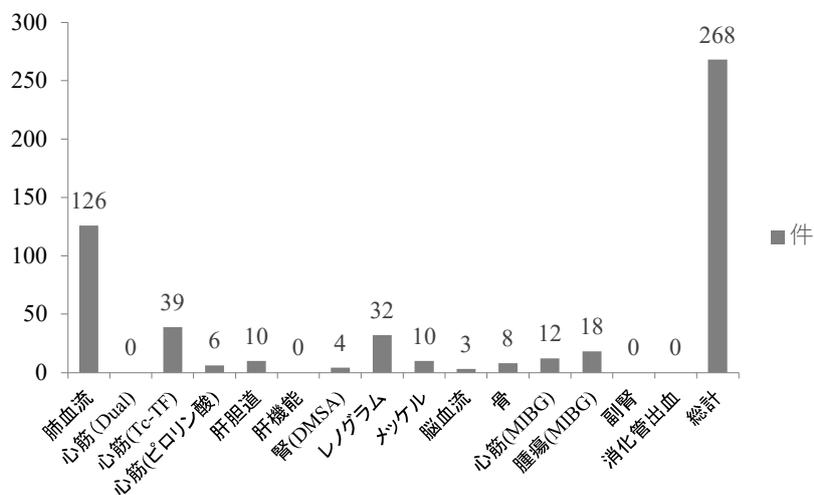
ア CT



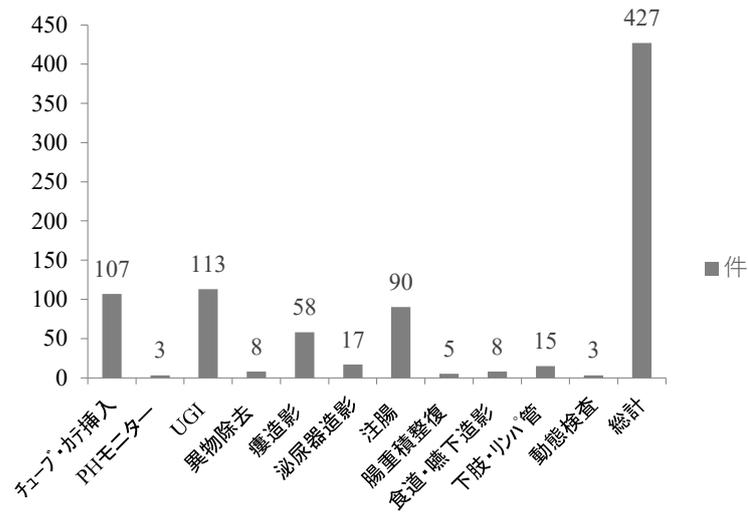
イ MRI



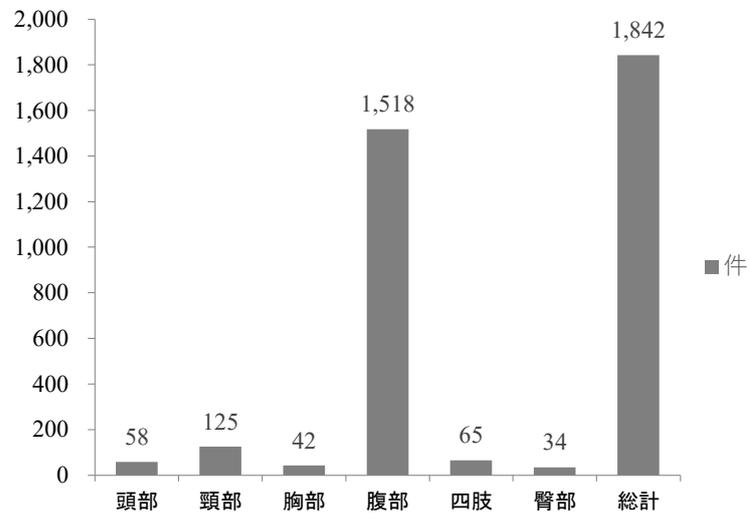
ウ RI



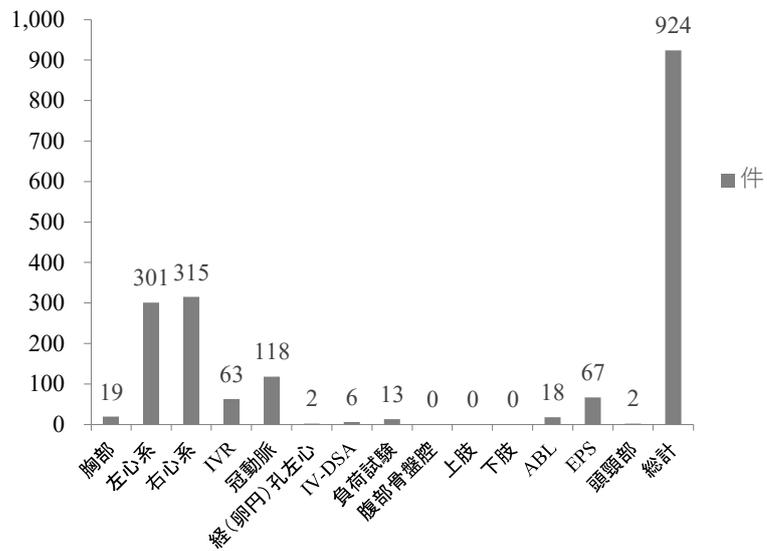
エ X-TV



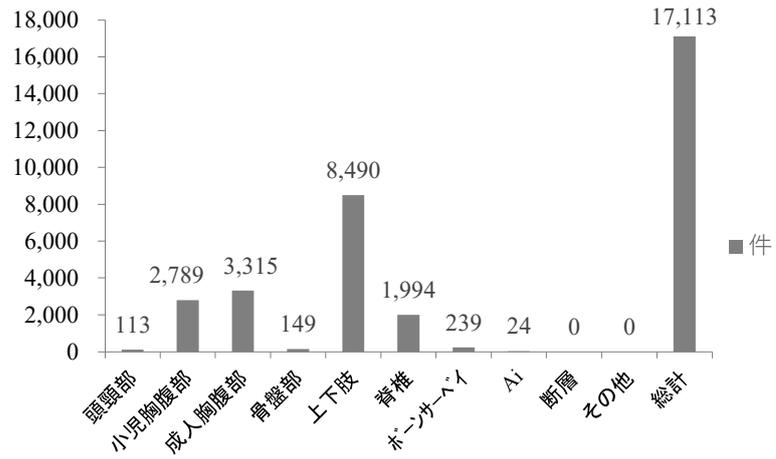
オ US



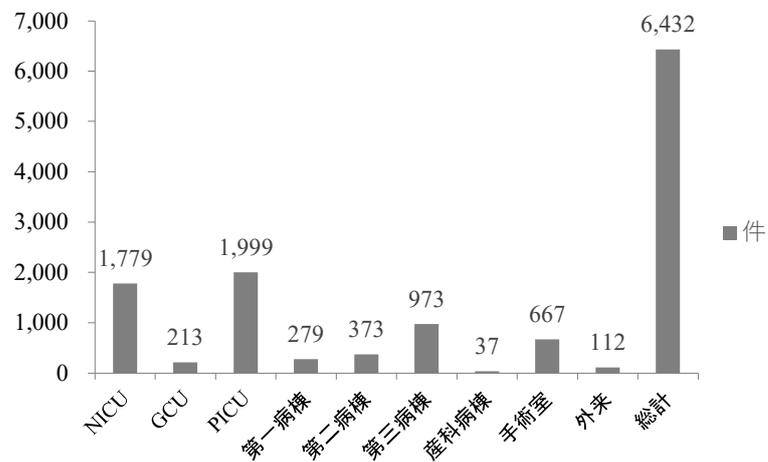
カ 心臓カテーテル



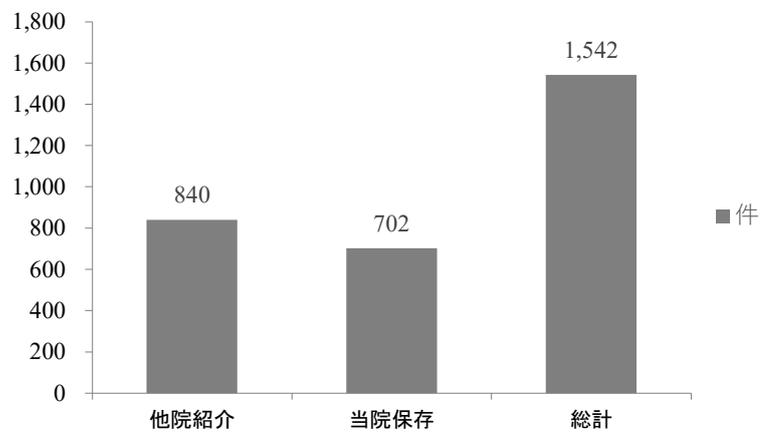
キ 一般撮影



ク ポータブル撮影



ケ 画像データコピー



(11) 臨床検査

①検査の状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生 化 学	16,905	19,001	19,865	22,478	22,894	19,381
血 液	4,008	5,108	5,481	5,813	6,242	4,899
免 疫 血 清	1,983	2,305	2,350	2,769	2,943	2,269
一 般	683	827	979	1,150	1,154	747
生 理	880	1,001	1,136	1,154	1,496	1,165
細 菌	1,230	1,593	1,236	1,224	1,654	1,094
病 理	95	127	180	112	183	138
輸 血	172	225	213	196	262	206
薬 物 (再掲)	61	36	34	46	64	38
ア レ ル ギ ー (再掲)	353	429	303	214	212	121
特 殊 検 査 (再掲)	13	18	18	27	36	9
外 部 委 託	788	682	688	749	754	713
総 合 計 (再掲除く)	26,744	30,869	32,128	35,645	37,582	30,612

②血液製剤取り扱い状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月
赤 血 球 液	1 単位	1	2	2	1	2
	2 単位	17	15	34	34	42
洗 浄 赤 血 球 液	1 単位	0	0	0	0	0
	2 単位	0	0	0	0	0
小 計	18	17	36	35	44	30
新 鮮 凍 結 血 漿	120	0	0	0	6	3
	240	7	10	14	15	12
	480	0	0	0	0	0
小 計	7	10	14	21	24	15
濃 厚 血 小 板	2 単位	0	0	0	0	0
	5 単位	0	0	0	0	0
	10 単位	11	14	30	30	37
	15 単位	0	0	0	0	0
	20 単位	0	0	0	0	1
濃 厚 血 小 板 HLA	10 単位	0	0	0	0	0
洗 浄 血 小 板	10 単位	0	0	0	0	0
洗 浄 血 小 板 HLA	10 単位	0	0	0	0	0
小 計	11	14	30	30	38	26
合 成 血	0	0	0	0	0	0
貯 血 式 自 己 血	0	1	2	0	0	0
合 計	36	42	82	86	106	71

③分割取り扱い状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月
赤 血 球 液	1 単位	3	6	5	2	6
	2 単位	7	15	20	50	27
小 計	10	21	25	52	33	42
濃 厚 血 小 板	5 単位	0	0	0	0	0
	10 単位	2	22	34	36	34
	15 単位	0	0	0	0	0
	20 単位	0	0	0	0	2
小 計	2	22	34	36	36	8
合 計	12	43	59	88	69	50

④幹細胞保存

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月
幹 細 胞 保 存	0	0	0	0	0	0

(単位：件、%)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	前年度比
21,123	19,808	19,887	22,741	18,974	18,187	241,244	239,281	100.8
5,399	4,932	5,327	6,034	5,254	4,693	63,190	56,686	111.5
2,548	2,352	2,377	2,699	2,222	2,346	29,163	27,693	105.3
899	816	668	1,326	826	779	10,854	10,320	105.2
1,054	913	1,011	1,061	1,013	1,082	12,296	12,296	100.0
1,325	1,159	1,156	1,381	1,086	1,283	15,421	14,683	105.0
157	164	182	179	169	148	1,834	2,067	88.7
275	237	201	275	185	199	2,680	2,697	99.4
66	56	46	70	53	55	625	661	94.6
168	184	137	191	255	283	2,850	3,015	94.5
9	4	17	4	12	4	171	143	119.6
839	653	825	785	590	826	8,892	10,233	86.9
33,619	31,034	31,634	36,481	30,319	29,543	385,574	375,956	102.6

(単位：本、%)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	前年度比
1	4	0	0	1	1	18	23	78.3
47	47	45	46	38	27	419	270	155.2
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
0	0	0	0	0	0	0	1	0.0
48	51	45	46	39	28	437	293	149.1
0	0	0	0	0	1	14	24	58.3
14	11	20	41	26	16	206	142	145.1
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
14	11	20	41	26	17	220	166	132.5
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
19	25	19	31	13	13	267	161	165.8
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
0	0	1	0	1	0	4	6	66.7
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
19	25	20	31	14	13	271	167	162.3
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
1	0	0	0	0	0	4	5	80.0
82	87	85	118	79	58	932	631	147.7

(単位：bag数、%)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	前年度比
3	6	0	0	2	2	44	55	80.0
35	43	28	26	30	33	347	324	107.1
38	49	28	26	32	35	391	379	103.2
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
14	22	4	12	12	10	210	134	156.7
0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
0	0	0	0	0	0	2	0	0.0
14	22	4	12	12	10	212	134	158.2
52	71	32	38	44	45	603	513	117.5

(単位：件)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	0	0	0	0	0

(12) 薬 剤

①調剤等の状況

ア 処方箋の枚数等

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
外 来	枚 数	73	91	92	122	113	85	
	件 数	122	159	145	199	193	136	
	剤 数	471	542	382	557	601	346	
入 院	枚 数	1,022	1,324	1,161	1,330	1,314	1,073	
	件 数	2,657	3,287	2,608	2,953	2,874	2,470	
	剤 数	15,053	18,446	14,241	15,667	15,420	13,138	
	麻薬 (内数)	枚 数	5	14	8	7	7	9
		件 数	5	14	8	7	7	9
		剤 数	5	14	8	7	7	9
合 計	枚 数	1,095	1,415	1,253	1,452	1,427	1,158	
	件 数	2,779	3,446	2,753	3,152	3,067	2,606	
	剤 数	15,524	18,988	14,623	16,224	16,021	13,484	
院 外 処 方 箋	枚 数	1,053	1,020	1,167	1,033	1,253	1,026	
	発行率%	93.5	91.8	92.7	89.4	91.7	92.3	

イ 調剤件数内訳

区 分	錠 剤	散 剤	水 剤	外 用	注射薬	計
外 来	435	310	83	899	78	1,805
入 院	7,227	15,937	4,728	5,790	126	33,808
割 合 (%)	21.5%	45.6%	13.5%	18.8%	0.6%	35,613

②注射剤の状況

ア 注射箋等の枚数等

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
個人セット	枚 数	1,346	1,694	1,772	2,117	2,050	1,397	
	本 数	10,422	15,872	15,416	19,451	17,753	17,447	
	HIS (内数)	枚 数	1,247	1,508	1,644	1,939	1,880	1,228
		本 数	9,190	12,369	13,581	16,565	15,440	15,237
	PICU (内数)	枚 数	99	186	128	178	170	169
		本 数	1,232	3,503	1,835	2,886	2,313	2,210
血液製剤 (外用剤を含む)	本 数	73	107	120	130	99	66	
	外用剤 (内数)	(本数)	4	4	3	4	9	4
麻 薬	枚 数	101	150	103	168	206	180	
	本 数	224	397	266	451	661	490	
毒 薬	枚 数	80	111	115	140	155	114	
	本 数	151	247	182	319	437	292	
輸液 (高カロリー)	本 数	52	74	39	26	31	93	
薬品請求伝票	枚 数	221	245	287	283	326	240	
	本 数	2,140	1,905	2,378	2,598	1,754	1,870	
ビドマー	本 数	5,163	6,337	6,207	7,192	6,858	6,043	
合 計	枚 数	1,748	2,200	2,277	2,708	2,737	1,931	
	本 数	18,225	24,939	24,608	30,167	27,593	26,301	

(※) IVH - 枚数 : 1 日 1 枚として集計。

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
97	88	108	89	100	96	1,154
146	125	158	133	137	152	1,805
353	223	319	281	276	297	4,648
1,269	1,212	1,210	1,264	1,164	1,096	14,439
2,985	2,961	2,844	2,855	2,646	2,668	33,808
15,982	15,914	16,515	13,918	13,524	14,759	182,577
10	7	6	7	14	9	103
10	7	6	7	14	9	103
10	7	6	7	14	9	103
1,366	1,300	1,318	1,353	1,264	1,192	15,593
3,131	3,086	3,002	2,988	2,783	2,820	35,613
16,335	16,137	16,834	14,199	13,800	15,056	187,225
1,090	1,093	1,194	1,127	1,019	1,192	13,267
91.8	92.5	91.7	92.7	91.1	92.5	92.0

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,681	1,715	1,695	1,757	1,502	1,396	20,122
15,044	14,924	14,131	16,726	14,472	10,861	182,519
1,504	1,587	1,560	1,588	1,317	1,243	18,245
12,555	13,222	12,122	13,737	10,284	8,547	152,849
177	128	135	169	185	153	1,877
2,489	1,702	2,009	2,989	4,188	2,314	29,670
89	96	96	203	144	86	1,309
1	2	5	8	6	2	52
143	136	124	198	169	119	1,797
335	426	362	429	435	231	4,707
106	87	96	144	87	83	1,318
307	129	195	271	252	133	2,915
111	87	80	93	118	77	881
295	277	275	283	265	240	3,237
2,973	2,469	2,522	2,496	1,873	1,520	26,498
6,867	6,363	5,923	7,224	6,460	5,020	75,657
2,225	2,215	2,190	2,382	2,023	1,838	26,474
25,726	24,494	23,309	27,442	23,754	17,928	294,486

イ 抗がん薬調製数

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
抗がん薬調製数	本 数	31	37	87	89	103	42

③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
薬品請求伝票	枚 数	117	122	124	136	135	134
	本 数	1,212	1,072	955	1,447	1,265	1,076
ビドマー支給	本 数	231	450	467	343	268	310
合 計	枚 数	117	122	124	136	135	134
	本 数	1,443	1,522	1,422	1,790	1,533	1,386

④薬剤情報件数等

区 分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
薬 剤 情 報 提 供 件 数		28	40	39	64	49	37
服 薬 指 導 件 数 (退 院 時)		0	0	0	0	0	0
薬 剤 管 理 指 導 (保 険 請 求 分)		47	57	77	77	85	91
薬 剤 管 理 指 導 (退 院 時 加 算 分)		8	7	6	14	17	17
D I 情 報		14	26	26	26	15	15
薬 剤 鑑 別	患 者 数	9	11	13	7	11	10
	延 べ 剤 数	27	24	23	17	20	38
医 薬 品 安 全 性 情 報 報 告 件 数		0	0	0	0	0	0

⑤製剤等の状況(種類別、製剤件数及び量)

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
散 剤	件 数	88	57	45	29	32	27
内 用 液 剤	件 数	2	2	2	2	1	3
軟 膏	件 数	5	5	5	4	7	2
坐 剤	件 数	0	0	1	0	0	1
	数 量 (本)	0	0	90	0	0	90
外 用 液 剤	件 数	0	1	0	1	0	1
外 用 液 剤 (無 菌 調 製)	件 数	16	17	12	13	12	14
注 射 剤 (無 菌 調 製)	件 数	12	22	30	50	69	26
合 計	件 数	123	104	95	99	121	74

<主な製剤内訳>

液 剤 (内 用)	ミダゾラムシロップ	1.8 L
	検査用トリクロールシロップ	1 本
散 剤 (内 用)	HMS - 1	481 件
	トロミ剤	201 件
軟 膏	30%カラヤ入り亜鉛華単軟膏	18.5 Kg
坐 剤	ワコビタール坐剤 10mg	270 個
無 菌 製 剤	フラッシュ用生食 (5mL)	368 本
	エタノールロック注 (1mL)	168 本
	MK注腸液 (2.6mL)	80 本

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
64	75	64	56	65	34	747

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
146	134	134	125	146	120	1,573
1,487	1,639	1,414	1,282	1,308	1,011	15,168
494	354	352	308	235	192	4,004
146	134	134	125	146	120	1,573
1,981	1,993	1,766	1,590	1,543	1,203	19,172

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
39	38	52	37	40	42	505
0	0	0	0	0	0	0
113	90	110	117	103	113	1,080
20	9	14	6	12	14	144
18	19	15	14	14	26	228
11	6	6	16	8	5	113
15	14	7	55	15	9	264
0	0	0	0	0	0	0

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
47	70	101	51	74	61	682
1	1	1	2	1	1	19
3	0	2	1	0	0	34
0	0	0	1	0	0	3
0	0	0	90	0	0	270
0	0	1	1	0	0	5
17	18	25	17	18	12	191
31	37	41	33	34	17	402
99	126	171	106	127	91	1,336

⑥薬効別薬品購入額

(単位：円・%)

薬効分類	令和4年度	5年度	構成比率
中枢神経系用薬	54,930,725	18,481,002	4.51%
末梢神経系用薬	3,342,160	3,777,917	0.92%
感覚器官用薬	4,490,012	2,627,388	0.64%
循環器官用薬	13,923,048	11,324,640	2.76%
呼吸器官用薬	5,894,058	4,071,765	0.99%
消化器官用薬	8,414,244	7,400,767	1.81%
ホルモン剤	35,014,649	22,424,183	5.47%
泌尿生殖器官及び肛門用薬	73,051	272,821	0.07%
外皮用薬	1,009,429	1,122,708	0.27%
ビタミン剤	986,915	666,948	0.16%
滋養強壯剤	7,276,077	9,029,195	2.20%
血液及び体液用剤	9,321,572	10,369,616	2.53%
その他の代謝性医薬品	110,369,597	118,700,721	28.98%
腫瘍用剤	55,226,937	11,221,398	2.74%
アレルギー用薬	392,228	496,531	0.12%
抗生物質製剤	9,580,524	9,391,759	2.29%
化学療法剤	127,888,656	97,630,915	23.84%
生物学的製剤	32,357,660	36,884,267	9.00%
調剤用薬	4,529,664	4,633,481	1.13%
診断用薬	1,990,809	1,733,747	0.42%
麻薬	1,474,899	1,305,829	0.32%
その他	57,784,979	36,037,996	8.80%
計	546,271,893	409,605,594	100.00%

(13) リハビリテーション

① 診療点数

区分	理学療法	作業療法	言語療法	合計
入院	1,200,750	24,600	268,835	1,494,185
外来	910,015	454,720	814,810	2,179,545
合計	2,110,765	479,320	1,083,645	3,673,730

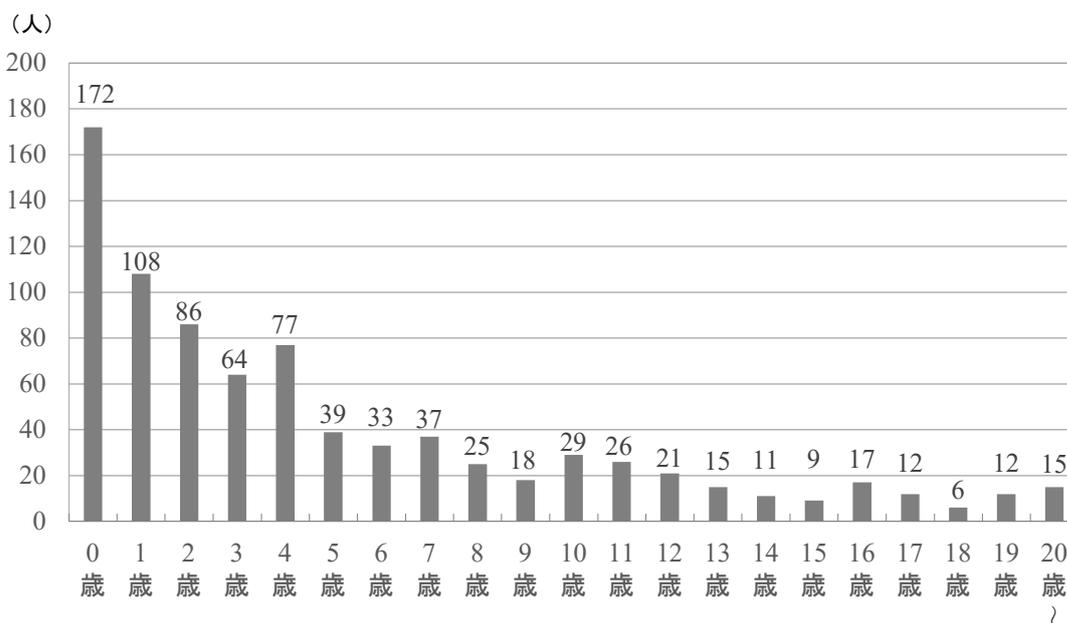
② 延べ治療件数

区分	理学療法	作業療法	言語療法	合計
入院	3,163	79	766	4,008
外来	2,118	1,127	1,688	4,933
合計	5,281	1,206	2,454	8,941

③ 延べ単位数

区分	理学療法	作業療法	言語療法	合計
入院	5,353	96	1,123	6,572
外来	4,329	2,118	3,568	10,015
合計	9,682	2,214	4,691	16,587

④ 年齢別新規患者数 (832人)



⑤リハビリテーション算定区分別実績

理学療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅡ	1,654	281,180	159	27,030
早期リハ加算(運動Ⅱ)	635	19,050	3	90
初期加算(運動Ⅱ)	297	13,365	0	0
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	935	163,625	32	5,600
早期リハ加算(呼吸Ⅰ)	825	24,750	0	0
初期加算(呼吸Ⅰ)	662	29,790	0	0
心大血管疾患リハビリテーションⅠ	774	158,670	23	4,715
早期リハ加算(心Ⅰ)	437	13,110	0	0
初期加算(心Ⅰ)	300	13,500	0	0
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	115	23,000	39	7,800
早期リハ加算(脳Ⅱ)	74	2,220	0	0
初期加算(脳Ⅱ)	36	1,620	0	0
がん患者リハビリテーション料	228	46,740	0	0
廃用症候群リハビリテーションⅡ	90	13,140	0	0
早期リハ加算(廃用リハⅡ)	37	1,110	0	0
初期加算(廃用リハⅡ)	37	1,665	0	0
障害者リハビリ(6歳未満)	688	154,800	2,572	578,700
障害者リハビリ(6歳～18歳)	818	159,510	1,324	258,180
障害者リハビリ(18歳以上)	51	7,905	180	27,900
退院時リハビリ指導	147 件	44,100		
リハ総合計画評価(医療)	93 件	27,900	0	0
合 計	5,353	1,200,750	4,329	910,015

作業療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅡ	4	680	11	1,870
早期リハ加算(運動Ⅱ)	4	120	0	0
初期加算(運動Ⅱ)	0	0	0	0
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	0	0	0	0
早期リハ加算(呼吸Ⅰ)	0	0	0	0
初期加算(呼吸Ⅰ)	0	0	0	0
心大血管疾患リハビリテーションⅠ	0	0	0	0
早期リハ加算(心Ⅰ)	0	0	0	0
初期加算(心Ⅰ)	0	0	0	0
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	12	2,400	7	1,400
早期リハ加算(脳Ⅱ)	8	240	0	0
初期加算(脳Ⅱ)	0	0	0	0
がん患者リハビリテーション料	16	3,280	0	0
廃用症候群リハビリテーションⅡ	0	0	0	0
早期リハ加算(廃用リハⅡ)	0	0	0	0
初期加算(廃用リハⅡ)	0	0	0	0
障害者リハビリ(6歳未満)	50	11,250	1,401	315,225
障害者リハビリ(6歳～18歳)	14	2,730	697	135,915
障害者リハビリ(18歳以上)	0	0	2	310
退院時リハビリ指導	10 件	3,000		
リハ総合計画評価(医療)	3 件	900	0	0
合 計	96	24,600	2,118	454,720

言語療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	85	14,875	0	0
早期リハ加算(呼吸Ⅰ)	39	1,755	0	0
初期加算(呼吸Ⅰ)	70	2,100	0	0
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	18	3,600	0	0
早期リハ加算(脳血Ⅱ)	18	540	0	0
初期加算(脳血Ⅱ)	13	585	0	0
がん患者リハビリテーション料	20	4,100	0	0
廃用症候群リハビリテーションⅡ	0	0	0	0
早期リハ加算(廃用リハⅡ)	0	0	0	0
初期加算(廃用リハⅡ)	0	0	0	0
障害者リハビリ(6歳未満)	862	193,950	2,538	571,050
障害者リハビリ(6歳～18歳)	120	23,400	1,028	200,460
障害者リハビリ(18歳以上)	18	2,790	2	310
摂食機能療法(3ヶ月以内)	64 件	11,840	4 件	740
摂食機能療法(3ヶ月以上)	0 件	0	0 件	0
遊戯聴力検査	1 件	500	60 件	30,000
乳児加算	1 件	350	25 件	8,750
標準純音聴力検査	1 件	350	10 件	3,500
乳児加算	0 件	0	0 件	0
退院時リハビリ指導	26 件	7,800		
リハ総合計画評価(医療)	1 件	300	0 件	0
合 計	1,123	268,835	3,568	814,810

(14) 栄 養

①一般食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼児食	1	230	244	337	439	243	173	202	265	239	326	212	202	3,112
	2	203	273	461	656	469	283	491	529	469	509	311	277	4,931
学 童 食	1	35	163	256	197	230	16	182	194	123	120	182	174	1,872
	2	280	182	123	226	183	144	135	133	178	87	95	106	1,872
	3	226	349	422	557	532	364	416	398	436	290	396	433	4,819
	4	189	182	210	303	451	245	120	198	290	214	282	286	2,970
妊産婦食		505	665	627	915	951	912	849	889	937	741	646	779	9,416
全 粥 食		174	385	325	244	570	503	380	498	370	367	275	510	4,601
七分粥食		5	21	40	67	58	6	6	3	7	9	6	17	245
五分粥食		14	30	18	21	20	18	97	72	81	75	65	58	569
三分粥食		3	5	10	18	11	8	6	4	10		6	5	86
流 動 食		54	23	42	105	47	36	18	8	36	2	23	14	408
心カテ食		24	23	15	19	38	15	16	16	18	9	15	27	235
術 前 食			2					1						3
D A Y 食		3	3	1	2	8	4		2	2	2	3	4	34
歯科DAY食		28	32	30	32	30	30	29	29	28	33	29	27	357
食物負荷 D A Y 食		2	15	10	9	15	8	3	5	10	5	4		86
遅 延 食		50	59	76	77	83	55	59	71	68	94	67	81	840
計		2,025	2,656	3,003	3,887	3,939	2,820	3,010	3,314	3,302	2,883	2,617	3,000	36,456

②離乳食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
離 乳 食	初 期	26	109	129	174	63	7	85	29	102	110	41	107	982
	中 期	219	206	141	196	73	64	23	47	40	10	96	150	1,265
	後 期	114	63	148	192	224	226	88	138	100	30	74	74	1,471
	完了期	37	35	32	33	29	43	195	193	186	112	97	143	1,135
計		396	413	450	595	389	340	391	407	428	262	308	474	4,853

③特別食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
肝臓食	幼児													0
	学童	30			18	13	10				5	5		81
糖尿病食	幼児													0
	学童													0
	妊産婦	38	37	41	12	5	11	103	17	50	12		4	330
高脂血症食	幼児													0
	学童													0
膵臓食	幼児										7	49		56
	学童													0
潰瘍食	幼児													0
	学童						2					8		10
	妊産婦													0
低残渣食	幼児			1					31	9	1	1		43
	学童	3			23	64	2	24	13	68	21	36	1	255
	妊産婦													0
計		71	37	42	53	82	25	127	61	127	46	99	5	775

④調乳の種類及び人数・本数

<ミルク>

種 類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
普通 ミルク	人数	736	751	723	875	745	889	810	664	652	673	694	605	8,817
	本数	4,835	4,754	4,889	5,789	4,722	5,997	5,632	4,288	4,283	4,467	4,715	3,848	58,219
L B W	人数	113	152	122	111	184	183	88	88	137	190	244	145	1,757
	本数	1,104	1,276	976	900	1,708	1,712	840	904	1,279	1,928	2,056	1,220	15,903
ニュー MA-1	人数	55	38	21	25	20	9	48	100	138	80	19	51	604
	本数	456	302	161	195	160	44	276	746	655	343	101	446	3,885
M C T	人数	79	68	46	24	9	4	27	46	70	39	25	15	452
	本数	614	488	288	143	41	16	172	321	464	294	188	106	3,135
ケン ト フォーミュラ	人数			7						2	3			12
	本数			35						9	14			58
エレメンタル フォーミュラ	人数	30	51	45	45	62	31	27	3			8	25	327
	本数	180	346	300	288	434	188	162	18			48	220	2,184
A R ミルク	人数	37	32	34	31	36	22	31	30	31	28	27	1	340
	本数	236	194	212	186	226	113	155	150	155	140	135	8	1,910
計	人数	1,050	1,092	991	1,111	1,056	1,138	1,031	931	1,028	1,010	1,017	842	12,297
	本数	7,425	7,360	6,826	7,501	7,291	8,070	7,237	6,427	6,836	7,172	7,243	5,848	85,236

⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数

<濃厚流動食・成分栄養剤>

種 類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
エンシュア	人数	26	18											44
	本数	144	102											246
エンシュアH	人数								4	12		7	10	33
	本数								18	50		24	30	122
エネーボ	人数	113	138	74	76	108	115	168	217	163	136	87	111	1,506
	本数	616	595	302	329	422	333	580	804	744	797	367	411	6,300
ラコーラ	人数	112	118	109	82	98	76	129	132	104	40	66	43	1,109
	本数	385	525	524	391	339	358	707	741	444	247	319	214	5,194
ラコーラ (半固形)	人数	128	61	76	46	73	60	151	134	61	54	94	158	1,096
	本数	380	162	206	118	155	129	339	318	131	113	295	309	2,655
エレンターLP	人数	63	57	59	87	96	129	155	112	114	127	112	180	1,291
	本数	181	253	458	545	762	999	1,023	831	913	987	1,012	1,490	9,454
エレンターL	人数	2		5	44	55	1	10	18	31	43	47	29	285
	本数	4		25	168	265	5	30	102	164	202	245	174	1,384
イノラス	人数	69	78	77	109	109	81	89	81	74	78	62	88	995
	本数	193	207	304	351	360	320	228	229	207	241	190	222	3,052
C Z - H i	人数	3	3	31	12	16	25	27	10		22	62	27	238
	本数	18	28	296	84	114	130	144	65		47	225	57	1,208
ブイアクセル	人数	36	33	50	72	72	66	31	45	37	42	63	69	616
	本数	186	188	200	227	227	216	96	45	47	43	84	104	1,663
糖 水	人数	1	3		1	3	2	2	5		1		1	19
	本数	8	24		3	9	16	11	30		3		8	112
ポカリスエット	人数	247	149	134	114	105	66	147	169	98	128	167	134	1,658
	本数	627	365	394	390	280	204	528	419	192	276	434	292	4,401
G F O 水	人数	7	13	1	7	1	26		24	26	26	42	65	238
	本数	21	79	8	56	8	108		86	84	110	81	152	793
MCT オイル	人数	1,651	179	160	92	72	78	45	120	185	219	226	150	3,177
	本数	3,007	179	280	244	320	310	45	201	436	369	226	200	5,817
計	人数	2,458	850	776	742	808	725	954	1,071	905	916	1,035	1,065	12,305
	本数	5,770	2,707	2,997	2,906	3,261	3,128	3,731	3,889	3,412	3,435	3,502	3,663	42,401

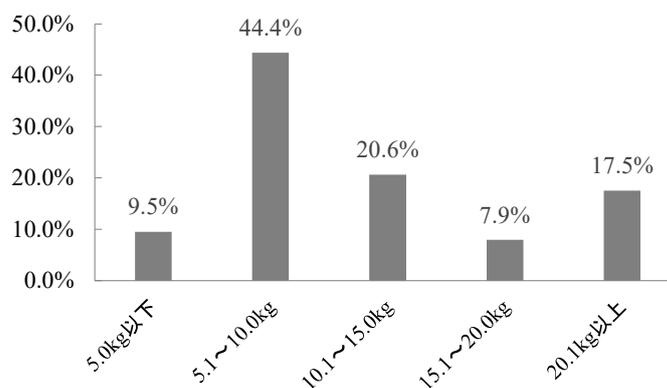
(15) 臨床工学課

①臨床業務症例数

	体外循環	心臓カテーテル検査	血液浄化療法	補助循環	内視鏡手術	NO吸入療法	ペースメーカーチェック	低酸素療法	脳低温療法	骨髄濃縮
4月	5	11	1		10	2	6			
5月	5	12			10	1	6			
6月	9	12			9		5	1	2	
7月	3	11			21	2	1			
8月	5	16	2		17	1	9			
9月	5	12			7		10			
10月	5	12			10	3	3			
11月	6	9			11		6			
12月	7	11			11	2	10			
1月	6	8			11	4	1			
2月	5	14			5	1	4	1		
3月	2	13	1		14		10			
合計	63	141	4		136	16	71	2	2	
前年比	115%	87%	133%	—	101%	94%	71%	29%	67%	—

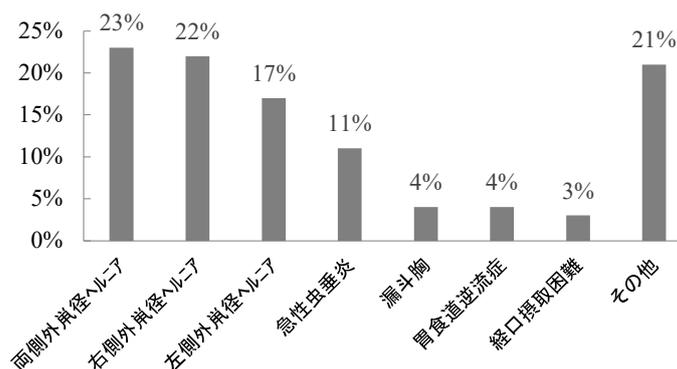
ア 体重別体外循環症例数

体重	症例数
5.0kg以下	6 (9.5%)
5.1～10.0kg	28 (44.4%)
10.1～15.0kg	13 (20.6%)
15.1～20.0kg	5 (7.9%)
20.1kg以上	11 (17.5%)
合計	63



イ 疾患別内視鏡手術症例数

疾患	症例数
両側単径ヘルニア	31 (23%)
右側単径ヘルニア	30 (22%)
左側単径ヘルニア	17 (13%)
急性虫垂炎	15 (11%)
漏斗胸	6 (4%)
胃食道逆流症	5 (4%)
経口摂取困難	4 (3%)
その他	28 (21%)
合計	136



②月別日常点検件数

機 種 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔器													
アバンス	1	3	1	2	1	1	2		2		3	3	19
ケアステーション	98	101	108	101	109	99	104	103	99	93	94	101	1,210
人工呼吸器													
BiPAP V60	3	5		1	3	2		1	1		2		18
ハミング X	3	4	3	5	4	2	3	2	6	4	3		39
Avea	1	1	1			1	1	2	1	1	1		10
Babylog VN800		3			1	1	3	2	1		2	1	14
ASTRAL				1				1	1		1		4
ハミング ビュー	6	5	7	7	12	4	6	8	5	5	7	5	77
プレシジョンフロー		1		1									2
ベネット 980		2		2	2	5	1	2	3	1	3	3	24
Vivo 45				1				1					2
Trilogy EVO	2	1		5	1	1	3	1		1		1	16
SERVO-n		1						1	3	1			6
SLE6000		1											1
ベネット 840	5	5	9	14	7	5	9	11	9	13	14	3	104
サイパップ	10	11	8	16	9	9	14	13	13	7	13	6	129
ネーザル ハイフロー	15	18	16	17	19	16	20	19	30	15	18	8	211
カフ アシスト										1			1
シリンジポンプ	241	363	347	314	350	339	238	260	235	293	180	280	3,440
輸液ポンプ	116	159	126	168	135	151	113	134	148	149	126	120	1,645
経腸栄養注入ポンプ	7	5	8	3	1		5	4	5	7	6	1	52
開放型保育器	6	3	8	5	6	6	6	4	4	6	6	3	63
光線治療器	1	2	4	2	1	3	2		2	5	2	2	26
除細動器 (AED)	55	51	54	51	52	51	57	51	53	54	50	53	632
人工心肺装置	5	5	9	3	5	5	5	6	7	6	5	2	63
血液浄化装置	2				5							5	12
低圧持続吸引器	12	14	14	13	11	7	24	13	16	15	19	6	164
体温調節装置		1	1										2
加温加湿器									1				1
パルスオキシメータ	1	1		1	1		2	2	2				10
合 計	584	761	720	733	730	708	618	641	647	677	555	598	7,992

③月別人工呼吸器使用中点検件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Trilogy	7												7
BiPAP V60		9	1	14	9	3			1			5	42
ハミング X	20	26	18	20	18	17	24	4	10	6	1		164
Avea	17	20	14	19	16	16	20	17	24	19	13	4	199
BiPAP A40		1											1
Babylog VN800	36	9		13	3	22	31	9	7	35	7	6	178
ASTRAL	29	25	18	3	6	2	36	32	29	29	2	12	223
ハミング ビュー	32	36	38	30	23	29	37	33	29	40	21	5	353
プレジジョンフロー		15	9	1			7	15	17	13	12	16	105
ベネット 980	25	24	18	33	42	47	34	18	17	18	37	42	355
Vivo 45	37	52	67	54	51	57	79	70	70	51	35	55	678
Trilogy Evo	132	121	79	87	90	113	143	93	92	67	74	97	1,188
SERVO-n	19	31	13		13	9		14	12	7	5		123
SLE6000		5	18	3									26
LUISA							8	18	13	18	17	17	91
Fabian NIV								5	4				9
ベネット 840	12	32	16	47	28	31	34	12	23	40	43	12	330
インファントフロー サイパップ	78	51	47	32	19	23	94	57	90	44	65	44	644
ネーザル ハイフロー	93	66	47	63	73	71	101	98	113	159	67	85	1,036
合計	537	523	403	419	391	440	648	495	551	546	399	400	5,752

④月別人工呼吸器回路交換件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ハミング X	1		1				1						3
Avea	1		1					1	1	1	1		6
Babylog VN800		1									1		2
ASTRAL			2						2	1			5
ハミング ビュー	1	1	1	1					1		1		6
プレジジョンフロー										1	1		2
ベネット 980	2	1	1		1	1		1	1	1	1	1	11
Vivo 45	2	2	1	1	2	3	3	4	1	2	2	1	24
Trilogy Evo	2	3		1		1	3	1	3	4	1		19
LUISA								1		1	2		4
ベネット 840					1						1	1	3
インファントフロー サイパップ	2			1									3
ネーザル ハイフロー	1		1		1	1							4
合計	12	8	8	4	5	6	7	8	9	11	11	3	92

⑤月別定期点検件数

機 種 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔器	4					2						5	11
窒素用酸素濃度計			1										1
シリンジポンプ							175					2	177
輸液ポンプ				2			108		1				111
人工呼吸器													
Trilogy		1	1										2
BiPAP V60								2					2
パーカッション ベンチレータ			1					1					2
ハミング X	1	2											3
Avea			2	1									3
BiPAP A40		2	1		2	1		2	1		2	1	12
ASTRAL	3	3	4	3	4	3	3	1	4	2	2	3	35
ハミング ビュー					1	2	1						4
ベネット 980						2							2
Vivo 45		3			2				1	1	1		8
Trilogy EVO	10	8	14	10	11	16	12	13	16	9	10	18	147
SERVO-n							1						1
ベネット 840						6	3	1					10
インファント フローSiPAP			1	1	1	1	1	1	1		1	1	9
新生児用保育器		1			1	5			8		10	4	29
開放型保育器						3		3	2		2	5	15
搬送用保育器					1				2			1	4
除細動器		6		7	7		9			8			37
体温調節装置			1										1
人工心肺装置	1			1									2
補助循環装置				3									3
血液浄化装置								2	1				3
セントラルモニター						10				2	1	3	16
ベッドサイドモニター											9		9
モニター送信機											5	2	7
CO2 モニター		1								1	1	1	4
体外式ペースメー カー							4	1	1				6
分娩監視装置												7	7
無線トランスデュ ーサ												2	2
ハミング ピストン					1	4		2					7
その他										1			1
合 計	19	27	26	28	31	55	317	29	38	24	44	55	693

⑥月別院内修理件数

機 種 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
シリンジポンプ		2			4	2		1	17	11	10	28	75
輸液ポンプ	3				1		2		2	2			10
ハミングビュー							1						1
ベネット 980					1								1
ベネット 840			1										1
除細動器								2					2
低圧持続吸引器						1							1
ベッドサイドモニター						1							1
合 計	3	2	1		6	4	3	3	19	13	10	28	92

(16) 母子保健室

①精密健康診査

ア 保健福祉事務所・保健所別受診状況

管 轄		前橋	高崎	安中	渋川	藤岡	富岡	吾妻	沼田	伊勢崎	桐生	太田	館林	県外	計
受診者数	R5年	8	14	0	23	0	2	8	8	9	0	3	1	2	78
	R4年	8	19	0	43	0	0	7	9	3	0	2	0	1	96

イ 科別・年齢別受診状況

科 目	受診者数	年 齢 別 受 診 者 数					R4年度 受診者数
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	
一般小児内科	11	0	5	0	6	0	32
神経内科	17	5	4	0	3	5	16
循環器科	2	0	1	0	1	0	8
外科	14	9	4	1	0	0	6
整形外科	18	12	3	0	3	0	14
形成外科	7	4	3	0	0	0	16
歯科	0	0	0	0	0	0	1
その他	9	0	0	0	9	0	3
合 計	76	30	20	1	22	5	96

ウ 科別受診状況及びその結果

区分 科別疾患名	受診者数	受 診 結 果					R4年度 受診者数
		異常なし	要観察	要治療	要訓練 (重複あり)	その他 (重複あり 紹介等)	
一般小児内科総数	11	7	2	2	0	0	32
神経内科総数	17	1	14	1	0	1	16
循環器内科総数	2	1	1	0	0	0	8
外科総数	14	1	10	3	0	0	6
整形外科総数	18	3	15	0	0	0	14
形成外科総数	7	0	2	4	0	1	16
歯科総数	0	0	0	0	0	0	1
その他	9	4	4	1	0	0	3
総 数	76	17	48	11	0	2	96

②新生児・未熟児病棟および他病棟入院患児の退院連絡

	退院連絡依頼数	返 信 数	令和4年度依頼数
新生児・未熟児病棟	103	91	132
他 病 棟	18	11	22
計	121	102	154

③関係機関との連携状況

区 分	家 庭	院 内	県保 福児 関相 以外 係の	保健 福祉 事務 所	児 童 相 談 所	市 町 村	医 療 機 関	幼 学 校 ・ 保 育 園 所	訪 問 看 護 ス テ ー シ ョ ン	施 設	そ の 他	計 内 訳 (電話/面接)
養 育 支 援	294	148	5	1	10	252		5	4	1	2	722 (521/201)
療 育 支 援	22	28	1		1	22		5	4	4		87 (62/25)
成 長 発 達												0
病 気												0
受 診 支 援	3	2						2				7 (7/0)
予 防 接 種	1					1						2 (1/1)
医 療 福 祉												0
保 健 医 療												0
患 者 家 族 会	9	4				1						14 (11/3)
マ ス ・ ス ク リ ー ニ ン グ	6	3	1			2	60				1	73 (73/0)
遺 伝 相 談												0
妊 娠 ・ 出 産 相 談	92	53				125					1	271 (197/74)
研 修 ・ 調 査								6			1	7 (0/7)
そ の 他			1	2							2	4 (4/0)
計	427	238	8	3	11	402	60	18	8	5	7	1,187 件 (876/311)

④関係機関との連携会議

検討内容	実 数	延 数
教育機関・地域との調整	16	18

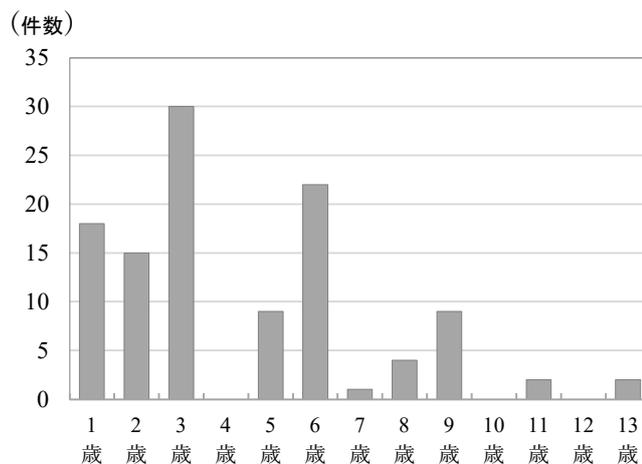
⑤心理検査

<心理検査>

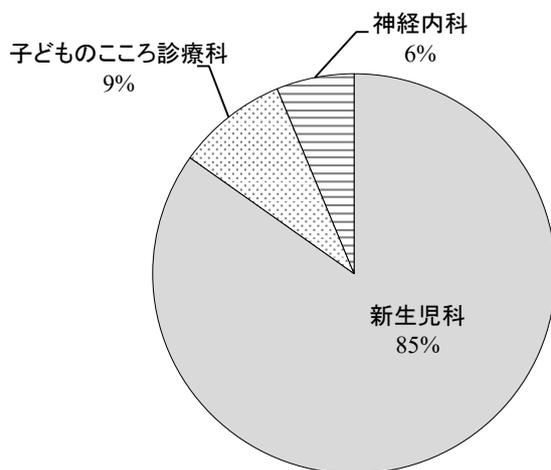
ア 心理検査(実施検査数)

新版 K 式発達検査	66
WISC-IV/V 知能検査	48
M-CHAT	29
PARS-TR	11
バウムテスト	3
ADHD-RS4	1
田中ビネー式知能検査 V	1
Wppsi - III	1
計	160

イ アの年齢別被検査者数 (n=112)



ウ 依頼科 (n=112)



<精神科コンサルト>

12回実施 (実人数 11人、延人数 16人)

⑥群馬県先天性代謝異常等検査事業

事務局として精密検査対象児の精検結果の把握、及び継続治療・経過観察児のフォローアップとして追跡調査を実施した。

<令和5年度患者発見状況報告> (R6.8月現在)

- ・一時検査実施実人数 10,820人
- ・再検査実施実人数 675人
- ・タンデムマスメールカンファレンス 3件
- ・精密検査対象者実人数 33人
- ・患者確定人数 (前年度検査を受け、令和5年度に確定した者を含む)
 - 先天性甲状腺機能低下症 12人
 - フェニルケトン尿症 2人
 - VLCAD欠損症 1人

⑦親の会への支援

新型コロナウイルス感染症の流行により、本院を会場とした講演会や交流会の開催は見合わせ、オンラインによる開催や会報発行を行った。

- ・ダウン症親の会 (あさがお) の運営支援 交流会 (対面) 2回
- ・13、18トリソミー親の会 (スマイル) の運営支援 交流会 (対面) 1回
お便り送付 1回
- ・口唇口蓋裂患者・家族交流会 (にこちゃんカフェ)の運営 交流会 (対面) 1回

(17) 地域医療連携室

①医療相談件数（令和5年度）

ア 相談内容及び件数（地域医療連携室）

	第一 病棟	第二 病棟	第三 病棟	新生 児病 棟	産科 病棟	P I C U	外 来	そ の 他	合 計		
									総計	内 訳 面接 / 電話 / カンファレンス	内 訳 新規 / 継続
転院・退院・入所	358	85	164	449	7	11	461	14	1,549	(658/837/54)	(203/1,346)
ショートケア	35	3	2	2	1	0	226	0	269	(143/124/2)	(8/261)
指導管理料関係	0	5	0	0	0	0	3	1	9	(2/5/2)	(0/9)
訪問看護	180	28	135	56	0	7	383	17	806	(149/642/15)	(47/759)
多職種連携	25	6	15	104	31	2	124	104	411	(25/124/262)	(252/159)
退院後フォロー	7	3	1	9	1	0	875	1	897	(776/112/9)	(3/894)
医療費・経済	5	2	10	12	60	1	56	1	147	(59/80/8)	(47/100)
医療給付制度	27	19	166	120	3	53	360	21	769	(347/414/8)	(321/448)
福祉サービス	141	23	72	66	4	15	941	9	1,271	(369/873/29)	(200/1,071)
心理的	4	4	3	3	0	3	30	3	50	(29/20/1)	(16/34)
新生児入院面接	1	2	8	195	7	26	11	11	261	(204/53/4)	(172/89)
その他	143	29	90	43	105	57	590	110	1,167	(235/815/117)	(235/932)
合 計	926	209	666	1,059	219	175	4,060	292	7,606	(2,996/4,099/511)	(1,504/6,102)

イ 公費負担医療費申請等事務取扱件数

区 分	件 数
未 熟 児 養 育 医 療	133
育 成 医 療	165
小児慢性特定疾病医療給付	644 (547)
指定難病医療給付	18 (10)
通院医療費公費負担制度	3 (2)
合 計	963 (559)

() 内は継続数

ウ 身体障害者手帳等事務取扱件数

区 分	件 数
身 体 障 害 者 手 帳	※135
特 別 児 童 扶 養 手 当	※166
障 害 児 福 祉 手 当	※84
そ の 他 の 診 断 書 等	1,049
合 計	1,434

※再認定を含む

②子ども虐待防止対策事業

ア 院内 CAPS 開催状況

- 令和5年6月23日「急性脳症で搬送されてきた児の耳介に痣があった事例」
；対応協議、市町村に照会
- 令和5年6月26日「6月23日に対応協議した事例」；対応協議、児童相談所に通告
- 令和5年8月30日「腔内異物により受診となった事例」；対応協議、児童相談所に相談
- 令和5年11月16日「入院中の児の両親とコンタクトが取れなかった事例」；対応協議
- 令和5年11月20日「自宅で出生した児。両親から治療の同意書等へのサインがもらえなかった事例」
；対応協議、市町村に連絡
- 令和5年11月21日「11月20日に対応協議した事例」；対応協議、顧問弁護士に相談
- 令和5年11月22日「11月20日・21日に対応協議した事例」
；対応協議、顧問弁護士の返答を受けて児童相談所に通告
- 令和5年11月27日「11月20日・21日・22日に対応協議した事例」
；当院・児童相談所・市町村で対応協議
- 令和6年1月15日「急性脳症の痙攣重積状態で入院した児に眼底出血があった事例」；対応協議
- 令和6年1月17日「1月15日に対応協議した事例」
；当院・児童相談所・警察・市町村で対応協議
- 令和6年3月18日「第二子妊娠中の妊婦より、第一子の居場所が不明であると話があった例」
；対応協議、市町村・児童相談所に相談

イ 要支援事例検討会状況：年6回 奇数月の第二水曜日に開催

性別 月齢・年齢	男		女		計	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
1ヶ月未満	0	0	2	2	2	2
1～6ヶ月	2	2	3(1)	7	5(1)	9
7～12ヶ月未満	0	0	0	1	0	1
1～2歳	2(1)	3	0	0	2(1)	3
3歳～学齢前児童	3	7	1	1	4	8
小学生	2	3	0	0	2	3
中学生	1	1	0	0	1	1
高校生・その他	0	0	6	10	6	10
計	10(1)	16	12(1)	21	22(2)	37
(令和4年度)	10(4)	13	10(1)	19	20(5)	32

()内は前年度からの継続人数

<分類>

内容 年度	身体的	心理的	ネグレクト	性的	代理ミューン ヒハウゼン	障害受容	養育環境	母の精神面
令和5年度	0	0	0	0	0	0	19	3
(令和4年度)	0	0	0	0	0	1	18	1

母の精神面については、精神科または心療内科受診歴がある場合を計上。

ウ 職員向け虐待対応研修：全職員対象研修を年2回実施

テ ー マ	講 師	実施方法	参加人数	参加率
虐待を見逃さないために	森田孝次医師	動画配信	321名	71.5%
傷つきからの回復に必要なかわり「自尊感情を育む」	副島和賢先生	対 面 動画配信	374名	84.4%

③支援会議実施状況

内容 月齢・年齢	在宅支援	育児支援	院内会議	その他	計
1ヵ月未満	0	0	0	0	0
1～6ヵ月	3	1	1	4	9
7～12ヵ月	3	0	1	1	5
1～2歳	5	2	0	2	9
3歳～学齢前児童	8	2	1	3	14
小学生	2	0	0	1	3
中学生	1	0	0	0	1
高校生・その他	2	0	0	2	4
計	24	5	3	13	45

④患者サポート会議実施状況

金曜日 9:30～ 原則毎週実施

相談件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和5年度	20	20	29	21	25	15	30	18	30	22	16	31	277
(令和4年度)	24	39	41	21	21	28	36	20	20	25	26	24	325

⑤関係機関訪問：各地域の関係機関との連携強化を目的に医師、看護師、SWで関係機関へ訪問をさせていただいている。

令和5年度 訪問先	訪問目的・協議内容
美原診療所	成人移行についての情報共有、当院の登録医制度についてのご案内
伊勢崎市民病院	成人移行のご相談、病院間での治療相談・情報共有できる関係性の維持について
児童発達支援事業所 Gift	療育活動の見学、情報共有
訪問看護ステーション オールケア伊勢崎	連携する中での当院への要望や、先方のスタッフの経験領域や新事業所の開設情報などを提供いただいた
児童発達支援事業所 わくまるおおやぎ園	療育活動の見学、情報共有
ひだまり診療所	地域課題の共有、訪問対象の患者様の状況や訪問範囲など情報を提供いただく、当院開催の研修会案内
土岐医院	地域課題の共有、当院開催の研修会案内

さわらび医療福祉センター	やっほ EAST の活動について、センターの見学、リハビリ (外来) の紹介対応について、研修会案内
高崎健康福祉大学 訪問看護ステーション	来年度の体制について情報をいただく、情報共有、研修会案内
富岡訪問看護ステーション	緊急時の当院の受診方法について、当院のショートケアの対象について、研修会案内
富岡総合病院	地域の医療機関としての役割について、成人移行のご相談、研修会案内

総括編

1. 沿 革

小児医療センターは、こどもたちが心身ともに健やかに生まれ、育成されることを目的として、高度専門的な総合的小児医療、保健活動を目指す施設として構想され、まず本県における小児保健医療の現状から緊急に必要な未熟児・新生児・乳児低年齢層の幼児を中心として専門的な診断治療を行うほか、母子保健活動、小児保健医療の調査研究研修を行う施設として、昭和 57 年 4 月 1 日に開設し、同年 7 月 1 日から全面的に診療活動を開始した。

昭和 47 年 9 月 建設調査検討開始

48 年 5 月 群馬県小児病院調査委員会発足 (会長 吉野文郁、委員 17 名)

50 年 1 月 調査委員会「群馬県小児医療センター基本構想」を答申 (規模：病床数 200 床程度)

50 年 6 月 群馬県小児医療センター建設委員会発足 (委員長 知事、委員 22 名)

52 年 3 月 県議会「県立小児病院建設促進についての意見書」を採択

52 年 8 月 小児医療センター建設促進懇談会、建設構想を作成し知事に提示

提案者：県医師会長鶴谷孔明ほかメンバー 9 名

内 容：病床数 60 床 (新生児科 30、小児内科 20、小児外科 10)

53 年 3 月 53 年度当初予算 7 億 9 千万円議決 (用地取得費 290 百万円、建設基金積立 500 百万円)

53 年 10 月 小児医療センター建設準備室設置

53 年 12 月 小児医療センター建設専門会議発足 (議長 衛生環境部長、委員 10 名)

54 年 2 月 小児医療センター建設基本方針及び基本計画決定 (病床規模 60 床)

54 年 3 月 54 年度当初予算 8 億 9 千万円議決 (設計委託料、基金積立等)

54 年 9 月 建設基本方針及び基本計画の一部変更決定 (病床規模 80 床)

54 年 11 月 設計委託契約の締結 (株式会社アルコム)

55 年 3 月 55 年度当初予算 7 億 6 千万円 議決 (本館建設費等)

55 年 10 月 小児医療センター起工式

56 年 3 月 56 年度当初予算 34 億 1 千万円議決 (建設費、医療機器購入等)

56 年 4 月 小児医療センター看護要員県外研修派遣 (1 年間、19 名)

57 年 3 月 小児医療センター建設完工

57 年 3 月 小児医療センターを県立病院として設置する「群馬県病院事業の設置等に関する条例」の一部改正議決

57 年 3 月 医療法 7 条に基づく病院開設許可 (80 床)

57 年 4 月 小児医療センター開設

57 年 5 月 小児医療センター落成式

57 年 7 月 診療活動を開始 (川崎病患者については 6 月より診療開始)

◆開院後の歩み

- 昭和 57 年 4.1 群馬県立小児医療センター設置、院長として神邊 譲 就任
5.1 保険医療機関の指定 (勢医 1014. 5010042)
// 療養取扱機関の申出の受理 (勢国医 1014. 205145)
5.27 日本麻酔科学会麻酔指導病院認定
6.9 結核予防法による医療機関の指定 (指定番号 1572)
6.30 母子保健法による未熟児養育医療担当機関の指定 (群馬県指令保福第 6 号)(未熟児収容定員 20 人)
7.1 生活保護法による医療機関の指定 (勢医 68 号)
10.1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される (認定期間 1982 年 7 月 1 日より 1987 年 6 月 30 日)
10.12 身体障害者福祉法指定医 (障第 141 号) 松山四郎、小泉武宣、清水信三
12.1 基準給食承認 (食第 104 号)
- 58 年 1.1 基準看護 (特 2 類)(看護 47 号)、基準寝具 (寝第 127 号) 承認
2.1 児童福祉法による育成医療機関 (心臓血管外科) 指定
2.12 身体障害者福祉法による厚生医療担当医療機関 (心臓血管外科) 指定
3.23 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令 (医) 第 206 号) 病床数及び従業員数の変更
3.30 病院施設使用許可 (医第 213 号) 病床増に伴うもの (98 床)
5.1 基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認 (群馬県指令保第 51 号) 基準看護 (特 2 類)、給食、寝具 (98 床)
7.1 重症者の看護及び重症者の収容基準実施承認 (群馬県指令保第 55 号) 看護 3 床
8.1 同 上 (群馬県指令保第 62 号) 看護 7 床、収容 2 床
- 59 年 3.29 群馬県小児医療センター建設事業基金条例の廃止
4.1 群馬大学医学部小児科学生臨床実習指定病院
4.11 県立福祉大学校看護学科看護婦養成所の実習施設に指定
- 60 年 5.1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
- 61 年 3.1 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
認定期間 1986 年 3 月 1 日～1991 年 2 月 28 日 (認定番号 105 号)
4.1 全国自治体病院協議会群馬県支部長として神邊 譲 就任
5.1 紹介型病院承認 (許可番号 (紹) 第 1 号)
8.1 在宅酸素療法指導管理届出の受理 (保第 810 号)
9.10 昭和 61 年度全国自治体病院協議会関東地方会議主催 (支部長 神邊 譲)
- 62 年 3.1 児童福祉法による育成医療機関 (小腸に関する医療) 指定
6.1 在宅中心静脈栄養法指導管理届出の受理 (保第 659 号)
- 63 年 4.1 在宅経管栄養法指導管理実施届出の受理 (保第 393 号)
// 基準看護 (外科特 3 類) の承認 (棟看第 1 号)
5.1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
- 63 年 7.1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間 1987 年 7 月 1 日～1992 年 6 月 30 日
8.1 基準看護 (外科特 3 類→特 2 類) の承認
- 平成元年 2.1 臨床修練 (小児疾患) 指定病院 (厚生省収健政第 20 号)(外国医師又は外国歯科医師)
3.1 基準看護 (外科特 3 類) の承認 (棟看第 1 号)
- 2 年 2.1 在宅自己導尿指導管理実施届出の受理
7.1 紹介外来型病院の指定 (厚生省収保第 1006 号)
- 3 年 3.1 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定

- 認定期間平成3年3月1日～平成8年2月29日(認定番号105号)
- 5.1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
 - 4年 7.1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間1993年7月1日～1998年6月30日
 - 5年 4.1 2代目院長として松山四郎 就任
// 無菌調剤処理施設基準承認(菌)第7号
 - 10.1 基準看護内科外科特3類(棟看第1号)、未熟児・新生児特2類(棟看第47号)の承認
// 在宅人工呼吸指導管理実施届出の受理(保第1762号)
 - 6年 5.1 保険医療機関指定(勢医1014)
 - 8.1 基準看護承認特3類3病棟98床(看)第1号(特3)
 - 9.1 重症者の特別の療養環境基準実施承認(内科、外科各2床)
 - 10.1 新看護等の基準に係る届出、一般病棟3病棟98床(看第5号(2対1A))
 - 7年 7.20 身体障害者福祉法指定医(障第110号)鈴木則夫・丸山健一・重田 誠
 - 8.1 更生医療担当医療機関指定(障第111号)
 - 11.1 夜間勤務等看護に係る届出(保第1926号)(夜看Ⅰ・Ⅱ)
 - 8年 3.1 入院時食事療養等届(特別管理・適時適温)(保第416号)
 - 4.1 3代目院長として土田嘉昭 就任
// 新看護等(夜間勤務等看護)に係る届出(夜看)第24号(I a-3)
// 画像診断管理の施設基準に係る届出
// 手術前医学管理料に係る届出(手前管)第32号
 - 11.1 院内感染防止対策に係る届出(感防)第89号
 - 9年 5.1 麻酔管理料に係る届出(麻管)第18号
 - 5.2 日本形成外科学会認定医制度教育関連施設として認定(登録番号97-321U)
 - 5.26 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令渋保第45号)
病床数の変更(内科病棟40床、外科病棟28床)
 - 9.17 身体障害者福祉法指定医(障第151号)設楽利二・小林富夫
 - 12.1 重症者の特別の療養環境基準実施承認(重第38号)内科2床増
 - 10年 4.1 無菌治療室管理の施設基準に係る届出
 - 7.1 新生児特定集中治療室管理の施設基準に係る届出(新)第3号
 - 11年 3.5 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第230号)外来棟増築
 - 6.1 経皮的冠動脈形成術の施設基準に係る届出(経形)第26号
 - 11.1 ペースメーカー移植術の施設基準に係る届出(ペ)第47号
// 大動脈バルーンパンピング法の施設基準に係る届出(大)第28号
 - 11.15 病院開設許可事項の一部変更許可(群馬県指令医第217号)
病棟間の病床数の変更(外科病棟28床→30床 未熟児・新生児病棟30床→28床)
// 身体障害者福祉法に基づく医師の指定(障第103号)篠原 真
 - 12.1 理学療法Ⅱの施設基準に係る届出(理Ⅱ)第72号
 - 12年 1.1 経皮的冠動脈ステント留置術の施設基準に係る届出(経ス)第25号
// 経皮的冠動脈血栓切除術の施設基準に係る届出(経切)第24号
 - 3.1 夜間勤務等看護に係る届出(平成12年3月1日における病棟間の病床数移動による届出)(夜看)第75号
 - 4.1 検体検査管理加算(I)の施設基準に係る届出(検Ⅰ)第7号
 - 5.1 保険医療機関の指定(勢医1014)
 - 11.22 身体障害者福祉法に基づく医師の指定(障第103号)丸山憲一
 - 13年 1.21 日本小児科学会認定制度施設として認定される
認定期間2001年4月1日～2006年3月31日(認定番号105号)

- 3.23 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 145 号) 前田昇三
- 14 年 4.1 1 歳未満の乳児に対する手術に係る届出 (乳外) 第 1 号
 - 〃 画像診断管理加算 2 の施設基準に係る届出 (画 2) 第 7 号
- 7.19 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-56 号)
 - 病床数の変更(内科病棟 40 床→45 床)
- 7.26 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 西村秀子
- 10.1 医療安全管理体制及び褥瘡対策の基準に係る届出 (群社局文発第 1579 号)
- 11.22 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-15) 平形恭子
- 11.27 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-108 号)
 - 病棟間の病床数の変更 (内科病棟 45 床→44 床、外科病棟 27 床→28 床)
- 15 年 1.14 開設許可事項一部変更届 (標榜科目の変更)
 - 4.1 診療科目 (小児科、小児外科、麻酔科、放射線科に循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科を加える)・病床数 (98 床→103 床)の変更
 - 8.1 児童福祉法による育成医療機関 (中枢神経に関する医療) 指定
- 16 年 2.26 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-169 号)
 - 新病棟の建設、旧病棟の用途変更、一般病床の増加 (103 床→150 床)
- 4.1 褥瘡患者管理加算の施設基準に係る届出 (褥) 第 20 号
 - 〃 尿道形成手術等に関する施設基準に係る届出 (2 エ) 第 17 号
 - 〃 肝切除術等に関する施設基準に係る届出 (2 カ) 第 28 号
 - 〃 食堂切除再建術等に関する施設基準に係る届出 (3 カ) 第 22 号
 - 〃 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (電池交換を含む。)に関する施設基準に係る届出 (ペース) 第 56 号
 - 〃 冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術に関する施設基準に係る届出 (冠動) 第 3 号
 - 〃 1 歳未満の乳児に対する手術に関する施設基準の届出 (加乳外) 第 1 号、(乳外) 第 2 号
- 5.1 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 (小入 1) 第 5 号
- 5.27 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-34 号) 本館の一部構造等変更
 - 6.1 言語聴覚療法Ⅲの施設基準に係る届出 (言語Ⅲ) 第 2 号
- 7.20 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 渡辺美緒
- 8.9 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号) 本館の一部構造等変更
 - 11.20 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-16) 村松礼子
- 11.1 小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出 (小入 2) 第 16 号
- 12.2 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-121 号) 本館の一部構造等変更
- 17 年 3.1 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
 - 〃 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-160 号)
- 4.1 4 代目院長として林 泰秀 就任
 - 〃 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出 増床 (一般入院) 第 102 号
 - 〃 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 増床 (小入 1) 第 5 号
 - 〃 小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出 増床 (小入 2) 第 16 号
 - 〃 夜間勤務等看護加算 1 の辞退 (夜勤看) 第 127 号
 - 〃 新生児特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 増床 (新) 第 3 号
- 5.1 病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)

- (小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科の9科に、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の5科を加え14科とする)
- 5.1 保険医療機関指定申請 (歯科)
 // 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出産科 (一般入院) 第 102 号
 // 総合周産期特定集中治療室管理料施設基準に係る届出 (周) 第 2 号 (新生児特定集中治療室管理料の辞退を含む)
- 5.2 理学療法Ⅱの施設基準に係る届出 (医師・PT の変更)(理Ⅱ) 第 72 号
- 6.1 病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
 (小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の14科に、精神科を加え15科とする)
 // 保険医療機関記載事項変更届 (精神科)
 // 一般病棟 I 群入院基本料 1 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 7.14 褥瘡患者管理加算届出 (専任看護職員変更)(褥) 第 20 号
- 7.27 身体障害者福祉法指定医 (群馬県指令障第 501-5 号) 鈴木尊裕、戸所誠
 // 更生医療機関届出 (整形外科) 群馬県指令障第 501-6 号
- 8.22 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-46 号) 外来診療室、病室名等の変更
- 10.1 特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (集) 第 13 号
- 18 年 1.1 療養環境加算の施設基準に係る届出 (療) 第 58 号
- 1.24 無菌製剤処理加算の施設基準に係る届出クリーンベンチ増設 (菌) 第 7 号
- 2.1 重症者療養環境特別加算に係る届出 変更 (重) 第 38 号
 // 自立支援医療に係る指定自立支援医療機関の指定
- 3.2 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-139 号)
 病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の設置)
- 3.31 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-164 号)
 病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の撤去)
- 3.29 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-171 号)
 病院施設の一部構造等変更 (言語聴覚室)
- 4.1 補綴物維持管理料 (補維) 第 1033 号
 // 特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (4→6)(集) 第 13 号
 // 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準届出 (通手) 第 54 号
 // 小児入院医療管理料 1 の施設基準届出 (小入 1) 第 5 号
 // 小児入院医療管理料Ⅱ (第 1 病棟・新生児未熟児病棟) の施設基準届出 (小入 2) 第 16 号
 // 一般病棟 7 対 1 入院基本料に係る施設基準届出 (一般入院) 第 102 号
 // 栄養管理実施加算に係る施設基準の届出 (栄養管理) 第 116 号
 // 単純 CT 撮影及び単純 MRI の施設基準の届出 (単) 第 56 号
 // 運動器リハビリテーション科Ⅰの施設基準の届出 (運Ⅰ) 第 59 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション科Ⅱの施設基準の届出 (脳Ⅱ) 第 70 号
 // 呼吸器リハビリテーション科Ⅰの施設基準の届出 (呼) 第 29 号
 // 歯科疾患総合指導料Ⅰの施設基準の届出 (歯総指) 第 614 号
- 5.1 保険医療機関及び保険薬局の更新について (群社局文発 815 号)
- 7.20 身体障害者福祉法指定医指定願 (群馬県指令障第 30057-2 号)
- 7.21 医療安全対策加算に係る施設基準の届出 (医療安全) 第 17 号

- 8.23 指定自立支援医療機関(精神通院医療)の指定手続き(保予第30023-12号)
- 9.29 運動器リハビリテーション科Ⅰの施設基準に係る医師及び作業療法士の追加届出(運Ⅰ)第59号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション科Ⅱの施設基準に係る作業療法士の追加届出(脳Ⅱ)第70号
- 10.2 診療録管理体制加算に係る施設基準の届出(診療録)第38号
- 11.20 ハイリスク分娩管理加算に係る施設基準の届出(ハイ分娩)第10号
- 19年 2.28 指定自立支援医療機関(育成医療・更生医療)の指定通知について(障第30052-13号)
 - 4.1 病院開設届出事項一部変更届(標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科、精神科の15科に、整形外科を加え16科とする)
 - 〃 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術の受理(通手)第54号
 - 4.9 号呼吸器リハビリテーション科(Ⅰ)及び医学管理料(Ⅰ)の施設基準に係る届出(医師の変更)(呼Ⅰ)第29号
 - 4.17 特定疾患医療給付等に関する群馬県知事との契約書について(保予第708-2号)
 - 〃 保険医療機関記載事項変更の届出
 - 4.23 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令渋保福第551-2号)
病院施設の一部構造等変更(言語聴覚室)
 - 4.27 障害者自立支援法第59条第1項の規定による指定自立支援医療機関(育成医療・更生医療)指定の変更(医師の変更)障第30052-3号
 - 5.31 臨床研修病院入院診療加算の届出(臨床研修)第21号
 - 6.19 輸血管管理料Ⅰの届出(輸血Ⅰ)第8号
 - 7.18 褥瘡患者管理加算の施設基準に係る専任看護師の変更届出(褥)第20号
 - 7.27 栄養管理加算の施設基準に係る管理栄養士の変更届出(栄養管理)第116号
 - 8.10 麻酔管理料の施設基準に係る常勤の麻酔科標榜医の変更届出(麻管)第18号
 - 〃 診療録管理体制加算の施設基準に係る診療記録管理者変更の届出(診療録)第38号
 - 〃 大動脈バルーンパンピング法(IABP)の施設基準に係る医師の変更届出(大)第28号
 - 〃 ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術の施設基準に係る医師の変更届(ペ)第47号
 - 10.31 生活保護法指定医療機関指定申請書(歯科)健福第839-31号
 - 11.20 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-77号)
病院施設の一部用途等変更(医薬品情報管理室)
 - 11.30 薬剤管理指導料の届出(薬)第118号
- 20年 1.22 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-96号)
病院施設の一部名称及び用途等変更(無菌製剤室ほか39室)
 - 4.1 電子化加算の施設基準に係る届出(電子化)第1362号
 - 〃 妊産婦緊急搬送入院加算の施設基準に係る届出(妊産婦)第21号
 - 〃 医療安全対策加算の施設基準に係る(医療安全)第17号
 - 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る届出(ハイ妊娠)第26号
 - 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出(ハイ分娩)第19号
 - 〃 小児入院医療管理料Ⅰの施設基準に係る届出(小入)第20号
 - 〃 医療機器安全管理料Ⅰの施設基準に係る届出(機安Ⅰ)第32号
 - 〃 検体検査管理加算(Ⅱ)の施設基準に係る届出(検Ⅱ)第70号

- 4.1 検体検査管理加算（Ⅰ）の施設基準に係る届出（検Ⅰ）第7号
 - 〃 遺伝カウンセリング加算の施設基準に係る届出（遺伝カ）第1号
 - 〃 画像診断管理加算2の施設基準に係る届出（画2）第7号
 - 〃 無菌製剤処理料の施設基準に係る届出（菌）第51号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）の施設基準に係る届出（脳Ⅲ）第31号
 - 〃 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術の施設基準に係る届出（通手）第54号
- 5.12 障害児（者）リハビリテーションの施設基準に係る届出（障）第7号
- 6.16 医療機能評価（Ver.5.0）認定 認定番号：第JC1509（2008/6/16～2013/6/15）
- 6.27 障害者自立支援法第59条第1号の規程による指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）の指定の変更届出（障第30052-4号）
- 6.30 一般病棟入院基本料の施設基準に係る届出（一般入院）第102号
 - 〃 小児入院医療管理料1の変更に係る届出（小入1）第20号
 - 〃 小児入院医療管理料3の変更に係る届出（小入3）第16号
- 7.29 身体障害者福祉法第15条第1項の規定に基づく医師の指定について（障第30057-1号）
- 8.1 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術の施設基準に係る届出（通手）第54号
- 8.15 病院開設許可事項一部変更許可（群馬県指令医第166-56号）
病院施設の一部構造及び用途等変更（歯科外来の拡張）
- 9.1 小児入院医療管理料3の施設基準の変更に係る届出（保育士設置）（小入3）第16号
- 9.12 診療用エックス線装置に係る届出事項の変更の届出
エックス線装置（透視・直接撮影（診断用））の更新
- 10.1 心臓MRI撮影加算の施設基準に係る届出（心臓M）第7号
- 11.26 病院開設許可事項一部変更許可（群馬県指令医第166-91号）
病院施設の一部用途等変更（生理検査室2、第二病棟授乳室）
- 21年 1.1 小児食物アレルギー負荷検査の施設基準に係る届出（小検）第11号
 - 〃 小児入院医療管理料3の施設基準の変更に係る届出（小入3）第16号
 - 〃 小児入院医療管理料1の施設基準の変更に係る届出（小入1）第20号
- 3.26 指定自立支援医療機関の主として担当する医師の変更について（障第30052-16号）
- 4.1 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出（ハイ分娩）第19号
 - 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る届出（ハイ妊娠）第26号
- 7.29 身体障害者福祉法第15条第1項に基づく医師の指定について（障第501-2号）
- 10.1 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る届出（外来環）第97号
- 12.7 身体障害者福祉法第15条第1項に基づく医師の指定について（障第501-3号）
- 22年 4.1 地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出（病初診）第14号
 - 〃 障害者歯科医療連携加算の施設基準に係る届出（障連）第3号
 - 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る届出（医管）第155号
 - 〃 一酸化窒素吸入療法の施設基準に係る届出（NO）第3号
 - 〃 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）の施設基準に係る届出（運Ⅰ）第20号
- 5.1 神経学的検査の施設基準に係る届出（神経）第26号
- 6.30 病院開設許可事項一部変更許可（群馬県指令医第166-39号）
病院施設の一部構造等変更（第三病棟）
- 10.1 胎児心エコー法の施設基準に係る届出（胎心エコ）第6号
- 10.20 病院開設許可事項一部変更許可（群馬県指令医第166-65号）
病院施設の一部構造等変更（新生児未熟児病棟）

- 11.1 医師事務作業補助体制加算の施設基準に係る届出 (事務補助) 第 27 号
- 11.24 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 23 年 4.1 HPV 核酸同定検査の施設基準に係る届出 (HPV) 第 72 号
 - // がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る届出 (がん疼) 第 50 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
 - // 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る届出 増床 (新 1) 第 3 号
- 5.23 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-17 号)
病院施設の一部構造等変更 (本館 2 階・3 階増築)
- 6.1 心大血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-79 号)
- 10.13 病院施設の一部用途等変更 (生理検査室 3)
- 11.1 冠動脈 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (冠動 C) 第 12 号
 - // 感染防止対策加算の施設基準に係る届出 (感染防止) 第 14 号
- 12.12 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 24 年 2.1 新生児治療回復室入院医療管理料の施設基準に係る届出 (新回復) 第 3 号
- 4.1 CT 撮影及び MRI 撮影の施設基準に係る届出 (C・M) 第 230 号
 - // 大腸 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (大腸 C) 第 10 号
 - // 心大血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) 初期加算の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (運Ⅰ) 第 20 号
 - // 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
 - // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - // 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - // 救急搬送患者地域連携紹介加算の施設基準に係る届出 (救急紹介) 第 33 号
 - // 救急搬送患者地域連携受入加算の施設基準に係る届出 (救急受入) 第 57 号
 - // 一般病棟 7 対 1 入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 5.1 保険医療機関の指定 (勢医 1014)
- 6.1 輸血管管理料Ⅰの施設基準に係る届出 (輸血Ⅰ) 第 17 号
- 9.1 先進医療に係る届出 (急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的 PCR 法による骨髄微小残存病変 (MRD) 量の測定) (先-195) 第 1 号
 - // データ提出加算 1 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
- 10.1 登録医制度開始
 - // データ提出加算 2 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
 - // 先進医療に係る届出 (胸腔鏡下動脈管開存症手術) (先 166) 第 1 号
- 11.1 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅲ) 第 66 号
- 11.12 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-71 号)
病院施設の一部用途変更 (PICU 説明室等)
- 11.26 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-5 号)
- 25 年 1.1 造血器腫瘍遺伝子検査の施設基準に係る届出 (血) 第 13 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 138 号
- 2.24 電子カルテ稼働開始
- 4.1 保険医療機関届出事項変更届 (開設者の変更)
 - // 医師事務作業補助体制加算 (40 対 1) の施設基準に係る届出 (事務補助) 第 42 号
 - // 麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 18 号

- 5.14 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出 (感染防止) 第 15 号
- 6.7 病院機能評価 (Ver.6.0) 認定 認定番号 : 第 JC1509-2 号 (2013/6/16~2018/6/15)
- 8.5 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
- 9.5 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-49 号)
本館第二病棟 (外科) の増改築工事に伴う病棟各施設の変更)
- 10.1 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
- 11.11 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 11.22 診療用エックス線装置等変更届出
- 26 年 1.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 6 号
- 2.17 第二病棟 (外科) 改修及び増築工事着工
- 3.5 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-114 号)
本館地下 1 階及び地上 1 階の用途変更
- 4.1 5 代目院長として丸山健一 就任
 - // 病院開設届出事項等一部変更届 (管理者の変更)
 - // DPC 対象病院に参加
 - // 医師事務作業補助体制加算 1 (40 対 1) の施設基準に係る届出 (事補 1) 第 8 号
 - // 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る届出 (脈動開) 第 1 号
 - // 輸血管管理料 II の施設基準に係る届出 (輸血 II) 第 48 号
 - // 輸血管管理料 I の施設基準に係る辞退届 (輸血 I) 第 17 号
- 4.28 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (外来環) 第 97 号
 - // 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (歯特連) 第 3 号
 - // 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (医管) 第 155 号
- 5.9 医療安全対策加算 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (医療安全 1) 第 17 号
 - // 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - // 薬剤指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (薬) 第 118 号
 - // 無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (菌) 第 51 号
 - // 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号
 - // 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
- 7.28 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
- 8.1 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 10.1 新生児特定集中治療管理料 1 の施設基準に係る届出 (新 1) 第 3 号
 - // 一般病棟 7 対 1 入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 10.22 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-5 号)
第二病棟 (外科) の増築部分等
- 11.25 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)

- 第二病棟 (外科) の改修箇所
- 11.26 生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (医科) の指定 (群医 276) (健福第 30236-15 号)
- 〃 生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (歯科) の指定 (群歯 185) (健福第 30236-15 号)
- 11.28 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
- 〃 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 II) 第 6 号
- 12.10 難病の患者に対する医療等に関する法律第 6 条第 1 項に規定する指定医の指定 (保予第 30149-2 号)
- 12.11 診療用エックス線装置等変更届出
- 12.24 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)
- 第二病棟 (外科) の改修箇所
- 〃 難病の患者に対する医療等に関する法律第 14 条第 1 項に規定する指定医療機関の指定 (保予第 30327-1 号)
- 〃 児童福祉法第 19 条の 9 第 1 項の規定に基づく指定小児慢性特定疾病医療機関 (医科) の指定 (保予 30018-1 号)
- 〃 児童福祉法第 19 条の 3 第 1 項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医の指定 (医科) の指定 (保予第 300019-1 号)
- 27 年 1.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る辞退届 (麻管 II) 第 6 号
- 1.20 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
- 1.23 第二病棟 (外科) 改修及び増築工事完成
- 1.30 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-117 号)
- 本館 1 階の用途変更
- 4.1 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 〃 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る届出 (集 3) 第 13 号
- 5.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 7 号
- 5.15 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
- 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
- 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (医管) 第 155 号
- 〃 医療機器安全管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (機安 1) 第 32 号
- 〃 胎児心エコー法の施設基準に係る従事者変更の届出 (胎心エコ) 第 6 号
- 〃 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
- 〃 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号
- 〃 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
- 〃 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
- 〃 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号

- 7.30 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項の規定に基づく指定医の指定 (障第 501-3 号)
- 10.9 診療用エックス線装置等変更届出
- 11.18 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-80 号)
本館外来棟の増改築工事に伴う施設の変更
- 12.4 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
// 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 II) 第 7 号
- 28 年 1.1 がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る届出 (がんリハ) 第 33 号
// CAD/CAM 冠の施設基準に係る届出 (歯 CAD) 第 540 号
- 1.25 診療用エックス線装置等変更届出
- 2.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る辞退届 (麻管 II) 第 7 号
- 3.1 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
// 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
- 3.29 児童福祉法第 19 条の 3 第 1 項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医 (医科) の指定 (保予第 30334-25 号)
- 3.31 難病の患者に対する医療等に関する法律第 6 条第 1 項に規定する指定医の指定 (保予第 30326-72 号)
- 4.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 8 号
- 6.2 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
// ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
// 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
// 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
// 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
// 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
// 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号
// 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
// 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
- 7.1 遺伝学的検査の施設基準に係る届出 (遺伝検) 第 2 号
- 7.8 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
// 薬剤管理指導料の施設基準に係る従事者変更の届出 (薬) 第 118 号
// 無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (菌) 第 51 号
// 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
// 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 10.1 医師事務作業補助体制加算 1 (40 対 1 補助体制加算) の辞退届 (事補 1) 第 8 号
// 医師事務作業補助体制加算 2 (40 対 1 補助体制加算) の施設基準に係る届出 (事補 2) 第 58 号
- 11.4 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る届出 (施設基準変更に伴う経過措置) (集 3) 第 13 号

- 11.7 一般病棟入院基本料 (7 対 1) の施設基準に係る届出 (施設基準変更に伴う経過措置)(一般入院) 第 102 号
- 12.7 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号)
本館外来棟増築工事
- 12.27 病院施設使用許可 (群馬県指令医第 551-14 号)
歯科レントゲン室
- 29 年 3.27 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-111 号)
建物構造等の一部変更 (用途変更)
- 3.28 本館外来棟増改築工事完成
- 6.1 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る届出 (造設前) 第 36 号
- 7.3 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
- 〃 医療安全対策加算 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (医療安全 I) 第 17 号
- 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 〃 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
- 〃 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
- 〃 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
- 〃 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号
- 〃 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
- 〃 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
- 〃 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
- 〃 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 II) 第 8 号
- 〃 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 7.31 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (がん疼) 第 50 号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
- 〃 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
- 〃 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者等変更の届出 (外来環) 第 97 号
- 〃 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者等変更の届出 (歯特連) 第 3 号
- 〃 歯科治療総合医療管理料 (I) 及び (II) の施設基準に係る従事者等変更の届出 (医管) 第 155 号
- 8.1 医師事務作業補助体制加算 2 の施設基準に係る区分変更 (30 対 1 補助体制加算) の届出 (事補 2) 第 58 号
- 8.29 胎児心エコーの施設基準に係る従事者変更の届出 (胎心エコ) 第 6 号
- 11.15 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (がん疼) 第 50 号
- 〃 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号

- 12.25 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出 (脈動開) 第 1 号
- 30 年 1.4 診療用エックス線装置等変更届出
- 1.10 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
- 1.24 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳Ⅱ) 第 138 号
- // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
 - // 麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 18 号
 - // 麻酔管理料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅱ) 第 8 号
 - // 小児入院管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (小入 1) 第 20 号
 - // 入院時生活療養 (Ⅰ) の施設基準に係る一部業務委託の導入・従事者変更の届出 (食) 第 104 号
 - // 心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (心Ⅰ) 第 7 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (脳Ⅱ) 第 138 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (運Ⅰ) 第 20 号
 - // 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
 - // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (障) 第 7 号
 - // がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (がんリハ) 第 33 号
- 3.1 重症者等療養環境特別加算の施設基準の辞退届 (重) 第 38 号
- 3.14 CT 撮影及び MRI 撮影の施設基準に係る区分変更 (64 列以上→16 列以上 64 列未満) の届出 (C・M) 第 230 号
- 4.1 6 代目院長として外松学 就任
- // 病院開設届出事項等一部変更届 (管理者の変更)
 - // 医療安全対策地域連携加算Ⅰの施設基準に係る届出 (医療安全 1) 第 17 号
 - // 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 4.26 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者、専用施設面積、機材変更の届出 (集 3) 第 13 号
- // 診療録管理体制加算 2 の施設基準に係る従事者変更の届出 (診療録) 第 38 号
- 5.1 麻酔管理料 (Ⅱ) の辞退届
- // 保険医療機関の指定 (関厚発) 第 77 号
- 5.11 医師事務作業補助体制加算 2 の施設基準に係る区分変更 (40 対 1 補助体制加算) の届出 (事補 2) 第 58 号
- // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る従事者及び連携保険医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - // 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 5.31 麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 80 号
- 7.1 後発医薬品使用体制加算 1 の施設基準に係る届出 (後発使 1) 第 47 号
- // 乳腺炎重症化予防ケア・指導料に係る施設基準に係る届出 (乳腺ケア) 第 14 号
- 8.3 医師事務作業補助体制加算 2 の施設基準に係る区分変更 (30 対 1 補助体制加算) の届出 (事補 2) 第 58 号

- 8.3 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (がん疼) 第 50 号
- 9.1 骨髄微小残存病変量測定 of 施設基準に係る届出 (骨残測) 第 2 号
 - // 医師事務作業補助体制加算 1 に係る施設基準に係る届出 (事補 1) 第 35 号 (加算 2 からの区分替え)
 - // レーザー機器加算の施設基準に係る届出 (手光機) 第 165 号
 - // 口腔粘膜措置の施設基準に係る届出 (口腔粘膜) 第 184 号
- 10.1 歯科外来診療環境体制加算 2 の施設基準に係る届出 (外来環 2) 第 97 号
 - // 急性期一般入院基本料 1 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
 - // 地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出 (病初診) 第 14 号
- 11.1 患者サポート体制充実加算の施設基準に係る届出 (患サポ) 第 71 号
 - // ヘッドアップティルト試験の施設基準に係る届出 (ヘッド) 第 19 号
- 12.5 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 80 号
 - // ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
 - // ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
- 12.28 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (造設前) 第 36 号
- 31 年 1.3 ペースメーカー及びペースメーカー交換術の施設基準に係る従事者変更の届出 (ぺ) 第 47 号
 - // 大動脈バルーンパンピング (IABP 法) の施設基準に係る従事者変更の届出 (大) 第 28 号
 - // 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出 (脈動開) 第 1 号
- 3.11 遺伝学的検査の施設基準に係る一部検査委託機関の追加の届出 (遺伝検) 第 2 号
- 4.24 病院開設許可事項一部変更許可 (2 階 産科病棟 多目的室 室名変更)
- 令和元年 6.3 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 80 号
- 7.5 大動脈バルーンパンピング (IABP 法) の施設基準に係る従事者変更の届出 (大) 第 28 号
 - // 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (造設前) 第 36 号
 - // 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出 (脈動開) 第 1 号
 - // ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術の施設基準に係る従事者変更の届出 (ぺ) 第 47 号
 - // 薬剤管理指導料の施設基準に係る従事者変更の届出 (薬) 第 118 号
 - // 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号
 - // 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
 - // がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (がんリハ) 第 33 号
- 8.29 骨髄微小残存病変量測定 of 施設基準に係る従事者及び当該検査を委託する施設の変更の届出 (骨残測) 第 2 号

- 10.30 CT 撮影及びMRI 撮影の施設基準に係る撮影機器及び安全管理責任者の変更の届出 (C・M) 第 230 号
 - // 心臓 MRI 撮影加算の施設基準に係る撮影機器変更の届出 (心臓 M) 第 7 号
- 12.1 後発医薬品使用体制加算 1 の辞退届
- 12.26 CT 撮影及びMRI 撮影の施設基準に係る区分変更の届出 (C・M) 第 230 号
- 2 年 2.28 病院開設許可事項一部変更許可 (地下 1 階 薬剤部事務室、医薬品情報管理室及び薬剤部倉庫 室名変更)
 - 3.11 診療用エックス線装置等変更届出
 - 4.1 全国自治体病院協議会群馬県支部長として外松 学 就任
 - // 歯科麻酔管理料の施設基準に係る届出 (歯麻管) 第 1 号
 - // 小児運動器疾患指導管理料の施設基準に係る届出 (小運指管) 第 6 号
 - // 先天性代謝異常症検査の施設基準に係る届出 (先代異) 第 6 号
 - // ウイルス・細菌核酸多項目同時検出の施設基準に係る届出 (ウ細多同) 第 1 号
 - 5.18 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 80 号
 - // 医療安全対策地域連携加算 I の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (医療安全 I) 第 17 号
 - 7.31 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 80 号
- 3 年 1.1 入退院支援加算 3 の施設基準に係る届出 (入退支) 第 105 号
 - 3.1 植込型除細動器移植術 (心筋リードを用いるもの) 及び植込型除細動器交換術 (心筋リードを用いるもの) の施設基準に係る届出 (除心) 第 3 号
 - // 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術 (心筋電極の場合) 及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 (心筋電極の場合)(両除心) 第 3 号
 - // 両心室ペースメーカー移植術 (心筋電極の場合) 及び両心室ペースメーカー交換術 (心筋電極の場合) の施設基準に係る届出 (両ぺ心) 第 1 号
 - 4.1 胎児輸血術の施設基準に係る届出 (胎輸) 第 1 号
 - 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る辞退の届出
 - 5.6 歯科麻酔管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (歯麻管) 第 1 号
 - 7.30 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 80 号
 - 10.1 遺伝カウンセリングの施設基準に係る届出 (遺伝カ) 第 5 号
 - 11.1 医師事務作業補助体制加算 1 の施設基準に係る配置基準の変更の届出
- 4 年 1.1 医師事務作業補助体制加算 1 の施設基準に係る配置基準の変更の届出 (事補 1) 第 35 号 40 対 1→30 対 1
 - 1.5 病院開設許可事項一部変更許可申請書
 - 2.1 医師事務作業補助体制加算 1 の施設基準に係る配置基準の変更の届出 (事補 1) 第 35 号 30 対 1→40 対 1
 - 2.15 診療用エックス線装置設置届
 - 4.1 新型コロナウイルス感染症重点医療機関に係る指定 (感疾第 4-9 号)
 - // 無心体双胎焼灼術の施設基準に係る届出 (無心) 第 1 号
 - // 特定集中治療室管理料 3 リハビリテーション加算の施設基準に係る届出 (集 3) 第 13 号
 - // 感染対策向上加算 1 の施設基準に係る届出 (感染対策 1) 第 10 号
 - // 小児入院医療管理 1「注 5」加算、「注 7」加算の施設基準に係る届出 (小入 1) 第 20 号
 - // 特定集中治療室管理料 3「注 1」加算の施設基準に係る届出 (集 3) 第 13 号
 - // 抗アデノ随伴ウイルス 9 型 (AAV9) 抗体の施設基準に係る届出 (AAV9) 第 1 号
 - 6.1 医師事務作業補助体制加算 1 の施設基準に係る配置基準の変更の届出 (事補 1) 第 35 号 40 対 1→25 対 1

- 6.10 歯科麻酔管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (歯麻管) 第 1 号
 - // 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る届出 (歯特連) 第 26 号
- 7.1 胃瘻造設時嚥下機能評価加算の施設基準に係る届出 (胃瘻造嚥) 第 45 号
- 10.1 急性期一般入院基本料 1 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
 - // 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る届出 (集 3) 第 13 号
 - // 地域医療体制確保加算の施設基準に係る届出 (地医確保) 第 16 号
- 5 年 1.1 在宅経肛門的自己洗腸指導管理料の施設基準に係る届出 (在洗腸) 第 3 号
 - 2.1 25 対 1 急性期看護補助体制加算 (看護補助者 5 割未満) (看護補助体制充実加算を含む) の施設基準に係る届出 (急性看補) 第 78 号
 - 4.1 7 代目院長として浜島昭人 就任
 - // 病院開設届出事項等一部変更届 (管理者の変更)
 - // 運動器リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (運Ⅱ) 第 192 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の辞退届
 - // 感染対策向上加算「注 2」指導強化加算の辞退届
 - // 特定集中治療室管理料 3 の重症度、医療・看護必要度に係る評価方法の変更の届出 (集 3) 第 13 号 I→II
 - 7.1 医師事務作業補助体制加算 1 の施設基準に係る配置基準の変更の届出 (事補 1) 第 35 号 25 対 1→20 対 1
 - 10.1 看護職員夜間配置加算 (12 対 1 配置加算 2) の施設基準に係る届出 (看夜配置) 第 33 号
 - // 脳波検査判断料 1 の施設基準に係る届出 (脳判) 第 3 号
 - 12.25 診療用エックス線装置設置届
- 6 年 2.1 染色体検査の「注 2」に規定する基準の施設基準に係る届出 (染色体) 第 6 号

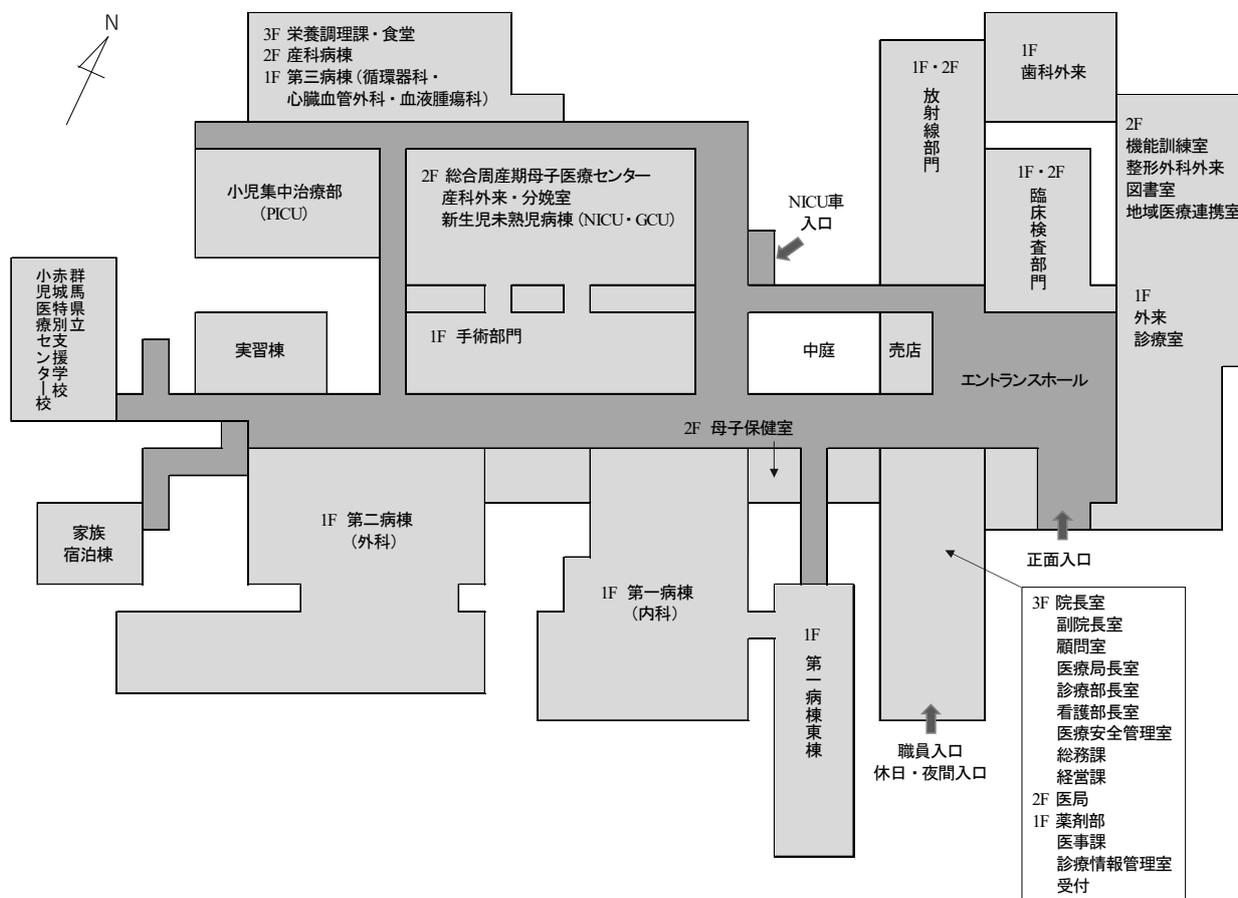
2. 施設

(1) 敷地・建物の面積

敷地		53,031.42 m ²
本館	鉄筋コンクリート地下1階地上3階建	18,441.17 m ²
看護師宿舎	鉄筋コンクリート地上4階建	1,170.28 m ²
職員宿舎	鉄筋コンクリート地上2階建	379.61 m ²
実習棟	鉄筋コンクリート地上2階建	485.00 m ²
家族宿泊棟	鉄筋プレハブ平屋建	200.00 m ²

(2) 病棟構成並びに建物配置図

階	病棟名	設置病床数 (令和5年4月1日現在)
2階	新生児未熟児病棟	33床
2階	産科病棟	18床
1階	第一病棟	32床
1階	第二病棟	29床
1階	第三病棟	30床
1階	小児集中治療部	8床
	合計	150床



(3) 施設・設備の設置状況

(単位：千円)

区 分	事 業 費	年 次 別 内 訳					
		54	55	56	57	58	59
本 館	8,267,802		911,600	1,914,690		追加工事 医療ガス 配管工事等 2,857	純水製造 装置 13,525
看護師宿舎	375,519			18,653		上水槽配管 保温工事 697	
職員宿舎	120,948			73,180		273	
実 習 棟	192,044						
家族宿泊棟	43,575						
設 計	283,402	本館 64,850	本館 8,646 宿舎 6,150	本館 17,354			
外構工事等	627,845			494,829	追加工事 駐車場等 1,659	追加工事 植栽等 2,118	フェンス 180
敷 地	625,643	290,000		67,328		191,228	
医 療 機 器	10,621,665			502,748	760,940	2,732	18,309
備 品	420,891			27,948	31,147		
電話設置等	31,666			債権 870 架設加入料 482	ポケットベル 加入保証金 200		
工事事務費	5,202		1,394	3,536			
合 計	21,616,202	354,850	927,790	3,121,618	793,946	199,905	32,014

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	60	61	62	63	元	2	3
本 館	照明工事等 1,605	11,923		塩酸等貯留 槽 4,001			
看護師宿舎			クーラー 10,093				
職員宿舎			クーラー 2,883				
実 習 棟							
家族宿泊棟							
設 計		390	クーラー 700				
外構工事等	定着液保留 槽 362	駐車場舗装 等 2,331	植栽工事等 3,496	フェンス 570			
敷 地							
医 療 機 器	24,160	11,983	12,000	52,400	213,936	211,120	100,094
備 品	2,839	2,924	3,000		4,619	9,995	6,660
電話設置等							
工事事務費							
合 計	28,966	29,551	32,172	56,971	218,555	221,115	106,754

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	4	5	6	7	8	9	10
本 館	放射線棟 増築等 385,667	調理室冷房 増設等 49,247	冷凍機更新 工事等 42,035	屋上防水 工事等 12,087	冷凍機更新 工事等 75,767	中央監視 装置更新等 83,192	外来棟増設 353,619
看護師宿舎	田口住宅 124,364	改築 204,479					
職員宿舎		一部改築 44,338					
実 習 棟					192,044		
家族宿泊棟							
設 計		職員宿舎等 14,420		実習棟 4,900		外来棟 15,120	
外構工事等	駐車場舗装 等 8,918	外構舗装 927		駐車場舗装 等 24,291			
敷 地	77,087						
医 療 機 器	106,149	733,654	87,173	113,753	190,495	186,144	121,241
備 品	8,817	5,995	9,973	8,000	43,394 実習棟分 3,986	7,780	6,369 外来棟分 2,051
電話設置等	電話加入権 975	電話加入権 3,195	電話加入権 900	院内ポケベル システム更新 10,155	コードレス増設 3,018 電話加入権 450		
工事事務費	272						
合 計	712,249	1,056,255	140,081	173,186	509,154	292,236	483,280

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	11	12	13	14	15	16	17
本 館	ボイラー 純水装置 28,350	受水槽更新 工事等 20,822	R-2冷却塔 更新工事等 14,049	内科病棟 増築工事等 24,885	新病棟建築 工事等 18,726	新病棟建築 工事等 2,417,398	
					非常用自家 発電機整備 11,000		
看護師 宿舎							
職 員 宿 舎							
実 習 棟							
家族宿泊棟	43,575						
設 計			内科病棟増 築 5,775	内科外科病 棟等改修 745	新病棟建築 工事実施 設計 54,600		外構工事 (電気工事を 含む) 1,659
外 構 工 事 等							駐車場舗装等 55,293 駐車場電気 4,809
敷 地							
医 療 機 器	104,808	114,158	129,964	109,703	87,716	1,048,076	328,243
備 品	4,996	9,000	5,390	3,271	2,715	82,548	4,968
電 話 設 置 等					コードレス 交換機更新 2,346		
工 事 事 務 費							
合 計	181,729	143,980	155,178	138,604	177,103	3,548,022	394,972

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	18	19	20	21	22	23	24
本 館	集塵配管 更新工事 5,985	PICUトラン ス増設工事 3,780	歯科改修工 事 10,133		新生児病棟 改修 150,433	管理棟増築 建築工事 22,827	冷凍機更新 工事 22,869
		新システム LAN配線 10,448			薬剤クリーン ルーム空調 3,360	管理棟増築 機械設備 工事 4,641	電源設備改 修・電気供 給設備工事 58,992
看護師宿舎							
職員宿舎							
実 習 棟							
家族宿泊棟							
設 計		歯科改修 735			新生児病棟 改修 9,229 管理棟改修 1,785		電気・空調 設備改修 2,310
外構工事等							
敷 地							
医 療 機 器	53,102	233,517	336,857	175,807	358,277	301,860	289,256
備 品	4,613	4,851	5,241	4,934	4,971	6,423	5,000
電話設置等							
工事事務費							
合 計	63,700	253,331	352,231	180,741	528,055	335,751	378,427

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	25	26	27	28	29	30	元
本 館	冷凍機(R-1)更新工事 50,400	外科病棟改修及び増築工事 302,357	変電設備更新工事 5,378	外来棟増築及び改修等工事 547,408	エントランスホール屋上防水改修 5,368	放射線棟ほか屋上防水改修工事 14,861	新生児未熟児棟ほか屋上防水改修工事 34,804
	外科病棟改修及び増築工事 32,000	変電設備更新工事 11,146	ピット配管等改修工事 29,117		第二病棟ピット配管工事 20,044	B棟受水槽全目地補修工事 7,560	非常用放送設備アンブ更新工事 35,167
	NICUバックアップ空調設置 12,285		第一病棟東棟空調改修工事 7,398		B棟漏電警報器設置工事 9,537	第一病棟病室ほか床張り替え工事 2,106	第1変電室制御用整流器交換工事 18,837
					中央滅菌材料室機器配線等工事 2,043		排煙用トップライト改修工事 15,785
看護師宿舎			エアコン設置工事 2,783		熱源等改修工事 14,450		
職員宿舎			エアコン設置工事 274				
実習棟							
家族宿泊棟							
設 計	冷凍機(R-1)更新工事 1,029		外来棟増築及び改修等工事 34,744			設備改修工事 2,700	第1変電室トランス更新工事 3,672
	外科病棟改修及び増築工事 21,384						
外構工事等					駐車場舗装等 28,062		
敷 地							
医 療 機 器	169,184	227,313	301,794	353,450	199,226	501,696	404,903
備 品	4,987	5,000	4,939	10,654	20,276	7,130	6,953
電話設置等							
工事事務費							
合 計	291,269	545,816	386,427	911,512	299,006	536,053	520,121

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	2	3	4	5	6	7	8
本 館	第一変電室 トランス開閉 器盤更新工事 3,200	第一変電室ト ランス開閉器盤 更新工事(繰越 分含) 209,199	中央監視設 備更新工事 50,600	売店移設工 事 14,256			
	B棟加湿器 更新工事 8,250	重油タンク改 修機械設備 工事 11,319	外壁等改修 工事 42,207				
		令和3年度 外壁等改修 工事(繰越、前払 金のみ) 11,880	外壁等修繕 工事(令和3 年度繰越分) 25,608				
		ナースコール 更新工事 21,560	外来トイレ 改修工事 15,609				
看護師宿舎							
職員宿舎							
実 習 棟							
家族宿泊棟							
設 計	ナースコール 更新工事 2,420	外科外来トイ レ改修工事 1,485		A棟分電盤 更新工事 3,080			
	外壁等改修 工事 3,520						
外構工事等							
敷 地							
医 療 機 器	252,986	381,598	155,751	553,389			
備 品	4,126	1,454	5,821	15,133			
電話設置等				電話交換機増設 ・機能拡張工事 9,075			
工事事務費							
合 計	274,502	638,495	295,596	594,933			

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(4) 付属設備

主なる付属設備一覧

設備名	設置機械	数量	型 式 及 び 性 能
熱源設備	ボ イ ラ ー	2	炉筒煙管式ボイラー 蒸発量 3.6t/h 伝熱面積 32.9㎡ 最大使用蒸気圧 1MPa 燃料 A 重油
	危険物地下タンク	1	コロッケ式 A 重油 容量 36,000L
	純水製造装置	1	MASP-100型 処理水量 6 m ³ /h× 100m ³ /cycle
	冷 凍 機	1	蒸気炊二重効用吸収式冷凍機 冷凍能力 1,407kw (400RT) 冷水1次ポンプ×1 片吸込渦巻型 4,032L/min 11kw 冷却水ポンプ×1 片吸込渦巻型 6,670L/min 45kw
		1	チリングユニット 冷凍能力 450kw 冷水1次ポンプ×1 片吸込渦巻型 1,290L/min 3.7kw 冷却水ポンプ×1 片吸込渦巻型 1,541L/min 11kw
	冷温水発生機	2	重油炊吸収式冷温水発生機 冷凍能力 703kw (200RT) 暖房能力 588kw 冷水ポンプ×2 片吸込渦巻型 2,016L/min 30kw 温水ポンプ×2 片吸込渦巻型 1,686L/min 30kw 冷却水ポンプ×2 片吸込渦巻型 3,340L/min 37kw
	冷 却 塔	4	角型開放超低騒音型 ①冷却能力 2,558kw× 1 送風機 5.5kw 口径 1,800mm× 3 ②冷却能力 537kw× 1 送風機 3.7kw 口径 1,600mm× 1 ③冷却能力 1,279kw× 2 送風機 3.7kw× 4口径 1,600mm× 4
	冷水二次ポンプ	4	片吸込渦巻型 1,100L/min× 27m× 11kw
	熱 交 換 器	2	温水暖房系統シェルアンドチューブ型 加熱能力 128kw× 2 温水ポンプ× 2 渦巻型 500L/min 5.5kw
	空調設備	エアハンドリングユニット	19
バックアップ用エアコン		1	パッケージエアコン 冷房能力 80kw 暖房能 90kw 送風機 シロッコファン 255m ³ /min 1.5kw 押込ファン シロッコファン 255m ³ /min 3.7kw

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
空調設備	全熱交換機	1	床置型給排気ファン 5.5kw×2
	外調機	13	別置き電気式 蒸気加湿器付き×10 別置き電気式 蒸気加湿器なし×4 水気化式 加湿器付き×1
	ファンコイル	463	
	給気・排気ファン	59	片吸込多翼型 (うち 24 時間運転 16 台)
	エアコン等	150	冷房能力合計 2,160kw、暖房能力合計 1,724kw
	恒温庫ユニット	1	冷却能力 1.9kw
電気設備等	高圧受変電設備	1	本線、予備線による二系統受電 受電電圧 6.6kv 受変圧器×15 4,525kVA 契約電力 1,240kwH
	副高圧変電設備	2	高圧変圧器×5 1,750KVA+高圧変圧器×2 700KVA
	非常用自家発電設備	2	水冷ディーゼルエンジン 923PS 1,500rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 750KVA ガスタービンエンジン 600PS 53,000rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 500KVA
	無停電電源装置	1	容量 100KVA×2 3相3線式 105V-210V 鉛蓄電池 200Ah
	電気時計設備	1	パネル型水晶発信式 8回線 子時計 30個/1回線
	電話交換機	1	デジタル電子交換機 最大内線 512 回線方式
	コードレス電話交換機	1	沖デジタルコードレスシステム 120
	放送設備	1	一般放送及び非常放送 40 系統 非常電源ユニット付き
昇降設備	低速エレベーター	9	寝台用×4 750kg 45m/min 荷物用×2 750~900kg 45m/min 乗用×2 480~900kg 45~60m/min 乗用 850kg 45m/min
	ダムウェーター	3	B1F~2F用 B1F~1F用 100~400kg 15~30m/min
防災設備	スプリンクラー	1	900L/min×65~75m×18.5kw ヘッド×1,920 流水作動弁×11
	屋内消火栓	1	750L/min×50m×15kw 放水口×17 補助散水栓×26 60L/min

設備名	設置機械	数量	型 式 及 び 性 能
防災設備	自動火災報知器	843	GR型アナログ式受信機(蓄積式、自動試験機能付)255回線 煙感知式×234 熱作動式×486 定温式×87
	排煙機	1	29,400m ³ /min 120mmAg 15kw 排煙口×19
	ハロゲン化物消火設備	1	ハロゲン1301 ボンベ×6本
	二酸化炭素消火設備	1	CO2ボンベ 55kg×22本
	フード消火設備	2	栄養調理課厨房及び食堂厨房 強化液 3L×各1
	火災通報装置	4	表示盤機能付 一般加入電話回線による押しボタン式
	防火水槽	1	40ton
衛生設備	上水受水槽	3	42t×2 FRP製 保温型 加圧給水装置 600L/min×0.38MPa×7.5kw×2 71t×1 FRP製 保温型 2槽式 加圧給水装置 640L/min×0.48MPa×3.7kw×4
	井水受水槽	1	320t×1 鉄筋コンクリート製 給水ポンプ 750L/min×45m×11kw×2 加圧給水装置 1,200L/min×0.34MPa×11kw×2 925L/min×0.40MPa×3.7kw×4
	深井戸ポンプ	1	800L/min×0.83MPa×18.5kw
	貯湯槽	4	蒸気加熱式 4,000L×2 60°C 温水ボイラー加熱式 6,000L×2 60°C
	温水ボイラー	2	真空式 2回路式ボイラー 465kw (暖房 150kw、給湯 315kw) 伝熱面積 9.9m ² 最高使用圧力 0.49MPa
	液酸タンク	1	4,942L 供給圧力 0.43MPa
	医療用ガスボンベ	16	笑気×4本 窒素×8本
	医療用圧空・吸引機	9	コンプレッサー 630L/min×5.5kw×3台 コンプレッサー 605L/min×5.5Kw×2台 吸引ポンプ 2,333L/min×5.5Kw×4台
	合併処理浄化槽	2	長時間ばっき+接触酸化方式 汚水量145m ³ /日 679人槽 流量調整担体流動浮上ろ過式 汚水量 52m ³ /日 743人槽
	薬液処理槽	1	酸及びアルカリによる連続中和+接触ばっき方式 日平均排水量 10m ³ /日

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
衛生設備	RI処理槽	1	BDO分離接触ばつき+接触ばつき方式 RI貯留法+希釈法 排水量 20人 A系統 600L/日 B系統 2,000L/日
	薬液処理槽	1	湿式処理風量19.9m ³ -27KPa 30kw 乾式処理風量10.5m ³ -38KPa 15kw

(5) 重要物品

主なる医療機器一覧

(購入価格 500 万円以上のもの)

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
薬局	散薬分包機(全自動) 調剤支援システム	Ai-8080(トーショー)	1	2016
		トーショー製調剤支援システム	1	2022
検査	ヘモクロン(血液凝固計)	コアグレックス800(シスメックス)	1	2003
	脳波計	EEG-1518 他(日本光電)	1	2004
	誘発電位筋電図検査装置	MEB-9204(日本光電)	1	2005
	全自動生化学分析装置	JCA-BM6050(日本光電)	1	2008
	血液自動分析機	XE-5000(シスメックス)	1	2009
	脳波計	EEG-1200(日本光電)	1	2010
	フローサイトメーター(自動細胞解析装置)	FACS Canto II(日本BD)	1	2012
	凍結切片作成装置	クリオスターNX70(サーモフィッシャーサイエンティフィック)	1	2012
	X線照射装置	MBR-1520A-3(日立メディコ)	1	2015
	密閉式自動固定包埋装置	ティシュー・テック VIP6(サクラファインテックジャパン)	1	2015
	全自動輸血検査装置	WADiana Compact(カインス)	1	2015
	脳波計	EEG-1218(日本光電)	1	2017
	超音波診断装置	TUS-AI900(キヤノンメディカルシステムズ)	1	2017
	生化学自動分析装置	JCA-ZS050(日本電子)	1	2018
	脳波計	EEG-1214(日本光電)	1	2018
	多項目自動血球分析装置	XN-1000 XN-350(シスメックス)	1	2020
	総合臨床検査システム	CLINILAN Series(エイアンドティー)	1	2020
	感染管理システム	CLINILAN IC3(エイアンドティー)	1	2020
	全自動微生物検査システム 一式	ベックマン・コールター製	1	2021
	脳波計	日本光電製 EEG-1278	1	2022
心臓超音波診断装置	フィリップス 超音波診断装置 EPIC Elite 一式	1	2022	
血液培養自動分析装置	日本ベクトン・ディッキンソン製 パクテックFX(TOP)	1	2023	
血液ガス分析装置	ラジオメーター製 ABL90 FLEX PLUS システム	1	2023	
放射線	超音波診断装置	Aplio80(東芝)	1	2004
	CR システム	REGIUS170(コニカミノルタ)	2	2004
	循環器画像解析装置	CCIP-310/W(カテックス)	1	2005
	循環器診断・治療システム	循環器診断システム INFx-8000V/JB 他(東芝メディカル)	1	2008
	一般撮影装置	Discovery XR650(GEヘルスケア)	1	2009
	外科用X線TV装置	OEC 9900 Elite(GEヘルスケア)	1	2009
	全身用コンピュータ断層装置・PACS	SOMATOM Definition AS+(シーメンス)	1	2011
	2検出器型ガンマカメラ	Symbia Evo(シーメンス)	1	2015
	医用画像管理システム更新に伴う周辺機器	「テクマトリックス製 NOBORIサービス」導入に伴うもの	1	2017

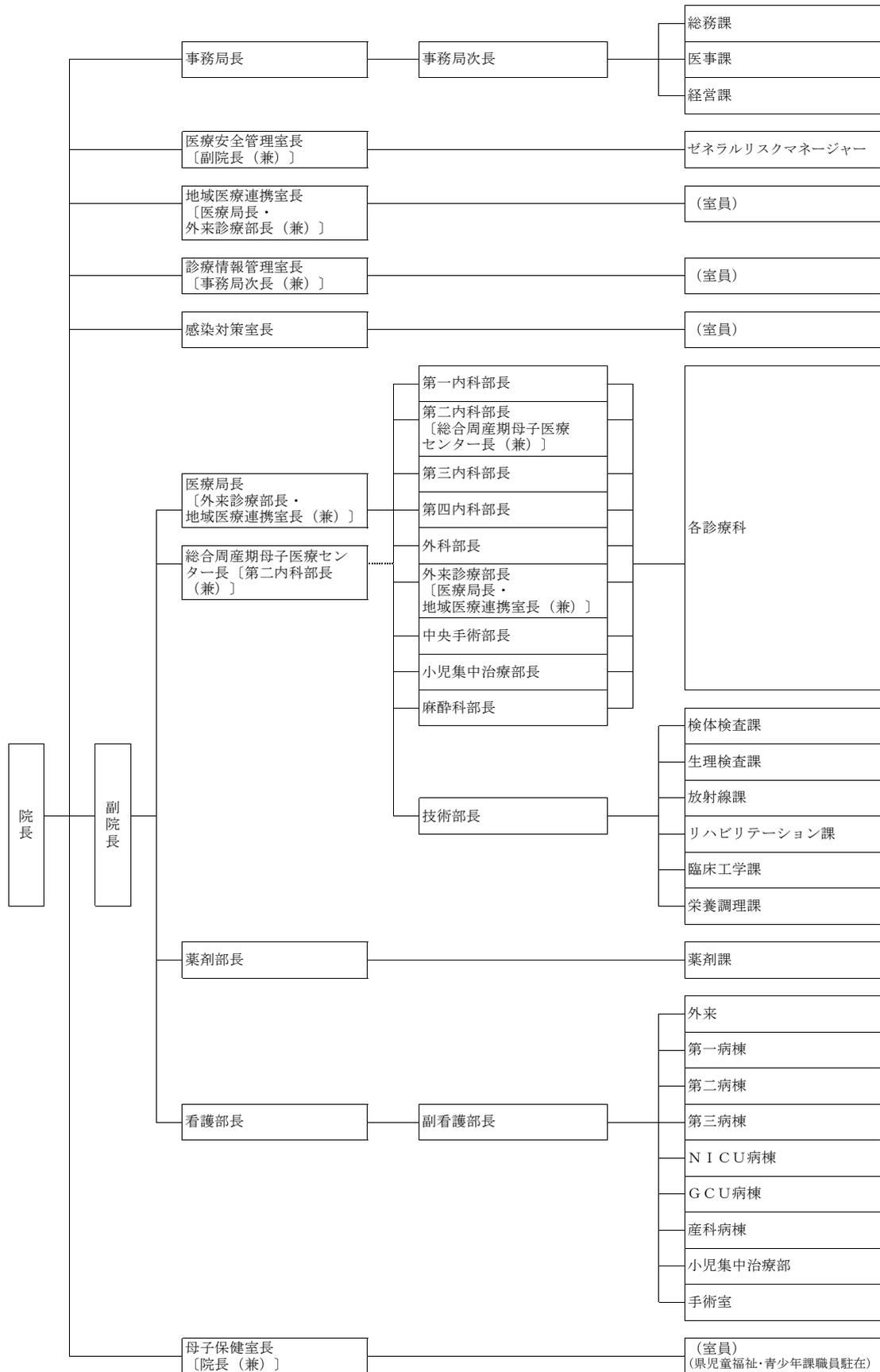
分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
放射線	超伝導磁気共鳴画像診断装置 (MRI)	SmartPath to dStream for 1.5T	1	2019
	動画ネットワークシステム	Kada-Serve (フォトロン)	1	2019
	循環器用X線透視診断装置 一式	Alphenix INFX-8000V 一式 (キャノンメディカルシステムズ)	1	2021
	デジタルX線透視撮影システム	FUJIFILM製 CUREVISTA Open	1	2023
栄養調理	オートクレーブ	NSS-009W (サクラ機械)	1	2004
	ユニット式調乳水製造装置	CMIFSC-501E-WA-230MC2HC1V (三田理化工業)	1	2017
CE (集中管理)	人工呼吸器 (新生児用)	ハミングV (メラン)	1	2003
	人工呼吸器 (新生児用)	ハミングV (メラン)	1	2004
	人工呼吸器 (小児用)	ハミングV (メラン)	4	2004
	酸素モニタ (非侵襲頭部)	NIRO-500 (浜松ホトニクス)	1	1997
	心筋保護液供給システム	HCP-5000 (泉工医科)	1	1998
	血液浄化用装置	JUN-505 (ウベ循環研)	1	2003
	人工呼吸器 (小児用)	ハミングX (メラン)	3	2010
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (コヴィディエン)	1	2011
	人工呼吸器	AVEA (米国ケアフュージョン207)	2	2012
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (コヴィディエン)	1	2014
	人工心肺装置システム	メラ人工心肺装置HAS II (泉工医科工業)	1	2015
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2015
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2016
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2018
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2019
	体外循環用血液学的パラメータモニタ	CDI550システム (テルモ)	1	2021
	汎用人工呼吸器	サーボベンチレータシステム (フクダ電子)	1	2021
	血液浄化装置	東レメディカル 血液浄化装置 AcuFil Multi 55X-III	1	2022
	汎用人工呼吸器	フクダ電子製 サーボベンチレータシステム	1	2023
	外来	超音波診断装置 (4D)	730Expert (GEBOLUSON)	1
超音波診断装置		Volson E8 (GEヘルスケアジャパン)	1	2011
X線撮影装置		X-era Smart3D F+ セファロ (ヨシダ)	1	2016
歯科用キャビネット一式		(ヨシダ)	1	2016
耳鼻科診察台一式		永島医科製	1	2019
簡易診察室一式		陰圧式エアータント一式 (ノルメカエイシア)	1	2020
全身麻酔器 (歯科)		PRO-NEXT II +s (アコマ医科)	1	2020
皮膚良性血管病変治療用レーザー装置		シネロン・キャンデラ製 Vbeam II	1	2023
病棟	心電図監視システム	CNS8200 8床用 (日本光電)	1	1993
	血液成分分離装置	AS-104 (フレゼニウス)	1	1997
	エンドスコープカメラ	MC-800E (日本光電)	1	1999
	セントラルモニタ (外科)	M3150B (フィリップス)	1	2004
	EOG殺菌乾燥薫蒸装置	EOリメーカー (日本リメイク)	1	2004
	インファントウォーマ	V-505HL (アトム)	1	2005
	生体情報管理システム	CAP2420 (日本光電)	1	2004
	超音波診断装置	Nemio (東芝)	1	2004
	患者監視用モニタ	(フィリップス)	1	2004
	人工呼吸器	ベネット 840 (タイコヘルスケア)	1	2005
	生体情報管理システム ハードウェア更新	CAP2420 (日本光電)	1	2010
	赤外線酸素モニタ装置	NIRO-200NX (IMI)	1	2010
	超音波診断装置	HD11EX (フィリップス)	1	2010
	生体情報モニタリングシステム	MP50外 (フィリップス)	1	2011
	セントラルモニタアップグレード、テレメータ更新	PIMS (フィリップス)	1	2012

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
病棟	遠心型血液成分分離装置	コムテック9008021 (アムコ)	1	2013
	超音波診断装置	iE33 (フィリップス)	1	2013
	母体胎児集中監視システム	(アトムメディカル)	1	2014
	超音波診断装置	Voluson E10 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	超音波診断装置	LOGIQ e Premium (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	シーリングペンダント(4台)	TruPort5000-1465 ICU Solo (セントラルユニ)	1	2014
	イエロー・レーザー光凝固装置	IQ577 (トーメーコーポレーション)	1	2014
	NICU車	シビリアン (ベース車、日産自動車)	1	2014
	新生児用ファイバースコープ	Mシリーズ (町田製作所)	1	2015
	分娩監視装置	FM-20 (アトムメディカル)	1	2016
	超音波診断装置	Voluson P8 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2016
	産科病棟セントラルモニタ	PU-621R (日本光電)	1	2017
	NICU/GCU 生体情報モニタリングシステム	(フィリップス・ジャパン)	1	2017
	超音波診断装置	Voluson S8 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2019
	生体情報モニタリングシステム	WEP-1450-Z02 外 (日本光電)	1	2020
	生体情報モニタリングシステム 一式	日本光電製	1	2021
	超音波診断装置	富士フイルム ARIETTA 750SE	1	2022
	汎用超音波画像診断装置	GE 汎用超音波画像診断装置 LOGIC Premium R8	1	2022
	超音波診断装置	フィリップス Affiniti70	1	2023
	汎用超音波画像診断装置	GEヘルスケア Voluson Expert22	1	2023
I C U	人工呼吸器	ベネット 840 (タイコヘルスケア)	3	2004
	血液ガス分析装置 (全自動)	スタットプロファイルCCX (ノババイオメディカル)	1	2004
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (ピューリタンベネット)	1	2009
	超音波診断装置	Vivid S6 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	生体情報モニタリングシステム (1階)	(フィリップス・ジャパン)	1	2018
	超音波診断装置	Vivid S60N (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2020
	体外式膜型人工肺	UNIMO (泉工医科工業)	1	2020
	人工呼吸器	ベンチレータ 980 (コヴィディエンジャパン)	2	2020
	気管支ビデオシステム 一式	BF-XP290 N4506610 (オリンパス)	1	2021
	超音波診断装置	フィリップス Affiniti70	1	2023
	EIT システム	コヴィディエン TPL-E2101	1	2023
	手術室	超音波メス	スミソニック ME-2400キューサー (住友ベーク)	1
手術台 (電動油圧)		小児型特注 (ミズホ)	1	2000
無影燈		Sola700+500 (ドレーゲル)	2	2004
手術台 (整形外科用)		MOS-1300B (瑞穂医科)	1	2004
体外循環用血液パラメータモニターシステム		CDI500 (テルモ)	1	2007
心筋保護液供給システム		HCP-5000 (泉工医科工業)	1	2007
人工心肺装置データ記録システム		OPSYS (フィリップス)	1	2004
術中経食道エコー検査装置		プロサウンドα7 (アロカ製)	1	2008
遠心型血液ポンプ		HAS-CFP (泉工医科工業)	1	2009
全身麻酔装置		アバンスケアステーション (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2012
腹腔鏡手術システム		1288-010-001 外 (日本ストライカー)	1	2014
過酸化水素低温プラズマ滅菌器		ステラッド100S (ジョンソン・エンド・ジョンソン)	1	2015
全身麻酔器		Carestation 650Pro (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2016
全身麻酔器		Carestation 650Pro (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2017
全身麻酔器		Carestation 650Pro (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2018
サージカルナイフ		Domain (ガドリウス・メディカル)	1	2018
電動式骨手術装置		日本ストライカー製	1	2019

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
手術室	超音波診断装置	Affiniti 70G (フィリップス・ジャパン)	1	2020
	腹腔鏡カメラシステム	1688AIM (日本ストライカー)	1	2020
	高周波手術装置 一式	VIO3 5 ソケットモデル 10160-000 (アムコ)	1	2021
	手術台 一式	18-600-10 MOT-VS600Dj (ミズホ)	1	2021
	汎用超音波画像診断装置	GE 汎用超音波画像診断装置 Venue Fit	1	2022
	内視鏡ビデオシステム	オリンパス 内視鏡ビデオシステム	1	2022
	手術台	ミズホ 手術台	1	2022
	内視鏡ビデオシステム	オリンパス 内視鏡ビデオシステム	1	2023
	手術器具洗浄器	ゲティンゲ ウォッシャー・ディスインフェクター 46-4-602ES50IC	1	2023
中央滅菌材料室	ウォッシャー・ディスインフェクター	WD8668EW (GETINGE)	1	2017
	小型高压蒸気滅菌器	HS33 (GETINGE)	1	2017
	高压蒸気滅菌器	VSCH-G12WNR (サクラ精機)	1	2018
臨床研究室	DNA シーケンサ	ジェネティックアナライザ (アブライドバイオシステム社)	1	2005
	光分析測定装置マルチプレートリーダー	1420ARVO MX-flad (パーキンエルマー・ジャパン)	1	2005
情報システム	カルテ管理検索システム装置	システムトリープ (イトーキ)	1	2004
	カルテ管理検索システム装置 制御機器更新	(イトーキ)	1	2012
	総合医療情報システム (電子カルテ導入)	(富士通)	1	2012
	電子カルテデータ統合分析システム	データウェアハウス (富士通)	1	2013
	臨床検査システム	Hi-LABO-S,Hi-LABO-EM,HD-TRANS (ニューコン)	1	2014
	診断書作成支援システム	MEDI-Papyrus (ニッセイ情報テクノロジー)	1	2015
	医事会計システム	HOPE SX-R (富士通)	1	2016
	監視モニターシステム	(カリーナシステム)	1	2016
	電子カルテシステム	HOPE EGMAIN-GX (富士通)	1	2018
	手術部門患者情報システム	Fortec ORSYS (フィリップス)	1	2018
	栄養管理システム	栄養管理システムVer.6 (SFC新潟)	1	2019
	歯科電子カルテシステム	オブテック製	1	2019
	生体情報モニタリングシステム	フィリップス製	1	2019
	ネットワーク機器群	Cisco社製	1	2019
	PICU 重症部門システム	フィリップス製 ACSYS	1	2023
	NICU 重症部門システム	フィリップス製 ACSYS	1	2023
	NICU 生体情報モニタリングシステム	フィリップス製	1	2023
	PICU 生体情報モニタリングシステム	フィリップス製	1	2023
	放射線情報システム	RIS	1	2023

3. 組織 (1) 機構

(令和6年3月31日現在)



(2) 人 事

① 役職員名簿

職 名	R6.3.31	R5.3.31	R4.3.31	R3.3.31	R2.3.31	H31.3.31
院 長	浜 島 昭 人	外 松 学	外 松 学	外 松 学	外 松 学	外 松 学
副 院 長	河 崎 裕 英	浜 島 昭 人	小 林 富 男	小 林 富 男	小 林 富 男	小 林 富 男
事 務 局 長	相 川 良 彦	相 川 良 彦	今 井 正 浩	今 井 正 浩	今 井 正 浩	今 井 正 浩
事 務 局 次 長	奈 良 清 隆	和 田 裕 幸	和 田 裕 幸	吉 澤 隆 雄	吉 澤 隆 雄	井 田 正 浩
総 務 課 長	高 尾 淳	高 尾 淳	田 村 英 昭	篠 澤 雅 之	篠 澤 雅 之	篠 澤 雅 之
医 事 課 長	住 谷 亜 由 子	福 島 義 明	福 島 義 明	岡 島 正 樹	岡 島 正 樹	猪 岡 忠 仁
経 営 課 長	林 利 幸	林 利 幸	園 田 宏	園 田 宏	岡 崎 正 弘	岡 崎 正 弘
総合周産期母子医療センター長	丸 山 憲 一	丸 山 憲 一	丸 山 憲 一	丸 山 憲 一	(院長兼務)	(院長兼務)
医 療 局 長	野 村 滋	河 崎 裕 英	浜 島 昭 人	浜 島 昭 人	浜 島 昭 人	浜 島 昭 人
第 一 内 科 部 長	椎 原 隆	椎 原 隆	椎 原 隆	椎 原 隆	椎 原 隆	椎 原 隆
第 二 内 科 部 長	(総合周産期母子医療センター長兼務)	(総合周産期母子医療センター長兼務)	(総合周産期母子医療センター長兼務)	(総合周産期母子医療センター長兼務)	丸 山 憲 一	丸 山 憲 一
総合周産期母子医療副センター長	—	—	—	—	(第二内科部長兼務)	(第二内科部長兼務)
第 三 内 科 部 長	池 田 健 太 郎	池 田 健 太 郎	河 崎 裕 英	河 崎 裕 英	河 崎 裕 英	朴 明 子
第 四 内 科 部 長	渡 辺 美 緒	渡 辺 美 緒	渡 辺 美 緒	渡 辺 美 緒	渡 辺 美 緒	—
外 科 部 長	—	—	—	—	富 沢 仙 一	富 沢 仙 一
外 来 診 療 部 長	(医療局長兼務)	野 村 滋	野 村 滋	山 田 佳 之	山 田 佳 之	山 田 佳 之
中 央 手 術 部 長	浅 井 伸 治	浅 井 伸 治	浅 井 伸 治	(医療局長兼務)	(医療局長兼務)	(医療局長兼務)
小 児 集 中 治 療 部 長	下 山 伸 哉	下 山 伸 哉	下 山 伸 哉	下 山 伸 哉	下 山 伸 哉	下 山 伸 哉
感 染 対 策 室 長	清 水 彰 彦	清 水 彰 彦	清 水 彰 彦	—	—	—
部 長	西 明	西 明	西 明	西 明	西 明	西 明
部 長	木 下 樹	木 下 樹	木 下 樹	木 下 樹	木 下 樹	木 下 樹
部 長	岡 村 達	岡 村 達	岡 村 達	浅 井 伸 治	浅 井 伸 治	浅 井 伸 治
部 長	道 和 百 合	道 和 百 合	池 田 健 太 郎	岡 德 彦	岡 德 彦	渡 辺 美 緒
部 長	小 泉 亜 矢	小 泉 亜 矢	道 和 百 合	池 田 健 太 郎	池 田 健 太 郎	岡 德 彦
部 長	京 谷 琢 治	京 谷 琢 治	小 泉 亜 矢	道 和 百 合	道 和 百 合	池 田 健 太 郎
部 長	森 田 孝 次	森 田 孝 次	京 谷 琢 治	小 泉 亜 矢	小 泉 亜 矢	道 和 百 合
部 長	松 本 直 樹	松 本 直 樹	森 田 孝 次	京 谷 琢 治	松 本 直 樹	小 泉 亜 矢
部 長	山 崎 聡 子	福 田 一 代	松 本 直 樹	森 田 孝 次	山 崎 聡 子	松 本 直 樹
部 長	市 之 宮 健 二	山 崎 聡 子	福 田 一 代	松 本 直 樹	市 之 宮 健 二	山 崎 聡 子
部 長	木 暮 さ や か	市 之 宮 健 二	山 崎 聡 子	山 崎 聡 子	木 暮 さ や か	市 之 宮 健 二
部 長	廣 木 茜	木 暮 さ や か	市 之 宮 健 二	野 村 滋	友 保 貴 博	木 暮 さ や か
部 長	諏 訪 裕 人	廣 木 茜	木 暮 さ や か	福 田 一 代	福 田 一 代	友 保 貴 博
部 長	中 島 公 子	諏 訪 裕 人	廣 木 茜	市 之 宮 健 二	市 之 宮 健 二	福 田 一 代
部 長	山 口 有	中 島 公 子	諏 訪 裕 人	木 暮 さ や か	廣 木 茜	福 田 中 健 佑
部 長	鎗 木 浩 太	山 口 有	中 島 公 子	廣 木 茜	高 澤 慎 也	廣 木 茜
部 長	清 水 真 理 子	鎗 木 浩 太	山 口 有	高 澤 慎 也	清 水 彰 彦	高 澤 慎 也
部 長	浅 見 雄 司	清 水 真 理 子	鎗 木 浩 太	清 水 彰 彦	山 崎 優	清 水 彰 彦
部 長	新 井 修 平	浅 見 雄 司	清 水 真 理 子	中 島 公 子	山 口 有	山 崎 優
部 長	宮 川 陽 一	新 井 修 平	大 和 玄 季	山 崎 優	野 村 滋	山 口 有
部 長	渡 辺 栄 一 郎	宮 川 陽 一	浅 見 雄 司	鎗 木 浩 太	佐 藤 達 也	—
部 長	飯 島 真 由 子	渡 辺 栄 一 郎	新 井 修 平	山 口 有	森 田 孝 次	—
部 長	鎗 木 多 映 子	大 嶋 瑛	五 十 嵐 昭 宏	浅 見 雄 司	—	—
部 長	清 水 有 紀	鎗 木 多 映 子	宮 川 陽 一	—	—	—
部 長	山 口 岳 史	清 水 有 紀	井 上 崇 道	—	—	—
部 長	坂 本 崇	—	—	—	—	—
部 長	松 永 慶 廉	—	—	—	—	—
医 長	大 隅 麻 貴 子	坂 本 崇	大 嶋 瑛	新 井 修 平	鎗 木 浩 太	佐 藤 達 也
医 長	佐々木 淑 恵	松 永 慶 廉	鎗 木 多 映 子	林 秀 憲	新 井 修 平	鎗 木 浩 太
医 長	稲 田 雅 弘	佐々木 淑 恵	内 山 陽 介	清 水 真 理 子	浅 見 雄 司	宮 川 陽 一
医 長	上 原 理 紗	齋 藤 景	清 水 有 紀	大 和 玄 季	黒 岩 陽 介	黒 岩 陽 介
医 長	石 北 悦 子	稲 田 雅 弘	坂 本 崇	井 上 崇 道	林 秀 憲	清 水 真 理 子
医 長	—	上 原 理 紗	松 永 慶 廉	大 嶋 瑛	清 水 真 理 子	大 和 玄 季
医 長	—	—	佐々木 淑 恵	鎗 木 多 映 子	大 和 玄 季	新 井 修 平
医 長	—	—	則 内 友 博	清 水 有 紀	大 嶋 瑛	松 田 知 子
医 長	—	—	星 野 智	坂 本 崇	鎗 木 多 映 子	林 秀 憲
医 長	—	—	齋 藤 景	—	高 本 尚 弘	大 嶋 瑛
医 長	—	—	千 葉 真 子	—	清 水 有 紀	高 本 尚 弘
医 長	—	—	—	—	—	鎗 木 多 映 子
医 長	—	—	—	—	—	南 雲 一 洋

職名	R6.3.31	R5.3.31	R4.3.31	R3.3.31	R2.3.31	H31.3.31
技師	小柳晴加	村上麻耶	村上麻耶	飯野彩奈	飯野彩奈	飯野彩奈
技師	—	石北悦子	—	佐々木淑恵	田中亜由子	—
技師	—	—	—	則内友博	道崎護	—
技師	—	—	—	星野智	—	—
技師	—	—	—	菊地健太	—	—
技師	—	—	—	村上麻耶	—	—
技術部長	小川公代	小川公代	富岡千鶴子	富岡千鶴子	富岡千鶴子	竹内浩司
検体検査課長	神山晴美	神山晴美	神山晴美	神山晴美	神山晴美	富岡千鶴子
生理検査課長	丸山裕子	丸山裕子	田中伸久	田中伸久	田中伸久	田中伸久
放射線課長	佐々木保	佐々木保	佐々木保	佐々木保	佐々木保	都丸健一
リハビリテーション課長	熊丸めぐみ	臼田由美子	臼田由美子	臼田由美子	臼田由美子	臼田由美子
栄養調理課長	島田純子	島田純子	島田純子	島田純子	島田純子	神保裕子
臨床工学課長	関明彦	関明彦	関明彦	関明彦	関明彦	関明彦
薬剤部長	藤波洋征	藤波洋征	藤波洋征	藤波洋征	橋場尚子	橋場尚子
薬剤課長	佐藤真理子	佐藤真理子	伊藤理恵	伊藤理恵	藤波洋征	藤波洋征
看護部長	清水奈保	清水奈保	清水奈保	清水奈保	清水奈保	清水奈保
副看護部長	福田円	都丸八重子	都丸八重子	都丸八重子	都丸八重子	都丸八重子
GRM	大平典子	大平典子	大平典子	福田円	福田円	福田円
補佐（看護師長）	—	福田円	福田円	丸山美幸	丸山美幸	丸山美幸
補佐（看護師長）	—	—	—	—	—	武井貴代美
看護師長	宮川祐子	宮川祐子	宮川祐子	宮川祐子	宮川祐子	宮川祐子
看護師長	浅野香	浅野香	浅野香	浅野香	高橋敦子	高橋敦子
看護師長	村上容子	村上容子	村上容子	村上容子	片貝まさみ	片貝まさみ
看護師長	石坂泰子	石坂泰子	石坂泰子	石坂泰子	浅野香	金井みち子
看護師長	福島富美子	福島富美子	福島富美子	福島富美子	村上容子	浅野香
看護師長	黒田佐織	黒田佐織	黒田佐織	大平典子	石坂泰子	村上容子
看護師長	北爪幸子	北爪幸子	北爪幸子	黒田佐織	福島富美子	石坂泰子
看護師長	齊藤織恵	齊藤織恵	齊藤織恵	北爪幸子	大平典子	福島富美子
看護師長	鈴木清恵	鈴木清恵	角田愉香里	齊藤織恵	黒田佐織	大平典子
看護師長	小林志のぶ	小林志のぶ	小林志のぶ	角田愉香里	齊藤織恵	—
看護師長	星山友絵	—	—	—	—	—
看護師長	柴田夕貴子	—	—	—	—	—
母子保健課長	—	—	阿久澤直子	高橋雪子	高橋雪子	高橋雪子

4. 運 営

(1) 診療制度

当センターは、県内唯一の県立小児医療専門病院であるとともに総合周産期母子医療センターに認定されている。診療は、二次・三次救急を原則とし、未熟児・新生児・乳児、幼児、学童並びに胎児に異常が疑われる母胎を主な対象として、医療機関・保健福祉事務所等からの紹介予約制を基本としている。

ア 紹介予約制

患者の紹介予約は、医療機関・保健福祉事務所等から FAX 等を利用して行われる他、紹介状をもらった患者家族からの電話申込みによる。

当センターでは、紹介内容から患者の症状等を判断し、急を要する場合を除いて患者の都合のよい日時に予約日を指定する方法を採っている。なお、紹介医療機関等に対しては、診療後必ず診療結果を報告することとしている。

イ 外来診療

診療科及び診療時間は、次のとおりである。(令和6年3月1日現在)

◎内科系

- 総合診療科 月～金曜 (9時～17時)
- 神経内科 月～金曜 (9時～17時)
- 循環器科 月・金曜 (9時～15時30分)、火曜 (13時～17時)、水曜 (9時～15時)
- 血液腫瘍科 月～水曜 (14時～17時)、木曜 (13時30分～17時)
- 腎臓内科 第1・3・5火曜 (13時30分～16時)、第2・4木曜 (13時～17時)、第2・4火曜 (13時～17時)
- アレルギー
・リウマチ科 月・木・金曜及び第2・4水曜 (13時～17時、14時～14時30分: 初診)、火曜 (13時～17時、13時～14時: 初診)、第1・3・5水曜 (13時30分～14時: 再診、14時～14時30分: 初診) 第2・4金曜 (9時～12時)
- 感染症科 火曜 (9時～17時)、木曜 (9時～17時)

◎外科系

- 小児外科 火曜 (9時～17時、13時～17時: 初診)、木曜 (9時～12時、第1・3・5週: 初診)、金曜 (13時～17時)、第1・3水曜 (9時～12時)
- 心臓血管外科 水・金曜 (10時～17時)
- 形成外科 月曜 (9時～16時、9時30分～11時: 初診) 木曜 (9時～16時、9時30分～10時30分: 初診)
- 整形外科 月・水曜 (9時～17時: 午前再診、午後初診)、金曜 (9時～12時)
- 脳神経外科 第4金曜 (14時～16時)

◎総合周産期母子医療センター

- 新生児科 月・水・木・金曜 (13時～17時)、第2火曜 (9時～12時)
- 産科 月～金曜 (9時～17時、14時～16時: 初診 (火・木はNIPT外来))
- 胎児心臓外来 木曜 (9時～12時)

○胎児超音波	
スクリーニング外来	月～金曜 (9時～12時)
○母乳外来	月～金曜 (9時～17時)
◎特殊専門外来	
○麻酔科	月曜 (13時～17時)、火・木・金曜 (9時～17時)
○放射線科	月曜～金曜 (9時～17時)
○遺伝科	月曜 (9時～12時)、金曜 (9時～17時)
○歯科・障害児歯科	月曜～金曜 (9時～12時、14時～17時)
○耳鼻咽喉科	月曜 (15時～17時)、第1・3・5水曜 (9時～11時)
○眼科	第2・4水曜 (偶数月9時～10時30分、奇数月14時～15時30分)
○子どものこころ診療科	火曜 (9時～17時、13時30分～14時: 初診)、木曜 (9時～12時)
○内分泌代謝科	木曜 (14時～17時)

ウ 救急対応

当センターは、救急告示病院の指定を受けていないが、医療機関からの紹介に基づく第2次・第3次救急対策を行っている。

緊急対応としては、診療時間外における管理当直として医師1名、看護師1名があたり、さらに必要な場合は電話によるオンコールで医療従事者の確保を図り、昼夜いつでも診療が可能な体制を整えている。

また、未熟児・新生児を治療しながら搬送するNICU車(新生児救急車)は、主に産科から病棟へ直接電話の依頼により出動し、24時間体制で対応している。

平成13年度、休日及び夜間における子供の救急医療体制を整備するため、小児科医及び病床等の確保を図る小児救急支援事業がスタート、北毛地区では同年9月から、当院、利根中央病院、原町赤十字病院の3病院が交代で協力することでスタートしたが、現在は当院と利根中央病院の2病院が交代で行っている。

エ 診療録管理等

診療録は外来・入院それぞれ別冊で管理するが、登録番号はともに共通の永久番号制で、保存方法は患者番号の下2桁が同じファイルを同一グループとして順次配架するターミナル・デジット方式を採用している。

また、病院内の組織横断的な診療情報管理を担うため、平成18年度から診療情報管理室を設置するとともに、同年末に入院診療情報管理システムを導入し、診療録管理・各種診療統計業務等の効率化を図った。

オ 院内総合医療情報システム

当センターのシステムの運用及び更新については次の表のとおりである。

年度・日付	システムの運用開始・更新内容
平成 19 年 11 月	医事会計システム先行稼働
平成 20 年 2 月 23 日 (外来診療初日は 25 日)	オーダーリングシステムの第 1 次運用開始
平成 20 年 5 月 1 日	オーダーリングシステムの第 2 次運用開始 (放射線、生理・病理検査オーダーが稼働)
平成 20 年 6 月 3 日	オーダーリングシステムの第 3 次運用開始 (注射オーダーが稼働)
平成 20 年 12 月	オーダーリングシステムの当初計画した全てが無事稼働 (手術予約が稼働)
平成 22 年度	PICU 棟の PIMS システム及び産科の患者情報管理システムのシステム機器を更新
平成 24 年度 (平成 25 年 2 月 24 日)	総合医療情報システム(電子カルテ)及び看護支援システムが稼働
平成 25 年度 (平成 25 年 9 月 2 日)	歯科電子カルテシステムの運用開始
平成 26 年度 (平成 26 年 12 月 1 日)	臨床検査システムを更新
平成 28 年度	NICU・PICU の患者情報管理システム、放射線情報システムを更新
平成 29 年度	医用画像管理システム (PACS) の更新を行い、クラウド型システムを導入
平成 30 年度	総合医療情報システム (電子カルテ) を更新 手術部門患者情報システムを導入
令和元年度	歯科電子カルテシステムを更新
令和 2 年度	臨床検査システムを更新 感染管理システムを導入
令和 4 年度 (令和 5 年度繰越)	PICU・NICU/GCU・第 3 病棟の重症部門患者情報システム、生体情報モニタを更新
令和 5 年度	放射線情報システムを更新

カ 院内ボランティア

複数のボランティア団体の活動により、患者や家族の快適な環境と楽しい時間を提供している。令和 2 年度以降は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、多くの活動が休止を余儀なくされた。

○「ひまわり会」(平成 12 年 4 月～)

毎週火曜日、慢性疾患児家族宿泊施設の管理として、宿泊棟の清掃やノート等を利用したの相談活動。

○「日本クリニクラウン協会」(平成 17 年 10 月～)

月 1 回 (第 4 水曜日)、長期入院患者を励ますためのクリニクラウン (臨床道化師) による病棟訪問。

○「お話しの風」(平成 20 年 10 月～)

月に 2 日、病棟、外科外来での絵本の読み聞かせ等の活動。

○「花壇ボランティアひまわり」(平成 22 年 4 月～)

月 1 回程度、院内の花壇、中庭の花弁、植栽の管理。

キ 臨床研修

当院は新臨床研修制度の協力型病院として平成17年度から小児科の研修を行う初期臨床研修医を受け入れている。当院は内科系だけでも三つの病棟を擁しているため、研修方法は研修医の希望に基づいて各病棟をローテートする方法で行っている。なお、希望者には一定期間、小児外科、形成外科、整形外科、心臓血管外科、産科の研修も許可している。

令和5年度 職員のメディアへの出演実績

年 月 日	番 組 名		出 演 者 氏 名		テ ー マ
令和5年10月11日	上毛新聞	元気+らいふ 10,11月号 VOL.88	感染対策室長	清水 彰彦	教えてドクター RSウイルス感染症

(2) 院内会議の状況

会 議 の 名 称	会 議 の 目 的	開 催 状 況
管理職会議	病院の基本方針等の協議・決定	月 1 回
管理診療会議	病院管理運営事項の協議・検討、各部門業務の連絡調整	月 1 回
予算委員会	予算に関する協議・決定	随 時
医療機器等購入審査委員会	医療機器等購入の選考・審査	随 時
経営検討会議	病院経営に関する協議・決定	月 1 回
地域医療連携室運営委員会	地域の医療機関との連絡調整	随 時
在宅療養支援委員会	在宅療養に関する支援策の検討	月 1 回
臨床試験審査委員会	臨床試験の妥当性の審査	随 時
倫理委員会	医療行為に係る倫理的検討	随 時
利益相反委員会	臨床研究に係る利益相反マネジメントの審議	随 時
医療安全管理委員会	医療安全管理対策を総合的に企画、実施	月 1 回
BLS推進委員会	BLSの推進を計画・実施	月 1 回
リスクマネジメント委員会	医療安全管理に関する小委員会	月 1 回
救急カートWG	救急カートに関する検討	随 時
診療関連死原因検討委員会	死亡原因が医療事故又は合併症のいずれかを判定	月 1 回
診療情報管理委員会	診療情報提供に関する検討	随 時
DPCコーディング委員会	適切なコーディングに関する討議	年 2 回
薬事委員会	新薬・同種同効薬品の採用・選択等の検討	月 1 回
労働安全衛生委員会	職員の労働安全衛生に関する協議・予防接種の実施	月 1 回
学術委員会	臨床研究を含めた学術活動の活性化	随 時
臨床研究室運営委員会	臨床研究室の運営・管理	随 時
自主研究事業委員会	自主研究研修事業の審査	随 時
海外学会等出席者選考委員会	海外学会等出席者の選考	随 時
年報編集委員会	病院年報編集の協議	随 時
図書委員会	図書の購入検討・管理	随 時
臨床検査委員会	精度管理報告、検査項目・院内検査の機器・試薬等検討	3か月1回
輸血療法委員会	輸血業務の適正化に関する検討事項、各部門の連絡調整	年 6 回
院内感染対策委員会	院内感染防止対策の協議	月 1 回
ICT	院内感染防止対策マニュアルの検討	月 1 回
総合医療情報システム委員会	総合医療情報システムの課題検討	随 時
サービス向上委員会	患者サービス向上に係る取り組みの検討	隔 月 1 回
外来診療委員会	外来診療各科の連絡調整	随 時
総合周産期母子医療センター運営委員会	総合周産期母子医療センターの運営に関する検討	随 時
中央手術部運営委員会	施設・設備に関する事項及び診療各科との連絡調整	隔 月 1 回
医局診療会議	診療各科の連絡調整	月 1 回
子ども虐待防止チーム委員会	子ども虐待の緊急対応に関する対応方針の決定	随 時
要支援事例検討等委員会	要支援事例の情報共有と具体的支援策を検討	隔 月 1 回
褥瘡対策委員会	褥瘡の発症予防、処置等の対策を検討	年 4 回
栄養委員会	栄養業務の改善等の検討	年 4 回
NST	NST実施にかかる協議・検討	随 時
診療材料検討委員会	診療材料購入等に関する検討	随 時
臨床研修委員会	研修医師の指導等に関する検討	随 時
保険診療委員会	診療報酬審査減の再審査の検討	随 時
クリニカルパス委員会	クリニカルパス導入に関する検討	随 時
ホームページ委員会	ホームページの編集	随 時
防災対策委員会	防災対策・訓練計画等の検討	年 2 回
医療機器安全管理委員会	ME機器の維持管理、購入の検討及び操作法の教育	随 時
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全確保、良質な患者サービスの提供	年 1 回
小児集中治療部運営委員会	PICUの運営に関する方針等の協議・調整・決定	年 4 回
セキュリティ対策委員会	院内防犯体制、情報セキュリティ等の検討	随 時
ドクタークラーク委員会	医師事務作業補助者の配置・業務内容等の検討	随 時
省エネ・節電対策委員会	省エネ対策等の検討	随 時
緩和ケア委員会	緩和ケアの計画策定・教育・情報収集等の検討	年 2 回
緩和ケアWG	緩和ケアの症例検討	月 1 回
母子保健室運営委員会	母子保健室の運営に関する検討	随 時
治験管理委員会	IRBが審査する事項以外の治験の検討	随 時
臓器提供対応委員会	臓器移植提供体制の検討	随 時
うりやまだより編集委員会	うりやまだよりの編集	随 時
医療放射線管理委員会	医療放射線管理に関する検討	随 時

令和5年度のあゆみ

令和5年	4月3日	新規採用者辞令交付式
	11日	管理職会議
	26日	管理診療会議
	5月9日	管理職会議
	24日	管理診療会議
	6月13日	管理職会議
	20日	消防訓練(第1回)
	22日	医療安全研修会(応召義務 SNS・インターネットとの関わり方の注意点)
	28日	管理診療会議
	7月11日	管理職会議
	26日	管理診療会議
	31日	本監査・例月現金出納検査
	9月12日	管理職会議
	21日	医療安全研修会(～10/20 患者確認と指差呼称)
	27日	管理診療会議
	10月10日	管理職会議
	25日	管理診療会議
	11月14日	管理職会議
	20日	登録医大会
	22日	例月現金出納検査
	22日	管理診療会議
	30日	管理職会議
	12月1日	監査委員会事務局事務監査
6日	BCPに基づく地震発生時の対応訓練	
12日	管理職会議	
27日	管理診療会議	
令和6年	1月9日	管理職会議
	11日	臓器移植机上シミュレーション
	24日	管理診療会議
	2月6日	監査委員定期監査
	13日	管理職会議
	28日	管理診療会議
	3月5日	消防訓練(第2回)
	12日	管理職会議
	27日	管理診療会議
	29日	退職者辞令交付・転出者発令通知伝達式

職員異動状況

転入・採用			転出・退職			
所属	氏名	年月日・区分	所属	氏名	年月日・区分	
看護部	荻野健太 金子知可	R5.4.1 転入	看護部	浜本知美 日景智行	R5.4.1 転出	
技術部	高木崇 中野由希子		技術部	河野美咲		
薬剤部	柴田朋子		薬剤部	高橋和子		
事務局	奈良清隆 住谷亜由子 設楽航希 齋藤夢実		事務局	和田裕幸 福島義明 船山晋斗 井上陸斗		
			技術部	下谷琴音		R5.5.19 退職
医療局	飯島真由子 山口岳史 大隅麻貴子 小柳晴加	R5.4.1 採用	看護部	伊東修子	R5.7.31 退職	
			看護部	松井みさき	R5.11.7 退職	
			看護部	須佐いつき	R5.11.30 退職	
			看護部	北爪幸子	R6.2.1 転出	
看護部	永井和月 新井沙希 須佐いつき 柿沼瞭子 祢津拓斗 正田茉紘 真下一輝 西尾迪 關根結 森 茉尋 金子葉月 中島小春 松井みさき 風間結花 大島新菜 角谷侑南 石井千尋			医療局	廣木茜 新井修平 上原理紗	R6.3.31 退職
			看護部	清水奈保 宮川祐子 宮本佳子 大竹里奈 新井沙希 青木明子 本多喜代美		
			技術部	佐藤萌々子		
			薬剤部	高木身和		
			事務局	相川良彦		
技術部	原田真葵 熊木裕之 下谷琴音 佐藤萌々子					
技術部	山田照枝		R5.5.4 採用			
技術部	坂口真弓		R5.10.1 採用			
看護部	阿部美由紀		R6.2.1 転入			

◇ 編集後記 ◇

令和5年度の年報をお届けします。

当院は昭和57年(1982年)に開設され、年報も第42号となりました。子どもに当院に通われていた患者さんが親として来られ、懐かしそうにそのころのお話をしてくださり、40年を超える当院の歴史を実感することもあります。そんな当院も、とうとう新病院開設にむけて動き出すことになりました。これまでと同様に子どもたちとご家族に寄り添い、更に安心してその成長を守り支援することができる小児病院となるよう検討が重ねられています。そんな未来にわくわくしながらも、今できる最善の医療をお届けできるよう日々患者さんやご家族と向き合うスタッフの日々を、この年報でみなさまにご覧いただければと思います。

最後になりましたが、年報作成にあたりご協力いただいた多くのスタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。

年報編集委員長 渡辺 美緒

○年報編集委員

渡辺 美緒	福田 円	河崎 裕英	野村 滋
丸山 憲一	椎原 隆	池田 健太郎	下山 伸哉
清水 彰彦	浅井 伸治	岡村 達	松本 直樹
西 明	木下 樹	京谷 琢治	山口 有崇
神山 晴美	三宅 妙子	丸山 裕子	高木 崇
熊丸 めぐみ	島田 純子	佐藤 真理子	
浜島 昭人 (オブザーバー)		(担当事務局 総務課)	

群馬県立小児医療センター

〒377-8577 渋川市北橘町下箱田 779 番地
電 話 0279-52-3551 (代表)
0279-52-4600 (産科病棟直通)
0279-52-7171 (地域医療連携室)
0279-52-4000 (予約専用)
F A X 0279-52-2045 (事務局)
0279-52-4216 (図書室)
0279-52-3539 (検査課)
0279-52-7333 (地域医療連携室)
0279-52-4800 (栄養調理課)
0279-52-2100 (産科病棟直通)



Gunma
Children's
Medical Center

群馬県立小児医療センター